東京有明医療大学 シラバス（2011年度）

授業コード	学科名	科目名
1101010	全学科	知の技法入門
1101020	全学科	人とのつながりの技法
1102010	全学科	生き物の科学（生物学）
1102020	全学科	物質の反応（化学）
1102030	全学科	物質の科学（物理学）
1102040	全学科	分子遺伝学
1103010	全学科	法学（日本国憲法）
1103020	全学科	哲学（生命倫理学）
1103030	全学科	心理学概論
1103040	全学科	社会保障の基礎
1103050	全学科	人間形成論
1103060	全学科	医療史
1103070	全学科	ボランティア論
1103080	全学科	健康の創造（体育理論）
1103090	全学科	健康スポーツ（体育実技）
1103091	全学科	健康スポーツ（体育実技）
1103092	全学科	健康スポーツ（体育実技）
1103093	全学科	健康スポーツ（体育実技）
1103094	全学科	健康スポーツ（体育実技）
1104010	全学科	英語Ⅰ
1104011	全学科	英語Ⅰ
1104012	全学科	英語Ⅰ
1104013	全学科	英語Ⅰ
1104014	全学科	英語Ⅰ
1104020	全学科	英語Ⅰ Ⅰ
1104021	全学科	英語Ⅰ Ⅰ
1104022	全学科	英語Ⅰ Ⅰ
1104023	全学科	英語Ⅰ Ⅰ
1104024	全学科	英語Ⅰ Ⅰ
1104025	全学科	英語Ⅰ Ⅰ
1104030	全学科	英語コミュニケーション（英会話）
1104031	全学科	英語コミュニケーション（英会話）
1104032	全学科	英語コミュニケーション（英会話）
1104033	全学科	英語コミュニケーション（英会話）
1104034	全学科	英語コミュニケーション（英会話）
1104035	全学科	英語コミュニケーション（英会話）
1104040	全学科	中国語Ⅰ
1104041	全学科	中国語Ⅰ
1104050	全学科	中国語Ⅰ Ⅰ
1104051	全学科	中国語Ⅰ Ⅰ
1104060	全学科	韓国語Ⅰ
1104070	全学科	韓国語Ⅰ Ⅰ
1105010	全学科	情報リテラシーⅠ
1105011	全学科	情報リテラシーⅠ
1105012	全学科	情報リテラシーⅠ

1105020	全学科	情報リテラシーⅠⅠ
1105021	全学科	情報リテラシーⅠⅠ
1105022	全学科	情報リテラシーⅠⅠ
1105030	全学科	研究の基礎
1110010	鍼灸学科	医学概論
1110020	鍼灸学科	関係法規
1110030	鍼灸学科	生命医療倫理学
1110040	鍼灸学科	東洋医学の歴史と思想
1110050	鍼灸学科	社会鍼灸学
1110060	鍼灸学科	統合医療論（代替医療）
1110070	鍼灸学科	臨床心理学
1110080	鍼灸学科	医療人のための英語（医学英語）
1110090	鍼灸学科	カウンセリング入門
1110100	鍼灸学科	中薬学概論
1110110	鍼灸学科	中医方剤学（処方学）
1110120	鍼灸学科	中医栄養学(薬膳)
1110130	鍼灸学科	鍼灸経営論
1111010	鍼灸学科	人体構造学Ⅰ（総論・組織）
1111020	鍼灸学科	人体構造学ⅠⅠ
1111030	鍼灸学科	人体構造学ⅠⅠⅠ
1111040	鍼灸学科	人体の構造学実習
1111050	鍼灸学科	人体機能学Ⅰ（植物機能）
1111060	鍼灸学科	人体機能学ⅠⅠ（動物機能・運動生理含む）
1111070	鍼灸学科	人体の機能学実習（生理学実習）
1111080	鍼灸学科	病理学
1111090	鍼灸学科	病理学実習
1111100	鍼灸学科	公衆衛生学
1111110	鍼灸学科	病原微生物学
1111120	鍼灸学科	免疫学
1111130	鍼灸学科	生化学
1111140	鍼灸学科	臨床検査学
1111150	鍼灸学科	臨床薬理学
1112010	鍼灸学科	診察診断学
1112020	鍼灸学科	内科学Ⅰ
1112030	鍼灸学科	内科学ⅠⅠ
1112040	鍼灸学科	内科学ⅠⅠⅠ
1112050	鍼灸学科	メンタルヘルスケア学
1112060	鍼灸学科	整形外科学Ⅰ（スポーツ医学を含む）
1112070	鍼灸学科	整形外科学ⅠⅠ
1112080	鍼灸学科	画像診断学
1112090	鍼灸学科	外科学
1112100	鍼灸学科	臨床医学各論Ⅰ
1112110	鍼灸学科	臨床医学各論ⅠⅠ
1112120	鍼灸学科	リハビリテーション医学総論
1112130	鍼灸学科	リハビリテーション医学各論
1112140	鍼灸学科	救急法
1112150	鍼灸学科	看護の原形論
1112160	鍼灸学科	物理療法学
1112170	鍼灸学科	栄養学（スポーツ栄養学を含む）

1112180	鍼灸学科	診療所実習
1113010	鍼灸学科	東洋医学概論
1113020	鍼灸学科	経絡経穴学Ⅰ
1113030	鍼灸学科	経絡経穴学Ⅰ・Ⅱ
1113040	鍼灸学科	取穴学実習Ⅰ
1113050	鍼灸学科	取穴学実習Ⅰ・Ⅱ
1113060	鍼灸学科	刺鍼・施灸手技総論
1113070	鍼灸学科	鍼灸安全学
1113080	鍼灸学科	基礎刺鍼手技実習
1113090	鍼灸学科	応用刺鍼手技実習
1113100	鍼灸学科	特殊鍼療法実習
1113110	鍼灸学科	触診解剖と刺鍼手技
1113120	鍼灸学科	基礎施灸手技実習
1113130	鍼灸学科	臨床施灸手技実習
1113140	鍼灸学科	応用施灸手技実習
1113150	鍼灸学科	鍼灸施術と運動法
1113160	鍼灸学科	鍼灸治効理論
1113170	鍼灸学科	鍼灸治効理論演習
1113180	鍼灸学科	鍼灸治効理論基礎実習
1113190	鍼灸学科	最新鍼灸治効理論演習
1113200	鍼灸学科	中医診断学
1113210	鍼灸学科	中医診断学実習
1113220	鍼灸学科	中医診断学演習
1113230	鍼灸学科	鍼灸古典診断学
1113240	鍼灸学科	東洋医学古典講読
1114010	鍼灸学科	内科臨床鍼灸学Ⅰ
1114020	鍼灸学科	内科臨床鍼灸学Ⅰ・Ⅱ
1114030	鍼灸学科	神経内科臨床鍼灸学
1114040	鍼灸学科	整形外科臨床鍼灸学Ⅰ
1114050	鍼灸学科	整形外科臨床鍼灸学Ⅰ・Ⅱ
1114060	鍼灸学科	理学的検査法実習Ⅰ
1114070	鍼灸学科	理学的検査法実習Ⅰ・Ⅱ
1114080	鍼灸学科	臨床効果の評価法
1114090	鍼灸学科	眼科・耳鼻科・歯科臨床鍼灸学
1114100	鍼灸学科	泌尿器・皮膚科臨床鍼灸学
1114110	鍼灸学科	レディース臨床鍼灸学
1114120	鍼灸学科	疼痛管理臨床鍼灸学
1114130	鍼灸学科	スポーツ鍼灸学Ⅰ
1114140	鍼灸学科	スポーツ鍼灸学Ⅰ・Ⅱ
1114150	鍼灸学科	老年臨床鍼灸学
1114160	鍼灸学科	日本伝統鍼灸治療学
1114170	鍼灸学科	中医鍼灸治療学
1114180	鍼灸学科	医療面接
1114190	鍼灸学科	附属鍼灸センター実習Ⅰ
1114200	鍼灸学科	附属鍼灸センター実習Ⅰ・Ⅱ
1114210	鍼灸学科	カンファレンス（症例検討）
1114220	鍼灸学科	症例報告の書き方・発表の仕方
1114230	鍼灸学科	鍼灸医学総合演習Ⅰ
1114240	鍼灸学科	鍼灸医学総合演習Ⅰ・Ⅱ

1114250	鍼灸学科	学外関連施設実習（見学実習）
1115010	鍼灸学科・柔道整復学科共通	スポーツ社会学
1115020	鍼灸学科・柔道整復学科共通	スポーツ経営学
1115030	鍼灸学科・柔道整復学科共通	競技者育成システム論
1115040	鍼灸学科・柔道整復学科共通	発育発達論
1115050	鍼灸学科・柔道整復学科共通	スポーツ心理学総論
1115060	鍼灸学科・柔道整復学科共通	コーチング論
1115070	鍼灸学科・柔道整復学科共通	トレーニング科学総論
1115080	鍼灸学科・柔道整復学科共通	スポーツ医学総論
1116010	鍼灸学科・柔道整復学科共通	アスレティックトレーナーの役割
1116020	鍼灸学科・柔道整復学科共通	トレーニング科学
1116030	鍼灸学科・柔道整復学科共通	スポーツ・バイオメカニクス
1116040	鍼灸学科・柔道整復学科共通	運動生理学
1116050	鍼灸学科・柔道整復学科共通	スポーツ心理学
1116060	鍼灸学科・柔道整復学科共通	運動器の解剖と機能
1116070	鍼灸学科・柔道整復学科共通	スポーツ外傷障害の基礎知識
1116080	鍼灸学科・柔道整復学科共通	健康管理とスポーツ医学
1116090	鍼灸学科・柔道整復学科共通	身体の検査・測定と評価（体力測定を含む）
1116100	鍼灸学科・柔道整復学科共通	予防とコンディショニングⅠ
1116110	鍼灸学科・柔道整復学科共通	予防とコンディショニングⅠⅠ（テーピング・ストレッチングを含む）
1116120	鍼灸学科・柔道整復学科共通	予防とコンディショニングⅠⅠⅠ
1116130	鍼灸学科・柔道整復学科共通	アスレティックリハビリテーションⅠ
1116140	鍼灸学科・柔道整復学科共通	アスレティックリハビリテーションⅠⅠ
1116150	鍼灸学科・柔道整復学科共通	アスレティックリハビリテーションⅠⅠⅠ
1116160	鍼灸学科・柔道整復学科共通	スポーツ栄養学
1117010	鍼灸学科・柔道整復学科共通	エアロビック運動の実際Ⅰ
1117020	鍼灸学科・柔道整復学科共通	エアロビック運動の実際ⅠⅠ
1117030	鍼灸学科・柔道整復学科共通	トレーニングの理論と実際
1117040	鍼灸学科・柔道整復学科共通	健康づくりと運動プログラム
1118010	鍼灸学科・柔道整復学科共通	現場実習Ⅰ（見学実習）
1118020	鍼灸学科・柔道整復学科共通	現場実習ⅠⅠ（測定と評価、プログラミング）
1118030	鍼灸学科・柔道整復学科共通	現場実習ⅠⅠⅠ（スポーツ現場実習）
1118040	鍼灸学科・柔道整復学科共通	現場実習ⅠⅤ（アスレティックリハビリテーション）
1118050	鍼灸学科・柔道整復学科共通	現場実習Ⅴ（総合実習）
1119010	鍼灸学科	卒業研究
1120010	柔道整復学科	栄養学（スポーツ栄養学を含む）
1120020	柔道整復学科	薬物療法学
1120030	柔道整復学科	生化学
1121010	柔道整復学科	解剖学Ⅰ（機能解剖学を含む）
1121020	柔道整復学科	解剖学ⅠⅠ
1121030	柔道整復学科	解剖学実習
1121040	柔道整復学科	生理学Ⅰ
1121050	柔道整復学科	生理学ⅠⅠ（運動生理学を含む）
1121060	柔道整復学科	生理学ⅠⅠⅠ
1121070	柔道整復学科	生理学実習
1121080	柔道整復学科	運動学
1121090	柔道整復学科	運動学実習
1122010	柔道整復学科	病理学Ⅰ
1122020	柔道整復学科	病理学ⅠⅠ

1122030	柔道整復学科	病理学実習
1122040	柔道整復学科	内科学総論
1122050	柔道整復学科	内科学各論Ⅰ
1122060	柔道整復学科	内科学各論Ⅰ Ⅰ（スポーツ医学を含む）
1122070	柔道整復学科	外科学概論
1122080	柔道整復学科	外科学各論
1122090	柔道整復学科	救急法
1122100	柔道整復学科	整形外科学Ⅰ（スポーツ医学を含む）
1122110	柔道整復学科	整形外科学Ⅰ Ⅰ
1122120	柔道整復学科	リハビリテーション医学（検査・測定を含む）
1122130	柔道整復学科	リハビリテーション医学実習（検査・測定を含む）
1123010	柔道整復学科	柔道整復の歴史
1123020	柔道整復学科	関係法規
1123030	柔道整復学科	生命医療倫理学
1123040	柔道整復学科	柔整医療安全学
1123050	柔道整復学科	研究の展開
1123060	柔道整復学科	柔道Ⅰ
1123070	柔道整復学科	柔道Ⅰ Ⅰ
1123080	柔道整復学科	柔道Ⅰ Ⅰ Ⅰ
1123090	柔道整復学科	衛生学・公衆衛生学Ⅰ
1123100	柔道整復学科	衛生学・公衆衛生学Ⅰ Ⅰ
1124010	柔道整復学科	運動器系の解剖
1124020	柔道整復学科	骨の損傷概論
1124030	柔道整復学科	関節の損傷概論
1124040	柔道整復学科	軟部組織損傷概論
1124050	柔道整復学科	後療法学
1125010	柔道整復学科	上肢の骨折理論
1125020	柔道整復学科	下肢・体幹の骨折理論
1125030	柔道整復学科	上肢の脱臼理論
1125040	柔道整復学科	下肢・体幹（顎関節を含む）の脱臼理論
1125050	柔道整復学科	軟部組織損傷各論
1125060	柔道整復学科	画像診断学
1125070	柔道整復学科	運動器系の解剖総合演習
1125080	柔道整復学科	骨折理論総合演習
1125090	柔道整復学科	脱臼理論総合演習
1125100	柔道整復学科	軟部組織損傷総合演習
1126010	柔道整復学科	包帯実技
1126020	柔道整復学科	上肢の骨折実技Ⅰ
1126030	柔道整復学科	上肢の骨折実技Ⅰ Ⅰ
1126040	柔道整復学科	下肢の骨折実技
1126050	柔道整復学科	体幹の骨折実技
1126060	柔道整復学科	上肢の脱臼実技
1126070	柔道整復学科	下肢（顎関節を含む）の脱臼実技
1126080	柔道整復学科	軟部組織損傷の実技
1126090	柔道整復学科	臨床実習Ⅰ
1126100	柔道整復学科	臨床実習Ⅰ Ⅰ
1126110	柔道整復学科	臨床実習Ⅰ Ⅰ Ⅰ
1127010	柔道整復学科	卒業研究
1140010	看護学科	人体の構造Ⅰ

1140020	看護学科	人体の構造ⅠⅠ
1140030	看護学科	人体の機能Ⅰ
1140040	看護学科	人体の機能ⅠⅠ
1141010	看護学科	病理学概論
1141020	看護学科	薬理学概論
1141030	看護学科	生化学
1141040	看護学科	臨床疾患学Ⅰ（内科系）
1141050	看護学科	臨床疾患学ⅠⅠ（一般外科系）
1141060	看護学科	臨床疾患学ⅠⅠⅠ(整形・ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ)
1141070	看護学科	栄養学と食育
1141080	看護学科	感染症学
1141090	看護学科	認知心理学
1142010	看護学科	公衆衛生学と疫学
1142020	看護学科	保健福祉行政論
1142030	看護学科	高齢者保健福祉論
1142040	看護学科	障害者福祉論
1142050	看護学科	精神保健福祉論
1142060	看護学科	子ども福祉論
1142070	看護学科	地域福祉論
1142080	看護学科	居住環境支援論
1143010	看護学科	看護学原論
1143020	看護学科	ケアの原形論
1143030	看護学科	看護の疾病論
1143040	看護学科	家族看護論
1143050	看護学科	生活援助論Ⅰ（基本）
1143060	看護学科	生活援助論ⅠⅠ（呼吸・移動・睡眠）
1143070	看護学科	生活援助論ⅠⅠⅠ（食事・排泄）
1143080	看護学科	生活援助論ⅠⅤ（衣・清潔・性）
1143090	看護学科	コミュニケーション論
1143100	看護学科	看護過程論
1143110	看護学科	フィジカルアセスメント
1143120	看護学科	治療へのケア
1143130	看護学科	生命医療倫理学
1143140	看護学科	リスクマネジメント
1143150	看護学科	導入基礎実習
1143160	看護学科	基礎看護学実習
1144010	看護学科	成人看護学概論Ⅰ（急性期）
1144020	看護学科	成人看護援助論Ⅰ（急性期）
1144030	看護学科	事例展開Ⅰ（成人・急性期疾患）
1144040	看護学科	成人看護学実習Ⅰ(急性期)
1144050	看護学科	成人看護学概論ⅠⅠ（慢性・終末期）
1144060	看護学科	成人看護援助論ⅠⅠ（慢性期）
1144070	看護学科	事例展開ⅠⅠ（成人・慢性期疾患）
1144080	看護学科	成人看護学実習ⅠⅠ（慢性期）
1144090	看護学科	老年看護学概論
1144100	看護学科	老年看護援助論
1144110	看護学科	事例展開ⅠⅠⅠ（老年・慢性期疾患）
1144120	看護学科	老年看護学実習
1144130	看護学科	母性看護学概論

1144140	看護学科	母性看護援助論
1144150	看護学科	事例展開ⅠⅤ（母性）
1144160	看護学科	母性看護学実習
1144170	看護学科	小児看護学概論
1144180	看護学科	小児看護援助論
1144190	看護学科	事例展開Ⅴ（小児）
1144200	看護学科	事例展開ⅤⅠ（障害児・者）
1144210	看護学科	小児看護学実習
1144220	看護学科	精神看護学概論
1144230	看護学科	精神看護援助論
1144240	看護学科	事例展開ⅤⅠⅠ（精神疾患）
1144250	看護学科	精神看護学実習
1145010	看護学科	地域看護学概論
1145020	看護学科	在宅看護論
1145030	看護学科	保健指導論
1145040	看護学科	事例展開ⅤⅠⅠⅠ（在宅・慢性期疾患）
1145050	看護学科	地域看護管理論
1145060	看護学科	地域ケア連携とシステム
1145070	看護学科	ケアマネジメントの理念と実際
1145080	看護学科	地域施設運営論
1145090	看護学科	地域在宅ケア実習
1146010	看護学科	ケア情報学
1146020	看護学科	国際看護論
1146030	看護学科	看護管理論
1146040	看護学科	東洋医学概論
1146050	看護学科	看護理論特講
1146060	看護学科	原著講読
1147010	看護学科	統合実習
1148010	看護学科	卒業研究

知の技法入門[1101010]

科目名	知の技法入門[1101010]
科目区分・科目種	全学融合科目
クラス	全学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	千葉　喜久也[看護学部 看護学科]
	前田　樹海[看護学部 看護学科]
	掛本　知里[看護学部 看護学科]
	河内　しのぶ[看護学部 看護学科]
	梶原　祥子[看護学部 看護学科]
	山下　雅子[看護学部 看護学科]
	中村　充浩[看護学部 看護学科]
	大沼　幸子[看護学部 看護学科]
	小泉　政啓[保健医療学部 鍼灸学科]
	西村　桂一[保健医療学部 鍼灸学科]
	高野　一夫[保健医療学部 鍼灸学科]
	泉　秀幸[保健医療学部 鍼灸学科]
	笹木　正悟[保健医療学部 柔道整復学科]
	久米　信好[保健医療学部 柔道整復学科]
	櫻井　敬晋[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	通年
曜日・時限	通年 水曜 4.0～4.0
教室	①大講義室

受講条件・その注意

1.事前学習は必ず行うこと。
2.グループメンバー同士、互いに協力し合うこと。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:『アカデミック・スキルズ　大学生のための知的技法入門』 慶応義塾大学出版会

参考書:その都度提供する

評価方法・評価割合

出席状況、その他(発言内容・提出物など)

授業の目的および到達目標

　学問の追求の場である大学教育の導入として、学生が主体的かつ能動的に取り組む基盤づくりを目指す。学生の創造性を培うべく、全学科を越えた学びの機会を設置することで、各々の資格取得に励む学生たちの学問的・人間的交流を図り、自らの専門性を確立する土台を培い、少人数制教育を通して学問の基礎を学ぶことを目的とする。

テーマおよび内容

[1 回] オリエンテーション

[2 回] グループ間交流

[3 回] 学習技法入門Ⅰ①－1

[4 回] 学習技法入門Ⅰ①－２

[5 回] 学習技法入門Ⅰ②－１

[6 回] 学習技法入門Ⅰ②－２

[7 回] 学習技法入門Ⅰ③－１

[8 回] 学習技法入門Ⅰ③－２

[9 回] 研究技法入門I①（日本科学未来館）

[10回] 研究技法入門I②（日本科学未来館）

[11回] 研究技法入門I③（日本科学未来館）

[12回] 研究技法入門I④（日本科学未来館）

[13回] 研究技法入門I⑤（日本科学未来館）

[14回] 研究技法入門I⑥（日本科学未来館）

[15回] 学習技法入門Ⅱ①－１（レポート作成の基本）

[16回] 学習技法入門Ⅱ①－２（質疑応答技法）

[17回] 学習技法入門Ⅱ②－１（クリティーク技法）

[18回] 学習技法入門Ⅱ②－２（クリティーク技法）

[19回] 客観的思考法入門①

[20回] 客観的思考法入門②

[21回] 研究技法入門Ⅱ①（グループ研究発表に向けて）

[22回] 研究技法入門Ⅱ②（プレゼンテーション技法体験）

[23回] 研究技法入門Ⅱ③（プレゼンテーション技法体験）

[24回] 研究技法入門Ⅱ④（グループ研究課題に関する情報の調査収集）

[25回] 研究技法入門Ⅱ⑤（グループ研究課題に関する情報解析）

[26回] 研究技法入門Ⅱ⑥（グループ研究課題に関する結論及び考察）

[27回] 研究技法入門Ⅱ⑦（グループ研究課題に関するプレゼンテーション準備）

[28回] 研究技法入門Ⅱ⑧（グループ研究課題に関するプレゼンテーション準備）

[29回] 研究技法入門Ⅱ⑨（グループ研究プレゼンテーション1）

[30回] 研究技法入門Ⅱ⑩（グループ研究プレゼンテーション2）

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

人とのつながりの技法[1101020]

科目名	人とのつながりの技法[1101020]
科目区分・科目種	全学融合科目
クラス	全学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	山下　雅子[看護学部 看護学科]
	島田　将夫[看護学部 看護学科]
	山本　かほる[看護学部 看護学科]
	高畠　有理子[看護学部 看護学科]
	北島　泰子[看護学部 看護学科]
	千葉　喜久也[看護学部 看護学科]
	相田　京子[看護学部 看護学科]
	吉川　悦子[看護学部 看護学科]
	家吉　望み[看護学部 看護学科]
	小泉　政啓[保健医療学部 鍼灸学科]
	高野　一夫[保健医療学部 鍼灸学科]
	西村　桂一[保健医療学部 鍼灸学科]
	泉　秀幸[保健医療学部 鍼灸学科]
	徳安　秀政[保健医療学部 柔道整復学科]
	髙橋　康輝[保健医療学部 柔道整復学科]
	小山　浩司[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	通年
曜日・時限	通年 水曜 5.0～5.0
教室	①大講義室

受講条件・その注意

1. 事前学習や事後学習は、必要に応じて行うこと。
2. グループメンバーは互いに協力し合うこと。
3. 使用の前週に資料が配られて宿題となる場合、当日忘れると授業参加が出来ないことがある。各自「人とのつながりの技法」専用のファイルフォルダを用意するなどして、資料の管理をすること。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:特に指定しない

参考書:その都度提供する
なお、各自で物品の準備が必要な回がある(服装、手鏡、靴など)。

評価方法・評価割合

出席状況、その他(発言内容・提出物など)

授業の目的および到達目標

思いやりの心を育みつつ、人と人との親和共栄・協力連携・理解発展をよりよく進展させる技法を身につけるための演習を行う。特に、社会・職業生活での対人コミュニケーションにおいて重要とされる、自己を覚知しようとする働きかけ、そして他者の様々な立場や思いを親身に理解しようとする働きかけ、この双方向の働きかけが積極的にできる心的態度の育成を目標とする。現実に即した説明、報告、面接、依頼、交渉などの演習を通じて、人と人との満たされた関係性のなかで育まれる至福感を体験させる。

テーマおよび内容

[1 回]プレイスメントテスト①

[2 回]プレイスメントテスト②

[3 回]レクリエーション・ワーク①

[4 回]レクリエーション・ワーク②

[5 回]スポーツ・コミュニケーション技法①－１

[6 回]スポーツ・コミュニケーション技法①－２

[7 回]スポーツ・コミュニケーション技法②－１

[8 回]スポーツ・コミュニケーション技法②－２

[9 回]コミュニケーション技法①－１（自分はどんな人でしょう）

[10回]コミュニケーション技法①－２（だれかにインタビューしてみよう）

[11回]コミュニケーション技法①－３（その人のことを教えてもらおう－1）

[12回]コミュニケーション技法①－４（その人のことを教えてもらおう－2）

[13回]鍼灸学入門①

[14回]鍼灸学入門②

[15回]柔道整復学入門①

[16回]柔道整復学入門②

[17回]看護学入門①

[18回]看護学入門②

[19回]研究技法①（講義：これからの医療を考える）

[20回]研究技法②（講義：これからの医療を考える）

[21回]リスク管理①（建物と人，災害時避難ルートの確保、）

[22回]リスク管理②（防災の意識，避難訓練）

[23回]コミュニケーション技法②－１（接遇）

[24回]コミュニケーション技法②－２（接遇）

[25回]言語コミュニケーション技法①－１（日本語の特徴）

[26回]言語コミュニケーション技法①－２（話し方、会話）

[27回]言語コミュニケーション技法②－１（文書）

[28回]言語コミュニケーション技法②－２（状況の報告、連絡、相談）

[29回]コミュニケーション技法③－１（日本文化を知る）

[30回]コミュニケーション技法③－２（総括）

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

生き物の科学(生物学)[1102010]

科目名	生き物の科学(生物学)[1102010]
科目区分・科目種	自然の科学
クラス	全学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	松山　善亮[非常勤講師]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 1.0～1.0
教室	①大講義室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『≪基礎固め≫生物』　松村瑛子、安田正秀　著　　化学同人

参考書:高校生物　Ⅰ、Ⅱ

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況

授業の目的および到達目標

本科目では、生物学の基本的事項を学習する。医学系の科目は生物学の知見を基礎としている部分が多く、生物学の基本的事項の理解は医学、医療全般を学習する上で重要である。特に基礎医学の内容と深く関わる事項について学習し、医学の理解の促進をはかる。

テーマおよび内容

[1 回]　ガイダンス:授業の進め方などについて説明をする。

[2 回]　生物の多様性:地球上には多種多様な生物が存在する。それらの生物に共通している特徴や、多様な生物の体系的な分け方について解説をする。

[3 回]　細胞の構造と機能(1):生物の構成単位である細胞。生物間で異なる細胞の構造や機能について解説をする。

[4 回]　細胞の構造と機能(2):また、細胞内に存在する種々の細胞内小器官について解説をする。それら細胞が集まり、組織を作り、組織が集まって器官となる。これら組織や器官についての解説をする。

[5 回]　生体分子:生物を構成する元素やそれらからなる分子、重要な役割を担っている高分子の構造について解説する。

[6 回]　代謝:動物は呼吸によって、植物は光合成によって生きるためのエネルギーを得ている。このような代謝の機構を解説する。

[7 回][8 回]　遺伝の法則(1)(2):子は親に似るという遺伝について、その機構の基本となる考え方であるメンデルの法則について解説をする。また、メンデルの法則によらない形質の遺伝について、その例とメカニズムについて解説する。

[9 回][10回]　遺伝子とその働き(1)(2):個体の設計図であるDNAを修復、複製、維持する機構について解説する。DNAはまずRNAに転写され、その後RNAはタンパク質に翻訳される。その機構について解説する。

[11回]　適応と進化:生物誕生から40億年。生物は進化し続けてきた。進化が起こる理由、そのメカニズムについて解説する。

[12回]　細胞分裂:体細胞は分裂により増殖する。また生殖細胞は分裂により生じる。これら細胞分裂のメカニズムについて解説する。

[13回]　発生と分化:個体は様々な機能を持つ細胞の集まりである。それら多様な組織が一つの細胞から生じてくる機構について解説する。

[14回]　恒常性の維持:動物は外部環境の刺激を受容し、それに対応した反応や行動を起こす。この機構について解説する。

[15回]　免疫:外部環境に対する動物の反応には、体内環境を一定に保つ機構が存在する。この恒常性の維持機構について解説する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

物質の反応(化学)[1102020]

科目名	物質の反応(化学)[1102020]
科目区分・科目種	自然の科学
クラス	全学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	荒井　裕一朗[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 5.0～5.0
教室	①304教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『大学生のための基礎シリーズ3化学入門』下井守、村田滋著(東京化学同人)

参考書:特になし

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

本科目では、生命活動の基本となる化学物質の変化を理解するための基礎となる、有機化学と無機化学について学習する。特に有機化学では核酸、タンパク質、脂肪酸など、生理学、生化学、臨床薬学などの学習に不可欠な生体分子の化学構造と性質を理解するために必要な基本的な知識を習得する。また、生体中では金属イオンが、種々の生化学・生理学反応に関わっているので、無機化学ではそれらの金属イオンの関る反応の基本について学習する。

テーマおよび内容

[1 回] 物質の構成と構造:元素、原子

[2 回] 物質の構成と構造:原子、電子配置

[3 回] 物質の構成と構造:電子配置、分子

[4 回] 物質の構成と構造:化学反応

[5 回] 物質の構成と構造:電気陰性度、結合

[6 回] 物質の状態:物質の三態

[7 回] 物質の状態:気体の法則

[8 回] 物質の状態:溶液

[9 回] 酸-塩基

[10回] 酸化-還元

[11回] 有機化学

[12回] 有機化学

[13回] 有機化学

[14回] 無機化学

[15回] 無機化学

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

物質の科学(物理学)[1102030]

科目名	物質の科学(物理学)[1102030]
科目区分・科目種	自然の科学
クラス	全学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	王　鳳英[非常勤講師]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 3.0～3.0
教室	①406教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『看護・医療技術者のためのたのしい物理』 中野正博(日本理工出版会　刊)

参考書:『看護と医療技術者のためのぶつり学』 横田俊昭(共立出版)

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

本科目では、生命現象を物理学の側面から理解できるような基礎を固めるために、物理学の基本的事項を学習する。主として物理学と生物学の接点のうちから比較的重要だと思われるものを取り上げ、具体的に運動の法則・仕事・エネルギー・粘性・弾性・圧力を重点とした力学、電気現象と生体での電気活動、熱力学の入門、光学の基礎と顕微鏡などの内容を設ける。又、授業を行う上で受講者の専門分野の特徴を配慮し、概念や原理、更に例題の解答をやさしいところから丁寧に解説していく。

テーマおよび内容

[1 回] ガイダンス:本授業のガイダンスを行い、本科目を学んでいく上で必要な最低限の数学の基礎知識を補習する。

[2 回] 単位と大きさの表し方:主に国際単位系、科学的表記法、有効数字などを講義する。

[3 回] 物体の運動の記述:位置ベクトル、変位、速度、加速度について学ぶ。

[4 回] 運動の法則:力とニュートンの運動の3法則について学ぶ。

[5 回] 様々な具体的運動:運動の法則を利用して、落下運動や円運動、単振動などの具体的運動形態を理解する。

[6 回] 力のモーメントとその応用:力のモーメント、テコの原理を利用した医療器具、人体中のテコなどを紹介する。

[7 回] 剛体の平衡状態の条件の人体における応用:脊柱の受けた力や距骨の骨折しやすい原因などの例を挙げ、剛体の平衡状態の条件の人体における応用について話す。

[8 回] 仕事とエネルギー:仕事と仕事率、運動エネルギーとポテンシャルエネルギー、力学的エネルギーと力学的エネルギー保存則などを概説する。

[9 回] 電界(電場):電荷とクーロンの法則、電界(電場)とその大きさ・方向、電位と電位差などを講義する。

[10回] 電流と抵抗:電流、電源、電気抵抗、オームの法則について学ぶ。

[11回] 人体と電気:人体の電気的特性と電気の医療への応用を紹介する。

[12回] 医用光学基礎:光の反射と屈折、光の分散、レンズによる像などを紹介する。

[13回] 人の眼と医療用:光学機器人の眼の構造、近視・遠視・乱視の矯正、顕微鏡の原理などを理解させる。

[14回] 体の熱エネルギーとダイエット:熱力学の第一法則、基礎代謝測定の物理的原理、カロリーの計算について話す。

[15回] 毫鍼・艾灸の物理化学的特性:講師本人の研究を紹介する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

分子遺伝学[1102040]

科目名	分子遺伝学[1102040]
科目区分・科目種	自然の科学
クラス	全学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	岩崎　秀雄[非常勤講師]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 5.0～5.0
教室	①404教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：なし

参考書：Essential細胞生物学 第2版（南江堂，2005年）

評価方法・評価割合

定期試験、レポート

授業の目的および到達目標

本科目では、分子レベルでの遺伝現象の解明を通じ、医療や新薬の開発など人類の福祉や新しい生命科学等への応用が期待される分子遺伝学について、その基礎から最先端の研究動向までを講義、紹介する。また、一見単純に見える動植物の様々な振る舞いが、ゲノム間の複雑なネットワークを介した働きかけによってはじめて体現されることを、サーカディアンリズムの発現などの例を取り上げながら、わかりやすく講義する。

テーマおよび内容

[1 回] 細胞の構造と機能

[2 回] 遺伝子の構造と働き（分子生物学入門）I

[3 回] 遺伝子の構造と働き（分子生物学入門）II

[4 回] 体細胞分裂と減数分裂

[5 回] 古典遺伝学（メンデル型遺伝）

[6 回] 現代遺伝学I（先天的代謝異常による遺伝病，遺伝子と環境の概念）

[7 回] 現代遺伝学II（核型異常：モノソミーとトリソミー）

[8 回] 現代遺伝学III（動物クローン技術，ES細胞，iPS細胞と再生医療）

[9 回] 現代遺伝学IV（分子遺伝学的な生命機能の探究）

[10回] 合成生物学（構成的生物学：創りながら理解する生命科学）の方法論

[11回] 細胞を創ることはできるか？

[12回] 遺伝子に伴う科学技術社会論・生命倫理

[13回] 時間生物学入門：体内時計の分子遺伝学

[14回] 遺伝と進化

[15回] バイオメディア芸術：先端生命科学の生命観とアート

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

法学(日本国憲法)[1103010]

科目名	法学(日本国憲法)[1103010]
科目区分・科目種	人間と社会
クラス	全学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	早野　俊明[非常勤講師]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 3.0～3.0
教室	①大講義室
資格関連	養護教諭

受講条件・その注意

必ず予習をすること。代返、代書が明らかになった場合には、代返・代書した者も欠席とみなす。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:抱喜久雄＝野畑健太郎編著『憲法学事始』(一学舎、2009年)

参考書:戸松秀典＝初宿正典編著『憲法判例[第6版]』(有斐閣、2010年)、芦部信喜＝高橋和之補訂『憲法[第4版]』(岩波書店、2007年)

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

本講義は、日本国憲法の基礎的理解と法令の機能の学習を目的とし、併せて法的思考力の涵養を図る。講義では、理解に資するため、判例及び実例を多用する。
具体的には、日本国憲法の意味、基本原理、基本的人権、統治機構等を始め、憲法全体を体系的に学習し、憲法が国民生活に果たす役割、国家の機能、国家と国民の関係及び法と国民生活の関わりを学習し、これらの習得を到達目標とする。とくに人権を中心に講義を行う。

テーマおよび内容

[1 回] 憲法総論①—憲法の意味、近代的憲法の特質、明治憲法、日本国憲法の成立過程

[2 回] 憲法総論②—日本国憲法の基本原理、国民主権

[3 回] 人権総論①—人権の意義と歴史、日本国憲法における人権保障、人権の享有主体

[4 回] 人権総論②—人権の総則的権利、幸福追求権、法の下の平等、人権の制約

[5 回] 精神的自由権①—内心の自由、心(思想・良心)の自由の意義とその保障内容

[6 回] 精神的自由権②—信教の自由とその限界、政教分離原則、学問の自由とその限界

[7 回] 精神的自由権③—表現の自由とその規制、知る権利、情報公開請求権、アクセス権、報道・取材の自由、放送の自由

[8 回] 経済的自由権①—職業選択の自由とその規制、規制目的二分論、居住・移転の自由、財産権の保障とその制限

[9 回] 身体的自由権—奴隷的拘束及び苦役からの自由、人身の自由の制約、刑事被告人・被疑者の権利保障

[10回] 参政権・国務請求権—参政権の意義、選挙権の法的性格・内容、請願権、裁判を受ける権利、公権力への賠償請求

[11回] 社会権—社会権の出現・特質、生存権の保障・法的性格、教育を受ける権利、勤労の権利、労働基本権

[12回] 国会—権力分立の原理、国会の組織、国会の活動、国会と議院の機能

[13回] 内閣—内閣と行政各部の組織、内閣の権限、議員内閣制、

[14回] 裁判所—司法権とその限界、裁判所の組織・権能、司法権の独立、裁判員制度、

[15回] 憲法保障—最高法規性、改正手続とその限界、違憲審査制、

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

哲学(生命倫理学)[1103020]

科目名	哲学(生命倫理学)[1103020]
科目区分・科目種	人間と社会
クラス	全学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	早川　正祐[非常勤講師]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 3.0～3.0
教室	①中講義室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:特になし。プリント資料を配布する。

参考書:『ケアの本質』 ミルトン・メイヤロフ(田村真・向野宜之訳)(ゆみる出版)

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他(リアクションペーパー)

授業の目的および到達目標

ケアに関するさまざまな人間学的・哲学的考察を踏まえ、ケアする／される者としての人間のあり方について多角的に見ていく。とりわけ、ケアを特徴づける重要な要素である「他者の受容(他者を受け容れること)」ということについて考えてみたい。ここでの受容は、他者を操作・統制するといった他者の優位に立つ態度とは異なる。しかし他方で、他者に従属・寄生するといった受動的な態度とも異なっている。そこで「受容」という要素をどう捉えるかが問題になる。こういった問題を考えた上で、生命倫理の問題にも触れていく。

テーマおよび内容

[1 回] 導入――ケアという言葉の広がり

[2 回] ケアの人間学(1)

[3 回] ケアの人間学(2)

[4 回] ケアの人間学(3)

[5 回] ケアの倫理(1)

[6 回] ケアの倫理(2)

[7 回] ケアの倫理(3)

[8 回] ケアと身体(1)

[9 回] ケアと身体(2)

[10回] ナラティヴ・アプローチ(1)

[11回] ナラティヴ・アプローチ(2)

[12回] ケアから見た自己と他者(1)

[13回] ケアから見た自己と他者(2)

[14回] ケアから見た自己と他者(3)

[15回] まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.

心理学概論[1103030]

科目名	心理学概論[1103030]
科目区分・科目種	人間と社会
クラス	全学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	山下　雅子[看護学部 看護学科]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 1.0～1.0
教室	①中講義室

受講条件・その注意

第1回の講義時に教科書指定範囲（予定では unit3及び unit25）のテストを行う。このテストは成績評価の対象となるため、あらかじめ十分な予習が必要である。
初回テストについての詳細や変更は後学期開講前に掲示板等で告知する。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『心理学をつかむ　Textbooks tukamu』 今井久登:平林秀美(有斐閣)2009

参考書:『あたりまえの心理学』 安齋順子:野村泰治(文化書房博文社)2007 ,『心理学　第3版』 鹿取廣人:杉本敏夫(東京出版出版会)2008
『行動の基礎:豊かな人間理解のために』 小野浩一(培風館)2005
なお、レポートのための参考書については授業内で指示する。

評価方法・評価割合

定期試験(50%)、レポート(及び小テスト20%)、授業中の課題(授業初回のテスト10%)、その他(平常点20%)

授業の目的および到達目標

人間の心と行動の仕組みについて基本的な知識を得るとともに、人間理解への行動科学的なアプローチについて学ぶことを目的とする。内容としては、情報を得るための感覚・知覚の働き、思考や記憶を司る認知の働き、環境刺激が心や行動に与える影響の仕組み、情動・動機づけの仕組み、知能や人格などの個人差のあらわれ方、そして対人認知や集団の中の個人の社会的行動等の各分野における基本的な知見に関する研究について学び、適宜簡単なワークを取り入れて理解を深める。

テーマおよび内容

[1 回] ガイダンス及びテスト

[2 回] 心理学の研究法1　研究法の基礎

[3 回] 心理学の研究法2　個人差の研究法

[4 回] 行動の基礎1　レスポンデント条件づけ、オペラント条件づけ、観察学習

[5 回] 行動の基礎2　学習の成立過程

[6 回] 認知の心理学1記憶の分類

[7 回] 認知の心理学2記憶の機能

[8 回] 認知の心理学3思考、日常認知

[9 回] 知覚の心理学　　感覚、知覚の基礎

[10回] 発達の心理学1　発達の諸相

[11回] 発達の心理学2　認知的発達

[12回] 社会の心理学1　推論、リスクの心理学

[13回] 社会の心理学2　個と個の心理学

[14回] 社会の心理学3　状況の力、集団の心理学

［15回］ 定期試験および授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

社会保障の基礎[1103040]

科目名	社会保障の基礎[1103040]
科目区分・科目種	人間と社会
クラス	全学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	千葉　喜久也[看護学部 看護学科]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 5.0～5.0
教室	①大講義室

受講条件・その注意

新聞、テレビなどで社会保障関係のニースに注目し、幅広い知識の習得に努めることを期待する。これにより、授業の理解が一層深まるものと思われる。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：最初の授業時に指示します。

参考書：必要に応じて授業の中で指示します。

評価方法・評価割合

定期試験（60%）、レポート（20%）、その他（授業への参加20%）

授業の目的および到達目標

少子高齢社会の中で、わが国の社会保障の体系と制度の内容について学習する。少子化の背景や子育て支援のあり方に注目し、児童手当から子ども手当てに至るまでの経過について概説を行う。また高齢化の中で、注目される年金、医療、介護といった社会保障制度の機能と役割について学習する。当該科目では、保健医療福祉専門職の実践に必要な各制度のしくみを当該目的に照らし考察することを通じて、全体像から社会保障の基礎を学ぶ。少子化、高齢化に伴う給付の拡大、世代間の負担の公平性、健康づくり・予防の推進、給付の見直しと効率化、高齢者医療の見直し、介護サービスの市場化と質の向上、財源及び公費負担のあり方などの課題を探り、持続可能な社会保障の構築に向けた政策に関する理解を深める。

テーマおよび内容

［1 回］ 社会保障の理念と体系：社会保障の理念と概念・歴史、社会保障制度の持続可能性、少子高齢化と社会保障給付費の増加、体系と各制度の概要等

［2 回］ 介護保険制度（1）：制度創設の経緯、制度改正の留意点、介護保険財政と保険料、介護給付と予防給付、食費・居住費の原則自己負担化等

［3 回］ 介護保険制度（2）：介護予防への重点的な取組等、地域包括ケアの推進と新たなサービス体系、準市場化と質の向上、事業者規制等

［4 回］ 年金保険制度（1）：制度の概要、高齢期の公的年金の位置付け、マクロ経済スライドの導入、将来の保険料水準の固定等

［5 回］ 年金保険制度（2）：基礎年金の国庫負担割合の引上げ、厚生年金・国民年金の現状と課題、年金財政の現状と課題、年金資金の運用等

［6 回］ 医療保険制度（1）：制度の体系と沿革、予防の重視と医療費適正化の総合的な推進、利用者負担・食費・居住費の一部自己負担化等

［7 回］ 医療保険制度（2）：新たな医療保険制度の創設、療養病床の再編成、医療費の動向、医療提供体制、診療報酬制度、健康行政等

［8 回］ 少子化の背景と子育て支援：少子化の背景と要因について、ライフ・スタイルの多様化と非婚化、これまでの子育て支援対策と次世代育成等

［9 回］ 児童手当から子ども手当へ：児童手当から子ども手当への理念の転換、子育てと社会的養護、児童虐待の取り組み等

［10回］ 生活保護：公的扶助の意義、生活保護制度の現状、根拠ある生活保護基準、公平・公正な運用、きめ細かな自立支援等

［11回］ 社会福祉サービスと社会手当：高齢者福祉、障害者福祉と障害者自立支援法、児童福祉、児童手当等、少子化対策の課題、福祉の人材確保対策等

［12回］ 社会保険と民間保険：社会保険の仕組み、民間保険の仕組みと種類・機能等

［13回］ 社会保障の機能と財政：社会保障の機能、経済・財政とのバランス、厳しい財政状況下での制度の持続可能性等

［14回］ 社会保障の現状と課題：社会保障給付の伸びの抑制、安全網としての水準確保、世代間の公平性の確保、社会保障の財源等

［15回］ 授業のまとめ：授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

人間形成論[1103050]

科目名	人間形成論[1103050]
科目区分・科目種	人間と社会
クラス	全学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	山下　雅子[看護学部 看護学科]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 1.0～1.0
教室	①306教室

受講条件・その注意
心理学的に基本的な事項についての初歩的な説明は行わないので、心理学概論などの心理学系科目を履修済みであることが望ましい。

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書:『やさしい発達心理学ー乳児から青年までの発達プロセス』 都筑学　編(ナカニシヤ出版),『図でわかる発達心理学』 新井邦二郎　編著(福村出版)

参考書:ガイダンス時、または開講前に掲示で指示する。

評価方法・評価割合
定期試験(50%)、レポート(20%)、授業中の課題(小テスト10%)、その他(平常点20%)

授業の目的および到達目標
ヒトは、ひたすら無力な存在として生まれくるが、一人の人間として現実の社会の中で生き、その跡としての文化を残す。このような主体である一人一人の人間はどのようにして形成され、変化してゆくのであろうか。動物としてのヒトの特徴の基礎の上に、発達してゆく存在として人間をとらえ、教育学や心理学、社会学の視点から、ヒトが人間になり、衰え死に至る過程を明らかにし、人間として生きる意味を多面的に分析・考察する。これにより、人間存在を能動的にとらえ、自覚的に自己形成できる専門職育成の基礎を養う。自分を含めひとりの人間がどのようにしてつくられ、変転してゆくのかの基本的なありようが把握でき、いくつかの側面からの分析が出来るようになることを目標とする。

テーマおよび内容
[1 回] 発達心理学の方法　研究法

[2 回] 人間の発達の特徴　　発達段階と発達課題

[3 回] 遺伝と環境との相互作用(1)　遺伝か環境か

[4 回] 遺伝と環境との相互作用(2)　相互作用とは

[5 回] 乳児期の発達と生活　乳児の発達、愛着

[6 回] 幼児期から児童期の認知的発達(1)　ピアジェの認知的発達理論(1)

[7 回] 幼児期から児童期の認知的発達(2)　ピアジェの認知的発達理論(2)

[8 回] 発達障害　　発達障害とは

[9 回] 青年期、成人期以降の発達と生活(1)　青年期

[10回] 青年期、成人期以降の発達と生活(2)　成人期以降

[11回] エイジングにともなう認知的変化(1)　知覚、注意のエイジング

[12回] エイジングにともなう認知的変化(2)　記憶のエイジング

[13回] エイジングにともなう認知的変化(3)　認知機能のエイジング

[14回] 社会性の発達　　道徳的発達、家族関係の発達、社会的発達

[15回] 社会性の発達　　道徳的発達、家族関係の発達、社会的発達

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

医療史[1103060]

科目名	医療史[1103060]
科目区分・科目種	人間と社会
クラス	全学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	東郷　俊宏[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 2.0～2.0
教室	①大講義室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：特になし

参考書：講義で随時指導する

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート（1～2回）

授業の目的および到達目標

本科目では、ヒポクラテスに始まる西洋医学の歴史について、特に医学史上重大なトピック（Vesariusによる解剖学の体系化、W.Harveyによる血液循環説の発見、Bernardによるホメオスタシスの提唱、H.Selyeによるストレス学説の発見など）、および我が国に西洋医学が伝来し、受容されてきた過程（近世における蘭学の発展過程）などに焦点を絞りながら講述する。講義にあたっては、史実の羅列に終始するのではなく、「病のとらえ方」が時代によってどのように変遷したかを講義し、現代医学がどのような歴史的背景を持ち、今日まで人々の保健衛生に貢献してきたかを理解させる。

テーマおよび内容

[1 回] オリエンテーション （医学史を学ぶ意義　人の身体をみるということ）

[2 回] 人の身体へのまなざし（『看護覚え書き』から）1

[3 回] 人の身体へのまなざし（『看護覚え書き』から）2

[4 回] 西洋医学史（ヒポクラテスから中世まで）

[5 回] ルネッサンスとヴェサリウス（近代解剖学のあけぼの）

[6 回] ウィリアム・ハーヴェイと血液循環説

[7 回] ハンス・セリエと汎適応症候群（ストレス学説）1

[8 回] ハンス・セリエと汎適応症候群（ストレス学説）2

[9 回] 近世医学史1（大航海時代　アルメイダ）

[10回] 近世医学史2（江戸初期　ケンペル）

[11回] 近世医学史3（江戸中期　ツュンベリー）

[12回] 近世医学史4（江戸後期　シーボルト）

[13回] 近代医学史5（明治維新と近代的医療制度の確立）

[14回] 近代医学史6（終戦と戦後GHQによる医療改革）

[15回] 講義のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

ボランティア論[1103070]

科目名	ボランティア論[1103070]
科目区分・科目種	人間と社会
クラス	全学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	天野　由以[非常勤講師]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 1.0～1.0
教室	①大講義室

受講条件・その注意

出席と授業態度の確認の為、学籍番号順での着席を義務づけます。講義開始後10分以上の遅刻は入室を認めず、欠席とします。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書:『ボランティア論 「広がり」から「深まり」へ』 柴田謙治・原田正樹・名賀亨　編　㈱みらい　2010年発行

参考書:適宜資料を配布

評価方法・評価割合

定期試験（小論文20点）、出席状況（40点）、授業中の課題（授業内小テスト20点）、その他（授業態度20点）

授業の目的および到達目標

当該科目においては、特に、福祉関連団体、機関、施設等でのボランティア活動の現状と意義、目的等を学び、ボランティアのあり方を考える。講義からボランティア活動の現状や課題、ボランティアの意義や目的等を学ぶ。将来的に病院や診療所でボランティアを受け入れる側になることも視野に入れ、ボランティアコーディネートの実際についても学ぶ。

テーマおよび内容

[1 回] オリエンテーション:本授業の目的や流れを理解する。次回の授業に向けて、今までのボランティア体験・これから希望するボランティアについてまとめる。

[2 回] 私たちのボランティア体験を語ろう:過去のボランティア体験をふまえ、自身のボランティア観を整理する。

[3 回] ボランティア・無償奉仕…何が違う？～ボランティアの歴史と現状①:ボランティアという言葉が現在の日本においてどのような意味合いを持っているのか、諸外国、日本のボランティアの歴史と現状を理解する。

[4 回] 「ちょボラ」はボランティアなのか？～ボランティアの歴史と現状②:「ボランティア」と「あたりまえのこと」の境界線とは何か？諸外国、日本の文化・風習も視野に入れてボランティアの歴史と現状を理解する。

[5 回] ボランティア活動の範囲と目的①:文化・教育・学習ボランティアの現状と課題を理解する。

[6 回] ボランティア活動の範囲と目的②:保健・医療・福祉ボランティアの現状と課題を理解する。

[7 回] ボランティア活動の範囲と目的③:安全・災害ボランティアの現状と課題を理解する。

[8 回] ボランティア活動の範囲と目的④:国際交流・海外ボランティアの現状と課題を理解する。

[9 回] 「24時間テレビ」の役割:ボランティア活動と運営資金の関係性、寄付文化を考える。

[10回] ボランティアコーディネーターの役割①:ボランティア活動の現場となる、病院・福祉施設におけるコーディネーターの役割を理解する

[11回] ボランティアコーディネーターの役割②:社会福祉協議会の役割を理解し、ボランティアコーナーの意義について考える。

[12回] 高齢者ボランティアの実践と今後の可能性:多種多様なボランティアに活躍する高齢者ボランティアの実践について学び、ボランティアと生きがいについて理解する。

[13回] 子どもにとってのボランティア体験:福祉教育・体験学習としてのボランティア体験の意義とあり方について考える。

[14回] ボランティア活動の今後の展望:NPO、NGOの活動範囲と、実践を理解する

[15回] まとめ:講義・演習を通し、理解したこと、考えたことを基に、自分たちのボランティア観を整理する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

健康の創造(体育理論)[1103080]

科目名	健康の創造(体育理論)[1103080]
科目区分・科目種	人間と社会
クラス	全学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	髙橋　康輝[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 4.0～4.0
教室	①大講義室
資格関連	アスレティックトレーナー,健康運動実践指導者,スポーツプログラマー,養護教諭

受講条件・その注意

(1)演習科目のため、出席は重要である。
(2)場合によっては、運動着や運動靴が必要となる時があるが、必要な時には事前に連絡する。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書:資料を配布するので、特に必要としない。

参考書:資料を配布するので、特に必要としない。

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、授業中の課題、その他(受講態度)

授業の目的および到達目標

健康で活力のある生活を営むために必要な諸条件を理解し、自ら実践する能力を身につけることは、将来、医療関係に進む学生にとって最も重要である。その上、自らが社会全体の健康度を高めるために貢献する人材であることを念頭に置き、健康増進の知識と技術を啓蒙する能力を養う。また健康を創造する手段のひとつである体育・スポーツという領域における事象を科学的に理解するため、具体的な事象をシステマチックに考察し、体育・スポーツについての理解を深める。

テーマおよび内容

[1 回] オリエンテーション(健康の概念と健康の創造)

[2 回] 健康と安全管理

[3 回] 健康な生活を送るために(生活習慣病予防の観点から)

[4 回] 健康な生活を送るために(メンタルヘルスの観点から)

[5 回] 健康な人に健康を伝える難しさ(行動変容)

[6 回] 誰でも楽しめるスポーツレクリエーション

[7 回] 誰でもわかる運動生理学(エネルギー供給、筋肉の科学)

[8 回] 美しいボディーコントロール(動き・姿勢の科学、体形維持の理論)

[9 回] 運動を学習するということのメカニズム

[10回] 子供の健全な発育発達に適した体育・スポーツ

[11回] 高齢者および障害者福祉政策の概念

[12回] 体力維持と生涯スポーツ

[13回] マネジメントの概念(ヘルスマネジメント、スポーツマネジメント)

[14回] 健康指導のための情報収集とデータ活用法

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

健康スポーツ(体育実技)[1103090]

科目名	健康スポーツ(体育実技)[1103090]
科目区分・科目種	人間と社会
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	徳安　秀政[保健医療学部 柔道整復学科]
	石山　修盟[非常勤講師]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 2.0～2.0
教室	①HANADA HALL

受講条件・その注意

・屋外、屋内の専用シューズを用意すること
・運動できる体育着に着替えること
・途中休憩の時間を入れるので、水分補給をすること

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書:特になし

参考書:特になし

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他(受講態度など)

授業の目的および到達目標

本科目では基礎体力の増進に加え、各種目の体育競技を行い、体育を通じて心と身体を鍛える。各種目の基本的技術の習得、各種目のルールについて学習し、楽しく競技(ゲーム)することを目的とする。個人競技、団体競技の特性を理解し、自主性と協調性の向上をはかり、精神力を身につけさせる。体育を通じて、ルールを守り礼儀正しく行動することの大切さを理解し、社会において健康で心豊かな生活がおくれることを目標とする。1年前期に開講し、前半は体育館やトレーニングルームを使用して基礎体力の増進や室内競技を行い、後半を屋外を含む各種競技にあてる。

テーマおよび内容

[1 回] ガイダンス(授業内容、目的、評価内容)

[2 回] 体操・ストレッチング

[3 回] 健康運動としてのジョギング・ウォーキング

[4 回] ウォーキングの特性と指導方法

[5 回] ジョギング・ウォーキングの運動強度と効果①

[6 回] ジョギングの特性と指導方法

[7 回] ジョギング・ウォーキングの運動強度と効果②

[8 回] レクレーションスポーツ

[9 回] 球技(基礎知識と技能練習)

[10回] 球技(運動ゲーム)

[11回] 球技(基礎知識と技能練習)

[12回] 球技(運動ゲーム)

[13回] 球技(基礎知識と技能練習)

[14回] レクレーションスポーツ(運動ゲーム)

［15回］ 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

健康スポーツ(体育実技)[1103091]

科目名	健康スポーツ(体育実技)[1103091]
科目区分・科目種	人間と社会
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	徳安　秀政[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 3.0～3.0
教室	①HANADA HALL

受講条件・その注意

・屋外、屋内の専用シューズを用意すること
・運動できる体育着に着替えること
・途中休憩の時間を入れるので、水分補給をすること

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書:特になし

参考書:特になし

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他(受講態度など)

授業の目的および到達目標

本科目では基礎体力の増進に加え、各種目の体育競技を行い、体育を通じて心と身体を鍛える。各種目の基本的技術の習得、各種目のルールについて学習し、楽しく競技(ゲーム)することを目的とする。個人競技、団体競技の特性を理解し、自主性と協調性の向上をはかり、精神力を身につけさせる。体育を通じて、ルールを守り礼儀正しく行動することの大切さを理解し、社会において健康で心豊かな生活がおくれることを目標とする。1年前期に開講し、前半は体育館やトレーニングルームを使用して基礎体力の増進や室内競技を行い、後半を屋外を含む各種競技にあてる。

テーマおよび内容

[1 回] ガイダンス(授業内容、目的、評価内容)

[2 回] 体操・ストレッチング

[3 回] 健康運動としてのジョギング・ウォーキング

[4 回] ウォーキングの特性と指導方法

[5 回] ジョギング・ウォーキングの運動強度と効果

[6 回] ジョギングの特性と指導方法

[7 回] ジョギング・ウォーキングの運動強度と効果②

[8 回] レクレーションスポーツ

[9 回] 球技(基礎知識と技能練習)

[10回] 球技(運動ゲーム)

[11回] 球技(基礎知識と技能練習)

[12回] 球技(運動ゲーム)

[13回] 球技(基礎知識と技能練習)

[14回] レクレーションスポーツ(運動ゲーム)

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

健康スポーツ(体育実技)[1103092]

科目名	健康スポーツ(体育実技)[1103092]
科目区分・科目種	人間と社会
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	徳安　秀政[保健医療学部 柔道整復学科]
	長瀬　エリカ[非常勤講師]
	長井　雅子[非常勤講師]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 1.0～1.0
教室	①HANADA HALL
資格関連	養護教諭

受講条件・その注意

・屋外、屋内の専用シューズを用意すること
・運動できる体育着に着替えること
・途中休憩の時間を入れるので、水分補給をすること

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書:特になし

参考書:特になし

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他(受講態度など)

授業の目的および到達目標

本科目では基礎体力の増進に加え、各種目の体育競技を行い、体育を通じて心と身体を鍛える。各種目の基本的技術の習得、各種目のルールについて学習し、楽しく競技(ゲーム)することを目的とする。個人競技、団体競技の特性を理解し、自主性と協調性の向上をはかり、精神力を身につけさせる。体育を通じて、ルールを守り礼儀正しく行動することの大切さを理解し、社会において健康で心豊かな生活がおくれることを目標とする。1年前期に開講し、前半は体育館やトレーニングルームを使用して基礎体力の増進や室内競技を行い、後半を屋外を含む各種競技にあてる。

テーマおよび内容

[1 回] ガイダンス(授業内容、目的、評価内容)

[2 回] 体操・ストレッチング

[3 回] 健康運動としてのジョギング・ウォーキング

[4 回] ウォーキングの特性と指導方法

[5 回] ジョギング・ウォーキングの運動強度と効果

[6 回] ジョギングの特性と指導方法

[7 回] ジョギング・ウォーキングの運動強度と効果②

[8 回] レクレーションスポーツ

[9 回] 球技(基礎知識と技能練習)

[10回] 球技(運動ゲーム)

[11回] 球技(基礎知識と技能練習)

[12回] 球技(運動ゲーム)

［13回］ 球技（基礎知識と技能練習）

［14回］ レクレーションスポーツ（運動ゲーム）

［15回］ 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

健康スポーツ(体育実技)[1103093]

科目名	健康スポーツ(体育実技)[1103093]
科目区分・科目種	人間と社会
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	徳安　秀政[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 金曜 1.0～1.0
教室	①HANADA HALL

受講条件・その注意

・屋外、屋内の専用シューズを用意すること
・運動できる体育着に着替えること
・途中休憩の時間を入れるので、水分補給をすること

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書:特になし

参考書:特になし

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他(受講態度など)

授業の目的および到達目標

本科目では基礎体力の増進に加え、各種目の体育競技を行い、体育を通じて心と身体を鍛える。各種目の基本的技術の習得、各種目のルールについて学習し、楽しく競技(ゲーム)することを目的とする。個人競技、団体競技の特性を理解し、自主性と協調性の向上をはかり、精神力を身につけさせる。体育を通じて、ルールを守り礼儀正しく行動することの大切さを理解し、社会において健康で心豊かな生活がおくれることを目標とする。1年前期に開講し、前半は体育館やトレーニングルームを使用して基礎体力の増進や室内競技を行い、後半を屋外を含む各種競技にあてる。

テーマおよび内容

[1 回] ガイダンス(授業内容、目的、評価内容)

[2 回] 体操・ストレッチング

[3 回] 健康運動としてのジョギング・ウォーキング

[4 回] ウォーキングの特性と指導方法

[5 回] ジョギング・ウォーキングの運動強度と効果

[6 回] ジョギングの特性と指導方法

[7 回] ジョギング・ウォーキングの運動強度と効果②

[8 回] レクレーションスポーツ

[9 回] 球技(基礎知識と技能練習)

[10回] 球技(運動ゲーム)

[11回] 球技(基礎知識と技能練習)

[12回] 球技(運動ゲーム)

[13回] 球技(基礎知識と技能練習)

[14回] レクレーションスポーツ(運動ゲーム)

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

健康スポーツ(体育実技)[1103094]

科目名	健康スポーツ(体育実技)[1103094]
科目区分・科目種	人間と社会
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	徳安　秀政[保健医療学部 柔道整復学科]
	長瀬　エリカ[非常勤講師]
	長井　雅子[非常勤講師]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 3.0～3.0
教室	①HANADA HALL
資格関連	養護教諭

受講条件・その注意

・屋外、屋内の専用シューズを用意すること
・運動できる体育着に着替えること
・途中休憩の時間を入れるので、水分補給をすること

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書:特になし

参考書:特になし

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他(受講態度など)

授業の目的および到達目標

本科目では基礎体力の増進に加え、各種目の体育競技を行い、体育を通じて心と身体を鍛える。各種目の基本的技術の習得、各種目のルールについて学習し、楽しく競技(ゲーム)することを目的とする。個人競技、団体競技の特性を理解し、自主性と協調性の向上をはかり、精神力を身につけさせる。体育を通じて、ルールを守り礼儀正しく行動することの大切さを理解し、社会において健康で心豊かな生活がおくれることを目標とする。1年前期に開講し、前半は体育館やトレーニングルームを使用して基礎体力の増進や室内競技を行い、後半を屋外を含む各種競技にあてる。

テーマおよび内容

[1 回] ガイダンス(授業内容、目的、評価内容)

[2 回] 体操・ストレッチング

[3 回] 健康運動としてのジョギング・ウォーキング

[4 回] ウォーキングの特性と指導方法

[5 回] ジョギング・ウォーキングの運動強度と効果

[6 回] ジョギングの特性と指導方法

[7 回] ジョギング・ウォーキングの運動強度と効果②

[8 回] レクレーションスポーツ

[9 回] 球技(基礎知識と技能練習)

[10回] 球技(運動ゲーム)

[11回] 球技(基礎知識と技能練習)

[12回] 球技(運動ゲーム)

［13回］ 球技（基礎知識と技能練習）

［14回］ レクレーションスポーツ（運動ゲーム）

［15回］ 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

英語I[1104010]

科目名	英語I[1104010]
科目区分・科目種	言語とコミュニケーション
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	島田　将夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 3.0～3.0
教室	①404教室

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書：『やさしい医学英語）』 青野淳子、他（医学書院）2006

参考書：『キクタンリーディング【basic】4000』 田島亮：木村麗（アルク）2007,『キクタンリーディング【advanced】6000』 田島亮：木村麗（アルク）2007
『英語学習のための情報リテラシーブック』 西納春雄（大修館書店）2005

評価方法・評価割合

出席状況（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）、その他（訓練量、訓練達成度）

授業の目的および到達目標

実用英語能力の尺度として広く社会に認知されている英検やTOEICなどに即応できる英語運用能力を養成する演習を行う。各種英語検定において頻度率約90パーセントを占める基礎語彙約3000語を含む100語程度の英語文章60課題が滑らかに暗誦できるようになることを目標とする。英文の発話、文法・語法、習得内容の復習などの強化訓練にはICT（インターネット等）を活用する。音読サイトトランスレーションやリテンションの技法を援用し、英語を英語で直接理解することを体得させる。

テーマおよび内容

[1 回] 訓練の心得、目的、目標：基本文章の音読・暗誦を基礎訓練として位置づけることの意義ならびに様々な外国語学習方法との関連付けを明示する

[2 回] 音読の技法（予備訓練1）：英語文章（課題1～10）を題材にして、音素や音節や韻律などを習熟するための音読訓練方法を体得する

[3 回] 音読サイト・トランスレーションの技法（予備訓練2）：英語文章（課題1～10）を題材にして、音読サイトトランスレーションの技法を援用した音読訓練方法を体得する

[4 回] リテンションの技法（予備訓練3）：英語文章（課題1～10）を題材にして、リテンション（再構成）の技法を援用した音読訓練方法を体得する

[5 回] 人間・生活：人間・生活の領域における話題から選定した英語文章（課題11～15）を題材とした包括的な音読訓練

[6 回] 社会問題：社会問題の領域における話題から選対した英語文章（課題16～20）を題材とした包括的な音読訓練

[7 回] 政治・社会：政治・社会の領域における話題から選定した英語文章（課題21～25）を題材とした包括的な音読訓練

[8 回] 経済・社会：経済・社会の領域における話題から選定した英語文章（課題25～30）を題材とした包括的な音読訓練

[9 回] 教育：教育の領域における話題から選定した英語文章（課題31～35）を題材とした包括的な音読訓練

[10回] 医療：医療の領域における話題から選定した英語文章（課題36～40）を題材とした包括的な音読訓練

[11回] 歴歴史・文化：史・文化の領域における話題から選定した英語文章（課題41～45）を題材とした包括的な音読訓練

[12回] 科学・技術：科学・技術の領域における話題から選定した英語文章（課題46～50）を題材とした包括的な音読訓練

[13回] 環境問題：環境問題の領域における話題から選定した英語文章（課題51～55）を題材とした包括的な音読訓練

[14回] 国際問題：国際問題の領域における話題から選定した英語文章（課題55～60）を題材とした包括的な音読訓練

[15回] まとめと展望：英語文章（課題1～60）の訓練成果の意義と今後の発展に向けて

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

英語I[1104011]

科目名	英語I[1104011]
科目区分・科目種	言語とコミュニケーション
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	島田　将夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 金曜 2.0～2.0
教室	①406教室

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『やさしい医学英語）』 青野淳子、他（医学書院）2006

参考書：『キクタンリーディング【basic】4000』 田島亮：木村麗（アルク）2007,『キクタンリーディング【advanced】6000』 田島亮：木村麗（アルク）2007,
『英語学習のための情報リテラシーブック』 西納春雄（大修館書店）2005

評価方法・評価割合

出席状況（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）、その他（訓練量、訓練達成度）

授業の目的および到達目標

実用英語能力の尺度として広く社会に認知されている英検やTOEICなどに即応できる英語運用能力を養成する演習を行う。各種英語検定において頻度率約90パーセントを占める基礎語彙約3000語を含む100語程度の英語文章60課題が滑らかに暗誦できるようになることを目標とする。英文の発話、文法・語法、習得内容の復習などの強化訓練にはICT（インターネット等）を活用する。音読サイトトランスレーションやリテンションの技法を援用し、英語を英語で直接理解することを体得させる。

テーマおよび内容

［1 回］ 訓練の心得、目的、目標：基本文章の音読・暗誦を基礎訓練として位置づけることの意義ならびに様々な外国語学習方法との関連付けを明示する

［2 回］ 音読の技法（予備訓練1）：英語文章（課題1～10）を題材にして、音素や音節や韻律などを習熟するための音読訓練方法を体得する

［3 回］ 音読サイト・トランスレーションの技法（予備訓練2）：英語文章（課題1～10）を題材にして、音読サイトトランスレーションの技法を援用した音読訓練方法を体得する

［4 回］ リテンションの技法（予備訓練3）：英語文章（課題1～10）を題材にして、リテンション（再構成）の技法を援用した音読訓練方法を体得する

［5 回］ 人間・生活：人間・生活の領域における話題から選定した英語文章（課題11～15）を題材とした包括的な音読訓練

［6 回］ 社会問題：社会問題の領域における話題から選対した英語文章（課題16～20）を題材とした包括的な音読訓練

［7 回］ 政治・社会：政治・社会の領域における話題から選定した英語文章（課題21～25）を題材とした包括的な音読訓練

［8 回］ 経済・社会：経済・社会の領域における話題から選定した英語文章（課題25～30）を題材とした包括的な音読訓練

［9 回］ 教育：教育の領域における話題から選定した英語文章（課題31～35）を題材とした包括的な音読訓練

［10回］ 医療：医療の領域における話題から選定した英語文章（課題36～40）を題材とした包括的な音読訓練

［11回］ 歴歴史・文化：史・文化の領域における話題から選定した英語文章（課題41～45）を題材とした包括的な音読訓練

［12回］ 科学・技術：科学・技術の領域における話題から選定した英語文章（課題46～50）を題材とした包括的な音読訓練

［13回］ 環境問題：環境問題の領域における話題から選定した英語文章（課題51～55）を題材とした包括的な音読訓練

［14回］ 国際問題：国際問題の領域における話題から選定した英語文章（課題55～60）を題材とした包括的な音読訓練

［15回］ まとめと展望：英語文章（課題1～60）の訓練成果の意義と今後の発展に向けて

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

英語I[1104012]

科目名	英語I[1104012]
科目区分・科目種	言語とコミュニケーション
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	島田　将夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 金曜 3.0～3.0
教室	①406教室

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書:『やさしい医学英語）』 青野淳子、他（医学書院）2006

参考書:『キクタンリーディング【basic】4000』 田島亮：木村麗（アルク）2007,『キクタンリーディング【advanced】6000』 田島亮：木村麗（アルク）2007,
『英語学習のための情報リテラシーブック』 西納春雄（大修館書店）2005

評価方法・評価割合

出席状況（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）、その他（訓練量、訓練達成度）

授業の目的および到達目標

実用英語能力の尺度として広く社会に認知されている英検やTOEICなどに即応できる英語運用能力を養成する演習を行う。各種英語検定において頻度率約90パーセントを占める基礎語彙約3000語を含む100語程度の英語文章60課題が滑らかに暗誦できるようになることを目標とする。英文の発話、文法・語法、習得内容の復習などの強化訓練にはICT（インターネット等）を活用する。音読サイトトランスレーションやリテンションの技法を援用し、英語を英語で直接理解することを体得させる。

テーマおよび内容

[1 回] 訓練の心得、目的、目標：基本文章の音読・暗誦を基礎訓練として位置づけることの意義ならびに様々な外国語学習方法との関連付けを明示する

[2 回] 音読の技法（予備訓練1）：英語文章（課題1～10）を題材にして、音素や音節や韻律などを習熟するための音読訓練方法を体得する

[3 回] 音読サイト・トランスレーションの技法（予備訓練2）：英語文章（課題1～10）を題材にして、音読サイトトランスレーションの技法を援用した音読訓練方法を体得する

[4 回] リテンションの技法（予備訓練3）：英語文章（課題1～10）を題材にして、リテンション（再構成）の技法を援用した音読訓練方法を体得する

[5 回] 人間・生活：人間・生活の領域における話題から選定した英語文章（課題11～15）を題材とした包括的な音読訓練

[6 回] 社会問題：社会問題の領域における話題から選対した英語文章（課題16～20）を題材とした包括的な音読訓練

[7 回] 政治・社会：政治・社会の領域における話題から選定した英語文章（課題21～25）を題材とした包括的な音読訓練

[8 回] 経済・社会：経済・社会の領域における話題から選定した英語文章（課題25～30）を題材とした包括的な音読訓練

[9 回] 教育：教育の領域における話題から選定した英語文章（課題31～35）を題材とした包括的な音読訓練

[10回] 医療：医療の領域における話題から選定した英語文章（課題36～40）を題材とした包括的な音読訓練

[11回] 歴歴史・文化：史・文化の領域における話題から選定した英語文章（課題41～45）を題材とした包括的な音読訓練

[12回] 科学・技術：科学・技術の領域における話題から選定した英語文章（課題46～50）を題材とした包括的な音読訓練

[13回] 環境問題：環境問題の領域における話題から選定した英語文章（課題51～55）を題材とした包括的な音読訓練

[14回] 国際問題：国際問題の領域における話題から選定した英語文章（課題55～60）を題材とした包括的な音読訓練

[15回] まとめと展望：英語文章（課題1～60）の訓練成果の意義と今後の発展に向けて

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

英語I[1104013]

科目名	英語I[1104013]
科目区分・科目種	言語とコミュニケーション
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	島田　将夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 1.0～1.0
教室	①406教室
資格関連	養護教諭

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書：[全学科]『やさしい医学英語』 青野淳子、他（医学書院）2006
「看護学科」『原文看護覚え書』 F. ナイチンゲール：薄井担子（現代社）2001

参考書：『キクタンリーディング【basic】4000』 田島亮：木村麗（アルク）2007,『キクタンリーディング【advanced】6000』 田島亮：木村麗（アルク）2007,
『英語学習のための情報リテラシーブック』 西納春雄（大修館書店）2005

評価方法・評価割合

出席状況（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）、その他（訓練量、訓練達成度）

授業の目的および到達目標

実用英語能力の尺度として広く社会に認知されている英検やTOEICなどに即応できる英語運用能力を養成する演習を行う。各種英語検定において頻度率約90パーセントを占める基礎語彙約3000語を含む100語程度の英語文章60課題が滑らかに暗誦できるようになることを目標とする。英文の発話、文法・語法、習得内容の復習などの強化訓練にはICT（インターネット等）を活用する。音読サイトトランスレーションやリテンションの技法を援用し、英語を英語で直接理解することを体得させる。

テーマおよび内容

[1 回] 訓練の心得、目的、目標：基本文章の音読・暗誦を基礎訓練として位置づけることの意義ならびに様々な外国語学習方法との関連付けを明示する

[2 回] 音読の技法（予備訓練1）：英語文章（課題1～10）を題材にして、音素や音節や韻律などを習熟するための音読訓練方法を体得する

[3 回] 音読サイト・トランスレーションの技法（予備訓練2）：英語文章（課題1～10）を題材にして、音読サイトトランスレーションの技法を援用した音読訓練方法を体得する

[4 回] リテンションの技法（予備訓練3）：英語文章（課題1～10）を題材にして、リテンション（再構成）の技法を援用した音読訓練方法を体得する

[5 回] 人間・生活：人間・生活の領域における話題から選定した英語文章（課題11～15）を題材とした包括的な音読訓練

[6 回] 社会問題：社会問題の領域における話題から選対した英語文章（課題16～20）を題材とした包括的な音読訓練

[7 回] 政治・社会：政治・社会の領域における話題から選定した英語文章（課題21～25）を題材とした包括的な音読訓練

[8 回] 経済・社会：経済・社会の領域における話題から選定した英語文章（課題25～30）を題材とした包括的な音読訓練

[9 回] 教育：教育の領域における話題から選定した英語文章（課題31～35）を題材とした包括的な音読訓練

[10回] 医療：医療の領域における話題から選定した英語文章（課題36～40）を題材とした包括的な音読訓練

[11回] 歴歴史・文化：史・文化の領域における話題から選定した英語文章（課題41～45）を題材とした包括的な音読訓練

[12回] 科学・技術：科学・技術の領域における話題から選定した英語文章（課題46～50）を題材とした包括的な音読訓練

[13回] 環境問題：環境問題の領域における話題から選定した英語文章（課題51～55）を題材とした包括的な音読訓練

［14回］ 国際問題：国際問題の領域における話題から選定した英語文章（課題55～60）を題材とした包括的な音読訓練

［15回］ まとめと展望：英語文章（課題1～60）の訓練成果の意義と今後の発展に向けて

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

英語I[1104014]

科目名	英語I[1104014]
科目区分・科目種	言語とコミュニケーション
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	島田　将夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 3.0～3.0
教室	①406教室
資格関連	養護教諭

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書：[全学科]『やさしい医学英語』 青野　淳子、他（医学書院）2006
[看護学科]『原文看護覚え書』 F. ナイチンゲール：薄井坦子（現代社）2001

参考書：『キクタンリーディング【basic】4000』 田島亮：木村麗（アルク）2007,『キクタンリーディング【advanced】6000』 田島亮：木村麗（アルク）2007,
『英語学習のための情報リテラシーブック』 西納春雄（大修館書店）2005

評価方法・評価割合

出席状況（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）、その他（訓練量、訓練達成度）

授業の目的および到達目標

実用英語能力の尺度として広く社会に認知されている英検やTOEICなどに即応できる英語運用能力を養成する演習を行う。各種英語検定において頻度率約90パーセントを占める基礎語彙約3000語を含む100語程度の英語文章60課題が滑らかに暗誦できるようになることを目標とする。英文の発話、文法・語法、習得内容の復習などの強化訓練にはICT（インターネット等）を活用する。音読サイトトランスレーションやリテンションの技法を援用し、英語を英語で直接理解することを体得させる。

テーマおよび内容

[1 回] 訓練の心得、目的、目標：基本文章の音読・暗誦を基礎訓練として位置づけることの意義ならびに様々な外国語学習方法との関連付けを明示する

[2 回] 音読の技法（予備訓練1）：英語文章（課題1～10）を題材にして、音素や音節や韻律などを習熟するための音読訓練方法を体得する

[3 回] 音読サイト・トランスレーションの技法（予備訓練2）：英語文章（課題1～10）を題材にして、音読サイトトランスレーションの技法を援用した音読訓練方法を体得する

[4 回] リテンションの技法（予備訓練3）：英語文章（課題1～10）を題材にして、リテンション（再構成）の技法を援用した音読訓練方法を体得する

[5 回] 人間・生活：人間・生活の領域における話題から選定した英語文章（課題11～15）を題材とした包括的な音読訓練

[6 回] 社会問題：社会問題の領域における話題から選対した英語文章（課題16～20）を題材とした包括的な音読訓練

[7 回] 政治・社会：政治・社会の領域における話題から選定した英語文章（課題21～25）を題材とした包括的な音読訓練

[8 回] 経済・社会：経済・社会の領域における話題から選定した英語文章（課題25～30）を題材とした包括的な音読訓練

[9 回] 教育：教育の領域における話題から選定した英語文章（課題31～35）を題材とした包括的な音読訓練

[10回] 医療：医療の領域における話題から選定した英語文章（課題36～40）を題材とした包括的な音読訓練

[11回] 歴歴史・文化：史・文化の領域における話題から選定した英語文章（課題41～45）を題材とした包括的な音読訓練

[12回] 科学・技術：科学・技術の領域における話題から選定した英語文章（課題46～50）を題材とした包括的な音読訓練

[13回] 環境問題：環境問題の領域における話題から選定した英語文章（課題51～55）を題材とした包括的な音読訓練

［14回］ 国際問題：国際問題の領域における話題から選定した英語文章（課題55～60）を題材とした包括的な音読訓練

［15回］ まとめと展望：英語文章（課題１～60）の訓練成果の意義と今後の発展に向けて

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

英語II[1104020]

科目名	英語II[1104020]
科目区分・科目種	言語とコミュニケーション
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	島田　将夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 金曜 2.0～2.0
教室	①404教室

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書：『やさしい医学英語）』 青野淳子、他（医学書院）2006 参考書：『キクタンリーディン【advanced】6000』 田島亮：木村麗（アルク）2007,
『キクタン　リーディング【Super】12000』 田島亮：木村麗（アルク）2007,『英語学習のための情報リテラシーブック』 西納春雄（大修館書店）2005

評価方法・評価割合

出席状況（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）、その他（訓練量、訓練達成度）

授業の目的および到達目標

実用英語能力の尺度として広く社会に認知されている英検やTOEICなどで高成績が期待できる英語運用能力を養成する演習を行う。各種英語検定において頻度率約94パーセントを占める基礎語彙約5000語を含む150語程度の英語文章60課題が滑らかに暗誦できるようになることを目標とする。英文の発話、文法・語法、習得内容の復習などの強化訓練にはICT（インターネット等）を活用する。シャドーイングやリピーティングの技法を援用し、英語を自然な速度で直接理解することを体得させる。

テーマおよび内容

[1 回] 訓練の心得、目的、目標：自然な速度で文章を直接理解することの意義ならびに、音読訓練の目的と目標を明示する

[2 回] レシテーションの技法（予備訓練1）：英語文章（課題1～10）を題材にして、レシテーション（朗読）を容易にこなすための音読訓練方法を体得する

[3 回] シャドーイングの技法（予備訓練2）：英語文章（課題1～10）を題材にして、シャドーイング（追い読み）の技法を援用した音読訓練方法を体得する

[4 回] リピーティングの技法（予備訓練3）：英語文章（課題1～10）を題材にして、リピーティング（繰り返し多読）の技法を援用した音読訓練方法を体得する

[5 回] 人間・生活（1）：人間・生活の領域における話題から選定した英語文章（課題11～15）を題材とした包括的な音読訓練

[6 回] 人間・生活（2）：人間・生活の領域における話題から選対した英語文章（課題16～20）を題材とした包括的な音読訓練

[7 回] 社会問題：社会問題の領域における話題から選定した英語文章（課題21～25）を題材とした包括的な音読訓練

[8 回] 政治・経済：政治・経済の領域における話題から選定した英語文章（課題25～30）を題材とした包括的な音読訓練

[9 回] 教育・医療：教育・医療の領域における話題から選定した英語文章（課題31～35）を題材とした包括的な音読訓練

[10回] 歴史・文化：歴史・文化の領域における話題から選定した英語文章（課題36～40）を題材とした包括的な音読訓練

[11回] 科学・技術：科学・技術の領域における話題から選定した英語文章（課題41～45）を題材とした包括的な音読訓練

[12回] 環境問題：環境問題の領域における話題から選定した英語文章（課題46～50）を題材とした包括的な音読訓練

[13回] 国際問題：国際問題の領域における話題から選定した英語文章（課題51～55）を題材とした包括的な音読訓練

[14回] 情報・技術：情報・技術の領域における話題から選定した英語文章（課題55～60）を題材とした包括的な音読訓練

[15回] まとめと展望：英語文章（課題1～60）の訓練成果の意義と今後の発展に向けて

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

英語II[1104021]

科目名	英語II[1104021]
科目区分・科目種	言語とコミュニケーション
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	島田　将夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 水曜 1.0～1.0
教室	①406教室

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書：『やさしい医学英語）』 青野淳子、他（医学書院）2006　参考書：『キクタンリーディグ【advanced】6000』 田島亮：木村麗（アルク）2007,
『キクタン　リーディング【Super】12000』 田島亮：木村麗（アルク）2007,『英語学習のための情報リテラシーブック』 西納春雄（大修館書店）2005

評価方法・評価割合

出席状況（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）、その他（訓練量、訓練達成度）

授業の目的および到達目標

実用英語能力の尺度として広く社会に認知されている英検やTOEICなどで高成績が期待できる英語運用能力を養成する演習を行う。各種英語検定において頻度率約94パーセントを占める基礎語彙約5000語を含む150語程度の英語文章60課題が滑らかに暗誦できるようになることを目標とする。英文の発話、文法・語法、習得内容の復習などの強化訓練にはICT（インターネット等）を活用する。シャドーイングやリピーティングの技法を援用し、英語を自然な速度で直接理解することを体得させる。

テーマおよび内容

[1 回] 訓練の心得、目的、目標：自然な速度で文章を直接理解することの意義ならびに、音読訓練の目的と目標を明示する

[2 回] レシテーションの技法（予備訓練1）：英語文章（課題1～10）を題材にして、レシテーション（朗読）を容易にこなすための音読訓練方法を体得する

[3 回] シャドーイングの技法（予備訓練2）：英語文章（課題1～10）を題材にして、シャドーイング（追い読み）の技法を援用した音読訓練方法を体得する

[4 回] リピーティングの技法（予備訓練3）：英語文章（課題1～10）を題材にして、リピーティング（繰り返し多読）の技法を援用した音読訓練方法を体得する

[5 回] 人間・生活（1）：人間・生活の領域における話題から選定した英語文章（課題11～15）を題材とした包括的な音読訓練

[6 回] 人間・生活（2）：人間・生活の領域における話題から選対した英語文章（課題16～20）を題材とした包括的な音読訓練

[7 回] 社会問題：社会問題の領域における話題から選定した英語文章（課題21～25）を題材とした包括的な音読訓練

[8 回] 政治・経済：政治・経済の領域における話題から選定した英語文章（課題25～30）を題材とした包括的な音読訓練

[9 回] 教育・医療：教育・医療の領域における話題から選定した英語文章（課題31～35）を題材とした包括的な音読訓練

[10回] 歴史・文化：歴史・文化の領域における話題から選定した英語文章（課題36～40）を題材とした包括的な音読訓練

[11回] 科学・技術：科学・技術の領域における話題から選定した英語文章（課題41～45）を題材とした包括的な音読訓練

[12回] 環境問題：環境問題の領域における話題から選定した英語文章（課題46～50）を題材とした包括的な音読訓練

[13回] 国際問題：国際問題の領域における話題から選定した英語文章（課題51～55）を題材とした包括的な音読訓練

[14回] 情報・技術：情報・技術の領域における話題から選定した英語文章（課題55～60）を題材とした包括的な音読訓練

[15回] まとめと展望：英語文章（課題1～60）の訓練成果の意義と今後の発展に向けて

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

英語II[1104022]

科目名	英語II[1104022]
科目区分・科目種	言語とコミュニケーション
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	島田　将夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 水曜 2.0～2.0
教室	①406教室

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書：『やさしい医学英語）』 青野淳子、他（医学書院）2006

参考書：『キクタンリーディング【advanced】6000』 田島亮：木村麗（アルク）2007,『キクタン　リーディング【Super】12000』 田島亮：木村麗（アルク）2007,
『英語学習のための情報リテラシーブック』 西納春雄（大修館書店）2005

評価方法・評価割合

出席状況（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）、その他（訓練量、訓練達成度）

授業の目的および到達目標

実用英語能力の尺度として広く社会に認知されている英検やTOEICなどで高成績が期待できる英語運用能力を養成する演習を行う。各種英語検定において頻度率約94パーセントを占める基礎語彙約5000語を含む150語程度の英語文章60課題が滑らかに暗誦できるようになることを目標とする。英文の発話、文法・語法、習得内容の復習などの強化訓練にはICT（インターネット等）を活用する。シャドーイングやリピーティングの技法を援用し、英語を自然な速度で直接理解することを体得させる。

テーマおよび内容

[1 回] 訓練の心得、目的、目標：自然な速度で文章を直接理解することの意義ならびに、音読訓練の目的と目標を明示する

[2 回] レシテーションの技法（予備訓練1）：英語文章（課題1～10）を題材にして、レシテーション（朗読）を容易にこなすための音読訓練方法を体得する

[3 回] シャドーイングの技法（予備訓練2）：英語文章（課題1～10）を題材にして、シャドーイング（追い読み）の技法を援用した音読訓練方法を体得する

[4 回] リピーティングの技法（予備訓練3）：英語文章（課題1～10）を題材にして、リピーティング（繰り返し多読）の技法を援用した音読訓練方法を体得する

[5 回] 人間・生活（1）：人間・生活の領域における話題から選定した英語文章（課題11～15）を題材とした包括的な音読訓練

[6 回] 人間・生活（2）：人間・生活の領域における話題から選対した英語文章（課題16～20）を題材とした包括的な音読訓練

[7 回] 社会問題：社会問題の領域における話題から選定した英語文章（課題21～25）を題材とした包括的な音読訓練

[8 回] 政治・経済：政治・経済の領域における話題から選定した英語文章（課題25～30）を題材とした包括的な音読訓練

[9 回] 教育・医療：教育・医療の領域における話題から選定した英語文章（課題31～35）を題材とした包括的な音読訓練

[10回] 歴史・文化：歴史・文化の領域における話題から選定した英語文章（課題36～40）を題材とした包括的な音読訓練

[11回] 科学・技術：科学・技術の領域における話題から選定した英語文章（課題41～45）を題材とした包括的な音読訓練

[12回] 環境問題：環境問題の領域における話題から選定した英語文章（課題46～50）を題材とした包括的な音読訓練

[13回] 国際問題：国際問題の領域における話題から選定した英語文章（課題51～55）を題材とした包括的な音読訓練

[14回] 情報・技術：情報・技術の領域における話題から選定した英語文章（課題55～60）を題材とした包括的な音読訓練

[15回] まとめと展望：英語文章（課題1～60）の訓練成果の意義と今後の発展に向けて

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

英語II[1104023]

科目名	英語II[1104023]
科目区分・科目種	言語とコミュニケーション
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	島田　将夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 2.0～2.0
教室	①306教室
資格関連	養護教諭

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書:『原文看護覚え書』 F. ナイチンゲール:薄井坦子(現代社)2001

参考書:『キクタンリーディング【advanced】6000』 田島亮:木村麗(アルク)2007,『キクタン　リーディング【Super】12000』 田島亮:木村麗(アルク)2007,
『英語学習のための情報リテラシーブック』 西納春雄(大修館書店)2005

評価方法・評価割合

出席状況(訓練への主体的かつ能動的な取り組み)、その他(訓練量、訓練達成度)

授業の目的および到達目標

実用英語能力の尺度として広く社会に認知されている英検やTOEICなどで高成績が期待できる英語運用能力を養成する演習を行う。各種英語検定において頻度率約94パーセントを占める基礎語彙約5000語を含む150語程度の英語文章60課題が滑らかに暗誦できるようになることを目標とする。英文の発話、文法・語法、習得内容の復習などの強化訓練にはICT(インターネット等)を活用する。シャドーイングやリピーティングの技法を援用し、英語を自然な速度で直接理解することを体得させる。

テーマおよび内容

[1 回] 訓練の心得、目的、目標:自然な速度で文章を直接理解することの意義ならびに、音読訓練の目的と目標を明示する

[2 回] レシテーションの技法(予備訓練1):英語文章(課題1～10)を題材にして、レシテーション(朗読)を容易にこなすための音読訓練方法を体得する

[3 回] シャドーイングの技法(予備訓練2):英語文章(課題1～10)を題材にして、シャドーイング(追い読み)の技法を援用した音読訓練方法を体得する

[4 回] リピーティングの技法(予備訓練3):英語文章(課題1～10)を題材にして、リピーティング(繰り返し多読)の技法を援用した音読訓練方法を体得する

[5 回] 人間・生活(1):人間・生活の領域における話題から選定した英語文章(課題11～15)を題材とした包括的な音読訓練

[6 回] 人間・生活(2):人間・生活の領域における話題から選対した英語文章(課題16～20)を題材とした包括的な音読訓練

[7 回] 社会問題:社会問題の領域における話題から選定した英語文章(課題21～25)を題材とした包括的な音読訓練

[8 回] 政治・経済:政治・経済の領域における話題から選定した英語文章(課題25～30)を題材とした包括的な音読訓練

[9 回] 教育・医療:教育・医療の領域における話題から選定した英語文章(課題31～35)を題材とした包括的な音読訓練

[10回] 歴史・文化:歴史・文化の領域における話題から選定した英語文章(課題36～40)を題材とした包括的な音読訓練

[11回] 科学・技術:科学・技術の領域における話題から選定した英語文章(課題41～45)を題材とした包括的な音読訓練

[12回] 環境問題:環境問題の領域における話題から選定した英語文章(課題46～50)を題材とした包括的な音読訓練

[13回] 国際問題:国際問題の領域における話題から選定した英語文章(課題51～55)を題材とした包括的な音読訓練

[14回] 情報・技術:情報・技術の領域における話題から選定した英語文章(課題55～60)を題材とした包括的な音読訓練

［15回］ まとめと展望：英語文章（課題1～60）の訓練成果の意義と今後の発展に向けて

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

英語II[1104024]

科目名	英語II[1104024]
科目区分・科目種	言語とコミュニケーション
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	島田　将夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 3.0～3.0
教室	①306教室
資格関連	養護教諭

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書:『原文看護覚え書』 F. ナイチンゲール:薄井坦子(現代社)2001

参考書:『キクタンリーディング【advanced】6000』 田島亮:木村麗(アルク)2007,『キクタン　リーディング【Super】12000』 田島亮:木村麗(アルク)2007
『英語学習のための情報リテラシーブック』 西納春雄(大修館書店)2005

評価方法・評価割合

出席状況(訓練への主体的かつ能動的な取り組み)、その他(訓練量、訓練達成度)

授業の目的および到達目標

実用英語能力の尺度として広く社会に認知されている英検やTOEICなどで高成績が期待できる英語運用能力を養成する演習を行う。各種英語検定において頻度率約94パーセントを占める基礎語彙約5000語を含む150語程度の英語文章60課題が滑らかに暗誦できるようになることを目標とする。英文の発話、文法・語法、習得内容の復習などの強化訓練にはICT(インターネット等)を活用する。シャドーイングやリピーティングの技法を援用し、英語を自然な速度で直接理解することを体得させる。

テーマおよび内容

[1 回] 訓練の心得、目的、目標:自然な速度で文章を直接理解することの意義ならびに、音読訓練の目的と目標を明示する

[2 回] レシテーションの技法(予備訓練1):英語文章(課題1～10)を題材にして、レシテーション(朗読)を容易にこなすための音読訓練方法を体得する

[3 回] シャドーイングの技法(予備訓練2):英語文章(課題1～10)を題材にして、シャドーイング(追い読み)の技法を援用した音読訓練方法を体得する

[4 回] リピーティングの技法(予備訓練3):英語文章(課題1～10)を題材にして、リピーティング(繰り返し多読)の技法を援用した音読訓練方法を体得する

[5 回] 人間・生活(1):人間・生活の領域における話題から選定した英語文章(課題11～15)を題材とした包括的な音読訓練

[6 回] 人間・生活(2):人間・生活の領域における話題から選対した英語文章(課題16～20)を題材とした包括的な音読訓練

[7 回] 社会問題:社会問題の領域における話題から選定した英語文章(課題21～25)を題材とした包括的な音読訓練

[8 回] 政治・経済:政治・経済の領域における話題から選定した英語文章(課題25～30)を題材とした包括的な音読訓練

[9 回] 教育・医療:教育・医療の領域における話題から選定した英語文章(課題31～35)を題材とした包括的な音読訓練

[10回] 歴史・文化:歴史・文化の領域における話題から選定した英語文章(課題36～40)を題材とした包括的な音読訓練

[11回] 科学・技術:科学・技術の領域における話題から選定した英語文章(課題41～45)を題材とした包括的な音読訓練

[12回] 環境問題:環境問題の領域における話題から選定した英語文章(課題46～50)を題材とした包括的な音読訓練

[13回] 国際問題:国際問題の領域における話題から選定した英語文章(課題51～55)を題材とした包括的な音読訓練

[14回] 情報・技術:情報・技術の領域における話題から選定した英語文章(課題55～60)を題材とした包括的な音読訓練

［15回］ まとめと展望：英語文章（課題1～60）の訓練成果の意義と今後の発展に向けて

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

英語II[1104025]

科目名	英語II[1104025]
科目区分・科目種	言語とコミュニケーション
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	島田　将夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 金曜 3.0～3.0
教室	①404教室

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）が最も重要となります。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書：『やさしい医学英語）』 青野淳子、他（医学書院）2006 参考書：『キクタンリーディン【advanced】6000』 田島亮：木村麗（アルク）2007,
『キクタン　リーディング【Super】12000』 田島亮：木村麗（アルク）2007,『英語学習のための情報リテラシーブック』 西納春雄（大修館書店）2005

評価方法・評価割合

出席状況（訓練への主体的かつ能動的な取り組み）、その他（訓練量、訓練達成度）

授業の目的および到達目標

実用英語能力の尺度として広く社会に認知されている英検やTOEICなどで高成績が期待できる英語運用能力を養成する演習を行う。各種英語検定において頻度率約94パーセントを占める基礎語彙約5000語を含む150語程度の英語文章60課題が滑らかに暗誦できるようになることを目標とする。英文の発話、文法・語法、習得内容の復習などの強化訓練にはICT（インターネット等）を活用する。シャドーイングやリピーティングの技法を援用し、英語を自然な速度で直接理解することを体得させる。

テーマおよび内容

[1 回] 訓練の心得、目的、目標：自然な速度で文章を直接理解することの意義ならびに、音読訓練の目的と目標を明示する

[2 回] レシテーションの技法（予備訓練1）：英語文章（課題1～10）を題材にして、レシテーション（朗読）を容易にこなすための音読訓練方法を体得する

[3 回] シャドーイングの技法（予備訓練2）：英語文章（課題1～10）を題材にして、シャドーイング（追い読み）の技法を援用した音読訓練方法を体得する

[4 回] リピーティングの技法（予備訓練3）：英語文章（課題1～10）を題材にして、リピーティング（繰り返し多読）の技法を援用した音読訓練方法を体得する

[5 回] 人間・生活（1）：人間・生活の領域における話題から選定した英語文章（課題11～15）を題材とした包括的な音読訓練

[6 回] 人間・生活（2）：人間・生活の領域における話題から選対した英語文章（課題16～20）を題材とした包括的な音読訓練

[7 回] 社会問題：社会問題の領域における話題から選定した英語文章（課題21～25）を題材とした包括的な音読訓練

[8 回] 政治・経済：政治・経済の領域における話題から選定した英語文章（課題25～30）を題材とした包括的な音読訓練

[9 回] 教育・医療：教育・医療の領域における話題から選定した英語文章（課題31～35）を題材とした包括的な音読訓練

[10回] 歴史・文化：歴史・文化の領域における話題から選定した英語文章（課題36～40）を題材とした包括的な音読訓練

[11回] 科学・技術：科学・技術の領域における話題から選定した英語文章（課題41～45）を題材とした包括的な音読訓練

[12回] 環境問題：環境問題の領域における話題から選定した英語文章（課題46～50）を題材とした包括的な音読訓練

[13回] 国際問題：国際問題の領域における話題から選定した英語文章（課題51～55）を題材とした包括的な音読訓練

[14回] 情報・技術：情報・技術の領域における話題から選定した英語文章（課題55～60）を題材とした包括的な音読訓練

[15回] まとめと展望：英語文章（課題1～60）の訓練成果の意義と今後の発展に向けて

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

英語コミュニケーション(英会話)[1104030]

科目名	英語コミュニケーション(英会話)[1104030]
科目区分・科目種	言語とコミュニケーション
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	島田　将夫[看護学部 看護学科]
	John Pak[非常勤講師]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 2.0～2.0
教室	①306教室

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席(訓練への主体的かつ能動的な取り組み)が最も重要となります。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:『Let's Chat!』 John Pak著(EFL Press)

参考書:『やさしい医学英語)』青野淳子、他(医学書院)2006 <鍼灸学科・柔道整復学科>,『看護英会話入門』 植木武(医学書院)2004 <看護学科>,
『英語学習のための情報リテラシーブック』 西納春雄著(大修館書店)2005

評価方法・評価割合

出席状況(訓練への主体的かつ能動的な取り組み)、その他(訓練量、訓練達成度)

授業の目的および到達目標

音声を中心とした英語運用能力を養成する演習を行う。日常の基本対話のみに留まらず、ショートスピーチや作品として完成度の高い文章の読み語りが自然な発話速度でできるようになることを目標とする。発話のしくみの基本や異文化間コミュニケーションの原則が体得できるよう、映画等の映像と音声を活用して、リスニングとシャドーイングの訓練を行う。さらに、学生相互が直接に心を通いあわせることができる競技ディベート形式の英語ミニ討論を通じて、英語による自己表現の技法を磨く訓練を行う。

テーマおよび内容

[1 回] Getting Acquainted:introducing someone / family / likes,preferences, favorite things / names and nicknames

[2 回] Experiences:talking about experiences / talking about the past / school life / ghost stories

[3 回] Sport & Leisure:talking about sport and leisure activities / sport rules

[4 回] Shopping & Money:asking to borrow something / asking for a recommendation / large numbers / money and time

[5 回] Food:talking about food / describing Japanese food / Hawaiianfood

[6 回] Travel:talking about travel / making travel plans / checking into a hotel / making a complaint / languages

[7 回] Movies & Television:talking about movies / describing what a movie is about / talking about television

[8 回] Work:talking about part-time jobs / career plans / interviewing for a job / good and bad points of occupations

[9 回] Health:talking about health and lifestyle / giving advice / exercise and fitness / ways to prevent colds

[10回] Love & Marriage:talking about love and marriage / describing people / inviting someone for a date / giving suggestions

[11回] Music & Books:talking about music and books / talking about your favorite music artist

[12回] Culture &Places in Japan:talking about culture and places in Japan / describing Japanese things / expressing opinions / prefectures

[13回] World Problems:talking about the environment / agreeing and disagreeing / earthquakes / world problems

[14回] Review and Discussion:overall review of important points and discussion

[15回] FinalDiscussion：training methods for language skills and future perspectives

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

英語コミュニケーション(英会話)[1104031]

科目名	英語コミュニケーション(英会話)[1104031]
科目区分・科目種	言語とコミュニケーション
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	John Pak[非常勤講師]
	島田　将夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 2.0～2.0
教室	①305教室

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席(訓練への主体的かつ能動的な取り組み)が最も重要となります。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:『Let's Chat!』 John Pak著(EFL Press)

参考書:『やさしい医学英語)』青野淳子、他(医学書院)2006 <鍼灸学科・柔道整復学科>,『看護英会話入門』 植木武(医学書院)2004 <看護学科>,
『英語学習のための情報リテラシーブック』 西納春雄著(大修館書店)2005

評価方法・評価割合

出席状況(訓練への主体的かつ能動的な取り組み)、その他(訓練量、訓練達成度)

授業の目的および到達目標

音声を中心とした英語運用能力を養成する演習を行う。日常の基本対話のみに留まらず、ショートスピーチや作品として完成度の高い文章の読み語りが自然な発話速度でできるようになることを目標とする。発話のしくみの基本や異文化間コミュニケーションの原則が体得できるよう、映画等の映像と音声を活用して、リスニングとシャドーイングの訓練を行う。さらに、学生相互が直接に心を通いあわせることができる競技ディベート形式の英語ミニ討論を通じて、英語による自己表現の技法を磨く訓練を行う。

テーマおよび内容

[1 回] Getting Acquainted:introducing someone / family / likes,preferences, favorite things / names and nicknames

[2 回] Experiences:talking about experiences / talking about the past / school life / ghost stories

[3 回] Sport & Leisure:talking about sport and leisure activities / sport rules

[4 回] Shopping & Money:asking to borrow something / asking for a recommendation / large numbers / money and time

[5 回] Food:talking about food / describing Japanese food / Hawaiianfood

[6 回] Travel:talking about travel / making travel plans / checking into a hotel / making a complaint / languages

[7 回] Movies & Television:talking about movies / describing what a movie is about / talking about television

[8 回] Work:talking about part-time jobs / career plans / interviewing for a job / good and bad points of occupations

[9 回] Health:talking about health and lifestyle / giving advice / exercise and fitness / ways to prevent colds

[10回] Love & Marriage:talking about love and marriage / describing people / inviting someone for a date / giving suggestions

[11回] Music & Books:talking about music and books / talking about your favorite music artist

[12回] Culture &Places in Japan:talking about culture and places in Japan / describing Japanese things / expressing opinions / prefectures

[13回] World Problems:talking about the environment / agreeing and disagreeing / earthquakes / world problems

[14回] Review and Discussion:overall review of important points and discussion

[15回] FinalDiscussion：training methods for language skills and future perspectives

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

英語コミュニケーション(英会話)[1104032]

科目名	英語コミュニケーション(英会話)[1104032]
科目区分・科目種	言語とコミュニケーション
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	島田　将夫[看護学部 看護学科]
	John Pak[非常勤講師]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 4.0～4.0
教室	①306教室

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席(訓練への主体的かつ能動的な取り組み)が最も重要となります。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:『Let's Chat!』 John Pak著(EFL Press)

参考書:『やさしい医学英語)』青野淳子、他(医学書院)2006 <鍼灸学科・柔道整復学科>,『看護英会話入門』 植木武(医学書院)2004 <看護学科>,
『英語学習のための情報リテラシーブック』 西納春雄著(大修館書店)2005

評価方法・評価割合

出席状況(訓練への主体的かつ能動的な取り組み)、その他(訓練量、訓練達成度)

授業の目的および到達目標

音声を中心とした英語運用能力を養成する演習を行う。日常の基本対話のみに留まらず、ショートスピーチや作品として完成度の高い文章の読み語りが自然な発話速度でできるようになることを目標とする。発話のしくみの基本や異文化間コミュニケーションの原則が体得できるよう、映画等の映像と音声を活用して、リスニングとシャドーイングの訓練を行う。さらに、学生相互が直接に心を通いあわせることができる競技ディベート形式の英語ミニ討論を通じて、英語による自己表現の技法を磨く訓練を行う。

テーマおよび内容

[1 回] Getting Acquainted:introducing someone / family / likes,preferences, favorite things / names and nicknames

[2 回] Experiences:talking about experiences / talking about the past / school life / ghost stories

[3 回] Sport & Leisure:talking about sport and leisure activities / sport rules

[4 回] Shopping & Money:asking to borrow something / asking for a recommendation / large numbers / money and time

[5 回] Food:talking about food / describing Japanese food / Hawaiianfood

[6 回] Travel:talking about travel / making travel plans / checking into a hotel / making a complaint / languages

[7 回] Movies & Television:talking about movies / describing what a movie is about / talking about television

[8 回] Work:talking about part-time jobs / career plans / interviewing for a job / good and bad points of occupations

[9 回] Health:talking about health and lifestyle / giving advice / exercise and fitness / ways to prevent colds

[10回] Love & Marriage:talking about love and marriage / describing people / inviting someone for a date / giving suggestions

[11回] Music & Books:talking about music and books / talking about your favorite music artist

[12回] Culture &Places in Japan:talking about culture and places in Japan / describing Japanese things / expressing opinions / prefectures

[13回] World Problems:talking about the environment / agreeing and disagreeing / earthquakes / world problems

[14回] Review and Discussion:overall review of important points and discussion

[15回] FinalDiscussion：training methods for language skills and future perspectives

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

英語コミュニケーション(英会話)[1104033]

科目名	英語コミュニケーション(英会話)[1104033]
科目区分・科目種	言語とコミュニケーション
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	John Pak[非常勤講師]
	島田　将夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 4.0～4.0
教室	①305教室

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席(訓練への主体的かつ能動的な取り組み)が最も重要となります。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:『Let's Chat!』 John Pak著(EFL Press)

参考書:『やさしい医学英語)』青野淳子、他(医学書院)2006 <鍼灸学科・柔道整復学科>,『看護英会話入門』 植木武(医学書院)2004 <看護学科>,
『英語学習のための情報リテラシーブック』 西納春雄著(大修館書店)2005

評価方法・評価割合

出席状況(訓練への主体的かつ能動的な取り組み)、その他(訓練量、訓練達成度)

授業の目的および到達目標

音声を中心とした英語運用能力を養成する演習を行う。日常の基本対話のみに留まらず、ショートスピーチや作品として完成度の高い文章の読み語りが自然な発話速度でできるようになることを目標とする。発話のしくみの基本や異文化間コミュニケーションの原則が体得できるよう、映画等の映像と音声を活用して、リスニングとシャドーイングの訓練を行う。さらに、学生相互が直接に心を通いあわせることができる競技ディベート形式の英語ミニ討論を通じて、英語による自己表現の技法を磨く訓練を行う。

テーマおよび内容

[1 回] Getting Acquainted:introducing someone / family / likes,preferences, favorite things / names and nicknames

[2 回] Experiences:talking about experiences / talking about the past / school life / ghost stories

[3 回] Sport & Leisure:talking about sport and leisure activities / sport rules

[4 回] Shopping & Money:asking to borrow something / asking for a recommendation / large numbers / money and time

[5 回] Food:talking about food / describing Japanese food / Hawaiianfood

[6 回] Travel:talking about travel / making travel plans / checking into a hotel / making a complaint / languages

[7 回] Movies & Television:talking about movies / describing what a movie is about / talking about television

[8 回] Work:talking about part-time jobs / career plans / interviewing for a job / good and bad points of occupations

[9 回] Health:talking about health and lifestyle / giving advice / exercise and fitness / ways to prevent colds

[10回] Love & Marriage:talking about love and marriage / describing people / inviting someone for a date / giving suggestions

[11回] Music & Books:talking about music and books / talking about your favorite music artist

[12回] Culture &Places in Japan:talking about culture and places in Japan / describing Japanese things / expressing opinions / prefectures

[13回] World Problems:talking about the environment / agreeing and disagreeing / earthquakes / world problems

[14回] Review and Discussion:overall review of important points and discussion

[15回] FinalDiscussion：training methods for language skills and future perspectives

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

英語コミュニケーション(英会話)[1104034]

科目名	英語コミュニケーション(英会話)[1104034]
科目区分・科目種	言語とコミュニケーション
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	島田　将夫[看護学部 看護学科]
	John Pak[非常勤講師]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 3.0～3.0
教室	①306教室
資格関連	養護教諭

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席(訓練への主体的かつ能動的な取り組み)が最も重要となります。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:『Let's Chat!』 John Pak著(EFL Press)

参考書:『やさしい医学英語)』青野淳子、他(医学書院)2006 <鍼灸学科・柔道整復学科>,『看護英会話入門』 植木武(医学書院)2004 <看護学科>
『英語学習のための情報リテラシーブック』 西納春雄著(大修館書店)2005

評価方法・評価割合

出席状況(訓練への主体的かつ能動的な取り組み)、その他(訓練量、訓練達成度)

授業の目的および到達目標

音声を中心とした英語運用能力を養成する演習を行う。日常の基本対話のみに留まらず、ショートスピーチや作品として完成度の高い文章の読み語りが自然な発話速度でできるようになることを目標とする。発話のしくみの基本や異文化間コミュニケーションの原則が体得できるよう、映画等の映像と音声を活用して、リスニングとシャドーイングの訓練を行う。さらに、学生相互が直接に心を通いあわせることができる競技ディベート形式の英語ミニ討論を通じて、英語による自己表現の技法を磨く訓練を行う。

テーマおよび内容

[1 回] Getting Acquainted:introducing someone / family / likes,preferences, favorite things / names and nicknames

[2 回] Experiences:talking about experiences / talking about the past / school life / ghost stories

[3 回] Sport & Leisure:talking about sport and leisure activities / sport rules

[4 回] Shopping & Money:asking to borrow something / asking for a recommendation / large numbers / money and time

[5 回] Food:talking about food / describing Japanese food / Hawaiianfood

[6 回] Travel:talking about travel / making travel plans / checking into a hotel / making a complaint / languages

[7 回] Movies & Television:talking about movies / describing what a movie is about / talking about television

[8 回] Work:talking about part-time jobs / career plans / interviewing for a job / good and bad points of occupations

[9 回] Health:talking about health and lifestyle / giving advice / exercise and fitness / ways to prevent colds

[10回] Love & Marriage:talking about love and marriage / describing people / inviting someone for a date / giving suggestions

[11回] Music & Books:talking about music and books / talking about your favorite music artist

[12回] Culture &Places in Japan:talking about culture and places in Japan / describing Japanese things / expressing opinions / prefectures

[13回] World Problems:talking about the environment / agreeing and disagreeing / earthquakes / world problems

[14回] Review and Discussion：overall review of important points and discussion

[15回] FinalDiscussion：training methods for language skills and future perspectives

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

英語コミュニケーション(英会話)[1104035]

科目名	英語コミュニケーション(英会話)[1104035]
科目区分・科目種	言語とコミュニケーション
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	John Pak[非常勤講師]
	島田　将夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 3.0～3.0
教室	①305教室
資格関連	養護教諭

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席(訓練への主体的かつ能動的な取り組み)が最も重要となります。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:『Let's Chat!』 John Pak著(EFL Press)

参考書:『やさしい医学英語)』青野淳子、他(医学書院)2006 <鍼灸学科・柔道整復学科>,『看護英会話入門』 植木武(医学書院)2004 <看護学科>,
『英語学習のための情報リテラシーブック』 西納春雄著(大修館書店)2005

評価方法・評価割合

出席状況(訓練への主体的かつ能動的な取り組み)、その他(訓練量、訓練達成度)

授業の目的および到達目標

音声を中心とした英語運用能力を養成する演習を行う。日常の基本対話のみに留まらず、ショートスピーチや作品として完成度の高い文章の読み語りが自然な発話速度でできるようになることを目標とする。発話のしくみの基本や異文化間コミュニケーションの原則が体得できるよう、映画等の映像と音声を活用して、リスニングとシャドーイングの訓練を行う。さらに、学生相互が直接に心を通いあわせることができる競技ディベート形式の英語ミニ討論を通じて、英語による自己表現の技法を磨く訓練を行う。

テーマおよび内容

[1 回] Getting Acquainted:introducing someone / family / likes,preferences, favorite things / names and nicknames

[2 回] Experiences:talking about experiences / talking about the past / school life / ghost stories

[3 回] Sport & Leisure:talking about sport and leisure activities / sport rules

[4 回] Shopping & Money:asking to borrow something / asking for a recommendation / large numbers / money and time

[5 回] Food:talking about food / describing Japanese food / Hawaiianfood

[6 回] Travel:talking about travel / making travel plans / checking into a hotel / making a complaint / languages

[7 回] Movies & Television:talking about movies / describing what a movie is about / talking about television

[8 回] Work:talking about part-time jobs / career plans / interviewing for a job / good and bad points of occupations

[9 回] Health:talking about health and lifestyle / giving advice / exercise and fitness / ways to prevent colds

[10回] Love & Marriage:talking about love and marriage / describing people / inviting someone for a date / giving suggestions

[11回] Music & Books:talking about music and books / talking about your favorite music artist

[12回] Culture &Places in Japan:talking about culture and places in Japan / describing Japanese things / expressing opinions / prefectures

[13回] World Problems:talking about the environment / agreeing and disagreeing / earthquakes / world problems

[14回] Review and Discussion：overall review of important points and discussion

[15回] FinalDiscussion：training methods for language skills and future perspectives

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

中国語I[1104040]

科目名	中国語I[1104040]
科目区分・科目種	言語とコミュニケーション
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	弘兼　加奈子[非常勤講師]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 1.0～1.0
教室	①404教室

受講条件・その注意

「中国語Ⅱ」を履修するためには、「中国語Ⅰ」の単位修得を必要とする。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書:『医療系学生のための初級中国語』 山田眞一　白帝社

参考書:特になし

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他（中間試験、教場での平常評価）

授業の目的および到達目標

本科目では、近年の国際社会において、その重要度が増している中国語の基本を学習する。中国語Ⅰは、初級段階の中国語の授業科目である。中国語をマスターするための基礎づくりと位置づけ、発音や初歩的な文法、及び簡単な会話の習得を目標とする。特に発音の学習にウェートをおき、日常的な挨拶や基礎的な語彙を学びつつ、平易な文章の読み書きができるよう練習を行う。また、文章の基本的な構造を学ぶとともに、身近なことをテーマとした簡単な会話が、より自然な形でできるように反復練習を行う。

テーマおよび内容

[1 回] 自己紹介　中国語について　単母音の発音　他

[2 回] 声調　そり舌母音　子音

[3 回] 子音　有気音　無気音　復習

[4 回] 複母音　鼻音　声調変化　r化　復習

[5 回] 声調符号　隔音符号　固有名詞　復習　総合練習

[6 回] 第1課　新出語句　本文（挨拶）　中国語とピンインの表記　他

[7 回] 復習（以下、復習の時には課ごとにプリントを用意）　練習問題

[8 回] 中間試験　第2課　新出語句　語法（平叙文　疑問代詞を使った疑問文　他）

[9 回] 課文の日本語訳　復習　練習問題

[10回] 第3課　新出語句　語法（的の用法　反復疑問文）課文の日本語訳

[11回] 復習　練習問題　第4課　新出語句

[12回] 語法（量詞　数詞　方位詞　存在を表す文）課文の日本語訳

[13回] 復習　練習問題　第5課　新出語句　語法（曜日　介詞　数量補語）

[14回] 課文の日本語訳　復習　練習問題

[15回] 試験範囲の復習

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

中国語I[1104041]

科目名	中国語I[1104041]
科目区分・科目種	言語とコミュニケーション
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	弘兼　加奈子[非常勤講師]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 2.0～2.0
教室	①306教室
資格関連	養護教諭

受講条件・その注意

「中国語Ⅱ」を履修するためには、「中国語Ⅰ」の単位修得を必要とする。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書:『医療系学生のための初級中国語』 山田眞一　白帝社

参考書:特になし

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他（中間試験、教場での平常評価）

授業の目的および到達目標

本科目では、近年の国際社会において、その重要度が増している中国語の基本を学習する。中国語Ⅰは、初級段階の中国語の授業科目である。中国語をマスターするための基礎づくりと位置づけ、発音や初歩的な文法、及び簡単な会話の習得を目標とする。特に発音の学習にウェートをおき、日常的な挨拶や基礎的な語彙を学びつつ、平易な文章の読み書きができるよう練習を行う。また、文章の基本的な構造を学ぶとともに、身近なことをテーマとした簡単な会話が、より自然な形でできるように反復練習を行う。

テーマおよび内容

[1 回] 自己紹介　中国語について　単母音の発音　他

[2 回] 声調　そり舌母音　子音

[3 回] 子音　有気音　無気音　復習

[4 回] 複母音　鼻音　声調変化　r化　復習

[5 回] 声調符号　隔音符号　固有名詞　復習　総合練習

[6 回] 第1課　新出語句　本文（挨拶）　中国語とピンインの表記　他

[7 回] 復習（以下、復習の時には課ごとにプリントを用意）　練習問題

[8 回] 中間試験　第2課　新出語句　語法（平叙文　疑問代詞を使った疑問文　他）

[9 回] 課文の日本語訳　復習　練習問題

[10回] 第3課　新出語句　語法（的の用法　反復疑問文）課文の日本語訳

[11回] 復習　練習問題　第4課　新出語句

[12回] 語法（量詞　数詞　方位詞　存在を表す文）課文の日本語訳

[13回] 復習　練習問題　第5課　新出語句　語法（曜日　介詞　数量補語）

[14回] 課文の日本語訳　復習　練習問題

[15回] 試験範囲の復習

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

中国語II[1104050]

科目名	中国語II[1104050]
科目区分・科目種	言語とコミュニケーション
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	弘兼　加奈子[非常勤講師]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 1.0～1.0
教室	①404教室

受講条件・その注意

「中国語Ⅱ」を履修するためには、「中国語Ⅰ」の単位修得を必要とする。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書:『医療系学生のための初級中国語』 山田眞一　白帝社

参考書:特になし

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他（中間試験、教場での平常評価）

授業の目的および到達目標

本科目では、近年の国際社会において、その重要度が増している中国語の基本を学習する。「中国語Ⅰ」の成果を継承し、基本的な文法やより実践的な会話の習得を目標とする。発音の練習、基本的なパターン練習を通して、基礎的な文法に対する理解を深め、また初歩的な会話から発展させ、日常生活に必要な実践的な会話ができるように、ヒアリング、書き取り、及び応用的な会話練習などを取り入れ、反復練習を行う。また本学が医療系大学であることを配慮し、中国語の医療用語、および中国語で配信されるインターネット情報のアクセス法についても、わかりやすく講義する。

テーマおよび内容

[1 回] 第6課　新出語句　語法（可能を表す助動詞　必要、当然を表す助動詞）

[2 回] 課文の日本語訳　復習　練習問題

[3 回] 第7課　新出語句　語法（願望を表す助動詞　選択疑問文　連動詞文）

[4 回] 課文の日本語訳　復習　練習問題　第8課　新出語句

[5 回] 語法（様態補語　方向補語　複合方向補語　使役表現）課文の日本語訳　復習

[6 回] 練習問題　第9課　新出語句　語法（結果補語　可能補語　進行表現）

[7 回] 課文の日本語訳　復習　練習問題

[8 回] 中間試験　　第10課　新出語句　語法（二重目的語）

[9 回] 語法（過去の経験を表す表現　他）

[10回] 課文の日本語訳　復習　練習問題

[11回] 第11課　新出語句　語法（量詞　数詞　方位詞　存在を表す文）

[12回] 課文の日本語訳　復習　練習問題

[13回] 第12課　新出語句　語法（比較の表現　可以の用法　要～了の用法）

[14回] 課文の日本語訳　復習　練習問題

[15回] 試験範囲の復習

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

中国語II[1104051]

科目名	中国語II[1104051]
科目区分・科目種	言語とコミュニケーション
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	弘兼　加奈子[非常勤講師]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 2.0～2.0
教室	①404教室
資格関連	養護教諭

受講条件・その注意
「中国語Ⅱ」を履修するためには、「中国語Ⅰ」の単位修得を必要とする。

授業の形態
演習

教科書・参考文献
教科書:『医療系学生のための初級中国語』 山田眞一　白帝社

参考書:特になし

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、その他（中間試験、教場での平常評価）

授業の目的および到達目標
本科目では、近年の国際社会において、その重要度が増している中国語の基本を学習する。「中国語Ⅰ」の成果を継承し、基本的な文法やより実践的な会話の習得を目標とする。発音の練習、基本的なパターン練習を通して、基礎的な文法に対する理解を深め、また初歩的な会話から発展させ、日常生活に必要な実践的な会話ができるように、ヒアリング、書き取り、及び応用的な会話練習などを取り入れ、反復練習を行う。また本学が医療系大学であることを配慮し、中国語の医療用語、および中国語で配信されるインターネット情報のアクセス法についても、わかりやすく講義する。

テーマおよび内容
[1 回] 第6課　新出語句　語法（可能を表す助動詞　必要、当然を表す助動詞）

[2 回] 課文の日本語訳　復習　練習問題

[3 回] 第7課　新出語句　語法（願望を表す助動詞　選択疑問文　連動詞文）

[4 回] 課文の日本語訳　復習　練習問題　第8課　新出語句

[5 回] 語法（様態補語　方向補語　複合方向補語　使役表現）課文の日本語訳　復習

[6 回] 練習問題　第9課　新出語句　語法（結果補語　可能補語　進行表現）

[7 回] 課文の日本語訳　復習　練習問題

[8 回] 中間試験　　第10課　新出語句　語法（二重目的語）

[9 回] 語法（過去の経験を表す表現　他）

[10回] 課文の日本語訳　復習　練習問題

[11回] 第11課　新出語句　語法（量詞　数詞　方位詞　存在を表す文）

[12回] 課文の日本語訳　復習　練習問題

[13回] 第12課　新出語句　語法（比較の表現　可以の用法　要～了の用法）

[14回] 課文の日本語訳　復習　練習問題

[15回] 試験範囲の復習

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

韓国語I[1104060]

科目名	韓国語I[1104060]
科目区分・科目種	言語とコミュニケーション
クラス	全学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	江頭　玲子[非常勤講師]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 5.0～5.0
教室	①304教室

受講条件・その注意
言葉を習得する上で、必ず復習することが望ましい。「韓国語Ⅱ」を履修するためには「韓国語Ⅰ」の単位修得を必要とする。

授業の形態
演習

教科書・参考文献
教科書:『韓国語学習スタートブック　超入門編』 安 垠姫 （Jリサーチ出版） 2007

参考書:『コスモス朝和辞典』第2版（白水社）1991、『朝鮮語辞典』（小学館）1993

評価方法・評価割合
定期試験（50%）、出席状況（20% 授業回数の3分の1を超える欠席は成績評価の対象としない）、その他（平常点30%）

授業の目的および到達目標
韓国語は朝鮮半島を中心に話されている言葉で、日本語と大変よく似ている。語順も同じで、共通する単語も多く、日本人にとって最も簡単で、学びやすい外国語と言われている。本講座は韓国語に初めて接する入門者のための韓国語講座である。ハングル文字の仕組みや発音、基礎的な韓国語の文法を習得した上で、簡単な日常会話ができることを目的とする。単なる言葉の習得だけではなく、韓国文化の紹介をまじえて、韓国・韓国語の理解を深めていく。

テーマおよび内容
[1 回] ガイダンス:ハングルについて

[2 回] 基本母音:あいさつ

[3 回] 子音（平音）:基本の表現 韓国文化紹介

[4 回] 子音（激音）:自己紹介①

[5 回] 子音（濃音）:自己紹介② 韓国文化紹介

[6 回] 複合母音:疑問の表現①

[7 回] 終声:疑問の表現②　韓国文化紹介

[8 回] 半切表:存在の表現

[9 回] 有声音化:해요（ヘヨ）体　韓国文化紹介

[10回] 連音化:動詞　韓国文化紹介

[11回] 鼻音化:否定の表現

[12回] 濃音化:好き、嫌いの表現　韓国文化紹介

[13回] 無音化:過去の表現

[14回] 口蓋音化:希望、願望の表現

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

韓国語II[1104070]

科目名	韓国語II[1104070]
科目区分・科目種	言語とコミュニケーション
クラス	全学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	江頭　玲子[非常勤講師]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 5.0～5.0
教室	①304教室

受講条件・その注意

韓国語Ⅰの履修者のみ受講すること。必ず復習することが望ましい。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書:『韓国語学習スタートブック　超入門編』 安 垠姫 （Jリサーチ出版） 2007

参考書:『コスモス朝和辞典』第2版（白水社）1991、『朝鮮語辞典』（小学館）1993

評価方法・評価割合

定期試験（50%）、出席状況（20% 授業回数の3分の1を超える欠席は成績評価の対象としない）、その他（平常点30% ）

授業の目的および到達目標

韓国語は朝鮮半島を中心に話されている言葉で、日本語と大変よく似ている。語順も同じで、共通する単語も多く、日本人にとって最も簡単で、学びやすい外国語と言われている。最近韓流の波に乗って、韓国および韓国語に興味を抱いている日本人も多く見受けられるようになったが、本講座は単なる興味だけで飛びつくのではなく、しっかり韓国語の文法を理解し、韓国語の読む力、つまり、読解力を高めていくことを目標とする。また言語背景となる文化的な事柄にも触れ、より効果的な言語習得のための工夫を凝らしていく。

テーマおよび内容

[1 回] ガイダンス

[2 回] 激音化：能力の表現

[3 回] 連音化：提案の表現・韓国文化紹介

[4 回] 流音化：許可、禁止の表現

[5 回] 漢数字：韓国文化紹介

[6 回] 発音変化：原因、理由の表現

[7 回] 固有数詞：韓国文化紹介

[8 回] 感嘆の表現

[9 回] 上称：韓国文化紹介

[10回] 等称、下称

[11回] 並列の表現　韓国文化紹介

[12回] 意志、推量の表現

[13回] 文型・韓国文化紹介

[14回] 文型

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

情報リテラシーI[1105010]

科目名	情報リテラシーI[1105010]
科目区分・科目種	情報処理と研究の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	細井　良三[非常勤講師]
	前田　樹海[看護学部 看護学科]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 3.0～3.0
教室	①コンピューター教室

受講条件・その注意

医療の専門職として、入力・分析・表示の正確性を最重要視する。したがってブラインドタッチ等の入力速度を涵養する技能の演習は行わない。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:『医療・福祉系のための情報リテラシー:Windows Vista・Office 2007』著者:樺澤一之・寺島和浩・豊田修一　出版社:共立出版社　2009初版

参考書:『かんたん Word2007』 技術評論社編集部(技術評論社)2008,『かんたん Excel2007』 技術評論社編集部(技術評論社)2008,
『かんたん PowerPoint2007』 技術評論社編集部(技術評論社)2008

評価方法・評価割合

その他(スプレッドシートを使用してのデータ分析・レポートの作成、または、そのプレゼンテーションスライドの作成のいづれか一つをもって評価する。)

授業の目的および到達目標

ケア実践の基礎となるデータの収集、整理、情報化、表現、発信に資する代表的なツールとして、コンピュータおよびアプリケーション(サーチエンジン、データベース、ワードプロセッサー、プレゼンテーション、ドローイングの各アプリケーション)の基本的な使用方法を習得するとともに、それらを自ら発展させ応用するための技法について理解を深める。

テーマおよび内容

[1 回] 情報とコミュニケーション・個人情報保護

[2 回] コンピュータの基本機能・基本操作・ファイルの構成

[3 回] ワードプロセッサー(WORD):基本操作－1(文字列の検索・置換・移動・コピー)

[4 回] ワードプロセッサー(WORD):基本操作－2(罫線・図形・写真)

[5 回] ワードプロセッサー(WORD):文書ファイルの管理・例題文章作成

[6 回] インターネット:ブラウザー・メール・サーチエンジン・医療情報検索

[7 回] スプレッドシート(EXCEL):基本操作－1(データ入力・計算式・関数)

[8 回] スプレッドシート(EXCEL):基本操作－2(表の編集・図形・写真)

[9 回] スプレッドシート(EXCEL):基本操作－3(グラフ・グラフの編集)

[10回] スプレッドシート(EXCEL):基本操作－4(データベース・分析ツール・応用)

[11回] スプレッドシート(EXCEL):例題データ分析・分析結果レポート作成(WORD使用)

[12回] プレゼンテーション(PowerPoint):基本操作－1(スライド画面・文字入力)

[13回] プレゼンテーション(PowerPoint):基本操作－2(表・図形・写真・動画)

[14回] プレゼンテーション(PowerPoint):基本操作－3(スライド表示の技法)

[15回] プレゼンテーション(PowerPoint):基本操作－4(WORDとEXCELデータのスライド化)

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

情報リテラシーI[1105011]

科目名	情報リテラシーI[1105011]
科目区分・科目種	情報処理と研究の基礎
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	細井　良三[非常勤講師]
	前田　樹海[看護学部 看護学科]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 2.0～2.0
教室	①コンピューター教室

受講条件・その注意

医療の専門職として、入力・分析・表示の正確性を最重要視する。したがってブラインドタッチ等の入力速度を涵養する技能の演習は行わない。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:『医療・福祉系のための情報リテラシー:Windows Vista・Office 2007』著者:樺澤一之・寺島和浩・豊田修一　出版社:共立出版社　2009初版

参考書:『かんたん Word2007』 技術評論社編集部(技術評論社)2008,『かんたん Excel2007』 技術評論社編集部(技術評論社)2008,
『かんたん PowerPoint2007』 技術評論社編集部(技術評論社)2008

評価方法・評価割合

その他(スプレッドシートを使用してのデータ分析・レポートの作成、または、そのプレゼンテーションスライドの作成のいづれか一つをもって評価する。)

授業の目的および到達目標

ケア実践の基礎となるデータの収集、整理、情報化、表現、発信に資する代表的なツールとして、コンピュータおよびアプリケーション(サーチエンジン、データベース、ワードプロセッサー、プレゼンテーション、ドローイングの各アプリケーション)の基本的な使用方法を習得するとともに、それらを自ら発展させ応用するための技法について理解を深める。

テーマおよび内容

[1 回] 情報とコミュニケーション・個人情報保護

[2 回] コンピュータの基本機能・基本操作・ファイルの構成

[3 回] ワードプロセッサー(WORD):基本操作－1(文字列の検索・置換・移動・コピー)

[4 回] ワードプロセッサー(WORD):基本操作－2(罫線・図形・写真)

[5 回] ワードプロセッサー(WORD):文書ファイルの管理・例題文章作成

[6 回] インターネット:ブラウザー・メール・サーチエンジン・医療情報検索

[7 回] スプレッドシート(EXCEL):基本操作－1(データ入力・計算式・関数)

[8 回] スプレッドシート(EXCEL):基本操作－2(表の編集・図形・写真)

[9 回] スプレッドシート(EXCEL):基本操作－3(グラフ・グラフの編集)

[10回] スプレッドシート(EXCEL):基本操作－4(データベース・分析ツール・応用)

[11回] スプレッドシート(EXCEL):例題データ分析・分析結果レポート作成(WORD使用)

[12回] プレゼンテーション(PowerPoint):基本操作－1(スライド画面・文字入力)

[13回] プレゼンテーション(PowerPoint):基本操作－2(表・図形・写真・動画)

[14回] プレゼンテーション(PowerPoint):基本操作－3(スライド表示の技法)

[15回] プレゼンテーション(PowerPoint):基本操作－4(WORDとEXCELデータのスライド化)

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

情報リテラシーI[1105012]

科目名	情報リテラシーI[1105012]
科目区分・科目種	情報処理と研究の基礎
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	細井　良三[非常勤講師]
	前田　樹海[看護学部 看護学科]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 2.0～2.0
教室	①コンピューター教室
資格関連	養護教諭

受講条件・その注意

医療の専門職として、入力・分析・表示の正確性を最重要視する。したがってブラインドタッチ等の入力速度を涵養する技能の演習は行わない。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:『医療・福祉系のための情報リテラシー:Windows Vista・Office 2007』著者:樺澤一之・寺島和浩・豊田修一　出版社:共立出版社　2009初版

参考書:『かんたん Word2007』 技術評論社編集部(技術評論社)2008,『かんたん Excel2007』 技術評論社編集部(技術評論社)2008,
『かんたん PowerPoint2007』 技術評論社編集部(技術評論社)2008

評価方法・評価割合

その他(スプレッドシートを使用してのデータ分析・レポートの作成、または、そのプレゼンテーションスライドの作成のいづれか一つをもって評価する。)

授業の目的および到達目標

ケア実践の基礎となるデータの収集、整理、情報化、表現、発信に資する代表的なツールとして、コンピュータおよびアプリケーション(サーチエンジン、データベース、ワードプロセッサー、プレゼンテーション、ドローイングの各アプリケーション)の基本的な使用方法を習得するとともに、それらを自ら発展させ応用するための技法について理解を深める。

テーマおよび内容

[1 回] 情報とコミュニケーション・個人情報保護

[2 回] コンピュータの基本機能・基本操作・ファイルの構成

[3 回] ワードプロセッサー(WORD):基本操作－1(文字列の検索・置換・移動・コピー)

[4 回] ワードプロセッサー(WORD):基本操作－2(罫線・図形・写真)

[5 回] ワードプロセッサー(WORD):文書ファイルの管理・例題文章作成

[6 回] インターネット:ブラウザー・メール・サーチエンジン・医療情報検索

[7 回] スプレッドシート(EXCEL):基本操作－1(データ入力・計算式・関数)

[8 回] スプレッドシート(EXCEL):基本操作－2(表の編集・図形・写真)

[9 回] スプレッドシート(EXCEL):基本操作－3(グラフ・グラフの編集)

[10回] スプレッドシート(EXCEL):基本操作－4(データベース・分析ツール・応用)

[11回] スプレッドシート(EXCEL):例題データ分析・分析結果レポート作成(WORD使用)

[12回] プレゼンテーション(PowerPoint):基本操作－1(スライド画面・文字入力)

[13回] プレゼンテーション(PowerPoint):基本操作－2(表・図形・写真・動画)

[14回] プレゼンテーション(PowerPoint):基本操作－3(スライド表示の技法)

［15回］ プレゼンテーション（PowerPoint）：基本操作－4（WORDとEXCELデータのスライド化）

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

情報リテラシーII[1105020]

科目名	情報リテラシーII[1105020]
科目区分・科目種	情報処理と研究の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	前田　樹海[看護学部 看護学科]
	細井　良三[非常勤講師]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 2.0～2.0
教室	①コンピューター教室

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:特に定めない

参考書:適宜紹介する

評価方法・評価割合

授業中の課題(各回終了時に小テストを実施する。評価は小テストおよび課題への取り組みにより行なう。)

授業の目的および到達目標

情報リテラシーIで学習したアプリケーションをひとつの手段として利用しながら、質の高い情報の取捨選択、データの可視化と要約、効果的な表現および情報発信を実現するための方法を身に付けること、およびそれらの方法を自分自身で構築し自己評価するのに必要なメタ認知能力と批判的思考能力を涵養することを当該科目の学習目標とする。

テーマおよび内容

[1 回] オリエンテーション/学内情報基盤＝クラウドサービスの紹介

[2 回] 情報通信にかかわるイノベーション「モールス、ベル、マルコーニ」演習:学内情報基盤の習得(1)電子メールの送受信にかかわるTips

[3 回] インターネットの仕組みと特徴「インターネットのサービス」演習:学内情報基盤の習得(2)ネット検索の資源あれこれ

[4 回] 電子メールの仕組みと特徴「電子メールはなぜ届く」演習:学内情報基盤の習得(3)「連絡先」の使用法

[5 回] WWWの仕組みと特徴「サーバとクライアントの関係」演習:学内情報基盤の習得(4)「サイト」の作成

[6 回] 情報の定量化と情報量「両手の指でいくつまで数えられるか」演習:学内情報基盤の習得(5)「アンケートフォーム」の作成

[7 回] ビットとバイト「半角カタカナはなぜ化けるのか」演習:学内情報基盤の習得(6)「ドキュメント」の共有

[8 回] 情報セキュリティ「情報資産をどう守る」演習:学内情報基盤の習得(7)「プリゼンテーション」の作成

[9 回] コンピュータのセキュリティ「その情報、安全ですか」演習:学内情報基盤の習得(8)「テキストチャット」

[10回] 個人情報とプライバシー「なぜ経済協力開発機構なのか」演習:学内情報基盤の習得(9)「マルチメディアコミュニケーション」

[11回] 知的財産権の話「All rights reservedとは」演習:情報の可視化と表現(1)「個人制作」のオリエンテーション

[12回] 情報の可視化と表現(2)「個人制作」演習

[13回] 情報の可視化と表現(4)「個人制作」完成および発表

[14回] 統計の基礎(要約統計)

[15回] 統計の基礎(推測統計)

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

情報リテラシーII[1105021]

科目名	情報リテラシーII[1105021]
科目区分・科目種	情報処理と研究の基礎
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	前田　樹海[看護学部 看護学科]
	細井　良三[非常勤講師]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 3.0～3.0
教室	①コンピューター教室

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:特に定めない

参考書:適宜紹介する

評価方法・評価割合

授業中の課題(各回終了時に小テストを実施する。評価は小テストおよび課題への取り組みにより行なう。)

授業の目的および到達目標

情報リテラシーIで学習したアプリケーションをひとつの手段として利用しながら、質の高い情報の取捨選択、データの可視化と要約、効果的な表現および情報発信を実現するための方法を身に付けること、およびそれらの方法を自分自身で構築し自己評価するのに必要なメタ認知能力と批判的思考能力を涵養することを当該科目の学習目標とする。

テーマおよび内容

[1 回] オリエンテーション/学内情報基盤＝クラウドサービスの紹介

[2 回] 情報通信にかかわるイノベーション「モールス、ベル、マルコーニ」演習:学内情報基盤の習得(1)電子メールの送受信にかかわるTips

[3 回] インターネットの仕組みと特徴「インターネットのサービス」演習:学内情報基盤の習得(2)ネット検索の資源あれこれ

[4 回] 電子メールの仕組みと特徴「電子メールはなぜ届く」演習:学内情報基盤の習得(3)「連絡先」の使用法

[5 回] WWWの仕組みと特徴「サーバとクライアントの関係」演習:学内情報基盤の習得(4)「サイト」の作成

[6 回] 情報の定量化と情報量「両手の指でいくつまで数えられるか」演習:学内情報基盤の習得(5)「アンケートフォーム」の作成

[7 回] ビットとバイト「半角カタカナはなぜ化けるのか」演習:学内情報基盤の習得(6)「ドキュメント」の共有

[8 回] 情報セキュリティ「情報資産をどう守る」演習:学内情報基盤の習得(7)「プリゼンテーション」の作成

[9 回] コンピュータのセキュリティ「その情報、安全ですか」演習:学内情報基盤の習得(8)「テキストチャット」

[10回] 個人情報とプライバシー「なぜ経済協力開発機構なのか」演習:学内情報基盤の習得(9)「マルチメディアコミュニケーション」

[11回] 知的財産権の話「All rights reservedとは」演習:情報の可視化と表現(1)「個人制作」のオリエンテーション

[12回] 情報の可視化と表現(2)「個人制作」演習

[13回] 情報の可視化と表現(4)「個人制作」完成および発表

[14回] 統計の基礎(要約統計)

[15回] 統計の基礎(推測統計)

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

情報リテラシーII[1105022]

科目名	情報リテラシーII[1105022]
科目区分・科目種	情報処理と研究の基礎
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	前田　樹海[看護学部 看護学科]
	細井　良三[非常勤講師]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 1.0～1.0
教室	①コンピューター教室
資格関連	養護教諭

授業の形態
演習(共同)

教科書・参考文献
教科書：特に定めない

参考書：適宜紹介する

評価方法・評価割合
授業中の課題（各回終了時に小テストを実施する。評価は小テストおよび課題への取り組みにより行なう。）

授業の目的および到達目標
情報リテラシーIで学習したアプリケーションをひとつの手段として利用しながら、質の高い情報の取捨選択、データの可視化と要約、効果的な表現および情報発信を実現するための方法を身に付けること、およびそれらの方法を自分自身で構築し自己評価するのに必要なメタ認知能力と批判的思考能力を涵養することを当該科目の学習目標とする。

テーマおよび内容
[1 回] オリエンテーション/学内情報基盤＝クラウドサービスの紹介

[2 回] 情報通信にかかわるイノベーション「モールス、ベル、マルコーニ」演習：学内情報基盤の習得(1)電子メールの送受信にかかわるTips

[3 回] インターネットの仕組みと特徴「インターネットのサービス」演習：学内情報基盤の習得(2)ネット検索の資源あれこれ

[4 回] 電子メールの仕組みと特徴「電子メールはなぜ届く」演習：学内情報基盤の習得(3)「連絡先」の使用法

[5 回] WWWの仕組みと特徴「サーバとクライアントの関係」演習：学内情報基盤の習得(4)「サイト」の作成

[6 回] 情報の定量化と情報量「両手の指でいくつまで数えられるか」演習：学内情報基盤の習得(5)「アンケートフォーム」の作成

[7 回] ビットとバイト「半角カタカナはなぜ化けるのか」演習：学内情報基盤の習得(6)「ドキュメント」の共有

[8 回] 情報セキュリティ「情報資産をどう守る」演習：学内情報基盤の習得(7)「プリゼンテーション」の作成

[9 回] コンピュータのセキュリティ「その情報、安全ですか」演習：学内情報基盤の習得(8)「テキストチャット」

[10回] 個人情報とプライバシー「なぜ経済協力開発機構なのか」演習：学内情報基盤の習得(9)「マルチメディアコミュニケーション」

[11回] 知的財産権の話「All rights reservedとは」演習：情報の可視化と表現(1)「個人制作」のオリエンテーション

[12回] 情報の可視化と表現(2)「個人制作」演習

[13回] 情報の可視化と表現(4)「個人制作」完成および発表

[14回] 統計の基礎(要約統計)

[15回] 統計の基礎(推測統計)

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

研究の基礎[1105030]

科目名	研究の基礎[1105030]
科目区分・科目種	情報処理と研究の基礎
クラス	全学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	前田　樹海[看護学部 看護学科]
主担当学科	全学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 金曜 1.0～1.0
教室	①大講義室

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書：前田樹海,江藤裕之,田中建彦(2011)/APA(2010).APA論文作成マニュアル第2版.医学書院.東京.

参考書：American Psychological Association (2010). Publication Manual of the American Psychological Association 6th ed. American Psychological Association, Washington, D.C.

評価方法・評価割合

授業中の課題（小テスト50%、課題50%）

授業の目的および到達目標

ケア実践の基盤となるエビデンスを適切に生成、活用、流通する手段として研究を位置づけた上で、研究を行なうのに必要な論理的思考および論理的な文章作成のトレーニングを交えながら、研究倫理、クリティーク、基本的な研究デザインについて理解を深めることを通じて、学習者が教員からアドバイスを得ながら研究計画書を作成できることを当該科目の学習目標とする。

テーマおよび内容

[1 回] 研究とは(1)オリエンテーション

[2 回] 研究とは(2)研究の流れとバリエーション

[3 回] 研究とは(3)問いの種類/問いの立て方

[4 回] 文献検索と文献講読(1)医中誌WEBによる検索

[5 回] 文献検索と文献講読(2)論文の構成/クリティーク

[6 回] 文献検索と文献講読(3)APAスタイルによる引用の方法

[7 回] 研究方法概論(1)研究目的に応じた研究方法の選択

[8 回] 研究方法概論(2)理論構築と理論検証

[9 回] 研究方法概論(3)研究における倫理的配慮

[10回] 研究方法各論(1)標本抽出法

[11回] 研究方法各論(2)量的研究デザイン

[12回] 研究方法各論(3)質的研究デザイン

[13回] 研究計画の作成と発表(1)グループワーク

[14回] 研究計画の作成と発表(2)グループワーク

[15回] 研究計画の作成と発表(2)研究計画発表会

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

医学概論[1110010]

科目名	医学概論[1110010]
科目区分・科目種	医学教養
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	林　洋[看護学部 看護学科]
	東郷　俊宏[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 金曜 4.0～4.0
教室	①404教室

授業の形態

講義(共同)

教科書・参考文献

教科書:なし

参考書:『医療概論』（医歯薬出版）1991,『新医学概論』（産業図書）2003,『国民衛生の動向』（厚生統計協会）2010/2011
『健康の日本史』（平凡社新書）2000

評価方法・評価割合

定期試験(筆記試験:期末)、レポート(中間)

授業の目的および到達目標

本科目では、生命現象の成り立ちや生命の尊厳、健康概念の成立および医学の目的・使命、医哲学、医療システム、医学と社会との関係等について学習する。加えて現代の医学、医療システムが抱える様々な問題点を取り上げ、将来の医学・医療において医療従事者に求められているのは何かを主体的に考える能力を涵養する。

テーマおよび内容

[1 回] オリエンテーション

[2 回] 世界の医学1 （ギリシャ医学・アラビア医学）

[3 回] 世界の医学2 （中国医学・インド医学）

[4 回] 近代医学の成立1(ルネッサンスと科学革命)

[5 回] 近代医学の成立2(病理学:ウィルヒョウとコッホ)

[6 回] 近代医学の成立3(ホメオスタシス:ベルナールとキャノン)

[7 回] 近代医学の成立4(消毒概念の成立:ゼンメルワイスとリスター)

[8 回] 現代日本の医療1(医療と社会)

[9 回] 現代日本の医療2(医療従事者と医療・福祉施設)

[10回] 現代日本の医療3(医療経済)

[11回] 現代日本の医療4(医療保険と介護サービス)

[12回] 健康概念について(日本における健康概念の系譜・健康の定義)

[13回] 身体へのまなざし(三木成夫の世界から)

[14回] 医療の倫理(ヒポクラテスの誓い、Informed Consent、Paternalism、医療における「物語(Narrative)」の意味)

[15回] 総括:講義のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.

関係法規[1110020]

科目名	関係法規[1110020]
科目区分・科目種	医学教養
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	□
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前期
教室	①別途連絡

授業の形態
講義

授業の目的および到達目標
本科目では、法律の基本的事項および鍼灸業務に関わりの深い関係法規について学習する。具体的には、医師法、医療法、薬事法、その他の医療従事者に関する法規等について、それぞれの特徴と基本的内容、およびはり師、きゅう師、あん摩マッサージ指圧師に関する法律の詳細について学習する。加えて、様々な事例や判例を紹介し、より理解を深められるようにする。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

生命医療倫理学[1110030]

科目名	生命医療倫理学[1110030]
科目区分・科目種	医学教養
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	林　洋[看護学部 看護学科]
	東郷　俊宏[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 金曜 2.0～2.0
教室	①大講義室

授業の形態

講義(共同)

教科書・参考文献

教科書:特に指定しない

参考書:講義で随時指定する

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート(2回ほど)

授業の目的および到達目標

本科目では、バイオエシックスについての基本的な考え方について学習する。特に医療倫理の歴史的発展、代表的な倫理綱領、具体的な倫理的行為、インフォームドコンセント、QOLの考え方等について学習する。また、現代の医療においては、遺伝子技術を駆使した再生医療をはじめ、出生前診断、生殖医療、臓器移植、臨床試験における倫理問題など、医療者の倫理問題が大きくクローズアップされていることを受けて、各テーマごとに実際の事例を取り上げ、医療従事者、患者、マスコミがそれぞれの立場からどのような言説を展開しているかを比較検討し、将来の医療のなかで求められる倫理とは何かを考える。

テーマおよび内容

[1 回] 総論(1)イントロダクション・様々な倫理綱領について

[2 回] 総論(2)Informed consent・守秘義務について

[3 回] 各論(1)医療過誤・薬害について

[4 回] 各論(2)臨床研究実施上の倫理問題について(1)

[5 回] 各論(3)臨床研究実施上の倫理問題について(2)

[6 回] 各論(4)臨床研究実施上の倫理問題について(3)

[7 回] 各論(5)ハンセン病患者隔離の歴史(1)

[8 回] 各論(6)ハンセン病患者隔離の歴史(2)

[9 回] 各論(7)タスキーギ研究

[10回] 各論(8)生殖医療の現在

[11回] 各論(9)臓器移植について

[12回] 各論(10)再生医療、遺伝子治療、出生前診断

[13回] 各論(11)終末期医療と倫理(尊厳死など)

[14回] 各論(12)鍼灸師・柔道整復師としての倫理

[15回] 講義のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.

東洋医学の歴史と思想[1110040]

科目名	東洋医学の歴史と思想[1110040]
科目区分・科目種	医学教養
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	東郷　俊宏[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 1.0～1.0
教室	①404教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：指定しない

参考書：『あじあぶっくす　漢方の歴史―中国・日本の伝統医学』 小曽戸洋（大修館書店）1999,『岩波新書鍼灸の挑戦―自然治癒力を目指す』 松田博公（岩波書店）2005

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート（1～2回）

授業の目的および到達目標

本科目では、まず、東アジア（中国、日本、朝鮮半島）における東洋医学の理論、概念の歴史的変遷を主要な文献（『黄帝内経』、『難経』、『傷寒論』、『千金方』、『東醫宝鑑』、『啓迪集』など）をとりあげながら概観する。そして中国に起源を有する伝統医学が、それぞれの国における社会制度や文化状況に応じて、どのように独自の展開をして今日の中医学、韓医学、漢方医学に至っているかを理解する。また昨今の鍼灸医療の国際化に鑑み、欧米への鍼灸医療の普及の歴史、およびこれらの国での東洋医学の受容状況についても講義する。

テーマおよび内容

［1 回］ オリエンテーション（東洋医学の世界観）

［2 回］ 古代中国における医学（経脈説の成立）

［3 回］ 中国医学書の世界1（古代：『黄帝内経』『難経』『傷寒論』）

［4 回］ 中国医学書の世界2（隋唐期：『千金方』『外台秘要方』）

［5 回］ 中国医学書の世界3（宋～明代） 朝鮮半島における医学

［6 回］ 近世日本の伝統医学1（中国医学書の流入と受容）

［7 回］ 近世日本の伝統医学2（鍼灸流派の成立と展開）

［8 回］ 近世日本の伝統医学3（古方派・後世方派、養生について）

［9 回］ 近代日本における伝統医学1（明治期～戦後における医療制度の変遷と伝統医学）

［10回］ 近代日本における伝統医学2（脚気論争）

［11回］ 近代日本における伝統医学3（西洋医学の流入と伝統医学）

［12回］ 近現代中国における伝統医学（中医学の成立と発展）

［13回］ 欧米における東洋医学の普及

［14回］ 本草書の系譜

［15回］ 講義のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

社会鍼灸学[1110050]

科目名	社会鍼灸学[1110050]
科目区分・科目種	医学教養
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	藤井　亮輔[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 金曜 5.0～5.0
教室	①403教室

受講条件・その注意

日頃から、医療や鍼灸関連の時事問題に関心を持ち自分の考えをまとめる習慣を養ってほしい

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：指定しない

参考書：藤井亮輔. 地域理療と理療経営第2版. 東京ヘレンケラー協会, 社会鍼灸学関係論文

評価方法・評価割合

定期試験（40%）、出席状況（30%）、その他（授業態度30%）

授業の目的および到達目標

本科目では、鍼灸と地域社会とのかかわりについての基本的な視点を学習する。具体的には、疾病構造の変化や急速な社会の高齢化を背景とした医療を取り巻く諸問題、鍼灸療法を含めた新たな社会医療システムの必要性などを理解する基礎として、社会保障制度、医療保障システム（一元的医療と多元的医療）の概要、西洋医学と伝統医療、患者の捉え方、病気の意味論等を学習した上で、社会科学の観点から、鍼灸医療の業態と市場規模、医療保険、介護領域における鍼灸療法の役割と展望等について学習・討論し、現代社会が求める鍼灸師の基本的資質を養う。

テーマおよび内容

[1 回] 鍼灸療法と地域社会：現代の地域社会が期待する鍼灸師や鍼灸療法の在り方とは何かを考え学習する

[2 回] 高齢化社会の現状と課題：少子高齢化社会の実相を概観した上で、介護や医療ろ取り巻く現状と課題を学習する

[3 回] 疾病構造の変化と病気の意味論：超高齢社会等を背景とした疾病構造の変遷を概観し、病気や病者になることの社会的意味を考える

[4 回] 社会保障制度の概要：社会保障の理念や変遷を解説した上で、社会保険制度、社会保障制度改革の動向等を学習する

[5 回] 医療保障制度の概要：公的医療保険制度、公費負担医療制度の概要を学習する

[6 回] 介護保険制度の概要：介護保険制度の概要と利用システムについて学習する

[7 回] 医療保険と鍼灸Ⅰ：療養担当規則、療養費制度の概要を解説した上で医療保険における鍼灸の位置的関係を解説する

[8 回] 医療保険と鍼灸Ⅱ：医療保険を活用した鍼灸経営の実践例や介護保険制度との関わりについて学習する

[9 回] ディスカッションⅠ：鍼灸師になろうとした動機、今後の進路希望等に関するアンケート結果（調査票を事前に配布）を踏まえ、鍼灸師としての期待や夢を語り合う

[10回] 鍼灸施術所の現状と課題1：衛生統計や各種調査から鍼灸治療院や開業鍼灸師の現状を理解し今後の展望と業の課題を考える

[11回] 診療所と鍼灸：各種の調査や資料等を紹介し、一般診療所における鍼灸療法の現状を理解し課題を考える

[12回] 病院と鍼灸：各種の調査や資料等を紹介し、病院における鍼灸療法の現状を理解し課題を考える

[13回] 国民の目から見た鍼灸：国民を対象にした鍼灸に関する各種調査結果を解説し市民の視点から鍼灸の課題や未来を考える

[14回] 教育と鍼灸：鍼灸学校の学生を対象にした調査結果等から、鍼灸師養成教育の課題と在り方を考え

[15回] ディスカッションⅡ：これまでの学習を踏まえ、21世紀における鍼灸療法の役割と未来を討論し展望する

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

統合医療論(代替医療)[1110060]

科目名	統合医療論(代替医療)[1110060]
科目区分・科目種	医学教養
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	東郷　俊宏[保健医療学部 鍼灸学科]
	佐治　順子[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後期
曜日・時限	後期 金曜 3.0～3.0
	後期 金曜 4.0～4.0
教室	①401教室

受講条件・その注意

相補・代替医療(5)(6)は、11/11(金)3，4時限に、相補・代替医療(7)(8)は、11/25(金)3,4時限に、相補・代替医療(9)(10)は、12/9(金)3，4時限時に行う。なお他の回は、原則として金曜日4時限に開講する。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:特に定めない

参考書:蒲原聖可『代替医療』(中公新書)、サイモン・シン『代替医療のトリック』(新潮社)

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他(講義への参加姿勢:出席・発言など)

授業の目的および到達目標

本科目では、種々の補完・代替医療(鍼灸、漢方、サプリメント、マッサージ、温泉療法、アロマテラピー、音楽療法など)について、それぞれの目的、適応症、方法、効果などについて学習するとともに、将来現代医学と併用して統合医療を実践する際に必要な事項について学んでいく。特に諸外国における補完・代替医療および統合医療の実践状況と我が国のそれとを比較し、我が国における医療の在り方について考えさせる。また、それぞれの項目については、グループに分かれて、それぞれテーマを決めて発表し、討論する。

テーマおよび内容

[1 回] Introduction:統合医療、相補・代替医療試論／東郷

[2 回] 相補・代替医療(1):現代医療における「健康」と相補・代替医療／東郷

[3 回] 相補・代替医療(2):相補・代替医療の種類と分類／東郷

[4 回] 相補・代替医療(3):相補・代替医療ー伝統医学(中国医学・アーユルヴェーダなど)／東郷

[5 回] 相補・代替医療(4):相補・代替医療ー生物学的療法(食事療法・アロマテラピーなど)／東郷

[6 回] 相補・代替医療(5):相補・代替医療ー精神学的療法(音楽療法など)／佐治

[7 回] 相補・代替医療(6):欧州における相補・代替医療の現状(ホメオパシー)／佐治

[8 回] 相補・代替医療(7):欧州における相補・代替医療の現状(精神力動学的療法)／佐治

[9 回] 相補・代替医療(8):米国における相補・代替医療の現状(創造的即興音楽療法)／佐治

[10回] 相補・代替医療(9):米国における相補・代替医療の現状(行動療法)／佐治

[11回] 相補・代替医療(10):日本における相補・代替医療の現状(認知症予防療法)／佐治

[12回] 相補・代替医療(11):相補・代替医療の実践(固有テンポ)／佐治

[13回] 相補・代替医療(12):中国における相補・代替医療の現状／東郷

［14回］ 統合医療：現代医療への相補・代替医療の統合と課題点／東郷

［15回］ 総括：全体のまとめ／東郷

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

臨床心理学[1110070]

科目名	臨床心理学[1110070]
科目区分・科目種	医学教養
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	山口　創[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 2.0～2.0
教室	①303教室

受講条件・その注意

出席は3分の2以上必要とする

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『よくわかる臨床心理学』 山口創(川島書店)

参考書:『子供の「脳」は肌にある』 山口創(光文社新書)

評価方法・評価割合

定期試験(期末 90%)、その他(平常点10%)

授業の目的および到達目標

本科目では、発達段階を追って、心理的不適応や不適応行動についての理解を深め、さらに心理的アセスメントや種々の心理療法の技法についても学習することを目標とする。心理的不適応については、特に心身の問題を絡めて統合的な視点から学習する。また心理療法についても、単なる言葉によるカウンセリングだけではなく、動作療法やボディ・ワーク、さらには最近注目されているマインドフルネスといった、身体にはたらきかけるアプローチについても同時に学んでいく。

テーマおよび内容

[1 回] ガイダンス:臨床心理学とは何か

[2 回] 臨床心理学周辺の理論:性格心理学、発達心理学の理論を理解する

[3 回] 子どもの心の問題1:学習障害、ADHDについての理解

[4 回] 子どもの心の問題2:虐待について

[5 回] 思春期の心の問題:摂食障害について

[6 回] 成人期の心の問題:神経症や精神病、心身症についての理解

[7 回] 心理アセスメント:質問紙法、投影法、観察法についての理解

[8 回] 心身相関の理論1:皮膚と心の関係について

[9 回] 心身相関の理論2:身体接触が心に与える影響について学ぶ

[10回] 心理療法1:ストレス軽減法である、ボディワークについての理解

[11回] 心理療法2:自律訓練法について学ぶ

[12回] 心理療法3:心身統合的な治療法であるマインドフルネスについて

[13回] 心理療法4:認知へのアプローチ法である認知行動療法について

[14回] 心理療法5:開示による身近な援助法

[15回] 授業のまとめと講評:授業内容のまとめと、理解度を評価するテスト

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

医療人のための英語(医学英語)[1110080]

科目名	医療人のための英語(医学英語)[1110080]
科目区分・科目種	医学教養
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	島田　将夫[看護学部 看護学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 1.0～1.0
教室	①303教室

受講条件・その注意

外国語の基礎運用能力の習得には訓練に次ぐ訓練の積み重ねが必要不可欠です。ゆえに、出席(訓練への主体的かつ能動的な取り組み)が最も重要となります。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『やさしい医学英語)』 青野淳子、他(医学書院)2006

参考書:『キクタンリーディング【basic】4000』 田島亮:木村麗(アルク)2007,『キクタンリーディング【advanced】6000』 田島亮:木村麗(アルク)2007,
『キクタンリーディング【super】12000』 田島亮:木村麗(アルク)2007,『英語学習のための情報リテラシーブック』 西納春雄(大修館書店)2005

評価方法・評価割合

出席状況(訓練への主体的かつ能動的な取り組み)、その他(訓練量、訓練達成度)

授業の目的および到達目標

本科目では、基礎的な英文医学用語を習得するための演習を行う。習得対象となる医学用語を含む英文原著を集中的に繰り返し読み、その和訳文のみを参照すれば、直ちに原文の英語を再現できるようになることを目標とする。音読サイトトランスレーションとリテンションを援用した訓練技法を用いて、自然な音律での原文の音読訓練と、原文の意味内容の要点をおさえた文章把握をする訓練を繰り返し行うことにより、英語文化圏における医療人の医療に対する考え方をよりよく理解するための英語運用能力を養う。

テーマおよび内容

[1 回] 訓練の心得、目的、目標:部分と全体—専門英語の諸相

[2 回] 音声のしくみ:発話のしくみと言語コミュニケーション

[3 回] 音声言語のしくみ:音素・音節・韻律と言語コミュニケーション

[4 回] 語のしくみ(1):音声と語形成

[5 回] 語のしくみ(2):語形成と語の意味

[6 回] 語のしくみ(3):語と語の意味

[7 回] 語のしくみ(4):語の歴史的発達

[8 回] 語のしくみ(5)語と文化・社会

[9 回] 語のしくみ(6)専門用語の形成

[10回] 文のしくみ:語と語のネットワーク

[11回] 文章のしくみ:文章のなりたちと論文のなりたち

[12回] 英文講読演習(1):音読サイトトランスレーション

[13回] 英文講読演習(2):リテンション(保持)

[14回] 英文講読演習(3):レシテーション(暗誦)

[15回] まとめと展望:訓練の成果の意義と今後の発展に向けて

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

カウンセリング入門[1110090]

科目名	カウンセリング入門[1110090]
科目区分・科目種	医学教養
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	茶圓　暁美[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 金曜 3.0～3.0
教室	①404教室

受講条件・その注意

ロールプレイでは、カウンセラー役やクライエント役など、それぞれの役になりきることが重要です。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:なし

参考書:『総説カウンセリング心理学』 福島脩美著(金子書房),『ヘルピングの心理学』 ロバート・R・カーカフ著　国分康孝＝監修(講談社現代新書),
『図解雑学　臨床心理学』 松原達哉＝編著(ナツメ社)

評価方法・評価割合

出席状況、その他(授業への取り組み、カウンセリングの基礎知識と基本的態度の習得度)

授業の目的および到達目標

本科目では、カウンセリングの本質と効果について学習する。よい援助関係の条件とは何か、傾聴、受容などカウンセリングに必要な基本的態度をロールプレイを通して実践的に学習する。その上でクライエントとカウンセラーという二者間の関係性について考察し、カウンセラーに求められる資質について学ぶ。幼少期から老年期まで各ライフステージを通過する上で課されている発達課題や、様々な心理療法、面接技法なども取り入れ、効果的なカウンセリングの用法を学習する。

テーマおよび内容

[1 回] カウンセリングとは

[2 回] カウンセリングの目的

[3 回] カウンセリングの歴史

[4 回] 発達理論と発達課題について

[5 回] 自己理解について

[6 回] コミュニケーションについて

[7 回] ストレスが身体に及ぼす影響について

[8 回] リラクセーション方法について

[9 回] 自己主張について

[10回] カウンセラーの基本的態度について

[11回] カウンセリングのプロセス

[12回] うつ病について

[13回] カウンセリングの主要理論

[14回] カウンセリング技法と実践

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

中薬学概論[1110100]

科目名	中薬学概論[1110100]
科目区分・科目種	医学教養
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	戴　昭宇[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後期
曜日・時限	後期 水曜 3.0～3.0
教室	①401教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：プリントを配付する

参考書：その都度提示する

評価方法・評価割合

出席状況、レポート、その他（数回の小テスト）

授業の目的および到達目標

本科目では、代表的な漢方薬を取り上げ、それらに用いられる生薬とその作用について学習する。特に漢方薬の材料となる生薬については実物を観察させ、生薬の特徴を理解させる。中薬学（漢方）と鍼灸学は共通した診断学の基盤をもっていること、また「薬食同源」といわれるように、中薬学では、薬物と食物は、本来同源とされてきたことをふまえ、中薬学の基本的な理論、および薬物や食品として利用される生薬（植物・動物・鉱物）の概要（薬理作用・運用方法）について中心に学ぶ。講義にあたっては、薬草園などの見学を通じて薬用植物に対する知識をより深められるように配慮する。

テーマおよび内容

[1 回] 中薬の総説：生薬・中薬と漢方薬、鍼薬同効説、薬性と穴性について

[2 回] 薬食同源について：薬治と食養、薬食兼用素材の薬茶と薬膳について

[3 回] 表証と解表薬：身近な解表薬の効能効果とその応用

[4 回] 身近な解表薬の効能効果とその応用：様々な熱証とそれぞれの対応薬

[5 回] 寒証と温裏薬：冷えは万病のもと？

[6 回] 湿病と化湿薬：水湿と風湿を除去する薬食

[7 回] 化痰止咳薬：咳、痰の弁証治療

[8 回] 理気薬・開竅薬・消導薬：気滞証、気閉証、食滞証の中薬治療

[9 回] 活血薬・止血薬：血行障害の中薬による治療応用

[10回] 補気薬・補陽薬：気虚証と陽虚証の薬治と薬茶

[11回] 補血薬・補陰薬：血虚証と陰虚証の薬治と薬茶

[12回] 瀉下薬とその適応症：便秘の解消とデトックスについて

[13回] 固渋薬と安神薬：多汗・頻尿・下痢・不眠に対する弁証治療

[14回] 外用薬と入浴剤：主に美容・美肌の外用薬と入浴剤について

[15回] 授業のまとめ：レポートの発表会

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

中医方剤学(処方学)[1110110]

科目名	中医方剤学(処方学)[1110110]
科目区分・科目種	医学教養
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	戴　昭宇[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前期
教室	①別途連絡

授業の形態
講義

授業の目的および到達目標
本科目では、症例を通して病証を診断させ、それに適した方剤を処方することができる基本的な臨床能力を身につけさせる。特に日常遭遇する症例を呈示して病証を判定させ、適切な方剤、処方の方法を理解させる。方剤は、日本の医療保険に収載されている漢方エキス製剤を基本に据えながら、それぞれの処方の効能と適応などについて学習する。また喘息やアトピー性疾患、偏頭痛などの疾患、症例を取り上げ、個々のケースに適した方剤の選択と、運用について最新の知見を紹介しつつ講義する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

中医栄養学(薬膳)[1110120]

科目名	中医栄養学(薬膳)[1110120]
科目区分・科目種	医学教養
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	和田　暁[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	後期
教室	①別途連絡

授業の形態
講義

授業の目的および到達目標
本科目では、患者の病証や個体特性、ならびに季節・環境にも配慮した、オーダーメイドな弁証施膳の理論と実践について学習する。また、薬膳料理のメニューを各自で作成し発表会を行う。西洋に起源を有する近代栄養学と異なり、中医学では「薬食同源」と言われるように、薬物と食物は本来同源である。生薬の中には、一般でも料理に使用される品目が多数あり、鍼灸師としてこうした食品に対する知識を持つことは、患者の食生活を理解する上でも、また患者の病証を考慮に入れた食事指導をしていく上でも大切である。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

鍼灸経営論[1110130]

科目名	鍼灸経営論[1110130]
科目区分・科目種	医学教養
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	鳥海　一哉[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	後期
教室	①別途連絡

授業の形態
講義

授業の目的および到達目標
本科目では、施術所を経営するための基本的な事項について学習する。経営学の基礎、医療保険制度、税金の仕組み、広告、施術所の設計・デザイン、マーケティングなどについて学習する。加えて最近のインターネット上における施術所の提示の仕方などについても紹介し、経営に対する意識を喚起する。また、施術所を開設している鍼灸師による経営の実際について聴講し、討論する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

人体構造学I(総論・組織)[1111010]

科目名	人体構造学I(総論・組織)[1111010]
科目区分・科目種	現代医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	小泉　政啓[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 2.0～2.0
	前期 木曜 3.0～3.0
教室	①404教室

受講条件・その注意

複雑な人体構造を少しでも理解しやすくするため、講義では図を多用し、実際に自らの手で描くことにより理解をしてもらう。また、適宜模型などを使用する。そのため、欠席によるデメリットは大きいことを明記しておく。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『解剖学』(社)東洋療法学校協会 編／河野邦雄・伊藤隆造 ほか著(医歯薬出版)2009

参考書:『分担解剖学:総説・骨学・靭帯学・筋学.第1巻』(金原出版)1985,『分担解剖学　脈管学・神経系　第2巻(改訂第11版)』(金原出版)1984,
『分担解剖学　感覚器学・内臓学　第3巻(改訂第11版)』(金原出版),
『系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能〔1〕解剖生理学』(医学書院)2009,
『骨学実習の手びき(第4版)』(南山堂)1992,『リハビリテーション解剖アトラス』佐藤達夫:坂本裕和 (医歯薬出版)2006

評価方法・評価割合

定期試験(中間試験＋期末試験)、出席状況、その他(授業中適宜行なうミニテスト)

授業の目的および到達目標

本科目では、人体の正常構造を理解するため、系統解剖学を学習する。特に前期では系統解剖学のうち、骨学(関節を含む)・靭帯学・筋学・神経学などの運動器系に関連する組織器官について主に学習する。また、人体を構成する細胞・組織等の基本構造、解剖学の基準となる正位と身体の区分、関節運動の用語等についても学習する。特に骨、筋および神経系については、系統的に学ぶだけでなく、運動器の機能作用からみたそれらの関係性についても取り上げながら、理解を深める。このようにして、鍼灸師にとって重要な人体の構造の基本を理解する。

テーマおよび内容

[1 回] 解剖学序論:解剖学とは？　解剖学的な人体の区分、体位、方向.

[2 回] 細胞:細胞の構造. 細胞分裂.

[3 回] 組織:組織の種類. 上皮・結合組織

[4 回] 骨格系総論1:骨の種類、骨の基本構造、骨の発生, 成長.

[5 回] 骨格系総論2 :骨の連結の種類と構造、全身の骨格の区分.

[6 回] 筋系総論1:筋組織の構造. 筋の種類、一般的形態.

[7 回] 筋系総論2:筋の分類、作用の種類.

[8 回] 神経系総論1:神経系の構成、神経細胞、神経興奮の伝達、中枢神経概論.

[9 回] 神経系総論2:脳・脊髄総論、末梢神経系概論、脳神経・脊髄神経総論.

[10回] 体幹の骨1:椎骨、椎骨の連結と靭帯.

[11回] 体幹の骨2:脊柱、胸郭(胸骨・肋骨).

[12回] 体幹の筋と神経1:胸部の筋と肋間神経, 横隔膜.

[13回] 体幹の筋と神経2:腹部の筋と神経、鼠径管.

[14回] 体幹の筋と神経3: 頚部の筋と神経、背部の筋と神経.

[15回] (中間試験)

[16回] 四肢の骨1:上肢帯、下肢帯.

[17回] 四肢の骨2:自由上肢の骨と関節.

[18回] 四肢の骨3:自由下肢の骨と関節.

[19回] 上肢の筋と神経1:腕神経叢、上肢帯の筋と神経.

[20回] 上肢の筋と神経2:上腕の筋と神経.

[21回] 上肢の筋と神経3:前腕の筋と神経、手の筋と神経.

[22回] 下肢の筋と神経1:腰仙骨神経叢、下肢帯の筋と神経.

[23回] 下肢の筋と神経2:大腿の筋と神経, 下腿の筋と神経.

[24回] 下肢の筋と神経3:足の筋と神経、会陰の筋と神経.

[25回] 頭の骨1:頭蓋骨の構成.

[26回] 頭の骨2:頭蓋骨の連結.

[27回] 頭の筋と神経:頭部の筋と脳神経

[28回] 脊髄:脊髄の一般的形態、内部構造.

[29回] 脳1:脳の区分、延髄、橋、小脳、中脳、間脳、大脳

[30回] 脳2:機能領域、基底核、脳の血管、脳室、脳脊髄液.

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

人体構造学II[1111020]

科目名	人体構造学II[1111020]
科目区分・科目種	現代医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	小泉　政啓[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 3.0～3.0
	後期 火曜 4.0～4.0
教室	①404教室

受講条件・その注意

複雑な人体構造を少しでも理解しやすくするため、講義では図を多用し、実際に自らの手で描くことにより理解をしてもらう。また、適宜模型などを使用する。そのため、欠席によるデメリットは大きいことを明記しておく。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『解剖学』(社)東洋療法学校協会 編／河野邦雄・伊藤隆造 ほか著(医歯薬出版)2009

参考書:『分担解剖学:総説・骨学・靭帯学・筋学.第1巻』(金原出版)1985,『分担解剖学　脈管学・神経系　第2巻(改訂第11版)』(金原出版)1984,
『分担解剖学　感覚器学・内臓学　第3巻(改訂第11版)』(金原出版),
『系統看護学講座　専門基礎分野　人体の構造と機能〔1〕解剖生理学』(医学書院)2009
『骨学実習の手びき(第4版)』(南山堂)1992,『リハビリテーション解剖アトラス』佐藤達夫:坂本裕和 (医歯薬出版)2006

評価方法・評価割合

定期試験(中間試験＋期末試験)、出席状況、その他(授業中適宜行なうミニテスト)

授業の目的および到達目標

本科目では、人体の正常構造を理解するため、系統解剖学を学習する。特に後期では系統解剖学のうち、自律神経系、循環器系(心臓と血管・リンパ系)・呼吸器系・消化器系・泌尿生殖器系・感覚器系などの組織器官について主に学習する。内臓器の構造を知ることは、疾患の理解や刺鍼の際の重要な手がかりとなるため、鍼灸師にとっても非常に重要である。そのため、個々の組織器官の構造や機能だけでなく、各組織器官の関連性を学習することによって、鍼灸師にとって必要な人体の構造の基本を理解する。

テーマおよび内容

[1 回] 自律神経系:自律神経系総論、交感神経、副交感神経.

[2 回] 伝導路:伝導路総論、反射路、下行性伝導路、上行性伝導路.

[3 回] 内臓総論:内臓の区分、内臓を包む膜、消化管の構造

[4 回] 頭頚部の呼吸器:鼻腔、口蓋、咽頭、喉頭.

[5 回] 胸部の呼吸器:気管・気管支、肺、呼吸、肺の血管.

[6 回] 循環器系総論:循環路の概要、血管の構造、血液.

[7 回] 心臓1:心臓の位置、心膜、心臓外景・内景.

[8 回] 心臓2:刺激伝導系、冠状動脈・静脈.

[9 回] 体幹の動脈系:大動脈弓、胸大動脈、腹大動脈、総腸骨動脈と枝.

[10回] 上肢・下肢の動脈系:鎖骨下動脈から手の動脈、外腸骨動脈から足の動脈.

[11回] 頭部の動脈系:外頚動脈とその枝、内頚動脈とその枝、椎骨動脈.

[12回] 体幹・上肢・下肢の静脈系:皮静脈、鎖骨下静脈から手の静脈、外腸骨静脈から足の静脈.

[13回] 頭部の静脈系:内頚静脈とその枝、顔面の静脈.

[14回] 血液循環:成体の循環路、胎児期の循環路.

[15回] (中間試験)

[16回] リンパ系:リンパ系総論、全身のリンパ管、リンパ節、脾臓、胸腺.

[17回] 消化器1:概観、消化管の血管、口腔、咽頭、食道.

[18回] 消化器2:胃、小腸、大腸.

[19回] 消化器3:肝臓、胆嚢、膵臓.

[20回] 泌尿器:腎臓、尿管、尿の生成、膀胱、尿道.

[21回] 女性生殖器 :子宮、卵管、卵巣、外生殖器.

[22回] 男性生殖器 :精巣、精巣上体、精嚢、前立腺、外生殖器、精子の形成.

[23回] 発生1:受精、着床、初期発生と胎盤形成.

[24回] 発生2:初期発生と胎盤形成、胎児の発生.

[25回] 内分泌器1:内分泌とは. 下垂体、松果体、甲状腺

[26回] 内分泌器2:上皮小体、副腎、膵臓、卵巣、精巣.

[27回] 感覚器1:皮膚

[28回] 感覚器2:嗅覚器、味覚器、視覚器(眼球およびその付属器).

[29回] 感覚器3:光の感受、平衡聴覚器、音の伝達.

[30回] まとめ:授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

人体構造学III[1111030]

科目名	人体構造学III[1111030]
科目区分・科目種	現代医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	木村　明彦[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 2.0～2.0
	前期 金曜 1.0～1.0
教室	①403教室 ②404教室

受講条件・その注意

1年次で履修した系統解剖学の発展させた局所解剖学を学習する。このため1年次でで使用したノートなどを参照できるようにする必要性がある。 配布資料や自分で調べた資料などをまとめた自筆の講義ノートを作成しておくこと(試験時に持込可とすることあり)。 授業1週前に資料を配布する時には、その資料に関し授業時までに完成させておく必要がある(評価対象)。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『解剖学』(社)東洋療法学校協会

参考書:コメディカルのための専門分野テキスト　解剖学　五味・岸編集　中外医学社

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

本科目では、顔面部・頭頸部・体幹部(胸腹部および肩背腰部)・上肢・下肢の局所解剖について学習する。特に骨各部の名称・関節、筋の名称・起始停止・走行・作用・その筋を支配する運動神経とその神経根、血管系の名称・走行、各所を支配する知覚神経およびデルマトームについて、人体模型や立体映像等を用いて理解を深めさせる。特に体表から観察できる局所解剖については、鍼灸師として臨床上重要な事項であるので3次元的なイメージをつけさせながら重点的に学習し、触診や刺鍼等に活かすことができるよう配慮する。

テーマおよび内容

[1 回] 体表の区分:総論・体区分など(骨学的体表ポイント)

[2 回] 頭頚部の局所解剖:頭頚部の体表解剖(骨学的観察)

[3 回] 頭頚部の局所解剖:頭頚部の透視解剖(筋・神経・血管)

[4 回] 頭頚部の局所解剖:頭頚部の横断解剖(頭部)

[5 回] 頭頚部の局所解剖:同上(頚部)

[6 回] 体幹部の局所解剖:体幹部の体表解剖(背部)

[7 回] 体幹部の局所解剖:同上(胸腹部)

[8 回] 体幹部の局所解剖:体幹部の透視解剖(胸部内臓)

[9 回] 体幹部の局所解剖:同上(腹部内臓)

[10回] 体幹部の局所解剖:同上(同上)

[11回] 体幹部の局所解剖:体幹部の横断解剖(胸部)

[12回] 体幹部の局所解剖:同上(腹部)

[13回] 体幹部の局所解剖:同上(骨盤部)

[14回] まとめ：1～13回の範囲

[15回] 上肢の局所解剖：上肢の体表解剖（骨学的観察）

[16回] 上肢の局所解剖：同上（筋学的観察）

[17回] 上肢の局所解剖：上肢の局所解剖（腕神経叢とその枝）

[18回] 上肢の局所解剖：同上（上肢の血管系）

[19回] 上肢の局所解剖：同上（肩部・上腕部）

[20回] 上肢の局所解剖：同上（前腕部・手部）

[21回] 上肢の局所解剖：上肢の横断解剖（肩部・上腕部）

[22回] 上肢の局所解剖：同上（前腕部・手部）

[23回] 下肢の局所解剖：下肢の体表解剖（骨学的観察）

[24回] 下肢の局所解剖：同上（筋学的観察）

[25回] 下肢の局所解剖：下肢の局所解剖（下肢の神経系）

[26回] 下肢の局所解剖：同上（下肢の血管系）

[27回] 下肢の局所解剖：同上（殿部～足部）

[28回] 下肢の局所解剖：下肢の横断解剖（殿部・大腿部）

[29回] 下肢の局所解剖：同上（下腿部・足部）

[30回] まとめ：15～29回の範囲）

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

人体の構造学実習[1111040]

科目名	人体の構造学実習[1111040]
科目区分・科目種	現代医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	小泉　政啓[保健医療学部 鍼灸学科]
	成瀬　秀夫[保健医療学部 柔道整復学科]
	木村　明彦[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 水曜 1.0～1.0
	後期 水曜 2.0～2.0
教室	①404教室

受講条件・その注意

後半の実習では、他大学医学部で実際のご遺体を観察するため、医療を学ぶ学生としてふさわしい態度が要求される. 教員が不適切と判断した学生には即時実習を中止してもらう.

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書:『解剖学』(社)東洋療法学校協会 編／河野邦雄・伊藤隆造 ほか著 (医歯薬出版)2009

参考書:『分担解剖学:総説・骨学・靭帯学・筋学.第1巻』(金原出版)1985,『分担解剖学　脈管学・神経系　第2巻(改訂第11版)』(金原出版)1984,
『分担解剖学　感覚器学・内臓学　第3巻(改訂第11版)』(金原出版),『リハビリテーション解剖アトラス』佐藤達夫:坂本裕和 (医歯薬出版)2006,
『臨床のための解剖学』佐藤達夫、坂井達夫 監訳(ﾒﾃﾞｨｶﾙ･ｻｲｴﾝｽ･ｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ)2008

評価方法・評価割合

出席状況(出席が授業回数の4/5に満たない学生は評価の対象外とする)、レポート、授業中の課題

授業の目的および到達目標

本科目では、人体を構成する諸器官の肉眼構造および顕微構造を人体標本・教材(各種模型など)を用いて総合的・立体的に学ぶ。前半は, 各種教材を用いて、運動器解剖学(頭・上肢・下肢・体幹の骨、関節、靭帯、筋、神経、血管)、神経解剖学(脳と脊髄、末梢神経系)、内臓解剖学(心臓、肺、肝臓、腎臓など)について理解を深める。さらに、人体を構成する最小単位である細胞およびその集団である組織について顕微鏡解剖学実習(組織学実習)を行う。後半は, 実際の遺体を観察することにより、骨・筋などの運動器系、神経血管系、各内臓器系の位置や相互の関連性をあらゆる角度から観察し、教科書では得ることのできない人体構造の総合的理解を深めることを目標とする。また、各器官の体表からの深さや危険部位への実際の刺鍼等を想定し、刺鍼の危険性を十分に理解させ、鍼灸師として臨床上必要な触診や刺鍼に活かせるよう、学習する。

テーマおよび内容

[1 回] 局所解剖学実習1 ／ 成瀬　秀夫・木村　明彦

[2 回] 局所解剖学実習2 ／ 成瀬　秀夫・木村　明彦

[3 回] 局所解剖学実習3 ／ 成瀬　秀夫・木村　明彦

[4 回] 局所解剖学実習4 ／ 成瀬　秀夫・木村　明彦

[5 回] 局所解剖学実習5 ／ 成瀬　秀夫・木村　明彦

[6 回] 局所解剖学実習6 ／ 成瀬　秀夫・木村　明彦

[7 回] 組織学実習1 ／ 成瀬　秀夫・木村　明彦

[8 回] 組織学実習2 ／ 成瀬　秀夫・木村　明彦

[9 回] 肉眼解剖学実習講義(肉眼解剖学実習を受けるにあたっての事前講義) ／小泉　政啓

[10回] 肉眼解剖学実習1(東京医科歯科大学で実際のご遺体を解剖・観察) ／小泉　政啓

[11回] 肉眼解剖学実習2(東京医科歯科大学で実際のご遺体を解剖・観察) ／小泉　政啓

［12回］ 肉眼解剖学実習3（東京医科歯科大学で実際のご遺体を解剖・観察） ／小泉　政啓

［13回］ 肉眼解剖学実習4（東京医科歯科大学で実際のご遺体を解剖・観察） ／小泉　政啓

［14回］ 肉眼解剖学実習5（東京医科歯科大学で実際のご遺体を解剖・観察） ／小泉　政啓

［15回］ 肉眼解剖学実習6（東京医科歯科大学で実際のご遺体を解剖・観察） ／小泉　政啓

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

人体機能学I(植物機能)[1111050]

科目名	人体機能学I(植物機能)[1111050]
科目区分・科目種	現代医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	堀田　晴美[非常勤講師]
	高野　一夫[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 3.0～3.0
	後期 木曜 4.0～4.0
教室	①404教室

受講条件・その注意

教科書に沿って講義を進めるので、講義前に、教科書の予定範囲に目を通しておくこと。便宜上、章ごとに各器官系について学ぶが、実際には様々な器官が相互に関連しあいながら、身体の正常な働きを支えている。他章で学ぶほかの器官とのつながりを考慮しながら学習すること。疑問点は、時間の許す限り講義担当者が回答する。

授業の形態

講義(共同)

教科書・参考文献

教科書:『生理学』 佐藤優子・佐藤昭夫　ほか著(医歯薬出版)

参考書:『○×問題でマスター生理学　第2版』 佐藤昭夫監修(医歯薬出版)2009,『人体の構造と機能　第2版』 佐藤昭夫ほか(医歯薬出版)2003,
『コンパクト生理学』 佐藤昭夫監訳(医学書院)1997,『自律機能生理学』 佐藤昭夫ほか(金芳堂)1995,
『スタンダード人体生理学』 佐藤昭夫監訳(シュプリンガー・フェアラーク東京)1994

評価方法・評価割合

定期試験(筆記試験を行い、一定の基準以下のものには再試験として筆記試験または口頭試験を行う)、出席状況(定められた基準以下の者は定期試験を受験出来ない)

授業の目的および到達目標

本科目では、生理学の植物性機能について学習する。植物性機能とは、生物の生命維持に必須な機能であり、血液、循環、呼吸、消化、排泄、代謝、内分泌などがこれに含まれる。そしてこれらは、内臓機能ともいわれる。この内臓機能は、自律神経およびホルモンによる調節を受けるので、これらの調節系を含め、植物性機能として取り扱う。ここでは自律神経およびホルモン調節を含めた、内臓機能の基本的知識に重点をおき、これらを理解させる。

テーマおよび内容

[1 回] 生理学とは、ホメオスターシスの維持

[2 回] 細胞の構造と働き

[3 回] 物質代謝の仕組み

[4 回] 体液の組成とその働き・物質の移動

[5 回] 血液1(血液成分とその機能1)

[6 回] 血液2(血液成分とその機能2)

[7 回] 血液3(血液凝固と血液型)

[8 回] 血液4(免疫)

[9 回] 循環1(心臓血管系)

[10回] 循環2(心臓)

[11回] 循環3(血管の構造と機能)

[12回] 循環4(血圧)

[13回] 循環5(循環の調節)

[14回] 循環6(特殊な部位の循環)

[15回] 循環7(リンパ系)

[16回] 呼吸1(呼吸運動)

[17回] 呼吸2(肺機能)

[18回] 呼吸3(ガス交換とガスの運搬)

[19回] 呼吸4(呼吸運動の調節)

[20回] 消化と吸収1(消化器系の構造と機能)

[21回] 消化と吸収2(口腔内・胃内における消化)

[22回] 消化と吸収3(小腸・大腸内における消化吸収)

[23回] 消化と吸収4(消化管ホルモンと排便)

[24回] 栄養と代謝1(栄養素とエネルギー代謝)

[25回] 栄養と代謝2(各種栄養素およびビタミン)

[26回] 体温1(熱の産生と放熱の仕組み)

[27回] 体温2(体温調節)

[28回] 排泄1(尿の生成)

[29回] 排泄2(腎臓による体液の調節)

[30回] 排泄3(蓄尿と排尿)

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

人体機能学II(動物機能・運動生理含む)[1111060]

科目名	人体機能学II(動物機能・運動生理含む)[1111060]
科目区分・科目種	現代医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	堀田　晴美[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 3.0～3.0
	前期 木曜 4.0～4.0
教室	①303教室

受講条件・その注意

教科書に沿って講義を進めるので、講義前に、教科書の予定範囲に目を通しておくこと。便宜上、章ごとに各器官系について学ぶが、実際には様々な器官が相互に関連しあいながら、身体の正常な働きを支えている。他章で学ぶほかの器官とのつながりを考慮しながら学習すること。疑問点は、時間の許す限り講義担当者が回答する。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『生理学』 佐藤優子・佐藤昭夫　ほか著(医歯薬出版)

参考書:『〇×問題でマスター生理学　第2版』 佐藤昭夫監修(医歯薬出版)2009,『人体の構造と機能　第2版』 佐藤昭夫ほか(医歯薬出版)2003,
『コンパクト生理学』 佐藤昭夫監訳(医学書院)1997,『自律機能生理学』 佐藤昭夫ほか(金芳堂)1995,
『スタンダード人体生理学』 佐藤昭夫監訳(シュプリンガー・フェアラーク東京)1994

評価方法・評価割合

定期試験(筆記試験を行い、一定の基準以下のものには再試験として筆記試験または口頭試験を行う)、出席状況(定められた基準以下の者は定期試験を受験出来ない)

授業の目的および到達目標

本科目では、生理学の動物性機能について学習する。動物性機能は、骨格筋や神経系に代表される機能であり、筋、神経細胞の共通の特徴である興奮性組織の理解から始め、筋肉特有の収縮機構や神経の興奮伝道の仕組みについて理解した上で、神経系の動作機序をシステムとして理解していく。具体的には、脊髄・延髄レベルでの反射機構から、感覚情報処理、運動調節系などの中枢神経機能との理解、個体として外部および内部環境の変化に対する反応系の理解などが含まれる。また、言語機能・脳波・精神活動などの高次脳機能の神経科学的な理解も試みる。

テーマおよび内容

[1 回] 内分泌1(内分泌とは)

[2 回] 内分泌2(視床下部・下垂体ホルモン)

[3 回] 内分泌3(甲状腺・上皮小体・膵臓ホルモン)

[4 回] 内分泌4(副腎髄質・副腎皮質・性ホルモン)

[5 回] 生殖

[6 回] 成長と老化

[7 回] 神経1(神経系とは)

[8 回] 神経2(ニューロンの構造と働き)

[9 回] 神経3(神経の興奮と伝導)

[10回] 神経4(興奮の伝達)

[11回] 神経5(末梢神経系)

[12回] 神経6(中枢神経系1　脊髄と脳幹)

[13回] 神経7(中枢神経系2 間脳・小脳・大脳)

[14回] 神経8(中枢神経系3 高次脳機能)

[15回] 内臓の自律神経性調節1(自律神経系の特徴)

[16回] 内臓の自律神経性調節2(伝達物質と受容体)

[17回] 内臓の自律神経性調節3(中枢と自律神経反射)

[18回] 筋1(骨格筋の構造と働き)

[19回] 筋2(筋収縮の仕組み)

[20回] 筋3(筋のエネルギー供給・心筋と平滑筋)

[21回] 運動1(骨格筋の神経支配1 運動単位・神経筋接合部)

[22回] 運動2(骨格筋の神経支配2 筋紡錘と腱受容器)

[23回] 運動3(運動の調節1 脊髄と脳幹)

[24回] 運動4(運動の調節2 小脳と大脳基底核)

[25回] 運動5(運動の調節3 大脳皮質)

[26回] 感覚1(感覚の一般)

[27回] 感覚2(体性感覚と内臓感覚)

[28回] 感覚3(痛覚)

[29回] 感覚4(特殊感覚－1)

[30回] 感覚5(特殊感覚－2)

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

人体の機能学実習（生理学実習）[1111070]

科目名	人体の機能学実習（生理学実習）[1111070]
科目区分・科目種	現代医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	高野　一夫[保健医療学部 鍼灸学科]
	西村　桂一[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 3.0～3.0
	後期 月曜 4.0～4.0
教室	①610基礎医学実習室

受講条件・その注意

なるべく実習項目に関する生理学を予習して、実習に臨むと理解し易い。また余裕のある学生は上記の参考書等を読んで理解に努めると良い。実技・発表会にはすすんで参加すること。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書：特に指定しない。

参考書：『診察と手技がみえる、vol.1』古谷伸之編（メディックメディア）2010,
『病気がみえる（循環器、呼吸器、血液、糖尿病など）』（メディックメディア）2008-10,
『ガイトン生理学、原著第11版』A・Cガイトン：J・Eホール（エルゼビア・ジャパン）2010,
『オクスフォード・生理学、原書3版』G・ポーコック：C・Dリチャーズ（丸善）2009,
『標準生理学　Standard textbook 第7版』小澤瀞司：本郷利憲（医学書院）2009,
『Principles of Neural Science 4th ed.』ER Kandel（McGraw Hill）2000
『臨床検査法提要』金井正光監修、（金原出版）

評価方法・評価割合

出席状況（定められた基準以下の学生は評価を受けられない）、レポート、その他（実習実技および実習発表会の内容・態度）

授業の目的および到達目標

人体の機能学実習では、植物機能、動物機能人体機能学で得た知識を基に、生命体としてのヒトおよび、そのモデルとしての動物の組織・器官を実習教材として、自ら観察実験する。そしてその過程で得られたデータを記録し、結果を考察し、レポートを作成する。具体的には小グループに分かれ、設定された実験テーマを担当教員の指導の下に観察実験を行う。ヒトを対象とするテーマでは、グループ内で相互に実験者と被験者を経験できるようにする。なお、実験実施前と後に討論し、実験についての理解を深める。また、実験を通して基本な計測機器の操作法とデータの統計解析法についても学習する。テーマは、ヒトでは循環、呼吸、血液、代謝、誘発筋電図、感覚を、動物ではカエルを材料に、筋収縮、感覚、神経伝導・伝達、細胞膜電位のコンピュータシミュレーション等である。

テーマおよび内容

[1 回]　実習前半オリエンテーション：実習内容の説明および注意

[2 回][3 回][4 回][5 回][6 回][7 回]　1．ヒト循環・呼吸機能　2．ヒト血液・皮膚生理学　3．カエル神経伝導速度

学生を前班・後班の2つに分け、前班が、午前中、後班が午後実習を行う。各班とも5名づつ6組（A－F）に分け左記の3項目について実習を行う。

[8 回]　実習後半オリエンテーション：実習内容の説明および注意

[9 回][10回][11回][12回][13回][14回]1．ラット循環・呼吸機能　2．ヒト感覚機能　3．ヒト筋電図

学生を前班・後班の2つに分け、前班が、午前中、後班が午後実習を行う。各班とも5名づつ6組（A－F）に分け左記の3項目について実習を行う。

[15回]　実習発表会

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

病理学[1111080]

科目名	病理学[1111080]
科目区分・科目種	現代医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	寺井　政憲[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	通年
曜日・時限	前期 木曜 2.0～2.0
	後期 木曜 4.0～4.0
教室	①611基礎医学実習室

受講条件・その注意

授業では病理学の総論を平易に且つ丁寧に解説していきます。授業に関連した事項で興味ある項目は各自で教科書の各論を参照してください。教科書中のノートやコラムは時間のあるときに各自で読んでおいてください。病気について関心を持てるように授業をしていきます。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:「新クイックマスター　病理学」監修　堤　寛(医学芸術社)

参考書:「病理学概論第2版」編集　社団法人東洋療法学校協会　著者　滝澤登一郎、畠山　茂(医歯薬出版株式会社)

評価方法・評価割合

定期試験(筆記試験)

授業の目的および到達目標

病理学では病気の概念を原因から出発して系統的に説明する。内容としては、病気の時に細胞組織に生じる変化、先天異常、生体反応と疾病の機序、生体防御機構、循環障害、腫瘍等について学習する。病気を個体(ヒト)から臓器、組織、細胞、遺伝子レベルという具合に理解させる。到達目標は病気の概念・定義を理論的にしっかり習得し、最終的に幅広い基礎医学の知識と理解力をつけることにおく。病理学の基本は西洋医学だが、東洋医学的な考え方と西洋医学的な考え方の両者を体得することで、将来的に幅広い考え方をもつ医療人になることを期待して、授業を行う。

テーマおよび内容

[1 回]　病理学とはどのような学問か:病理学と医療との関わり、医療における病理診断の役割について学ぶ

[2 回]　病気についての基本的な考え方:病気の概念、病気の分類(先天性と後天性)について学ぶ

[3 回]　病気についての基本的な考え方:病気の分類(遺伝性と非遺伝性)について学ぶ

[4 回]　病気についての基本的な考え方:病気の分類(全身性と限局性、器質的と機能的)について学ぶ

[5 回]　病気についての基本的な考え方:病気の分類、病気の症候と経過について学ぶ

[6 回]　先天性異常について:代謝異常、奇形について学ぶ

[7 回]　先天性異常について:染色体異常について学ぶ

[8 回]　病因について:内因について学ぶ

[9 回]　病因について:外因(栄養素)について学ぶ

[10回]　病因について:外因(物理的病因)について学ぶ

[11回]　病因について:外因(化学的病因)について学ぶ

[12回]　病因について:外因(生物的病因)について学ぶ

[13回]　循環障害について:循環系(大循環、小循環、リンパ循環、門脈循環)について学ぶ

[14回]　循環障害について:循環障害(詰まる、漏れる、溜まる)の病態について学ぶ

[15回] 循環障害について：充血、うっ血、貧血、虚血、側副循環について学ぶ

[16回] 循環障害について：出血の機序、止血の機序について学ぶ

[17回] 循環障害について：血栓、塞栓、梗塞について学ぶ

[18回] 循環障害について：浮腫、ショックについて学ぶ

[19回] 退行性病変について：萎縮、変性、壊死について学ぶ

[20回] 生活習慣病について：胆石症、糖尿病、動脈硬化、痛風について学ぶ

[21回] 進行性病変について：肥大、増殖、再生について学ぶ

[22回] 進行性病変について：再生、化生、移植について学ぶ

[23回] 創傷治癒について：肉芽組織、創傷治癒、骨折の治癒について学ぶ

[24回] 幹細胞と再生医学について：幹細胞の生物学、幹細胞を用いた再生医療、細胞治療について学ぶ

[25回] 炎症について：炎症の一般、分類について学ぶ

[26回] 炎症について：特異性炎（肉芽腫性炎；結核、梅毒、癩）について学ぶ

[27回] 腫瘍について：腫瘍とは何か、腫瘍の特色、良性と悪性の違いについて学ぶ

[28回] 腫瘍について：悪性腫瘍の特徴について学ぶ

[29回] 腫瘍について：腫瘍発生の内因について学ぶ

[30回] 腫瘍について：腫瘍発生の外因について学ぶ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

病理学実習[1111090]

科目名	病理学実習[1111090]
科目区分・科目種	現代医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	寺井　政憲[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 5.0～5.0
教室	①610基礎医学実習室

受講条件・その注意

病理学の講義で学んだ内容を発展させていく実習です。病理学のもつ役割を認識し、顕微鏡を使って実際の病変の組織の異常を自分の目で見ていきます。

授業の形態

実習

教科書・参考文献

教科書：実習ごとに参考資料を配布します

参考書：「組織病理アトラス　第5版」 編集　小池盛雄、深山正久、恒吉正澄、森永正二郎（文光堂）

評価方法・評価割合

定期試験（顕微鏡を用いた口頭試問）

授業の目的および到達目標

本科目では、鍼灸師として理解しておく必要がある疾患を取り上げ、それらの病理学的変化について顕微鏡学的形態観察を通して学習する。自ら顕微鏡観察を行い、組織の特徴をスケッチし、各自でまとめていく。顕微鏡観察から得られる知見を通して、組織レベルのイベントから全身（臓器、個体）のイベントを病理学的に根拠に基づいた推察をして、お互いに議論が出来るようになることを到達目標にする。この実習の単位習得時点において、各自が病気を体系的に把握出来るようになっていることが期待される。

テーマおよび内容

［1 回］ 病理検体の取り扱い方、顕微鏡の使い方：標本作成、染色法、顕微鏡の使い方について学ぶ（実習）

［2 回］ 顕微鏡実習：心臓の疾患（実習）

［3 回］ 顕微鏡実習：心臓の疾患（実習）

［4 回］ 顕微鏡実習：肺の疾患（実習）

［5 回］ 顕微鏡実習：肺の疾患（実習）

［6 回］ 顕微鏡実習：肺の疾患（実習）

［7 回］ 顕微鏡実習：肝臓の疾患（実習）

［8 回］ 顕微鏡実習：肝臓の疾患（実習）

［9 回］ 顕微鏡実習：肝臓の疾患（実習）

［10回］ 顕微鏡実習 ：腎臓の疾患（実習）

［11回］ 顕微鏡実習 ：腎臓の疾患（実習）

［12回］ 顕微鏡実習 ：腎臓の疾患（実習）

［13回］ 顕微鏡実習 ：悪性腫瘍（実習）

［14回］ 顕微鏡実習 ：悪性腫瘍（実習）

［15回］ 顕微鏡実習 ：悪性腫瘍（実習）

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

公衆衛生学[1111100]

科目名	公衆衛生学[1111100]
科目区分・科目種	現代医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	一幡　良利[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 2.0～2.0
教室	①303教室

受講条件・その注意

日常的に起こる公衆衛生学の話題に関心を持つこと

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『衛生学・公衆衛生学』（医歯薬出版）

参考書:『国民衛生の動向』（厚生統計協会）

評価方法・評価割合

定期試験（80%）、出席状況（20%）

授業の目的および到達目標

本科目では、身体的・精神的・社会的健康に関する歴史、意義、現状および社会の取り組みについての知識を習得する。特に、生活習慣病や環境問題、少子高齢化、新興感染症などの新しい問題の理解の一環として、疾病予防（主として健康の保持増進）、ライフスタイルと健康管理、衛生行政、環境の基礎的知識、産業保健、成人保健、老人保健、母子保健、感染症の歴史と課題・対策、疫学・統計学等について広く学習する。これらによって環境と健康の関わりや、こころと身体の健康などの面から、鍼灸師としての健康観を自身で組み立て述べられるよう学習を深めていく。

テーマおよび内容

[1 回] 衛生学・公衆衛生学の意義:包括医療、地域医療、プライマリーヘルスケア

[2 回] 健康の概念:WHO、健康と不健康

[3 回] 疾病予防と健康管理:健康診断、健康教育、予防医学（第一次から三次まで）

[4 回] 食生活と健康:食物、栄養素、食習慣、栄養所要量

[5 回] 食中毒と食品衛生:食中毒の原因、食中毒の予防対策、食品衛生法

[6 回] 生活環境衛生:物理的環境、化学的環境、生物学的環境、住居と衣服、地域の環境衛生、上水道、下水道地域の環境衛生、上水道、下水道

[7 回] 公害:大気汚染、土壌汚染、水質汚濁、騒音、振動、公害対策基本法、水俣病

[8 回] 地球環境問題:地球温暖化、二酸化炭素、オゾン層破壊、酸性雨、放射能汚染、ダイオキシン

[9 回] 産業保健・精神保健:労働衛生、職業病、じん肺、頸肩腕障害、産業災害、精神保健福祉、精神障害、措置入院、任意入院

[10回] 母子保健・学校保健:母子の健康、母子保健法、母子健康手帳、出生率、乳児死亡率

[11回] 生活習慣病:悪性新生物、高血圧症、糖尿病、老人保健法

[12回] 感染症:感染症の発生要因、感染経路、感染症の予防対策、新興感染症、再興感染症、感染症法、予防接種

[13回] 医療従事者として必要な感染症:日和見感染、院内感染、輸入感染症、菌交代症

[14回] 滅菌と消毒:滅菌と消毒の定義、物理的滅菌法、化学的消毒法、消毒薬、常在細菌叢、医療廃棄物

[15回] 疫学・衛生統計:保健統計、人口静態統計、人口動態統計、平均寿命、生命表、疾患統計教科書

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

病原微生物学[1111110]

科目名	病原微生物学[1111110]
科目区分・科目種	現代医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	一幡　良利[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 4.0～4.0
教室	①303教室

受講条件・その注意

感染症の最新情報と話題に関心を持つこと

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『コメディカルのための微生物と感染予防』（桜雲会）

参考書:『微生物学用語小事典』（医学出版社）

評価方法・評価割合

出席状況（20%）、レポート（80%）

授業の目的および到達目標

本科目では、ヒトに感染する主要な病原微生物の基本的な知識（特徴、形態など）を学習し、加えてそれらの病原微生物によって発生する感染症の発症様式、症状、治療法、予防法について理解させる。地球上には、無数の微生物が存在するが、この内でヒトに病原性を示すのはそのごく一部のものである。とくに細菌感染症とウイルス感染症については、病原微生物の消毒法、滅菌法、感染予防の方法などについて学習する。

テーマおよび内容

[1 回] 微生物の歴史① :ミアズマ説、インフルエンザ、天然痘、梅毒

[2 回] 微生物の歴史②:コッホの3原則、パスツールの論理展開

[3 回] 微生物の相違:細菌、リケッチア、クラミジア、ウイルス

[4 回] 細菌細胞の構造と機能①:細胞壁、細胞質膜、細胞質、核、莢膜、スライム

[5 回] 細菌細胞の構造と機能②:鞭毛、線毛、芽胞

[6 回] 細菌の同定法と培養、化学療法薬:細菌検査、細菌の栄養素、培地、増殖曲線、選択毒性、作用機序、抗生物質、抗菌薬

[7 回] 感染と発症①:感染症、病原性因子、宿主側因子

[8 回] 感染と発症②:常在微生物叢、日和見感染、菌交代症

[9 回] 感染と発症③:内因感染、院内感染、新興感染、再興感染

[10回] 細菌学各論①:グラム陽性球菌、グラム陰性球菌

[11回] 細菌学各論②:グラム陽性桿菌

[12回] 細菌学各論③:グラム陰性桿菌

[13回] リケッチア、クラミジア:ツツガムシリケッチア、発疹チフス、トラコーマクラミジア

[14回] ウイルス①:DNAウイルス（ヘルペス、B型肝炎など）

[15回] ウイルス②:RNAウイルス（インフルエンザ、ヒト免疫不全など）

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

免疫学[1111120]

科目名	免疫学[1111120]
科目区分・科目種	現代医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	寺井　政憲[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 水曜 5.0～5.0
教室	①611基礎医学実習室

受講条件・その注意

授業では免疫学の基本を丁寧に解説していきます。病理学の授業の内容とオーバーラップしている部分もあります。この免疫学の講義を通じて病理学の理解も深めてください。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:「好きになる免疫学」著者　萩原清文　監修者　多田富雄　（講談社サイエンティフィック),「からだをまもる免疫のふしぎ」編集　日本免疫学会（羊土社）

参考書:「改訂第2版　免疫学　最新イラストレイテッド」編集　小安重夫　（羊土社）

評価方法・評価割合

定期試験（筆記試験）

授業の目的および到達目標

免疫学はヒトが病原微生物を含めたあらゆる異物（抗原）、様々なストレスに対して身を守ることが出来るのかを学ぶ。本科目では、主としてヒトにおける免疫応答の基本および免疫担当細胞などの役割と機能について、その基本を習得することを到達目標にする。ヒトにおける異物認識の特異性、免疫寛容、免疫記憶等の基本概念を把握する。リンパ球、マクロファージ、好中球等の免疫応答に関与する細胞の分化や機能を学習し、生体防御反応、自己免疫疾患、アレルギー反応などについて基本的概念を理解させる。

テーマおよび内容

[1 回]　免疫とは何をしているの？:自然免疫と獲得免疫について学ぶ

[2 回]　どうして風邪が治るのか？:主要組織適合抗原(MHC)、抗原提示細胞、免疫担当細胞について学ぶ

[3 回]　免疫担当細胞はどこで作られるの？:免疫担当細胞、造血幹細胞について学ぶ

[4 回]　病原体の種類はいくつあっても大丈夫？:抗体の多様性を生む仕組みについて学ぶ

[5 回]　麻疹に二度かかりにくいのはなぜ？:中和、オプソニン化、補体、免疫学的記憶について学ぶ

[6 回]　どのように病原体を見分けているの？:抗原特異性について学ぶ

[7 回]　免疫はどうして自分を攻撃しないの？:胸腺の役割、補助因子、免疫寛容について学ぶ

[8 回]　免疫の全体像のまとめ :免疫細胞どうしの情報交換について学ぶ

[9 回]　花粉症、気管支喘息はなぜ起こる？:ヘルパーT細胞、制御性T細胞について学ぶ

[10回]　アレルギーについて:クームス分類について学ぶ

[11回]　感染症について:病原体の種類、感染経路、日和見感染について学ぶ

[12回]　エイズと免疫について:エイズと免疫のせめぎ合いについて学ぶ

[13回]　がんと免疫について:がんと免疫のせめぎ合いについて学ぶ

[14回]　関節リウマチについて:関節リウマチはどのような病気かについて学ぶ

[15回]　移植と免疫について:臓器移植と拒絶反応、骨髄移植とGVH反応について学ぶ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

生化学[1111130]

科目名	生化学[1111130]
科目区分・科目種	現代医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	西村　桂一[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 金曜 3.0～3.0
教室	①303教室

受講条件・その注意

講義には必ず教科書を持参すること。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『図解◇基礎生化学』池田和正(オーム社)2006

参考書:『ハーパー・生化学(原著25版)』上代淑人監訳(丸善)2004,『ストライヤー・生化学(第5版)』入村ら監訳(東京化学同人)2001

評価方法・評価割合

定期試験(60%)、その他(講義期間中に実施する小テスト4回の結果40%)

授業の目的および到達目標

本科目では、生命活動の基本について化学物質の変化とその流れの観点から捉え、それらの基本について学習する。特に生体分子の化学構造と性質を学び、それを踏まえて代謝について、酵素の機能、ATPの働き、糖質や脂質の分解過程等について学習する。

テーマおよび内容

[1 回] 「生化学」の全体概要の説明と基本となる有機化学について:◇生化学とはどんな学問か？ ◇生化学ではどんなことを学ぶのか？◇基本となる有機化学について

[2 回] 糖質の構造:◇糖質の分類、◇単糖類(五炭糖、六炭糖)二糖類、多糖類の化学構造

[3 回] 糖質の代謝(1):◇糖類の消化吸収、◇グルコースの代謝

[4 回] 糖質の代謝(2):◇基本的なATPの生成系:解糖系

[5 回] 糖質の代謝(3):◇TCAサイクル◇どのようにしてATPはできるのか？◇1分子のグルコースからのATP数●【小テスト】糖質

[6 回] タンパク質の化学構造:◇アミノ酸の化学構造、◇タンパク質の化学構造、◇タンパク質の一般的性質

[7 回] タンパク質関連の代謝(1):◇タンパク質の消化吸収

[8 回] タンパク質関連の代謝(2):◇吸収されたアミノ酸はどのように代謝されるのか？

[9 回] 酵素:◇酵素の化学構造、◇酵素の活性、◇酵素の反応●【小テスト】タンパク質・酵素

[10回] 脂質の構造と性質:◇脂質の分類、◇脂質の構造と性質、◇脂肪酸の特徴、◇複合脂質の化学構造

[11回] 脂質の代謝(1):◇脂質の消化吸収、◇脂肪酸の代謝

[12回] 脂質の代謝(2):◇コレステロールの生合成●【小テスト】脂質

[13回] ビタミン(1):◇ビタミンとは、◇脂溶性ビタミンA, D, E, K

[14回] ビタミン(2):◇ビタミンB1, B2, B6, 12、ナイアシン

[15回] ビタミン(3):◇パントテン酸、ビオチン、葉酸、ビタミンC●【小テスト】ビタミン

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

臨床検査学[1111140]

科目名	臨床検査学[1111140]
科目区分・科目種	現代医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	林　洋[看護学部 看護学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 3.0～3.0
教室	①401教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『臨床医学総論　第2版』 奈良信雄(医歯薬出版)2009

参考書:講義で随時指定する。

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート

授業の目的および到達目標

本科目では、主要な臨床検査の目的と方法及び判定法などについて学習する。主な内容は、尿・糞便検査、血球、凝固関連検査、血液生化学検査、血液血清検査、内分泌検査、感染症関連検査、及び生理機能検査などである。このうち、特に鍼灸臨床を行う上で身につけておかなければならない主要な臨床検査の内容とその意義について理解させる。

テーマおよび内容

[1 回] 概論

[2 回] 一般検査(1)

[3 回] 一般検査(2)

[4 回] 血液検査(1)

[5 回] 血液検査(2)

[6 回] 血液検査(3)

[7 回] 髄液検査

[8 回] 生化学検査(1)

[9 回] 生化学検査(2)

[10回] 生化学検査(3)

[11回] 内分泌検査

[12回] 免疫血清検査

[13回] 心電図検査

[14回] 生理学的検査

[15回] 画像検査

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

臨床薬理学[1111150]

科目名	臨床薬理学[1111150]
科目区分・科目種	現代医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	荒井　裕一朗[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 3.0～3.0
教室	①401教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『シンプル薬理学』野村隆英　石川直久(南江堂)

参考書:『グッドマン・ギルマン　薬理書』上、下　高折ら(廣川書店),『NEW 薬理学』 田中、加藤(南江堂),『新薬理学テキスト』 佐藤　進　編　(廣川書店)

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他(受講態度など)

授業の目的および到達目標

鍼灸による治療の範囲は内科、神経科、耳鼻科などと限られた範囲での疾患の治療ではなく、その範囲は大変広く、複合範囲のものも多い。西洋医学での主流である薬物治療を理解するために、治療薬の薬理学、すなわち、薬物の作用点、生体内運命、薬効に影響を与える因子などを学ぶとともに、特に鍼灸治療で扱う疾患に用いる治療薬の作用機序、薬理作用、副作用、適用方法、注意点などについても学ぶ。

テーマおよび内容

[1回] 総論:薬理学とは

[2回] 総論:薬物の作用点

[3回] 総論:薬物の生体内運命

[4回] 総論:薬物の生体内運命

[5回] 総論:薬効に影響を与える因子

[6回] 総論:薬効に影響を与える因子

[7回] 総論:薬物の毒性、新薬の開発

[8回] 自律神経系に作用する薬物:副交感神経系に作用する薬物

[9回] 自律神経系に作用する薬物:交感神経系に作用する薬物

[10回] 体性神経系に作用する薬物:運動神経薬、知覚神経薬

[11回] 中枢神経系に作用する薬物:抗パーキンソン病薬、全身麻酔薬など

[12回] 循環器系に作用する薬物:利尿薬、降圧薬など

[13回] 下熱・鎮痛・抗炎症薬:アレルギー・炎症・痛み

[14回] 下熱・鎮痛・抗炎症薬:抗アレルギー薬・抗潰瘍薬・鎮痛薬・抗炎症薬

[15回] その他の薬物:骨・関節に作用する薬物、消毒薬などについて

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

診察診断学[1112010]

科目名	診察診断学[1112010]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	林　洋[看護学部 看護学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 5.0～5.0
教室	①303教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『臨床医学総論　第2版』 奈良信雄(医歯薬出版)2009

参考書:『内科診断学　改訂第16版』 武内重五郎(南江堂)2003

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート

授業の目的および到達目標

本科目では、鍼灸臨床で取り扱う主要症候を取り上げ、これらの症候の病態生理、診察法、検査法を学習し、鑑別診断ができるように鑑別のポイント、プロセスを理解させる。特に鍼灸治療の適応と不適応(禁忌)が的確に判断できるようにする。また、いくつかの症候については、症例を呈示し、グループ検討を行うことで臨床能力を養う。

テーマおよび内容

[1回] 診察の概要

[2回] 診察の方法

[3回] 生命徴候の診察

[4回] 全身の診察(1)

[5回] 全身の診察(2)

[6回] 局所の診察(1)

[7回] 局所の診察(2)

[8回] 局所の診察(3)

[9回] 神経系の診察

[10回] 運動機能検査、その他の診察

[11回] 臨床検査法

[12回] 主な症状の診察法(1)

[13回] 主な症状の診察法(2)

[14回] 主な症状の診察法(3)

[15回] 治療学、臨床心理

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

内科学I[1112020]

科目名	内科学I[1112020]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	田中　滋城[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 4.0～4.0
教室	①401教室

受講条件・その注意

多くの疾患を学び理解が必要であり、予習および特に復習が必要である。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『臨床医学各論』（社）東洋療法協会編　奈良信雄・佐藤千史　他著（医歯薬出版）2010

参考書:『内科学』 杉本恒明・矢崎義雄　総編集（朝倉書店）2007,『わかりやすい内科学』 井村裕夫編（文光堂）2008,
『新臨床内科学』 高久史麿ほか編（医学書院）2009,『病気がみえる（消化器、循環器、糖尿病・代謝・内分泌、呼吸器、血液）』（メデックメディア）2009

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート

授業の目的および到達目標

本科目では、主要な呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患、代謝疾患の概念、原因、症状、診断、治療について学習する。また、現代医学における種々の治療法とそれらの目的および内容などについても学習する。薬物療法、手術療法などの治療法の利点と欠点について理解させる。鍼灸臨床と関連の深い疾患については、とくに重点的に学習する。単に教科書に記載されている項目をたどるだけではなく、基礎から臨床までの関連領域を含む最新の知識を幅広く解説する。

テーマおよび内容

[1 回] 感染症:細菌性感染症（猩紅熱、百日咳、ジフテリア、破傷風、細菌性食中毒、淋菌感染症）

[2 回] 感染症:ウイルス感染症（インフルエンザ、麻疹、流行性耳下腺炎、帯状疱疹）

[3 回] 感染症:性感染症（梅毒、淋病、性器クラミジア感染症、エイズ）

[4 回] 消化管疾患:口腔疾患、食道疾患（食道癌、食道炎）、胃・十二指腸疾患（胃炎）

[5 回] 消化管疾患:胃・十二指腸疾患（胃・十二指腸潰瘍、胃癌）、腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）

[6 回] 消化管疾患:腸疾患（過敏性腸症候群、虫垂炎、大腸癌、腸閉塞）

[7 回] 肝・胆・膵疾患:肝疾患（ウイルス性肝炎、肝硬変、肝細胞癌）

[8 回] 肝・胆・膵疾患:胆道疾患（胆石症）

[9 回] 肝・胆・膵疾患:膵臓疾患（膵炎、膵癌）

[10回] 呼吸器疾患:感染性呼吸器疾患（かぜ症候群、急性気管支炎、肺炎、肺結核）

[11回] 呼吸器疾患:閉塞性肺疾患（肺気腫、慢性気管支炎、気管支喘息）

[12回] 呼吸器疾患:拘束性肺疾患（肺線維症）

[13回] 呼吸器疾患:腫瘍性疾患（肺癌）、その他（気胸、気管支拡張症）

[14回] 腎・泌尿器疾患:原発性糸球体疾患（糸球体腎炎、ネフローゼ症候群）、腎不全（急性、慢性）、感染症（腎盂腎炎、膀胱 炎）

[15回] 腎・泌尿器疾患:腫瘍性疾患（腎細胞癌、膀胱癌）、結石症（腎・尿路結石）、前立 腺疾患（前立腺肥大、前立腺癌）

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

内科学II[1112030]

科目名	内科学II[1112030]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	田中　滋城[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 1.0～1.0
教室	①303教室

受講条件・その注意

多くの疾患を学び理解が必要であり、予習および特に復習が必要である。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『臨床医学各論』(社)東洋療法協会編　奈良信雄・佐藤千史　他著(医歯薬出版)2010

参考書:『内科学』 杉本恒明・矢崎義雄　総編集(朝倉書店)2007,『わかりやすい内科学』 井村裕夫編(文光堂)2008,
『新臨床内科学』 高久史麿ほか編(医学書院)2009,『病気がみえる(消化器、循環器、糖尿病・代謝・内分泌、呼吸器、血液)』(メデックメディア)2009

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート

授業の目的および到達目標

本科目では、主要な血液造血器疾患、腎疾患、自己免疫疾患、アレルギー疾患、感染症の概念、原因、症状、診断、治療について学習する。また、現代医学における種々の治療法とそれらの目的および内容などについても学習する。薬物療法、手術療法などの治療法の利点と欠点について理解させる。鍼灸臨床と関連の深い疾患については、とくに重点的に学習する。単に教科書に記載されている項目をたどるだけではなく、基礎から臨床までの関連領域を含む最新の知識を幅広く解説する。

テーマおよび内容

[1 回] 代謝・栄養疾患:糖代謝異常(糖尿病)

[2 回] 代謝・栄養疾患:脂質代謝異常(脂質異常症、肥満症)

[3 回] 代謝・栄養疾患:尿酸代謝異常(痛風)、その他(ビタミン欠乏症)

[4 回] 循環器疾患:心臓疾患(心不全、心弁膜症:僧帽弁狭窄症、僧帽弁閉鎖不全症、大動脈弁狭窄症、大動脈弁閉鎖不全症)

[5 回] 循環器疾患:冠動脈疾患(狭心症、心筋梗塞)

[6 回] 循環器疾患:動脈疾患(動脈硬化症、大動脈瘤、大動脈解離)

[7 回] 循環器疾患:血圧異常(高血圧、低血圧)

[8 回] 血液・造血・疾患:赤血球疾患(鉄欠乏性貧血、悪性貧血、再生不良性貧血)

[9 回] 血液・造血・疾患:白血球疾患(急性白血病、慢性白血病)

[10回] 血液・造血・疾患:リンパ網内系疾患(悪性リンパ腫)

[11回] 血液・造血・疾患:出血性素因(紫斑病、血友病)

[12回] アレルギー性疾患:食物アレルギー・血清病

[13回] リウマチ性疾患・膠原病:リウマチ性疾患(関節リュウマチ)、膠原病(全身性エリテマトーデス)

[14回] リウマチ性疾患・膠原病:膠原病(強皮症、ベーチェット病)

[15回] 臨床検査基準値:血球検査、血液生化学検査、内分泌検査、血液凝固検査、腫瘍マーカー

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

内科学III[1112040]

科目名	内科学III[1112040]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	田中　滋城[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 1.0～1.0
教室	①401教室

受講条件・その注意

多くの疾患を学び理解が必要であり、予習および特に復習が必要である。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『臨床医学各論』(社)東洋療法協会編　奈良信雄・佐藤千史　他著(医歯薬出版)2010

参考書:『内科学』 杉本恒明・矢崎義雄　総編集(朝倉書店)2007,『わかりやすい内科学』 井村裕夫編(文光堂)2008,
『新臨床内科学』 高久史麿ほか編(医学書院)2009,『病気がみえる(消化器、循環器、糖尿病・代謝・内分泌、呼吸器、血液)』 (メデックメディア)2009

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート

授業の目的および到達目標

本科目では、主要な中枢神経疾患、末梢神経疾患の概念、原因、症状、診断、治療について学習する。また、現代医学における種々の治療法とそれらの目的および内容などについても学習する。薬物療法、手術療法などの治療法の利点と欠点について理解させる。鍼灸臨床と関連の深い疾患については、とくに重点的に学習する。単に教科書に記載されている項目をたどるだけではなく、基礎から臨床までの関連領域を含む最新の知識を幅広く解説する。

テーマおよび内容

[1 回] 神経・内分泌疾患:内分泌総論

[2 回] 神経・内分泌疾患:下垂体疾患(クッシング病、下垂体性低身長症、尿崩症)

[3 回] 神経・内分泌疾患:甲状腺疾患(甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、橋本病)

[4 回] 神経・内分泌疾患:副腎疾患(クッシング症候群、アジソン病、原発性アルドステロン症)

[5 回] 神経・筋疾患:脳血管疾患(脳塞栓、脳血栓)

[6 回] 神経・筋疾患:脳血管疾患(脳出血、クモ膜下出血、一過性脳虚血発作)

[7 回] 神経・筋疾患:感染性疾患(髄膜炎)

[8 回] 神経・筋疾患:脳・脊髄腫瘍(脳腫瘍、脊髄腫瘍)

[9 回] 神経・筋疾患:変性疾患(パーキンソン病、脳性麻痺)

[10回] 神経・筋疾患:認知症(アルツハイマー病、脳血管障害による認知症)

[11回] 神経・筋疾患:筋疾患(重症筋無力症、進行性筋ジストロフィー症)

[12回] 神経・筋疾患:運動ニューロン疾患(筋萎縮性側索硬化症)

[13回] 神経・筋疾患:末梢神経疾患(ギランバレー症候群、絞扼性末梢神経障害、末梢性顔面神経麻痺)

[14回] 神経・筋疾患:神経痛(三叉神経痛、肋間神経痛、座骨神経痛、後頭神経痛)

[15回] 神経・筋疾患:機能性疾患(緊張性頭痛、片頭痛)

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

メンタルヘルスケア学[1112050]

科目名	メンタルヘルスケア学[1112050]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	茶圓　暁美[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 金曜 2.0～2.0
教室	①303教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:なし

参考書:『メンタルヘルスと心理学』 吉武光世・小野瑠美子・窪内節子・山崎洋司共著(学術図書出版社),
『健康とくらしに役立つ心理学』金政祐司・大竹恵子編著(北樹出版)

評価方法・評価割合

出席状況(授業への取り組みも評価の対象とする)、その他(メンタルヘルスの基礎知識の習得度)

授業の目的および到達目標

本科目では、心の健康とは何か、メンタルヘルスの基礎知識を学習する。適度なストレスやプレッシャーは向上心の糧ともなるが、過度なストレスはうつやパニック障害、その他様々な心因性の身体疾患の原因となりうる。ストレス、ストレッサーとは何か、精神的ストレスの評価法とその対処法などについて学習する。特にストレスが身体に及ぼす影響や不調のサイン、対応上の留意点などについて考える。さらにストレスマネジメントの方法、リラクセーション法について理解し、それらを鍼灸臨床に活かせるようにする。

テーマおよび内容

[1 回] こころの健康とは

[2 回] 人間理解

[3 回] こころの発達

[4 回] こころの病気

[5 回] ストレスとつきあう

[6 回] クオリティ・オブ・ライフ(QOL)

[7 回] 痛みについて

[8 回] スポーツとこころの関係

[9 回] 組織の力

[10回] 集団の中で生きる

[11回] 社会的なつながり

[12回] 災害がもたらす影響

[13回] パーソナリティについて

[14回] こころの健康をめざして

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.

整形外科学I(スポーツ医学を含む)[1112060]

科目名	整形外科学I(スポーツ医学を含む)[1112060]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	柚木　脩[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 2.0～2.0
教室	①303教室
資格関連	アスレティックトレーナー

受講条件・その注意

講義では、PP及び標本などで視覚的に展開し、実技も実施するので出席が重要である。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『整形外科学』 松下隆:福林徹(南光堂)

参考書:『整形外科学用語集』 日本整形外科学会編(南光堂)

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況

授業の目的および到達目標

本科目では、主要な運動器疾患(頭頸部、上肢部の骨関節疾患、神経・筋疾患など)の概念、原因、症状、診断、治療について理解し、運動器疾患における診断学を学ぶと共に治療学の概論を学習する。とくに鍼灸臨床と関連の疾患については重点的に学習する。その際、人体構造学(運動器系)と人体機能学の知識の再確認を行うとともにリハビリテーション医学との関連についても理解させる。さらに、スポーツ外傷・障害の基礎知識についても学ぶ。

テーマおよび内容

[1 回] 整形外科とは

[2 回] 運動器の基礎知識(骨・関節の基礎知識)

[3 回] 運動器の基礎知識(筋・靭帯・腱の基礎知識・運動器の科学)

[4 回] 整形外科診察法(姿勢, 体幹と四肢のバランス・跛行)

[5 回] 整形外科診察法(関節拘縮と強直・徒手筋力テスト・知覚の診断・反射)

[6 回] 整形外科的治療法(保存療法)

[7 回] 整形外科的治療法(観血的治療Ⅰ・Ⅱ)

[8 回] 骨・関節損傷総論(骨折総論・関節の損傷)

[9 回] スポーツ整形外科とは・スポーツ外傷・障害総論

[10回] 整形外科的メディカルチェック

[11回] 上肢のスポーツ外傷・障害

[12回] 体幹のスポーツ外傷・障害

[13回] 下肢のスポーツ外傷・障害

[14回] スポーツ活動中の重篤な外傷・年齢性別による特徴(女性、高齢者、発育期、等)

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

整形外科学II[1112070]

科目名	整形外科学II[1112070]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	柚木　脩[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 水曜 4.0～4.0
教室	①303教室

受講条件・その注意
講義では、PPや標本及び実技を中心に展開していくので、出席が重要である。

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書:『整形外科学』 松下隆:福林徹(南光堂)

参考書:『整形外科学用語集』 日本整形外科学会編(南光堂)

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況

授業の目的および到達目標
本科目では、主要な運動器疾患(体幹部、腰殿部、下肢部の骨関節疾患、神経・筋疾患など)の概念、原因、症状、診断、治療について理解し、運動器疾患における診断学を学ぶと共に治療学の概論を学習する。とくに鍼灸臨床と関連の疾患については重点的に学習する。その際、人体構造学(運動器系)と人体機能学の知識の再確認を行うとともにリハビリテーション医学との関連についても理解させる。

テーマおよび内容
[1 回] 疾患別総論Ⅰ(炎症・腫瘍・変性疾患・全身性疾患・骨端症)

[2 回] 疾患別総論Ⅱ(循環障害・神経疾患・筋疾患)

[3 回] 感染性疾患・腫瘍

[4 回] 非感染性軟部・骨関節疾患

[5 回] 全身性の骨・軟部疾患

[6 回] 四肢循環障害、神経・筋疾患

[7 回] 体幹の疾患

[8 回] 肩甲帯の疾患

[9 回] 上腕から肘関節の疾患

[10回] 前腕から手指の疾患

[11回] 骨盤から股関節の疾患

[12回] 大腿から膝関節の疾患

[13回] 下腿から足関節の疾患

[14回] スポーツ障害別各論

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

画像診断学[1112080]

科目名	画像診断学[1112080]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	関　寛之[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 3.0～3.0
教室	①401教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：運動器の画像診断:遠藤健司著、MCメディカ出版

必要により資料配布、スライド、DVD、ビデオなどの視聴覚教材も使用する。

評価方法・評価割合

定期試験

授業の目的および到達目標

本科目では、鍼灸師が医療従事者として医師と適切な連携を図るには、基本的知識が必要であることから、基本的な画像の成り立ちと、鍼灸と関連の深い主要疾患の画像を医師が如何に取り扱っているかについて学ぶ。特に、鍼灸臨床で取り扱うことの多い整形外科疾患においては病態把握を行い、適応と限界を判断するうえでも重要な位置にあることから、脊椎・脊髄疾患、骨関節疾患を中心としてX線写真、造影X線写真、血管造影、CT，MRIなどの画像を医師がどのように判読しているかについて事例を通して学ぶ。

テーマおよび内容

[1 回] 画像診断の基礎知識：単純X線、造影X線、CT、MRI、骨ｼﾝﾁ、ｻｰﾓｸﾞﾗﾌｨｨ

[2 回] 事例検討1：1. 進行性の腰背部痛を訴える高齢者の画像診断

[3 回] 事例検討2，3：2.転倒後股関節痛で歩行不能な患者、3.慢性膝関節痛

[4 回] 事例検討4，5：4. 転倒後に後弯変形が進行 5.スキー捻挫後膝が不安定

[5 回] 事例検討6、7：6.バイク事故で右大腿部の変形 7.長時間歩行で左下肢痛

[6 回] 事例検討8，9：8.拇趾の痛みと変形　9.バイクで転倒して右肩を強打

[7 回] 事例検討10，11：10.両手のしびれと巧緻運動障害 11.進行する右鼠径部痛

[8 回] 事例検討12．13：12.転倒後に右肘関節の変形した小児 13.関節リウマチ

[9 回] 事例検討14，15：14.バドミントンで右肩の激痛 15.2m高より足から落下

[10回] 事例検討16，17：16.飛び降りて殿部で着地 17.自転車で転倒し股関節痛

[11回] 事例検討18：18.腰痛後に左下肢激痛 、左下肢脱力と知覚鈍麻

[12回] 事例検討19：19.サッカーで捻挫後膝関節に引っかかり

[13回] 事例検討20、21：20.交通事故で下腿圧挫創 21.肩から転倒皮下に骨が突出

[14回] 事例検討22：22.柔道部員が腰痛と腰椎変形、下肢のしびれ感

[15回] 事例検討23,24：23.踵の痛み、腫脹 24.足変形、腰痛殿部陥凹、排尿障害

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

外科学[1112090]

科目名	外科学[1112090]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	鈴木　秀一[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 4.0～4.0
教室	①401教室

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：臨床医学総論 （社）東洋療法学校協会編 （株）医歯薬出版，臨床医学各論 （社）東洋療法学校協会編 （株）医歯薬出版

参考書：講義の内容に沿ったプリントを適宜配布する予定である。

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、その他（成績不良者には課題を与え、レポートの提出を求めることがある）

授業の目的および到達目標
本科目では、鍼灸師として必要と考えられる麻酔学および外科学について総合的に学習する。麻酔学においては、特にペインクリニックについて重点的に学習する。また、外科学として術後の管理等の基本について学習し、鍼灸臨床との関連性については事例を通して学習する。講義は、前半は外科学、後半は麻酔学とする。

テーマおよび内容
[1 回] 外科学の歴史と専門分化：紀元前にまで遡る外科学の歴史、19世紀からの外科学の発展、外科的治療技術の進歩と領域別専門分化の過程

[2 回][3 回] 損傷の概論：損傷の定義、創と傷、熱傷と凍傷

[4 回] ショック：ショックの原因別分類、ショックの診断と治療

[5 回] 出血と止血：出血の種類と止血法

[6 回] 外科的感染症：外科で扱う種々の感染症とその治療

[7 回] 救急処置：バイタルサインの見方とその評価、救急処置の実際、心肺蘇生術

[8 回] 全身麻酔：吸入麻酔：吸入麻酔薬、麻酔器の構造

[9 回] 全身麻酔：静脈麻酔：静脈麻酔薬

[10回] 全身麻酔：全身麻酔の手順

[11回][12回][13回][14回] 局所麻酔：脊髄クモ膜下麻酔（脊椎麻酔）、硬膜外麻酔、表面麻酔、浸潤麻酔、神経ブロック

[15回] まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

臨床医学各論I[1112100]

科目名	臨床医学各論I[1112100]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	林　洋[看護学部 看護学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 金曜 3.0～3.0
教室	①401教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『臨床医学各論　第2版』 奈良信雄・佐藤千史　他著(医歯薬出版)2009

参考書:講義で随時指定する

評価方法・評価割合

定期試験、レポート

授業の目的および到達目標

本科目では、鍼灸師として必要な泌尿器科・産婦人科疾患を取り上げ、それらの原因、症状、診断、治療の概要、および性差医療の概要について学習する。特に鍼灸臨床と関連の深い疾患(前立腺肥大、前立腺炎、性機能障害、男女更年期障害、月経異常、男女不妊、乳汁分泌不全、妊娠悪阻など)については、詳細な内容まで学習する。また、老年医学に関しては、老化の概念、老化のメカニズム、疫学、老年者および老年者疾患の特徴について学ぶ。

テーマおよび内容

[1 回] 泌尿器科:総論

[2 回] 泌尿器科:感染症

[3 回] 泌尿器科:尿路結石症

[4 回] 泌尿器科:腫瘍

[5 回] 泌尿器科:前立腺疾患

[6 回] 産婦人科:総論、月経

[7 回] 産婦人科:月経異常

[8 回] 産婦人科:妊娠の生理、不妊症

[9 回] 産婦人科:妊娠の異常

[10回] 産婦人科:分娩の生理と異常

[11回] 産婦人科:中高年女性の健康管理

[12回] 産婦人科:婦人科腫瘍

[13回] 老年医学:老化の概念

[14回] 老年医学:老年病の臨床

[15回] 老年医学:高齢者に特有な症候

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

臨床医学各論II[1112110]

科目名	臨床医学各論II[1112110]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	田中　滋城[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 2.0～2.0
教室	①401教室

受講条件・その注意

多くの疾患を学び理解が必要であり、予習および特に復習が必要である。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『一般臨床医学』(社)全国柔道整復学校協会編　奈良信雄・吉澤靖之・椎名晋一編(医歯薬出版)2009

参考書:『診察と手技がみえる　Vol 1』 古谷伸之　編(メデックメディア)2009

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート

授業の目的および到達目標

本科目では、鍼灸師として必要と思われる眼科疾患、皮膚科疾患を取り上げ、それらの原因、症状、診断、治療の概要について学習する。特に鍼灸臨床と関連の疾患については重点的に学習する。講義は、皮膚科疾患、耳鼻咽頭科、眼科疾患の順番で進める。

テーマおよび内容

[1 回] 皮膚科疾患:総論(色調の変化、発疹、血管拡張、出血斑)

[2 回] 皮膚科疾患:総論(浮腫、発汗、体毛、レイノー現象、掻痒)

[3 回] 皮膚科疾患:接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎

[4 回] 皮膚科疾患:蕁麻疹、湿疹

[5 回] 皮膚科疾患:円形脱毛症

[6 回] 耳鼻科疾患:総論

[7 回] 耳鼻科疾患:メニエール病、中耳炎

[8 回] 耳鼻科疾患:突発性難聴

[9 回] 耳鼻科疾患:アレルギー性鼻炎

[10回] 耳鼻科疾患:副鼻腔炎

[11回] 眼科疾患:総論

[12回] 眼科疾患:結膜炎、角膜炎、麦粒腫

[13回] 眼科疾患:白内障

[14回] 眼科疾患:緑内障

[15回] 眼科疾患:眼精疲労

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

リハビリテーション医学総論[1112120]

科目名	リハビリテーション医学総論[1112120]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	関　寛之[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 金曜 1.0～1.0
教室	①401教室

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：リハビリテーション医学（改定第3版）：三上真弘編、南江堂，必要により資料配布、スライド、DVD、ビデオなどの視聴覚教材も使用する。

参考書：なし

評価方法・評価割合
定期試験

授業の目的および到達目標
リハビリテーションの目的は運動機能障害を治療し、社会復帰と日常生活における障害を軽減することにあり、これらの中には鍼灸治療の対象となりうるものが多く含まれる。本科目ではリハビリテーション医学の基礎となる運動学や動作解析などについて学習する。また、リハビリテーションの概念、歴史、位置づけならびに医学的リハビリテーションの対象、評価、治療法（理学療法、作業療法、装具療法など）について理解させる。

テーマおよび内容
[1回] ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ（以下ﾘﾊと略）の理念：リハの概念と歴史、障害とは何かを学ぶ

[2回] リハの基礎医学（Ⅰ）：関節運動、筋の活動、姿勢・歩行・運動のｺﾝﾄﾛｰﾙ

[3回] リハの基礎医学（Ⅱ）：上肢、下肢、脊柱の運動と機能解剖

[4回] 障害学：関節拘縮・変形、筋萎縮、末梢神経および中枢神経麻痺

[5回] 治療学：関節拘縮・筋萎縮の治療、麻痺筋の再教育、痛の治療

[6回] リハ医学での評価（Ⅰ）：患者のとらえ方、身体計測法、関節可動域測定法

[7回] リハ医学での評価（Ⅱ）：徒手筋力テスト、中枢性運動障害評価法、痙縮の評価

[8回] リハ医学での評価（Ⅲ）：小児運動発達の評価法、協調性の評価法

[9回] リハ医学での評価（Ⅳ）：失認・失行の評価法、心理評価、障害の受容

[10回] リハ医学での評価（Ⅴ）：日常生活動作の評価、電気生理学的診断、画像診断

[11回] リハ治療学の総論（Ⅰ）：理学療法（運動療法、物理療法、牽引・徒手矯正）

[12回] リハ治療学の総論（Ⅱ）：作業療法（身体障害作業療法、精神領域作業療法）

[13回] リハ治療学の総論（Ⅲ）：補装具（義肢・装具の目的と種類、上肢の装具）

[14回] リハ治療学の総論（Ⅳ）：補装具（下肢の装具，体幹の装具）

[15回] リハ治療学の総論（Ⅴ）：補装具（義肢、義手と義足、移動用補助具）

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

リハビリテーション医学各論[1112130]

科目名	リハビリテーション医学各論[1112130]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	関　寛之[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 1.0～1.0
教室	①401教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：リハビリテーション医学（改定第2版）：三上真弘編、南江堂，必要により資料配布、スライド、DVD、ビデオなどの視聴覚教材も使用する。

参考書：なし

評価方法・評価割合

定期試験

授業の目的および到達目標

リハビリテーション医学の目的は運動機能障害を治療し、社会復帰と日常生活における障害を軽減することにあり、これらの中には鍼灸治療の対象となりうるものが多く含まれる。本科目では医学的リハビリテーションの対象疾患である脳血管疾患、脊髄損傷、脳性小児麻痺、閉塞性肺疾患、心疾患などのリハビリテーションについて、評価法、治療法、訓練プログラムなどを重点的に学習し、鍼灸治療と連携がはかれるようにする。

テーマおよび内容

[1 回] リハの実際（疾患別のリハ）：脳卒中（脳卒中の分類・障害、病期別のリハ）

[2 回] リハの実際（疾患別のリハ）：脳卒中言語障害、構音障害と失語症の診断治療

[3 回] リハの実際（疾患別のリハ）：脊髄損傷（病態、合併症と対策、損傷高位別のリハ）

[4 回] リハの実際（疾患別のリハ）：小児疾患（脳性小児麻痺、二分脊椎）

[5 回] リハの実際（疾患別のリハ）：小児疾患（筋ジストロフィ、血友病、心疾患）

[6 回] リハの実際（疾患別のリハ）：切断（切断の原因疾患、切断の原則、義肢装着訓練）

[7 回] リハの実際（疾患別のリハ）：末梢神経損傷（神経の構造、損傷タイプと重症度）

[8 回] リハの実際（疾患別のリハ）：関節リウマチ（RAの診断・治療とリハの位置づけ）

[9 回] リハの実際（疾患別のリハ）：整形外科疾患（腰痛、頸肩腕痛、五十肩）

[10回] リハの実際（疾患別のリハ）：整形外科疾患（変形性関節症、骨折）

[11回] リハの実際（疾患別のリハ）：心疾患（虚血性心疾患の評価法とリハ・プログラム）

[12回] リハの実際（疾患別のリハ）：呼吸器疾患（拘束性換気障害と閉塞性換気障害）

[13回] リハ医学と関連職種の連携：リハビリテーションにおけるチーム医療について

[14回] 高齢者のリハの特徴：廃用症候群に対するリハの取り組み

[15回] リハビリテーションと福祉：国際生活機能分類に基づいたリハ・北欧諸国の対比

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

救急法[1112140]

科目名	救急法[1112140]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	鈴木　秀一[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 4.0～4.0
教室	①404教室

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書：特に指定しない

参考書：救急医学（30巻、10号、2006年9月、臨時増刊号）

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他（成績不良者には課題を与え、レポートの提出を求めることがある）

授業の目的および到達目標

救急を必要とする病態に対し、適切な対処ができるようになることを目的とする。まず、意識障害レベルの判定、出血・呼吸・心拍・脈拍・血圧・瞳孔などの状態確認について学ぶ。次いで、止血法、創傷部位の感染予防処置、気道の確保（異物の除去、下顎挙上法）、人工呼吸法（マウス・トゥー・マウス）、心臓マッサージ、AEDなどについて、各自が実技・実習を十分に行い、手技を確実なものとしていく。

テーマおよび内容

[1 回] 総論：正しい救急処置に求められる根拠と合理性は何か？救急法の基本

[2 回] バイタルサインの見方：呼吸、血圧、脈拍、体温、意識の評価

[3 回] 気道の確保：バイタルサインに異常を来す代表的な救急疾患用手的気道確保と人工呼吸、気道の異物除去

[4 回] 循環の確保：胸骨圧迫心マッサージと電気的除細動

[5 回] 体温のコントロール：低体温に対する対応（加温）、高体温に対する対応（冷却）

[6 回] 頸椎・脊柱の保護：脊柱保護の適応、脊髄損傷を疑う身体所見

[7 回] 外出血の止血法：直接圧迫による止血、支配動脈の圧迫による止血、鼻出血の止血

[8 回] 創の洗浄とデブリードマン：創感染の病態生理、開放創の治療方針、破傷風の予防処置

[9 回] 捻挫・脱臼・骨折の処置：目的と適応、手技

[10回] 実習

[11回] 実習

[12回] 実習

[13回] 実習

[14回] 実習

[15回] まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.

看護の原形論[1112150]

科目名	看護の原形論[1112150]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	金井　一薫[看護学部 看護学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 金曜 2.0～2.0
教室	①401教室

受講条件・その注意

実践からの学びの時間は休まないこと！

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『看護覚え書』F.ナイチンゲール著、湯槇ます他訳(現代社)2011, テキストの他に、参考資料はその都度配布する。

参考書:『ケアの原形論』金井一薫(現代社)2004,『ナイチンゲール看護論・入門』金井一薫(現代社)1993

評価方法・評価割合

レポート

授業の目的および到達目標

当該科目においては、看護と福祉は歴史研究から同根の歴史を持つという視点に立ち、看護の本質を明らかにする。特に、わが国で様々に現象している看護や福祉の姿から、今後のあり方やその展望を思考するに際しての本質論的なものの見方を教示し、鍼灸学科で学ぶ学生たちにとって、職業として共有すべき思考の原点を探っていく。さらに看護の歴史を紐解き、各々の職種が専門職として成立したその過程を、世界と日本とにおいて展望し、その専門性や独自性について様々な理論を紹介しながら追求する。

テーマおよび内容

[1 回] 看護の原形論の骨子:「看護」と「介護」と「ケア」の関係とケア本来の意味について

[2 回] 看護学の構造:看護学原論の目的、看護学の体系・構造、三段重箱の発想

[3 回] 歴史の中の看護の発展(西洋史を中心に):近代看護創設期までの看護の発展史と現代看護の特徴、看護理論の発展の歴史とその内容

[4 回] 歴史の中の看護の発展(日本看護史):日本における看護の発展史と現代の課題について

[5 回] 看護の創設期における思想:ナイチンゲールの生涯とその業績について

[6 回] 看護の目的論:看護とは何かを解く

[7 回] 看護の対象論:看護の対象である人間と生活を解く

[8 回] 看護の方法論:看護の展開過程を解く

[9 回] 実践現場からの学び(1):福祉施設における利用者の生活を知る

[10回] 実践現場からの学び(2):福祉施設におけるケアの実際から学ぶ(1)

[11回] 実践現場からの学び(3):福祉施設におけるケアの実際から学ぶ(2)

[12回] 実践現場からの学び(4):福祉施設におけるケアの実際から学ぶ(3)

[13回] 実践現場からの学び(5):福祉施設における多職種の仕事の実際を知る

[14回] 看護的事例のまとめ方:事例を用いて看護過程展開方法を学ぶ

[15回] 事例のまとめと討議:鍼灸師の立場から、看護実践を通しての学びをまとめる

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

物理療法学[1112160]

科目名	物理療法学[1112160]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	古賀　義久[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 2.0～2.0
教室	①303教室

受講条件・その注意

実習にあたりTシャツ、短パンを準備してください

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書：適宜プリントを配布する

参考書：『物理療法マニュアル』（医歯薬出版），『普及版EBM物理療法』（医歯薬出版）

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目では、鍼灸臨床に関係の深い疾患や病態を取り上げ、それらに使用する物理療法について、その目的、作用、使用法、注意事項などについて学習する。授業ではいくつかの物理療法について体験的に学習させる。用いる機器の特性、効果やリスク管理を学ぶと共に電気刺激、温熱刺激、機械刺激等の各種の刺激特性の生体に対する効果、適応及び禁忌症を知り、物理療法を生体に安全かつ効果的に適用できるよう学習する。

テーマおよび内容

[1 回] 総論：物理療法の概要

[2 回] 機械的療法1：上肢

[3 回] 機械的療法2：下肢

[4 回] 機械的療法3：頭頸部

[5 回] 機械的療法4：胸腹部部

[6 回] 機械的療法5：腰背部

[7 回] 電気療法1：低周波通電　1

[8 回] 電気療法2：低周波通電　2

[9 回] 電気療法3：低周波通電　3

[10回] 電気療法4：超短波・極超短波・超音波

[11回] 光線療法：紫外線療法・赤外線療法・レーザー療法

[12回] 温熱・寒冷療法：ホットパック・パラフィン・極低温療法

[13回] 水治療法・温泉療法：全身浴・部分浴・交代浴

[14回] 運動療法：自動介助運動・自動運動・抵抗運動

[15回] まとめ：各種物理療法のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

栄養学(スポーツ栄養学を含む)[1112170]

科目名	栄養学(スポーツ栄養学を含む)[1112170]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	鈴木　志保子[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 2.0～2.0
教室	①403教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:≪系統看護学講座 専門基礎分野≫人体の構造と機能[3]栄養学(第11版)、医学書院, 新版コンディショニングのスポーツ栄養学、市村出版

参考書:基礎から学ぶスポーツ栄養学、ベースボール・マガジン社, スポーツ栄養マネジメント、日本医療企画

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

栄養学は、食事療法および栄養指導を通して疾病の治療に重要な役割を演じている。食事の適正化によってかなりの疾病が治療可能であり、しかも食事療法は薬物と異なり副作用がない等の利点を有している。本科目では、栄養学の基本と健康維持・増進を図るために必要な合理的な食物摂取の原理などについて理解させる。とくに栄養と健康障害、健康維持と栄養学、年齢に応じた栄養指導、主な疾患に対する食事療法などについて学習する。さらにスポーツと栄養、アスリートの栄養摂取と食生活についても学ぶ。

テーマおよび内容

[1 回] 栄養素の基礎知識1:糖質、脂質、たんぱく質について

[2 回] 栄養素の基礎知識2:ビタミン、ミネラルについて

[3 回] エネルギー代謝:エネルギー代謝を理解する

[4 回] 食事の構成とバランスの良い食事とは:食事の構成についてとバランスの良い食事の知識の習得と実践方法

[5 回] ライフステージと食事・栄養管理:ライフステージによる食事・栄養管理の特徴を理解する

[6 回] スポーツ栄養学とは:スポーツ栄養学の定義等を理解する

[7 回] スポーツ栄養マネジメントとは:スポーツ栄養マネジメントや栄養サポートについて理解する

[8 回] トレーニングとエネルギー消費:トレーニングとエネルギー消費量について理解する

[9 回] アスリートの身体組成:アスリートの身体組成の特徴を理解する

[10回] アスリートの栄養補給1:糖質、脂質について

[11回] アスリートの栄養補給2:たんぱく質について

[12回] アスリートの栄養補給3:ビタミンについて

[13回] アスリートの栄養補給4:ミネラルについて

[14回] 水分補給法:水分摂取の重要性と水分補給法について理解する

[15回] 試合前・当日・後の食事・栄養管理:試合前・当日・後の食事・栄養管理について理解する

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

診療所実習[1112180]

科目名	診療所実習[1112180]
科目区分・科目種	現代医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	田中　滋城[保健医療学部 鍼灸学科]
	林　洋[看護学部 看護学科]
	柚木　脩[保健医療学部 柔道整復学科]
	鈴木　秀一[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	通不定期
教室	①附属クリニック

受講条件・その注意

実習は各グループごとに内科および外科・整形外科の外来にて行う。時間厳守のこと。服装はきちんとし、言葉遣いには十分に注意すること。スタッフの業務の妨げにならないように注意をすること。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書:『臨床医学総論』(社)東洋療法協会編　奈良信雄(医歯薬出版)2009

参考書:なし

評価方法・評価割合

出席状況、レポート

授業の目的および到達目標

本科目では、診療所を見学実習する。現代医学の医療現場の見学を通じて、医療人としての鍼灸師の役割について理解する。特に、鍼灸臨床で扱うことの多い整形外科疾患については、整形外科の医師の問診、診察から診断までの流れや画像診断などを実習・研修し、鍼灸治療の目的を理解する。

テーマおよび内容

[1 回] 診療所実習(外来診療部門:内科;オリエンテーション・医療面接)／田中　滋城・林　洋

[2 回] 診療所実習(外来診療部門:内科;医療面接)／田中　滋城・林　洋

[3 回] 診療所実習(外来診療部門:内科;診察)／田中　滋城・林　洋

[4 回] 診療所実習(外来診療部門:内科;診察)／田中　滋城・林　洋

[5 回] 診療所実習(外来診療部門:内科;臨床検査)／田中　滋城・林　洋

[6 回] 診療所実習(外来診療部門:内科;臨床検査)／田中　滋城・林　洋

[7 回] 診療所実習(外来診療部門:内科;診断・治療)／田中　滋城・林　洋

[8 回] 診療所実習(外来診療部門:内科;診断・治療)／田中　滋城・林　洋

[9 回] 診療所実習(外来診療部門:外科・整形外科;医療面接)／柚木　脩・鈴木　秀一

[10回] 診療所実習(外来診療部門:外科・整形外科;医療面接)／柚木　脩・鈴木　秀一

[11回] 診療所実習(外来診療部門:外科・整形外科;診察)／柚木　脩・鈴木　秀一

[12回] 診療所実習(外来診療部門:外科・整形外科;診察)／柚木　脩・鈴木　秀一

[13回] 診療所実習(外来診療部門:外科・整形外科;画像診断)／柚木　脩・鈴木　秀一

[14回] 診療所実習(外来診療部門:外科・整形外科;画像診断)／柚木　脩・鈴木　秀一

[15回] 診療所実習(外来診療部門:外科・整形外科;画像診断)／柚木 脩・鈴木 秀一

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

東洋医学概論[1113010]

科目名	東洋医学概論[1113010]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	東郷　俊宏[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	通年
曜日・時限	前期 月曜 4.0～4.0
	後期 水曜 3.0～3.0
教室	①404教室

受講条件・その注意

教科書に指定した『東洋医学概論』(東洋療法学校協会編、医道の日本社)は初版から長い時間が経過しているため、学術上は不適切な部分も含まれています。講義ではその点に留意しながら聴講すること。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『東洋医学概論』 東洋療法学校協会編(医道の日本社)

参考書:講義において随時指導する

評価方法・評価割合

定期試験(前学期・後学期)、出席状況、その他(小テストを随時実施)

授業の目的および到達目標

本科目では、現在我が国で実践されている東洋医学の基本的な概念である陰陽説、五行説、経絡説を始め、東洋医学(鍼灸・漢方)で用いられる診断用語、および病態把握の方法論などについて基本的な事項を習得する。東洋医学の理論は、二千年近く前に中国で編纂された『黄帝内経』、『傷寒論』等の医書に基づいているが、これらの医学書は今日の医療で求められている「全人的な身体観」をその思想的基盤としており、これらの概念の学習を通じて、現代の医療で必要とされるホリスティックな医学観についても理解を深めていく。

テーマおよび内容

[1 回] オリエンテーション

[2 回] 東洋医学的身体観1:天人相関論・陰陽論(古代中国の宇宙観)

[3 回] 東洋医学的身体観2:五行論

[4 回] 蔵象学説1:総論

[5 回] 蔵象学説2:五臓(肝・心・脾)

[6 回] 蔵象学説3:五臓(肺・腎)

[7 回] 蔵象学説4:六腑(胆・小腸・胃)

[8 回] 蔵象学説5:六腑(大腸・膀胱・三焦)・奇恒の腑

[9 回] 気血津液1:気

[10回] 気血津液2:血・津液

[11回] 臓腑経絡1:臓腑と経脈との関係

[12回] 臓腑経絡2:経穴について

[13回] 診断論1:四診1(望診・聞診)

[14回] 診断論2:四診2(問診・切診)

[15回] 総括：前期のまとめ

[16回] 病因論1：証とは何か？

[17回] 病因論2：三因（内因・外因・不内外因）について－総論

[18回] 病因論3：外因

[19回] 病因論4：内因・不内外因

[20回] 病因論5：八綱弁証1

[21回] 病因論6：八綱弁証2

[22回] 病因論7：気血津液弁証1

[23回] 病因論8：気血津液弁証2

[24回] 病因論9：臓腑弁証1

[25回] 病因論10：臓腑弁証2

[26回] 病因論11：臓腑弁証3

[27回] 病因論12：臓腑弁証4

[28回] 病因論13：臓腑弁証5

[29回] 病因論14：経脈の病証

[30回] 総括：全体のまとめと理解度チェック

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

経絡経穴学I[1113020]

科目名	経絡経穴学I[1113020]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	矢嶌　裕義[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	通年
曜日・時限	前期 月曜 5.0～5.0
	後期 月曜 2.0～2.0
教室	①404教室 ②404教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『経穴経絡概論』東洋療法学校協会編(医道の日本社)

参考書:なし

評価方法・評価割合

定期試験、その他(講義期間中におこなう小テスト)

授業の目的および到達目標

本科目では、主として経絡経穴学の基本的な概要、取穴法で基準となる寸法(骨度法、同身寸法)、要穴について学習し、奇経八脈の任脈、督脈と十二正経の経穴について学習する。特に十二正経の経穴については、要穴、経穴名の字義・取穴部位・各経穴の作用等について学習する。経穴名と取穴部位を関連させることはもとより、各経穴の部位については、その経穴の目印となる体表から確認することのできる筋、腱、骨、あるいは各経穴の近くを走行する動脈、静脈、神経などもあわせて学習し、体表解剖学、局所解剖学と関連して各経穴を位置づけられるように学習を進める。さらに、鍼灸臨床で扱う疾患と経穴との関連も学習させる。

テーマおよび内容

[1 回] 臓腑経絡論:経穴を学ぶ上で最低限必要な臓腑論の概説

[2 回] 臓腑経絡論:経穴を学ぶ上で最低限必要な陰陽、五行論の概説

[3 回] 意義と流注:経絡の走行を学ぶ

[4 回] 定位と尺度:経穴を取穴するにあたり基準となる長さを学ぶ

[5 回] 特定穴:要穴と呼ばれる治療に重要な意味をもつと考えられている穴について学ぶ

[6 回] 特定穴:要穴と呼ばれる治療に重要な意味をもつと考えられている穴について学ぶ

[7 回] 特定穴:要穴と呼ばれる治療に重要な意味をもつと考えられている穴について学ぶ

[8 回] 特定穴:要穴と呼ばれる治療に重要な意味をもつと考えられている穴について学ぶ

[9 回] 督脈:各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[10回] 督脈:各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[11回] 督脈:各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[12回] 任脈:各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[13回] 任脈:各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[14回] 任脈:各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[15回] 手太陰肺経 :各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[16回] 手太陰肺経 :各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[17回] 手太陰肺経 :各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[18回] 手陽明大腸経：各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[19回] 手陽明大腸経：各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[20回] 手陽明大腸経：各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[21回] 足陽明胃経 ：各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[22回] 足陽明胃経：各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[23回] 足陽明胃経：各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[24回] 足陽明胃経：各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[25回] 足陽明胃経：各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[26回] 足太陰脾経：各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[27回] 足太陰脾経：各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[28回] 足太陰脾経：各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[29回] 手少陰心経：各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[30回] 手少陰心経：各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

経絡経穴学II[1113030]

科目名	経絡経穴学II[1113030]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	矢嶌　裕義[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 3.0～3.0
教室	①303教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『経穴経絡概論』東洋療法学校協会編(医道の日本社)

参考書:なし

評価方法・評価割合

定期試験、その他(講義期間中におこなう小テスト)

授業の目的および到達目標

本科目では、正経およびそれ以外の経脈として奇経八脈・絡脈などについて学習する。特に十二正経の経穴については経絡経穴学Ⅰ同様に、要穴、経穴名の字義・取穴部位・各経穴の作用等について学習する。経穴名と取穴部位を関連させることはもとより、各経穴の部位については、その経穴の目印となる体表から確認することのできる筋、腱、骨、あるいは各経穴の近くを走行する動脈、静脈、神経などもあわせて学習し、体表解剖学、局所解剖学と関連して各経穴を位置づけられるように学習を進める。さらに、鍼灸臨床で扱う疾患と経穴との関連も学習させる。

テーマおよび内容

[1 回] 手太陽小腸経:各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[2 回] 手太陽小腸経:各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[3 回] 足太陽膀胱経:各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[4 回] 足太陽膀胱経:各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[5 回] 足太陽膀胱経:各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[6 回] 足少陰腎経:各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[7 回] 足少陰腎経:各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[8 回] 手厥陰心包経:各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[9 回] 手少陽三焦経:各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[10回] 手少陽三焦経:各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[11回] 足厥陰肝経 :各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[12回] 足厥陰肝経 :各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[13回] 足少陽胆経 :各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[14回] 足少陽胆経 :各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

[15回] 足少陽胆経 :各穴の解剖学的な特徴と鍼灸臨床で扱う疾患との関連を学ぶ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.

取穴学実習I[1113040]

科目名	取穴学実習I[1113040]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	矢嶌　裕義[保健医療学部 鍼灸学科]
	藤本　英樹[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 4.0～4.0
教室	①410実技実習室

受講条件・その注意

実習にあたり、Tシャツ、短パンを準備してください。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書:『経絡経穴概論』 東洋療法学校協会編(医道の日本社)2009, 配布プリント

参考書:『鍼灸師・柔道整復師のための局所カラーアトラス』北村清一郎:大阪大学歯学部口腔解剖学第2講座鍼灸解剖(南江堂)1998,
『針灸学:日中共同編集.経穴篇 第2版』天津中医薬大学:後藤学園(東洋学術出版社)2006,
『運動療法のための機能解剖学的触診技術.上肢』林典雄:青木隆明(メジカルビュー社)2005,
『運動療法のための機能解剖学的触診技術.下肢・体幹』林典雄:青木隆明(メジカルビュー社)2006

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況(授業回数の5分の4以上出席したものを対象に評価を行う)、その他(小テスト)

授業の目的および到達目標

本科目では、経絡経穴学Ⅰで学んだことを中心に実習する。ここでは骨度法の実習を踏まえ、各経脈に所属する経穴を取穴すると同時に、経穴名と取穴部位を関連させて学ぶ。特に取穴学実習で最も重要である奇経八脈の任脈、督脈および経絡経穴学Ⅰで学んだ一部の十二正経に所属する経穴の取穴では、骨度法や同身寸法を基準として取穴を行うため、これら骨度法や同身寸法を体表部から確認し、今後の取穴学実習の基礎を構築する。これらを踏まえた上で各経穴を取穴し、同時に体表解剖・局所解剖とを関連づけ、刺鍼部位の意味を理解する。

テーマおよび内容

[1 回] 督脈の取穴(1):督脈の流注を理解し、筋・腱・骨等の督脈の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。

[2 回] 督脈の取穴(2):督脈の流注を理解し、筋・腱・骨等の督脈の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。

[3 回] 督脈の取穴(3):督脈の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト(1)を実施する。

[4 回] 任脈の取穴(1):任脈の流注を理解し、筋・腱・骨等の任脈の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。

[5 回] 任脈の取穴(2):任脈の流注を理解し、筋・腱・骨等の任脈の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。

[6 回] 任脈の取穴(3):任脈の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト(2)を実施する。

[7 回] 手太陰肺経の取穴(1):手太陰肺経の流注を理解し、筋・腱・骨等の手太陰肺経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。

[8 回] 手太陰肺経の取穴(2):手太陰肺経の流注を理解し、筋・腱・骨等の手太陰肺経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。

[9 回] 手太陰肺経の取穴(3):手太陰肺経の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト(3)を実施する。

[10回] 手陽明大腸経の取穴(1):手陽明大腸経の流注を理解し、筋・腱・骨等の手陽明大腸経の取穴を行う上での基準点を体表から確認し、取穴を行う。

[11回] 手陽明大腸経の取穴(2):手陽明大腸経の流注を理解し、筋・腱・骨等の手陽明大腸経の取穴を行う上での基準点を体表から確認し、取穴を行う。

[12回] 手陽明大腸経の取穴(3):手陽明大腸経の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト(4)を実施する。

[13回] 足陽明胃経の取穴(1):足陽明胃経の流注を理解し、筋・腱・骨等の足陽明胃経の取穴を行う上での基準点を体表から確認し、取穴を行う。

[14回] 足陽明胃経の取穴(2):足陽明胃経の流注を理解し、筋･腱･骨等の足陽明胃経の取穴を行う上での基準点を体表から確認し、取穴を行う。

[15回] 足陽明胃経の取穴(3):手陽明胃経の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト(5)を実施する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

取穴学実習II[1113050]

科目名	取穴学実習II[1113050]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	矢嶌　裕義[保健医療学部 鍼灸学科]
	藤本　英樹[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	通年
曜日・時限	前期 水曜 5.0～5.0
	後期 火曜 4.0～4.0
教室	①411実技実習室

受講条件・その注意

実習にあたり、Tシャツ、短パンを準備してください。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書:『経絡経穴概論』 東洋療法学校協会編(医道の日本社)2009, 配布プリント

参考書:『鍼灸師・柔道整復師のための局所カラーアトラス』北村清一郎:大阪大学歯学部口腔解剖学第2講座鍼灸解剖(南江堂)1998,
『針灸学:日中共同編集.経穴篇 第2版』天津中医薬大学:後藤学園(東洋学術出版社)2006,
『運動療法のための機能解剖学的触診技術.上肢』林典雄:青木隆明(メジカルビュー社)2005,
『運動療法のための機能解剖学的触診技術.下肢・体幹』林典雄:青木隆明(メジカルビュー社)2006

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況(授業回数の5分の4以上出席したものを対象に評価を行う)、その他(小テスト)

授業の目的および到達目標

本科目では、経絡経穴学ⅠおよびⅡで学んだことを中心に実習する。各経穴の部位については、取穴学実習Ⅰと同様に、体表から確認することのできる筋、腱、骨などのランドマークも併せて学習し、体表解剖・局所解剖との関連性を理解する。十二正経の各経穴の取穴後は、経絡経穴学Ⅱにおいて学習したことを中心に実習する。特に各奇経の走行や流注を体表部から確認した後、十二正経の各経穴の取穴同様に奇経を取穴し、体表解剖・局所解剖との関連性に重点を置いて、刺鍼部位の意味を理解する。その後は、経筋の走行や流注も奇経や正経と同様に体表解剖・局所解剖とを関連づけ、経絡の意味を理解する。

テーマおよび内容

[1 回] 足の太陰脾経の取穴(1):足太陰脾経の流注を理解し、筋・腱・骨等の足太陰脾経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。

[2 回] 足の太陰脾経の取穴(2):足太陰脾経の流注を理解し、筋・腱・骨等の足太陰脾経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。

[3 回] 足の太陰脾経の取穴(3):足太陰脾経の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト(1)を実施する。

[4 回] 手少陰心経の取穴(1):手少陰心経の流注を理解し、筋・腱・骨等の手少陰心経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。

[5 回] 手少陰心経の取穴(2):手少陰心経の流注を理解し、筋・腱・骨等の手少陰心経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。

[6 回] 手少陰心経の取穴(3):手少陰心経の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト(2)を実施する。

[7 回] 手太陽小腸経の取穴(1):手太陽小腸経の流注を理解し、筋・腱・骨等の手太陽小腸経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。

[8 回] 手太陽小腸経の取穴(2):手太陽小腸経の流注を理解し、筋・腱・骨等の手太陽小腸経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。

[9 回] 手太陽小腸経の取穴(3):手太陽小腸経の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト(3)を実施する。

[10回] 足太陽膀胱経の取穴(1):手太陽膀胱経の流注を理解し、筋・腱・骨等の手太陽膀胱経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。

[11回] 足太陽膀胱経の取穴(2):手太陽膀胱経の流注を理解し、筋・腱・骨等の手太陽膀胱経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。

[12回] 足太陽膀胱経の取穴(3):手太陽膀胱経の流注を理解し、筋・腱・骨等の手太陽膀胱経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。

[13回] 足太陽膀胱経の取穴(4):手太陽膀胱経の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト(4)を実施する。

[14回] 足少陰腎経の取穴(1):足少陰腎経の流注を理解し、筋・腱・骨等の足少陰腎経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。

[15回] 足少陰腎経の取穴(2):足少陰腎経の流注を理解し、筋・腱・骨等の足少陰腎経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。

[16回] 足少陰腎経の取穴(3):足少陰腎経の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト(5)を実施する。

[17回] 手厥陰心包経の取穴(1):手厥陰心包経の流注を理解し、筋・腱・骨等の手厥陰心包経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。

[18回] 手厥陰心包経の取穴(2):手厥陰心包経の流注を理解し、筋・腱・骨等の手厥陰心包経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。

[19回] 手厥陰心包経の取穴(3):手厥陰心包経の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト(6)を実施する。

[20回] 手少陽三焦経の取穴(1):手少陽三焦経の流注を理解し、筋・腱・骨等の手少陽三焦経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。

[21回] 手少陽三焦経の取穴(2):手少陽三焦経の流注を理解し、筋・腱・骨等の手少陽三焦経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。

[22回] 手少陽三焦経の取穴(3):手少陽三焦経の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト(7)を実施する。

[23回] 足少陽胆経の取穴(1):足少陽胆経の流注を理解し、筋・腱・骨等の足少陽胆経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。

[24回] 足少陽胆経の取穴(2):足少陽胆経の流注を理解し、筋・腱・骨等の足少陽胆経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。

[25回] 足少陽胆経の取穴(3):足少陽胆経の流注を理解し、筋・腱・骨等の足少陽胆経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。

[26回] 足少陽胆経の取穴(4):足少陽胆経の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト(8)を実施する。

[27回] 足厥陰肝経の取穴(1):足厥陰肝経の流注を理解し、筋・腱・骨等の足厥陰肝経の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。

[28回] 足厥陰肝経の取穴(2):足厥陰肝経の流注を理解し、筋・腱・骨等の足厥陰肝経脈の取穴を行う上で必要な基準点を体表から確認し、取穴を行う。

[29回] 足厥陰肝経の取穴(3):足厥陰肝経の経穴を表面解剖、局所解剖を関連付けて理解する。小テスト(9)を実施する。

[30回] まとめ:すべての経絡経穴の取穴を行う。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

刺鍼・施灸手技総論[1113060]

科目名	刺鍼・施灸手技総論[1113060]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	高倉　伸有[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 2.0～2.0
教室	①404教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『はりきゅう理論』(医道の日本社)

参考書:『図解鍼灸臨床手技マニュアル』(医歯薬出版)

評価方法・評価割合

定期試験(筆記試験)、その他(評価の対象は必要出席回数2/3以上を満たした者とする)

授業の目的および到達目標

本科目では、刺鍼・施灸手技および鍼灸用具に関する基礎的知識を学習する。刺鍼手技の基礎をなす刺鍼の方式(切皮の様式)、刺鍼の基本操作(前後の柔捏、押し手や刺し手の形成法等)、基本手技(17手技)を学習するとともに、鍼の基本構造(各部の名称、鍼尖の形状、種類、長さや太さ、材質等)についても理解する。施灸手技についても同様に、施灸手技の基礎をなす灸術の種類(有痕灸、無痕灸)や施灸方法(艾炷の形成方法から点火まで)を学習するとともに、材料である蓬の特徴、モグサの製法、モグサの種類、良質もしくは悪質モグサの鑑別についても理解する。

テーマおよび内容

[1 回] 鍼灸施術の定義と意義について

[2 回] 鍼の構造と鍼管について

[3 回] 古代九鍼について

[4 回] 刺鍼の方式と術式について

[5 回] 鍼施術の手技について

[6 回] 特殊鍼法について

[7 回] 灸の材料、もぐさの品質、灸術の種類について

[8 回] 鍼灸施術の刺激量と個体の感受性について

[9回] 鍼灸療法の適応症と禁忌部位について

[10回] 鍼灸施術に際しての一般的注意事項と鍼灸施術のよる過誤と副作用について(1)

[11回] 鍼灸施術に際しての一般的注意事項と鍼灸施術のよる過誤と副作用について(2)

[12回] 鍼灸施術に際しての一般的注意事項と鍼灸施術のよる過誤と副作用について(3)

[13回] 消毒について

[14回] 感染症について

[15回] 総復習と重要ポイントの再確認

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

鍼灸安全学[1113070]

科目名	鍼灸安全学[1113070]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	木村　友昭[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 4.0～4.0
教室	①401教室

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書：適宜資料を配付する

参考書：鍼灸医療安全ガイドライン　尾崎昭弘・坂本歩／鍼灸安全性委員会編（医歯薬出版株式会社），鍼灸禁忌マニュアル　矢野忠著（医歯薬出版株式会社）

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他（受講態度）

授業の目的および到達目標

本科目では、鍼灸臨床における安全管理の概要と具体的方法について理解することを目的として、(1)鍼灸臨床現場での感染防止対策としての感染症の基礎知識、手指・施術野の消毒法、クリーンニードルテクニック、および器具類の衛生管理の実際　(2)低周波鍼通電装置等の鍼灸臨床に関連する管理医療機器の基礎知識と安全管理の実際　(3)鍼灸治療の禁忌例等の過誤防止のための基礎知識　(4)鍼灸臨床現場において生じ得る有害事象の具体例と、予防・対応策　(5)リスクマネジメントの基本的な考え方とインシデントレポート等の実践方法を中心として、近年国内外で整備されつつある当該分野におけるガイドラインをふまえて学習する。

テーマおよび内容

[1 回]　総論・鍼灸安全学とは

[2 回]　鍼灸医療における感染予防(1)

[3 回]　鍼灸医療における感染予防(2)

[4 回]　鍼灸医療における感染予防(3)

[5 回]　鍼灸医療器具の安全管理(1)

[6 回]　鍼灸医療器具の安全管理(2)

[7 回]　鍼灸臨床施設の安全管理

[8 回]　鍼灸の適応と禁忌

[9 回]　鍼灸臨床における過誤と予防・対応策(1)

[10回]　鍼灸臨床における過誤と予防・対応策(2)

[11回]　鍼灸臨床における有害事象(1)

[12回]　鍼灸臨床における有害事象(2)

[13回]　リスクマネジメントシステム

[14回]　鍼灸カルテとインシデントレポートの活用

[15回]　まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

基礎刺鍼手技実習[1113080]

科目名	基礎刺鍼手技実習[1113080]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	菅原　正秋[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 水曜 1.0～1.0
教室	①410実技実習室

受講条件・その注意

初回の授業で指導する

授業の形態

実習

教科書・参考文献

教科書:『はりきゅう実技　基礎編』東洋療法学校協会編（医道の日本社）

参考書:特になし

評価方法・評価割合

定期試験（実技試験、筆記試験）、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目では、鍼施術における刺鍼手技の基本を習得し、あわせて衛生管理についても学ぶ。刺鍼手技の基本の初期の段階では、管鍼法による刺鍼の手順と方法（前後の揉捏、押手や刺し手の形成法など）を習得する。中期段階においては、刺鍼練習器を用いて直刺、斜刺、横刺などの基本的な刺鍼方法を習得する。後期段階においては、消毒法、クリーンニードルテクニック（衛生的刺鍼法）などの衛生管理の方法を理解させ、自らの身体や学生同士による刺鍼を行い、基本的な刺鍼方法を習得する。

テーマおよび内容

[1 回] 授業概要の説明および鍼施術に用いる用具の紹介

[2 回] 刺鍼の手順および方法

[3 回] 刺鍼練習機を用いた刺鍼および手洗い・手指衛生について

[4 回] 刺鍼練習機を用いた刺鍼および用具の衛生管理について

[5 回] 刺鍼練習機を用いた刺鍼および感染性廃棄物の処理について

[6 回] 自身の下腿部への刺鍼および施術における諸注意について

[7 回] 自身の下腿部への刺鍼およびクリーンニードルテクニックについて

[8 回] 自身および他者の下腿部への刺鍼

[9 回] 自身および他者の下腿部への刺鍼および鍼治療の有害事象について

[10回] 他者の下腿部への刺鍼および有害事象への対処法について

[11回] 他者の下腿部への刺鍼（直刺）

[12回] 他者の前腕部および下腿部への刺鍼（直刺）

[13回] 他者の前腕部および下腿部への刺鍼（斜刺）

[14回] 他者の前腕部および下腿部への刺鍼（水平刺）

[15回] まとめ・復習

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

応用刺鍼手技実習[1113090]

科目名	応用刺鍼手技実習[1113090]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	菅原　正秋[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 3.0～3.0
教室	①410実技実習室

受講条件・その注意

初回の授業で指導する

授業の形態

実習

教科書・参考文献

教科書:『はりきゅう実技　基礎編』東洋療法学校協会編(医道の日本社)

参考書:特になし

評価方法・評価割合

定期試験(中間、期末:実技試験)、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

本科目では、身体各部(頭部・頸部・顔面部・上肢・背部・腹部・下肢)への刺鍼について実習する。また、刺鍼中の手技として17種類の手技についても実習する。加えて、身体各部に存在する経穴近傍にある血管、神経、内臓などの重要臓器に損傷を与え、医療過誤を引き起こすことがないよう刺鍼上の諸注意を理解し、過誤を未然に防ぐ鍼施術のスキルを身につける。なお、身体各部への刺鍼では取穴学実習と関連づけ、経穴の解剖学的位置を理解し、その部位に刺鍼するようなかたちで実習を行う。

テーマおよび内容

[1 回] 授業概要の説明および1年次の復習

[2 回] 身体各部(おもに上肢・下肢)の刺鍼と刺鍼中の手技(17手技) その1

[3 回] 身体各部(おもに上肢・下肢)の刺鍼と刺鍼中の手技(17手技) その2

[4 回] 身体各部(おもに上肢・下肢)の刺鍼と刺鍼中の手技(17手技) その3

[5 回] 頭部の経穴への刺鍼

[6 回] 頚部の経穴への刺鍼

[7 回] 胸腹部の経穴への刺鍼

[8 回] 背部の経穴への刺鍼

[9 回] 上肢の経穴への刺鍼

[10回] 上肢の経穴への刺鍼

[11回] 上肢の経穴への刺鍼

[12回] 下肢の経穴への刺鍼

[13回] 下肢の経穴への刺鍼

[14回] まとめ・復習1

[15回] まとめ・復習2

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

特殊鍼療法実習[1113100]

科目名	特殊鍼療法実習[1113100]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	菅原　正秋[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 3.0～3.0
教室	①410実技実習室

受講条件・その注意

初回の授業で指導する

授業の形態

実習

教科書・参考文献

教科書：適宜プリントを配布する

参考書：授業の中で紹介する

評価方法・評価割合

定期試験（実技試験、筆記試験）、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目では、低周波鍼通電療法（SSP、TENS含む）、小児鍼、皮内鍼、円皮鍼、灸頭鍼、良導絡などの特殊鍼法について学習する。とくに臨床上、主要な治療法である低周波鍼通電療法についての実習では、その理論と実際（筋パルス、神経パルスなど）について学び、鍼鎮痛を目的とした方法や血行動態（自律神経系）に影響を及ぼす方法などを理解する。これらの方法論を理解した上で、臨床応用が可能となるような技術（刺鍼技術や低周波治療器の取り扱い方法）を実習により習得する。

テーマおよび内容

[1 回] 授業概要の説明および前学期の復習

[2 回] 皮内鍼および円皮鍼の実際

[3 回] 小児鍼の実際

[4 回] 良導絡治療の実際

[5 回] 低周波鍼通電療法　概論

[6 回] 低周波鍼通電療法　筋パルス　その1

[7 回] 低周波鍼通電療法　筋パルス　その2

[8 回] 低周波鍼通電療法　筋パルス　その3

[9 回] 低周波鍼通電療法　筋パルス　その4

[10回] 低周波鍼通電療法　筋パルス　その5

[11回] 低周波鍼通電療法　神経パルス　その1

[12回] 低周波鍼通電療法　神経パルス　その2

[13回] 灸頭鍼の実際

[14回] まとめ・復習1

[15回] まとめ・復習2

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

触診解剖と刺鍼手技[1113110]

科目名	触診解剖と刺鍼手技[1113110]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	徳竹　忠司[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 1.0～1.0
教室	①401教室

授業の形態

実習

教科書・参考文献

教科書：資料を配布する。

参考書：『分担解剖学(改訂第11版)第1巻』金原出版株式会社 ，『四肢・脊柱の機能解剖(改訂第5版)』 協同医書出版社
『カパンディ関節の生理学(第1版)』医歯薬出版株式会社 ，『局所解剖学アトラス(第1版)』文光堂
『人体解剖学カラーアトラス(第2版)』南江堂 ，『臨床に役立つ生体の観察 体表解剖と局所解剖(第2版)』医歯薬出版株式会社
『画像診断に必要なMRI解剖図譜(第1版)』MEDICALVIEW ，『筋骨格系検査法(第2版)』医歯薬出版株式会社
『新編 美術解剖図譜(新編第1版)』東京芸術大学美術解剖学教室編

評価方法・評価割合

定期試験(実技試験)

授業の目的および到達目標

本科目では、鍼灸臨床において必要となる体表解剖学・局所解剖学の知識を確認しつつ、身体各部の触察について学習する。とくに臨床上重要な部位を選定し、触察することで解剖学的構造(骨、筋・神経・血管など)を理解し、触察技術を習得する。その上で、特定の部位(筋や神経の走行上)へ的確に刺鍼できるようにする。その際、特に適応疾患と関連させ、その重要性を理解する。また、神経・血管の近傍への刺鍼では、その安全性について配慮できるように理解を深める。

テーマおよび内容

[1 回] 総論：局所療法における触察・刺鍼の意義、snapping palpation

[2 回] 頚肩部①：僧帽筋肩上部線維の触察と鍼通電　伏臥位

[3 回] 頚肩部②：僧帽筋肩上部線維の触察と鍼通電　伏臥位

[4 回] 頚肩部③：僧帽筋頚部線維の触察と鍼通電　伏臥位

[5 回] 頚肩部④：僧帽筋肩上部線維の触察と鍼通電　側臥位

[6 回] 頚肩部⑤：僧帽筋頚部線維の触察と鍼通電　側臥位

[7 回] 末梢神経①：総腓骨神経の触察と鍼通電

[8 回] 頚肩部⑥：僧帽筋中部線維の触察と鍼通電

[9 回] 頚肩部⑦：胸鎖乳突筋の触察と鍼通電

[10回] 頚肩部⑧：肩甲挙筋・板状筋の触察と鍼通電

[11回] 肩甲間部①：菱形筋・僧帽筋下部線維の触察と鍼通電

[12回] 肩甲間部①：菱形筋・僧帽筋下部線維の触察と鍼通電

[13回] 肩関節①：棘下筋・小円筋の触察と鍼通電

[14回] 肩関節②：大円筋・広背筋・上腕三頭筋長頭の触察と鍼通電

[15回] 末梢神経②：橈骨神経の触察と鍼通電

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

基礎施灸手技実習[1113120]

科目名	基礎施灸手技実習[1113120]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	矢嶌　裕義[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 4.0～4.0
教室	①411実技実習室

授業の形態

実習

教科書・参考文献

教科書：(社)東洋療法学校協会編『はりきゅう実技(基礎編)』(医道の日本社)

参考書：特になし

評価方法・評価割合

定期試験(実技試験)、その他(施灸練習の取り組み方：授業回数の5分の4以上出席した者に対して評価を行う)

授業の目的および到達目標

本科目では、施灸における施灸手技の基本を習得し、あわせて消毒の実際も学ぶ。施灸手技の基本の初期段階では、もぐさの捻り方、艾炷の形成の仕方、点火の仕方等を習得する。中期および後期段階においては、もぐさ燃焼温度測定機器を用いて形成した艾炷の温度を測定し、一定の大きさおよび一定の硬度で艾炷を形成させる事を習得する。

テーマおよび内容

[1 回] 施灸について

[2 回] もぐさの捻り方、艾炷の形成の仕方

[3 回] もぐさの捻り方、艾炷の形成の仕方

[4 回] もぐさの捻り方、艾炷の形成の仕方

[5 回] 点火の仕方

[6 回] 点火の仕方

[7 回] 灸温度センサーを用いての練習

[8 回] 灸温度センサーを用いての練習

[9 回] 灸温度センサーを用いての練習

[10回] 灸温度センサーを用いての練習

[11回] 灸温度センサーを用いての練習

[12回] 灸温度センサーを用いての練習

[13回] 灸温度センサーを用いての練習

[14回] 灸温度センサーを用いての練習

[15回] 灸温度センサーを用いての練習

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.

臨床施灸手技実習[1113130]

科目名	臨床施灸手技実習[1113130]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	矢嶌　裕義[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 水曜 2.0～2.0
教室	①411実技実習室

授業の形態

実習

教科書・参考文献

教科書：(社)東洋療法学校協会編『はりきゅう実技(基礎編)』(医道の日本社)

参考書：なし

評価方法・評価割合

定期試験(実技)、その他(施灸練習の取り組み方：授業回数の5分の4以上出席した者に対して評価を行う)

授業の目的および到達目標

本科目では、身体各部(頭部・上肢部・下肢部・背部・腹部)への施灸について実習する。身体各部への施灸では取穴学実習と関連づける。また身体各部に存在する経穴近傍にある血管、神経幹、内臓器等の重要臓器に損傷を与え、医療過誤を引き起こす事がないよう施灸上の諸注意を学習するとともに、過誤を未然に防ぐ灸技術のスキル(火傷を起こしにくい透熱灸の施灸技術など)を習得する。

テーマおよび内容

[1 回] 連続施灸の練習

[2 回] 連続施灸の練習

[3 回] 連続施灸の練習

[4 回] 知熱灸の練習

[5 回] 知熱灸の練習

[6 回] 知熱灸の練習

[7 回] 身体各部位への施灸練習

[8 回] 身体各部位への施灸練習

[9 回] 身体各部位への施灸練習

[10回] 身体各部位への施灸練習

[11回] 身体各部位への施灸練習

[12回] 身体各部位への施灸練習

[13回] 身体各部位への施灸練習

[14回] 身体各部位への施灸練習

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.

応用施灸手技実習[1113140]

科目名	応用施灸手技実習[1113140]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	古賀　義久[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 1.0～1.0
教室	①411実技実習室

受講条件・その注意

実習にあたり必要に応じてTシャツ、短パンを準備してください

授業の形態

実習

教科書・参考文献

教科書:『はりきゅう実技　基礎編』 東洋療法学校協会編(医道の日本社)

参考書:『図解鍼灸臨床手技マニュアル』(医歯薬出版),『はりきゅう理論』(医道の日本社)

評価方法・評価割合

定期試験(実技試験)、その他(施灸練習の取り組み方:授業回数の5分の4以上出席した者に対して評価を行う)

授業の目的および到達目標

本科目は、焦灼灸、知熱灸、隔物灸(しょうが灸、にんにく灸、塩灸)、温灸(棒灸、間接灸)等の技術および、家伝の灸等の特殊な灸法について実習する。これらは家庭でもできる灸法であることから、一般市民に対する指導法についても習得する。

テーマおよび内容

[1 回] 総論:各種応用施灸の概要

[2 回] 知熱灸1:目的・注意事項。温度センサーを用いた練習

[3 回] 知熱灸2:知熱灸の身体各部位への施灸練習 ①

[4 回] 知熱灸3:知熱灸の身体各部位への施灸練習 ②

[5 回] 隔物灸1:目的・注意事項。温度センサーを用いた練習

[6 回] 隔物灸2:隔物灸の身体各部位への施灸練習 ①

[7 回] 隔物灸3:隔物灸の身体各部位への施灸練習 ②

[8 回] 隔物灸4:隔物灸の身体各部位への施灸練習 ③

[9 回] 温灸1:目的・注意事項。温度センサーを用いた練習

[10回] 温灸2:温灸の身体各部位への施灸練習 ①

[11回] 温灸3:温灸の身体各部位への施灸練習 ②

[12回] 電気灸1:目的・注意事項。温度センサーを用いた練習

[13回] 電気灸2:電気灸の身体各部位への施灸練習 ①

[14回] 焦灼灸・打膿灸:目的・注意事項。温度センサーを用いた練習

[15回] 授業のまとめ:各種応用施灸のまとめと練習

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

鍼灸施術と運動法[1113150]

科目名	鍼灸施術と運動法[1113150]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	藤井　亮輔[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 金曜 4.0～4.0
教室	①410実技実習室

受講条件・その注意

解剖学（運動器）、運動学に関する知識を基礎とした臨床に直結する科目なので、関連領域の

授業の形態

実習

教科書・参考文献

教科書：なし

参考書：藤井亮輔. オーバーユースのスポーツ傷害. エンタプライズ社

評価方法・評価割合

定期試験（30%）、出席状況（40%）、その他（授業態度30%）

授業の目的および到達目標

本科目では、鍼灸臨床において、臨床効果を高めるために、鍼灸治療の補助的な運動法や患者に対する指導法として用いる運動法の意義、運動法を行う際の適応と禁忌、運動法の実際について学習する。内容は、可動域訓練、ストレッチ、筋力増強運動などで、整形外科疾患、神経性疾患、慢性疼痛性疾患などから主要な疾患や症状を取り上げ、実習する。特に、腰痛、肩こり、五十肩、変形性膝関節症など鍼灸臨床で遭遇しやすい疾患や症状について、鍼灸臨床に応用できるようにするとともに、患者に説明し、指導できるようにする。

テーマおよび内容

[1 回] 運動療法の基礎：身体の基本面、運動軸、関節運動の表現法など、運動療法を行う上で必須の知識を体験的に学ぶ。

[2 回] 関節の構造と機能（上肢）：運動療法の基礎として上肢帯及び上肢の主な関節の構造と機能を学習する。

[3 回] 関節の構造と機能（下肢）：運動療法の基礎として下肢帯及び下肢の主な関節の構造と機能を学習する。

[4 回] 上肢の主な関節の可動域制限に対する評価と運動療法：肩関節、肘関節、手関節の運動制限に対する各種評価法と他動的可動域訓練法の実際を学習する。

[5 回] 下肢の主な関節の可動域制限に対する評価と運動療法：股関節、膝関節、足関節の運動制限に対する各種評価法と他動的可動域訓練法の基本を学習する。

[6 回] 主な関節に対する関節モビライゼーション1：関節モビライゼーションに必要な関節運動学に関する基本事項を学習する。手関節に対する関節モビライゼーションの実際を体験的に学習する。

[7 回] 主な関節に対する関節モビライゼーション2：肩関節、肘関節に対する関節モビライゼーションの実際を体験的に学習する。

[8 回] 主な関節に対する関節モビライゼーション3：膝関節、股関節に対する関節モビライゼーションの実際を体験的に学習する。

[9 回] 筋力評価の基礎と実際：徒手筋力検査（MMT）の考え方を解説し、上肢と下肢の主な筋に対する評価の実際を学習する。

[10回] 筋力低下に対する運動療法の実際：上肢及び下肢の筋力低下に対する筋力増強訓練の実際を学習する。

[11回] 肩・肘の痛みに対する運動療法と鍼施術：五十肩やテニス肘など上肢の疼痛性疾患に対する運動療法と鍼灸療法の実際を学習する。

[12回] 腰下肢の痛みに対する運動療法と鍼施術1：腰痛やに対するテーピング、運動療法及び鍼灸療法の複合施術の実際を学習する。

[13回] 腰下肢の痛みに対する運動療法と鍼施術2：坐骨神経痛、膝OAの痛みに対する運動療法と鍼灸療法の複合施術の実際を学習する。

[14回] 片麻痺の維持期リハビリテーション1：脳卒中片麻痺に対する回復段階評価と維持期リハの実際を、歩行訓練を中心に学習する。

[15回] 片麻痺の維持期リハビリテーション2：脳卒中片麻痺に対する維持期リハの実際を、移乗動作や介助方法を中心に学習する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

鍼灸治効理論[1113160]

科目名	鍼灸治効理論[1113160]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	高倉　伸有[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	通年
曜日・時限	前期 木曜 5.0～5.0
	後期 水曜 3.0～3.0
教室	①303教室 ②405教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『はりきゅう理論』東洋療法学校協会編(医道の日本社)

参考書:標準生理学(医学書院), 感覚生理学(金芳堂), 神経生理学(金芳堂)

評価方法・評価割合

定期試験(筆記試験)、その他(評価の対象は必要出席回数2/3以上を満たした者とする)

授業の目的および到達目標

本科目では、まず鍼灸刺激による生体の反応についてこれまでに国内外で報告された研究成果を理解できることを目標に学習をすすめる。鍼灸刺激が各種の生体機能に及ぼす影響(鎮痛効果・循環改善効果・筋緊張緩和効果・生体防御効果等)を示した報告は数多く存在する。これらの内容を理解するために必要な神経生理学を中心とした各種基礎知識を学習する。その上で鍼灸治療の作用機序について、それまでに学んだ知識をふまえて理解する。更に、今後の鍼灸治療に必要な基礎的な研究についても理解を深める。

テーマおよび内容

[1 回] 神経系の基礎(1):鍼灸治効理論を理解するために必要な基礎

[2 回] 神経系の基礎(2):感覚の分類と体性感覚

[3 回] 神経系の基礎(3):皮膚受容器

[4 回] 神経系の基礎(4):神経線維の分類

[5 回] 神経系の基礎(5):脊髄の概要

[6 回] 神経系の基礎(6):伝導路(後索路・脊髄視床路)

[7 回] 鍼灸治効の基礎(1):痛みの分類

[8 回] 鍼灸治効の基礎(2):鍼鎮痛のメカニズム

[9 回] 鍼灸治効の基礎(3):鍼鎮痛のメカニズム

[10回] 鍼灸治効の基礎(4):鍼鎮痛のメカニズム

[11回] 鍼灸治効の基礎(5):鍼鎮痛のメカニズム

[12回] 鍼灸治効の基礎(6):鍼鎮痛のメカニズム

[13回] 鍼灸治効の基礎(7):鍼鎮痛のメカニズム

[14回] 鍼灸治効の基礎(8):鍼鎮痛のメカニズム

[15回] 前学期の復習

[16回] 鍼灸の一般治効理論(1):自律神経系の概要

[17回] 鍼灸の一般治効理論(2):自律神経系の概要

[18回] 鍼灸の一般治効理論(3):交感神経

[19回] 鍼灸の一般治効理論(4):交感神経

[20回] 鍼灸の一般治効理論(5):交感神経

[21回] 鍼灸の一般治効理論(6):副交感神経

[22回] 鍼灸の一般治効理論(7):交感神経と副交感神経との関係

[23回] 鍼灸の一般治効理論(8):体性神経反射

[24回] 鍼灸の一般治効理論(9):自律神経反射

[25回] 鍼灸の一般治効理論(10):鍼と自律神経反射

[26回] 鍼灸の一般治効理論(11):鍼と体性神経反射

[27回] 鍼灸刺激と生体防衛:炎症と免疫系

[28回] 関連学説(1):(サイバネティックス学説・ストレス学説など)

[29回] 関連学説(2):(サイバネティックス学説・ストレス学説など)

[30回] 後学期の復習

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

鍼灸治効理論演習[1113170]

科目名	鍼灸治効理論演習[1113170]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	高倉　伸有[保健医療学部 鍼灸学科]
	木村　友昭[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 5.0～5.0
教室	①401教室

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:『はりきゅう理論』東洋療法学校協会編(医道の日本社)

参考書:東洋医学を学ぶ人のために(医学書院), 鍼灸臨床の科学(医歯薬出版), Clinical acupuncture (Springer), 感覚生理学(金芳堂), 神経生理学(金芳堂), その他関連文献

評価方法・評価割合

出席状況(評価の対象は必要出席回数2/3以上を満たした者とする)、レポート、その他(実習態度、発表)

授業の目的および到達目標

本科目では、鍼灸刺激が生体機能に影響を及ぼすことを示した報告をテーマとして取り上げ、学生はそれらの要点をまとめて発表することを通して鍼灸の治効機序を理解する。テーマの選定やまとめに必要な各種文献の検索方法も併せて学び、学生が自主性をもって学びたい報告を検索し、要点の発表を実施できるようにする。発表形式はグループ発表とし、発表後は、学生同士の討論を行う。各グループで数編の報告をした後、それらを総合し、各グループで検討した鍼灸の治効機序を発表し、個別の報告発表と同様に学生同士の討論を行う。

テーマおよび内容

[1 回] 鍼灸刺激と受容器・求心性神経:鍼灸刺激によって興奮する受容器と神経線維について

[2 回] 鍼灸刺激と受容器・求心性神経:鍼灸刺激によって興奮する受容器と神経線維について

[3 回] 鍼鎮痛:鍼刺激による鎮痛効果とそのメカニズムについて

[4 回] 鍼鎮痛:鍼刺激による鎮痛効果とそのメカニズムについて

[5 回] 鍼鎮痛:鍼刺激による鎮痛効果とそのメカニズムについて

[6 回] 鍼刺激と自律神経反射:鍼灸刺激による自律神経反射の変化とそのメカニズムについて

[7 回] 鍼刺激と自律神経反射:鍼灸刺激による自律神経反射の変化とそのメカニズムについて

[8 回] 鍼刺激と自律神経反射:鍼灸刺激による自律神経反射の変化とそのメカニズムについて

[9 回] 鍼刺激と体性神経反射:鍼灸刺激による自律神経反射の変化とそのメカニズムについて

[10回] 鍼刺激と体性神経反射:鍼灸刺激による自律神経反射の変化とそのメカニズムについて

[11回] グループ発表準備:テーマの選定と文献検討

[12回] グループ発表準備:グループ討論・発表資料の作成

[13回] グループ発表準備:グループ討論・発表資料の作成

[14回] グループ発表:発表と討論

[15回] グループ発表:発表と討論

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

鍼灸治効理論基礎実習[1113180]

科目名	鍼灸治効理論基礎実習[1113180]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	高倉　伸有[保健医療学部 鍼灸学科]
	木村　友昭[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 2.0～2.0
教室	①410実技実習室

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書:『はりきゅう理論』東洋療法学校協会編(医道の日本社)

参考書:東洋医学を学ぶ人のために(医学書院), 鍼灸臨床の科学(医歯薬出版), Clinical acupuncture (Springer), その他関連文献

評価方法・評価割合

出席状況(評価の対象は必要出席回数4/5以上を満たした者とする)、レポート、授業中の課題(発表)、その他(実習態度)

授業の目的および到達目標

本科目では、鍼灸治効理論で取り上げた報告から実習に適切な課題を精選し、これらについて小グループによる追試的な実験実習を行う。このことを通して、科学における基本概念のひとつである再現性についてを理解する。また同様の実験をすることにより、研究目的に応じた各種の実験手法の適応と限界についてを学ぶ。このように実際に鍼灸刺激の生体に及ぼす効果を実験により体験させ、鍼灸治療の効果に対する実証的な態度を習得する。

テーマおよび内容

[1 回] 鍼灸刺激と感覚:鍼刺激による痛みなどの感覚をVAS(Visual analogue scale)にて評価する

[2 回] 鍼灸刺激と感覚:鍼刺激による痛みなどの感覚をVASにて評価する

[3 回] 鍼灸刺激と感覚:鍼刺激による痛みなどの感覚をVASにて評価する

[4 回] 鍼灸刺激と鎮痛効果:通電刺激による痛みの変化をVASにて評価する

[5 回] 鍼灸刺激と鎮痛効果:通電刺激による痛みの変化をVASにて評価する

[6 回] 鍼灸刺激と鎮痛効果:通電刺激による痛みの変化をVASにて評価する

[7 回] 鍼灸刺激と自律神経反射:循環機能に対する鍼灸の効果について

[8 回] 鍼灸刺激と自律神経反射:循環機能に対する鍼灸の効果について

[9 回] 鍼灸刺激と自律神経反射:循環機能に対する鍼灸の効果について

[10回] 鍼灸刺激と体性神経反射:相動性または持続性体性神経反射に対する鍼灸の効果について

[11回] 鍼灸刺激と体性神経反射:相動性または持続性体性神経反射に対する鍼灸の効果について

[12回] 鍼灸刺激と体性神経反射:相動性または持続性体性神経反射に対する鍼灸の効果について

＊班ごとに各テーマの実習をローテーションで受講(順不同)

[13回] まとめと発表

[14回] まとめと発表

[15回] まとめと発表

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

最新鍼灸治効理論演習[1113190]

科目名	最新鍼灸治効理論演習[1113190]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	高倉　伸有[保健医療学部 鍼灸学科]
	木村　友昭[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前期
教室	①別途連絡

授業の形態
演習(共同)

授業の目的および到達目標
本科目では、最新の鍼灸に関する臨床および基礎研究論文を教材として呈示し、現在、どのような研究が行われているのか、またその研究に至るまでの経緯等を学ぶ。鍼灸治効理論演習同様に小グループを編成して呈示された研究論文の経緯や要点を発表し、その後は、学生同士の討論を行う。学生同士の討論を通してデスカッションの能力を習得する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

中医診断学[1113200]

科目名	中医診断学[1113200]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	戴　昭宇[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 1.0～1.0
教室	①303教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『東洋医学概論』(東洋療法学校協会編、医道の日本社)

参考書:『鍼灸学・基礎編』 (劉公望ら編集、東洋学術出版社)、他は随時に提示する

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他(数回の小テスト)

授業の目的および到達目標

本科目では中医診断学の基本を学習する。特に基本的な四診法(望診・聞診・問診・切診)について学習するとともに、動画などを用い、演習ならびに小グループでの実習を通じて、各診断技術を実践的に習得する。とりわけ、鍼灸臨床の場で有用だと思われる耳鍼・手鍼・眼鍼・小児鍼の治療に関連した中医眼診法・小児指紋診法・耳穴診断法などについても提示する。

テーマおよび内容

[1 回] 中医学とその診療の特徴:中医学と鍼灸医療との関係、中医診断学の特徴

[2 回] 望診1:全身の望診(神・色・形・態の把握)

[3 回] 望診2:舌診・舌質の望診とその実習

[4 回] 望診3:舌診・舌苔の望診とその実習

[5 回] 望診4:耳穴診断の概要、演習と実習

[6 回] 望診5:耳穴治療学の概要、小児指紋診法

[7 回] 望診6:眼診と眼鍼療法の概要

[8 回] 切診1:脈診の概要、実習

[9 回] 切診2:脈診と按診の応用、実習

[10回] 切診3:腧穴診断の現状ならびにその応用

[11回] 聞診、問診1:聞診および基本情報の問診

[12回] 問診2:疼痛の問診とそれに基づいた診断

[13回] 問診3:系統的問診から情報分析

[14回] 四診合参:中医カルテと四診の総合的応用

[15回] 定期試験:定期試験及び授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

中医診断学実習[1113210]

科目名	中医診断学実習[1113210]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	戴　昭宇[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 3.0～3.0
教室	①303教室

授業の形態

実習

教科書・参考文献

教科書:『東洋医学概論』(東洋療法学校協会編、医道の日本社)

参考書:『鍼灸学・基礎編』 (劉公望ら編集、東洋学術出版社)、他はその都度提示する

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他(数回の小テスト)

授業の目的および到達目標

本科目では、四診(望診・聞診・問診・切診)の学習内容を踏まえ、中医学的弁証スタイルの病態把握法(病因弁証・八綱弁証・気血津液弁証・臓腑弁証・経絡弁証など)について学習する。とりわけ「証」という概念とその構成要素、弁証の意義とその方法・手順について、反復した症例の演習と実習を通じて、逐次に解説して習得する。また、最近の保健医療における「未病治」という課題に対しても、中医学的診察から病態判断に至るまでの方法論を提示する。

テーマおよび内容

[1 回] 弁証総説:証と弁証、弁病について

[2 回] 病因弁証:病因理論、病因弁証とその演習

[3 回] 八綱弁証:症例からみた八綱弁証とその演習

[4 回] 気血津液弁証:気血津液理論、気血津液弁証とその演習

[5 回] 臓腑弁証1:心、小腸の生理病理と弁証演習

[6 回] 臓腑弁証2:肺、大腸の生理病理と弁証演習

[7 回] 臓腑弁証3:脾胃の生理病理と弁証演習

[8 回] 臓腑弁証4:肝胆の生理病理と弁証演習

[9 回] 臓腑弁証5:腎、膀胱の生理病理と弁証演習

[10回] 経絡弁証1:経絡理論、経絡弁証の概要

[11回] 経絡弁証2:経絡弁証の臨床応用演習

[12回] 六経弁証:六経弁証の概要と鍼灸臨床おける応用

[13回] 衛気営血弁証と三焦弁証:衛気営血弁証・三焦弁証の概要とその応用

[14回] 中医体質理論と未病治:体質と個体特性、未病状態に対する中医診断

[15回] 定期試験と授業のまとめ:定期試験及び授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

中医診断学演習[1113220]

科目名	中医診断学演習[1113220]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	戴　昭宇[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 3.0～3.0
教室	①401教室

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書:『東洋医学概論』(東洋療法学校協会編、医道の日本社), プリント

参考書:『鍼灸学・臨床編』(劉公望ら編集、東洋学術出版社),『中医鍼灸臨床発揮』(李世珍ら著、東洋学術出版社), 他は随時提示する

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他(数回の小テスト)

授業の目的および到達目標

本科目では、中医診断学講義、実習の内容を踏まえ、四診による診断情報の収集から、弁証による治療方針の決定までのプロセスを習得し、臨床実習に対応できる診断能力を養うことを目的とする。すなわちまず中医学的なカルテの概要、構成を理解し、その上で疾患ごとに代表的な症例を呈示し、これらに対する弁証診断の演習を通じて、四診から弁証による治療方針決定までのプロセスを自分自身でできるようになるまで学習する。さらに、代表的な症例を呈示して、その症例についてどのような病証が立てられるか、弁証のプロセスを理解するとともに弁証の基本的な診察能力を習得する。

テーマおよび内容

[1 回] ケーススタディー 1. 病因弁証の演習:弁証求因と審因論治

[2 回] ケーススタディー 2. 八綱弁証の演習1:表証と裏証の弁別

[3 回] ケーススタディー 3. 八綱弁証の演習2:寒証と熱証の弁別

[4 回] ケーススタディー 4. 八綱弁証の演習3:虚証と実証の弁別

[5 回] ケーススタディー 5. 気血津液弁証の演習1:気病と血病に対する鍼灸治療

[6 回] ケーススタディー 6. 気血津液弁証の演習2:痰・飲・水・湿の鑑別診断

[7 回] ケーススタディー 7. 臓腑弁証の演習1:五臓病の弁証診断について

[8 回] ケーススタディー 8. 臓腑弁証の演習2:六腑病の弁証診断について

[9 回] ケーススタディー 9. 臓腑弁証の演習3:臓腑雑病の弁証診断について

[10回] ケーススタディー10. 経絡弁証の演習1:経脈の病証診察について

[11回] ケーススタディー11. 経絡弁証の演習2:絡病に対する鍼灸治療

[12回] ケーススタディー12. 経絡弁証の演習3:奇経の病証に対する診療

[13回] ケーススタディー13. 六経弁証の演習:鍼灸の臨床における六経弁証

[14回] ケーススタディー14. 中医的体質診断の演習:鍼灸による未病治と体質改善

[15回] まとめ:総括と質疑応答

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

鍼灸古典診断学[1113230]

科目名	鍼灸古典診断学[1113230]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	松本　弘巳[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 4.0～4.0
教室	①303教室 ②411実技実習室

受講条件・その注意
必要に応じて実習を行うので、白衣着用が望ましい

授業の形態
演習

教科書・参考文献
教科書：各授業ごとにプリントを配布して進める

参考書：『鍼灸臨床のための素問・霊枢医学』松本弘巳著、たにぐち書店 2005

評価方法・評価割合
レポート

授業の目的および到達目標
本科目では、日本の伝統的な古典に基づく鍼灸治療について学習する。古典医学である素問・難経について現代の鍼灸臨床の視点から解説し、理解を深める。経絡経穴経筋、疾病観、脈診、望診について学習すると共に、特に、日本の鍼灸治療における代表的な診断法である腹証について、基礎から臨床までの診察治療体系について実習も交えて学習する。更に、古典に見られる刺鍼技術についても実習を交えて学習する。

テーマおよび内容
[1 回] 日本の鍼灸：日本の鍼灸医学の特徴。 鍼灸臨床と東西医学。

[2 回] 中国医学の形成：中国医学の形成に影響を与えた要因。

[3 回] 中国医学の理解(1)：中国思想 ①気・陰陽・中・和・過・不及・邪などの概略。②局所と全体治療，胃之気・脾胃論。

[4 回] 中国医学の理解(2)：①気，陰陽，三陰三陽，五行，養性②五蔵六腑，経絡，臓象，血気精神③多く見られた症状(主に風と痺)。

[5 回] 診察法－1 脈診(1)：脈診の意義，脈診の種類。

[6 回] 診察法－1 脈診(2)：脈診の実際を学ぶ。

[7 回] 診察法－2 望診(1)：望診－目的別の活用法を学ぶ。

[8 回] 診察法－2 望診(2)：望診の実際を学ぶ。

[9 回] 診察法－3 腹診(1)：西洋医学の腹診と東洋医学の腹診の違い。

[10回] 診察法－3 腹診(2)：腹診と臓象およびその周辺，腹診と背診，腹診と治療。

[11回] 診察法－3 腹診(3)：腹診と治療について。

[12回] 刺鍼技術(1回目)：中国と日本の刺鍼技術の変遷と現状。

[13回] 刺鍼技術(2回目)：生体反応を治癒力に導くための経験。

[14回] 刺鍼技術(3回目)：刺鍼技術と生体反応。感受性について。

[15回] まとめ：東洋医学(鍼灸)を現代に活用するために必要な対応。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

東洋医学古典講読[1113240]

科目名	東洋医学古典講読[1113240]
科目区分・科目種	鍼灸医学の基礎
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	東郷　俊宏[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前期
教室	①別途連絡

授業の形態
演習

授業の目的および到達目標
本科目では、東洋医学の基本的な古典文献資料の読解を通じ、二千年以上の歴史をもつ東洋医学の基礎理論、診断体系および疾病観、身体観について理解を深めることを目的とする。具体的には、中国の古典文献を読むための基礎的な知識（辞書・各種工具書の使用法、古典漢語の文法体系）を習得した後に、現在の東洋医学の成り立ちを知る上で重要な文献（『黄帝内経』、『難経』、『傷寒論』、『千金方』、『十四経発揮』）を精選し、原文（白文）で読むことができるように指導を行う。また東洋医学の成立には、中国古代の思想文化が大きく関与していることから、これらの事項についても、関連する文献の読解を行い、東洋医学の理解を深める。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

内科臨床鍼灸学I[1114010]

科目名	内科臨床鍼灸学I[1114010]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	野口　栄太郎[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後期
曜日・時限	後期 金曜 5.0～5.0
教室	①411実技実習室

授業の形態

実習

教科書・参考文献

教科書：なし

参考書：講義内で順次紹介する

評価方法・評価割合

定期試験（講義に内容に関連した国家試験に準じた筆記試験）

授業の目的および到達目標

本科目では、内科学で学習した内容を踏まえて、鍼灸臨床と関連の深い疾患を取り上げ、学習するとともに、鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習により習得する。その際、現代医学の視点からみた病態と適応、限界、禁忌の判断ができるように学習を進める。更に、診察の仕方と診察によって得られた所見に基づいた治療法について学習する。また、鍼灸治療の効果の評価についても学ぶ。ここでは主に呼吸器・循環器系疾患、消化器系疾患について学習する。

テーマおよび内容

[1 回] 鼻閉・鼻汁

[2 回] 咳嗽・痰

[3 回] 喘息

[4 回] 呼吸困難

[5 回] 高血圧

[6 回] 胸痛

[7 回] 腹痛

[8 回] 悪心・嘔吐

[9 回] 便秘・下痢

[10回] 食欲不振

[11回] 下血

[12回] 肥満・やせ

[13回] 冷え・のぼせ

[14回] 浮腫

[15回] 全身の疲労と倦怠

各回のテーマとなっている、呼吸器・循環器・消化器の症候および全身性の症候について、原因となる疾患の概要を講義する。各症候については、ベッドサイドにおける観察方法および鍼灸治療によるアプローチの方法を実習する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

内科臨床鍼灸学II[1114020]

科目名	内科臨床鍼灸学II[1114020]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	粕谷　大智[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 4.0～4.0
教室	①401教室

受講条件・その注意

授業は実技を中心とするが、治療法や効果機序説明のためPCによるプロジェクターを使用予定。

授業の形態

実習

教科書・参考文献

教科書：教科書は特に使用しない。レジメを（A4で2枚程度）毎回配布する。

参考書：なし

評価方法・評価割合

レポート（40%）、その他（授業に臨む姿勢60%）

授業の目的および到達目標

本科目では、内科学で学習した内容を踏まえて、鍼灸臨床と関連の深い疾患を取り上げ、それらに対する東洋医学的な病証について学習するとともに、鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習により習得する。その際、現代医学の視点からみた病態と適応、限界、禁忌の判断ができるように学習を進める。更に、診察の仕方と診察によって得られた所見に基づいた治療法について学習する。また、鍼灸治療の効果の評価についても学ぶ。ここでは主に自己免疫疾患、アレルギー疾患、血液・造血器疾患について学習する。

テーマおよび内容

[1 回] 東京大学医学部附属病院リハビリテーション部鍼灸部門の紹介

[2 回] 自己免疫疾患1：関節リウマチ（1）

[3 回] 自己免疫疾患1：関節リウマチ（2）

[4 回] 自己免疫疾患1：関節リウマチ（3）

[5 回] 自己免疫疾患1：関節リウマチ（4）

[6 回] 自己免疫疾患2：膠原病（1）

[7 回] 自己免疫疾患2：膠原病（2）

[8 回] 自己免疫疾患3：糖尿病　足病変に対するフットケア（1）

[9 回] 自己免疫疾患3：糖尿病　足病変に対するフットケア（2）

[10回] 自己免疫疾患3：糖尿病　足病変に対するフットケア（3）

[11回] 自己免疫疾患3：糖尿病　足病変に対するフットケア（4）

[12回] 自己免疫疾患3：糖尿病　インスリン抵抗性に対する鍼灸治療

[13回] 自己免疫・アレルギー疾患：脱毛症（1）

[14回] 自己免疫・アレルギー疾患：脱毛症（2）

[15回] アレルギー性疾患：アトピー性皮膚炎

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

神経内科臨床鍼灸学[1114030]

科目名	神経内科臨床鍼灸学[1114030]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	山口　智[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 5.0～5.0
	後期 月曜 6.0～6.0
教室	①410実技実習室

受講条件・その注意

・骨、筋肉、神経、血管などの解剖学的知識がベースとなるので事前に学習しておくこと。
・実習にあたる時間はTシャツ、短パンなど軽装であること。

授業の形態

実習

教科書・参考文献

教科書：適宜資料を配布する

参考書：臨床神経病学（医学書院）

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目では、鍼灸臨床と関連の深い、神経内科疾患を取り上げ、それらに対する東洋医学的な病証について学習するとともに、鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習により習得する。その際、現代医学の視点からみた病態と適応、限界、禁忌の判断ができるように学習する。更に、診察の仕方と診察によって得られた所見に基づいた治療法について学習する。また、鍼灸治療の効果の評価についても学ぶ。ここでは主に脳血管障害（脳梗塞、脳出血など）、神経変性疾患（パーキンソン病など）、機能性疾患（頭痛、神経痛、顔面神経麻痺など）について学習する。

テーマおよび内容

[1 回] 脳血管障害（1）：疾患の概要、臨床症状、病態、診察・評価、鍼灸治療の意義、適応

[2 回] 脳血管障害（2）：疾患の概要、臨床症状、病態、診察、鍼灸治療（1）

[3 回] 脳血管障害（3）：診察法、鍼灸治療（2）

[4 回] 脳血管障害（4）：診察法、鍼灸治療（3）

[5 回] パーキンソン病（1）：疾患の概要、臨床症状、病態、診察・評価、鍼灸治療の意義、適応

[6 回] パーキンソン病（2）：診察、鍼灸治療

[7 回] 頭痛（1）：疾患の概要、臨床症状、病態、診察・評価、鍼灸治療の意義、適応

[8 回] 頭痛（2）：疾患の概要、臨床症状、病態、診察、鍼灸治療（1）

[9 回] 頭痛（3）：診察法、鍼灸治療（2）

[10回] 頭痛（4）：診察法、鍼灸治療（3）

[11回] 顔面神経麻痺（1）：疾患の概要、臨床症状、病態、診察・評価、鍼治療の意義、適応

[12回] 顔面神経麻痺（2）：診察、鍼灸治療

[13回] 神経痛：三叉神経痛、診察・評価、鍼灸治療

[14回] 神経痛：高等神経痛、診察・評価、鍼灸治療

［15回］ まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

整形外科臨床鍼灸学I[1114040]

科目名	整形外科臨床鍼灸学I[1114040]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	坂井　友実[保健医療学部 鍼灸学科]
	山口　智[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 4.0～4.0
	前期 月曜 5.0～5.0
	前期 月曜 6.0～6.0
教室	①401教室 ②410実技実習室

受講条件・その注意

・骨、筋肉、神経、血管などの解剖学的知識がベースとなるので事前に学習しておくこと。
・実習にあたる時間はTシャツ、短パンなど軽装であること。

授業の形態

実習(オムニバス)

教科書・参考文献

教科書:適宜資料を配布する

参考書:『標準整形外科学』 鳥巣武彦、国分正一、総編集(医学書院),『頚部の痛み』 寺山和雄、片岡浩、監修(南江堂),
『腰痛診療のコツ』 菊地臣一(永井書店)

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

本科目では整形外科学で学習した疾患や症状についての現代医学的な概念、診察・検査、診断、治療方法等の内容をふまえ、特に鍼灸臨床と関連の深い疾患等について鍼灸治療の立場からのアプローチの実際について学ぶ。東洋医学的病証とともに、鍼灸臨床で重要となる医療面接や身体診察、病態把握と類似疾患の鑑別、適応・不適応の判断、治療方針及び治療法、評価法等を習得することを目標とする。鍼灸治療の方法についてはシミュレーション実習を行う。本科目は主として頸肩腕痛と腰下肢痛についてオムニバス方式で行う。

(坂井　友実／15回)
頚肩腕痛を呈する頸部の整形外科疾患を取り上げ、学習する。主な疾患は頸椎症、頸椎椎間板ヘルニア、外傷性頸部症候群、胸郭出口症候群などである。

(山口　智／15回)
腰下肢痛を呈する腰部の整形外科疾患を取り上げ、学習する。主な疾患は腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、いわゆる腰痛症、骨粗鬆症などである。

テーマおよび内容

[1 回] 頚椎症・頚椎椎間板ヘルニア(1)疾患の解説、病態、診察・評価、鍼灸治療の意義、適応／坂井　友実

[2 回] 頚椎症・頚椎椎間板ヘルニア(2)診察法の実際(理学的検査と評価)と鍼灸治療(1)／坂井　友実

[3 回] 頚椎症・頚椎椎間板ヘルニア(3)診察法の実際(理学的検査と評価)と鍼灸治療(2)／坂井　友実

[4 回] 頚椎症・頚椎椎間板ヘルニア(4)診察法の実際(頚椎の触診)と関節刺鍼／坂井　友実

[5 回] 頚椎症・頚椎椎間板ヘルニア(5)低周波鍼通電療法(1)／坂井　友実

[6 回] 頚椎症・頚椎椎間板ヘルニア(6)低周波鍼通電療法(2)／坂井　友実

[7 回] 胸郭出口症候群(1)疾患の解説、病態、診察・評価、鍼灸治療の意義、適応／坂井　友実

[8 回] 胸郭出口症候群(2)診察法の実際(理学的検査と評価)と鍼治療(1)／坂井　友実

[9 回] 胸郭出口症候群(3)診察法の実際(理学的検査と評価)と鍼治療(2)／坂井　友実

[10回] 胸郭出口症候群(4)鍼治療(3)／坂井　友実

[11回] 外傷性頸部症候群(1)疾患の解説、病態、診察・評価、鍼灸治療の意義、適応／坂井　友実

[12回] 外傷性頸部症候群(2)鍼灸治療／坂井　友実

[13回] 頚肩腕症候群・肩こり(1)疾患の解説、病態、診察・評価、鍼灸治療の意義、適応／坂井　友実

[14回] 頚肩腕症候群・肩こり(2)低周波鍼通電療法／坂井　友実

[15回] まとめ／坂井　友実

[16回] 腰痛症(1)疾患の解説、病態、診察・評価、鍼灸治療の意義、適応／山口　智

[17回] 腰痛症(2)診察法の実際(理学的検査と評価)と鍼灸治療／山口　智

[18回] 腰痛症(3)低周波鍼通電療法(1)／山口　智

[19回] 腰痛症(4)低周波鍼通電療法(2)／山口　智

[20回] 腰椎椎間板ヘルニア(1)疾患の解説、病態、診察・評価、鍼灸治療の意義、適応／山口　智

[21回] 腰椎椎間板ヘルニア(2)診察法の実際(理学的検査と評価)と鍼灸治療／山口　智

[22回] 腰椎椎間板ヘルニア(3)低周波鍼通電療法(1)／山口　智

[23回] 腰椎椎間板ヘルニア(4)低周波鍼通電療法(2)／山口　智

[24回] 腰部脊柱管狭窄症(1)疾患の解説、病態、診察・評価、鍼灸治療の意義、適応／山口　智

[25回] 腰部脊柱管狭窄症(2)診察法の実際(理学的検査と評価)と鍼灸治療／山口　智

[26回] 腰部脊柱管狭窄症(3)低周波鍼通電療法(1)／山口　智

[27回] 腰部脊柱管狭窄症(4)低周波鍼通電療法(2)／山口　智

[28回] 骨粗鬆症(1)疾患の解説、病態、診察・評価、鍼灸治療の意義、適応／山口　智

[29回] 骨粗鬆症(2)鍼灸治療／山口　智

[30回] まとめ／山口　智

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

整形外科臨床鍼灸学II[1114050]

科目名	整形外科臨床鍼灸学II[1114050]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	水出　靖[保健医療学部 鍼灸学科]
	野口　栄太郎[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 金曜 4.0～4.0
	前期 金曜 5.0～5.0
教室	①401教室

受講条件・その注意

解剖学、整形外科学、経絡経穴学などについて、テーマに関連した事項を復習しておくこと。

授業の形態

実習(オムニバス)

教科書・参考文献

教科書:なし

参考書:「現代鍼灸臨床の実際 改訂第2版」松本勅,医歯薬出版,2009年,「東洋医学臨床論」教科書編纂委員会編,1993年,医道の日本社

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

本科目では整形外科学で学習した疾患や症状についての現代医学的な概念、診察・検査、診断、治療方法等の内容をふまえ、特に鍼灸臨床と関連の深い疾患等について鍼灸治療の立場からのアプローチの実際について学ぶ。東洋医学的病証とともに、鍼灸臨床で重要となる医療面接や身体診察、病態把握と類似疾患の鑑別、適応・不適応の判断、治療方針及び治療法、評価法等を習得することを目標とする。鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習を行う。本科目は四肢の関節疾患についてオムニバス方式で行う。

(水出　靖／15回)
肩関節、肘関節、手関節の疾患を取り上げ学習する。主な疾患は肩関節周囲炎、肘部管症候群、テニス肘、手根管症候群などである。

(野口　栄太郎／15回)
股関節、膝関節、足関節の疾患を取り上げ学習する。主な疾患は変形性股関節症、変形性膝関節症、足根管症候群などである。

テーマおよび内容

[1 回] 肩関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(1)／水出　靖
[2 回] 肩関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(2)／水出　靖
[3 回] 肩関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(3)／水出　靖
[4 回] 肩関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(4)／水出　靖
[5 回] 肩関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(5)／水出　靖
[6 回] 肩関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(6)／水出　靖
[7 回] 肘関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(1)／水出　靖
[8 回] 肘関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(2)／水出　靖
[9 回] 肘関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(3)／水出　靖
[10回] 肘関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(4)／水出　靖
[11回] 手・手関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(1)／水出　靖

[12回] 手・手関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(2)／水出　靖
[13回] 手・手関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(3)／水出　靖
[14回] 手・手関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(4)／水出　靖
[15回] まとめ／水出　靖
[16回] 股関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(1)／野口 栄太郎
[17回] 股関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(2)／野口 栄太郎
[18回] 股関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(3)／野口 栄太郎
[19回] 股関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(4)／野口 栄太郎
[20回] 股関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(5)／野口 栄太郎
[21回] 膝関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(1)／野口 栄太郎
[22回] 膝関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(2)／野口 栄太郎
[23回] 膝関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(3)／野口 栄太郎
[24回] 膝関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(4)／野口 栄太郎
[25回] 膝関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(5)／野口 栄太郎
[26回] 足・足関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(1)／野口 栄太郎
[27回] 足・足関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(2)／野口 栄太郎
[28回] 足・足関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(3)／野口 栄太郎
[29回] 足・足関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(4)／野口 栄太郎
[30回] 足・足関節部の疾患や愁訴の鍼灸臨床(5)／野口 栄太郎

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

理学的検査法実習I[1114060]

科目名	理学的検査法実習I[1114060]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	坂井　友実[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 2.0～2.0
教室	①410実技実習室

受講条件・その注意

・骨、筋肉、神経、血管などの解剖学的知識がベースとなるので事前に学習しておくこと。
・実習にあたる時間はTシャツ、短パンなど軽装であること。

授業の形態

実習

教科書・参考文献

教科書：適宜資料を配布する。

参考書：『標準整形外科学』 鳥巣武彦、国分正一、総編集（医学書院），『頚部の痛み』 寺山和雄、片岡浩、監修（南江堂），
『腰痛診療のコツ』 菊地臣一（永井書店）

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目では、理学的検査法について、その目的・意義・方法・判定法などを学習する。医療は患者の病態に応じて方針をたて治療を行うことが必要となるが、病態を把握するための手段が制約を受ける鍼灸臨床においては、徒手による検査・評価が必要不可欠である。各検査項目について、その解釈の歴史的な経緯、解剖学や運動学をふまえた検査のメカニズムや信頼性・妥当性を理解するとともに、実習を通してそれらの検査方法の実際を学習することにより、正確で安全な検査を実行できることを目標とする。主として頭頸部、上肢部の理学的検査法を取り扱う。

テーマおよび内容

［1 回］ 頚部整形外科疾患と理学的検査：頚椎症、胸郭出口症候群、病態把握、診察法

［2 回］ 頚部整形外科疾患と理学的検査：各種の理学テストの解説と実際①

［3 回］ 頚部整形外科疾患と理学的検査：各種の理学テストの解説と実際②

［4 回］ 頚部整形外科疾患と理学的検査：ベッドサイドで行う神経学的検査（知覚、筋力、反射）①

［5 回］ 頚部整形外科疾患と理学的検査：ベッドサイドで行う神経学的検査（知覚、筋力、反射）②

［6 回］ 頚部整形外科疾患と理学的検査：総括（理学テストと神経学検査法）

［7 回］ 腰部整形外科疾患と理学的検査：腰椎椎間板ヘルニア、病態把握、診察法

［8 回］ 腰部整形外科疾患と理学的検査：各種の理学テストの解説と実際①

［9 回］ 腰部整形外科疾患と理学的検査：各種の理学テストの解説と実際②

［10回］ 腰部整形外科疾患と理学的検査：ベッドサイドで行う神経学的検査（知覚、筋力、反射）①

［11回］ 腰部整形外科疾患と理学的検査：ベッドサイドで行う神経学的検査（知覚、筋力、反射）②

［12回］ 間欠跛行と理学的検査：神経性と血管性、病態、診察法①

［13回］ 間欠跛行と理学的検査：神経性と血管性、病態、診察法②

［14回］ 腰下肢痛と理学的検査：総括（理学テストと神経学的検査法）

［15回］ まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

理学的検査法実習II[1114070]

科目名	理学的検査法実習II[1114070]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	水出　靖[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 金曜 3.0～3.0
教室	①410実技実習室

受講条件・その注意

・解剖学的知識がベースとなるので事前に復習しておくこと。
・なるべく当該部位の露出が可能な服装で出席すること。

授業の形態

実習

教科書・参考文献

教科書：適宜資料を配布する。

参考書：『標準理学療法学　理学療法評価学』 内山靖編（医学書院）2006,『目でみる運動機能療法』 竹内義亨、澤田規（南光堂）2005,
『エビデンスに基づく整形外科徒手検査法』 柳澤健、赤坂清和監訳（エルゼビアジャパン）2007

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目では、理学的検査法について、その目的・意義・方法・判定法などを学習する。医療は患者の病態に応じて方針をたて治療を行うことが必要となるが、病態を把握するための手段が制約を受ける鍼灸臨床においては、徒手による検査・評価が必要不可欠である。各検査項目について、その解釈の歴史的な経緯、解剖学や運動学をふまえた検査のメカニズムや信頼性・妥当性を理解するとともに、実習を通してそれらの検査方法の実際を学習することにより、正確で安全な検査を実行できることを目標とする。主として体幹部、腰臀部、下肢部の関節の理学的検査法を取り扱う。

テーマおよび内容

[1 回] 総論：関節の診察の概要、理学的検査の意義と信頼性

[2 回] 測定法（1）：関節可動域（ROM）、四肢長および周径

[3 回] 測定法（2）：徒手筋力検査法（MMT）

[4 回] 肩関節の検査法（1）：主な疾患、病態把握、各種の理学テスト①

[5 回] 肩関節の検査法（2）：各種の理学テスト②

[6 回] 肩関節の検査法（3）：各種の理学テスト③

[7 回] 肘関節の検査法（1）：主な疾患、病態把握、各種の理学テスト①

[8 回] 肘関節の検査法（2）：各種の理学テスト②

[9 回] 手および指関節の検査法：主な疾患、病態把握、各種の理学テスト

[10回] 股関節の検査法：主な疾患、病態把握、各種の理学テスト

[11回] 膝関節の検査法（1）：主な疾患、病態把握、各種の理学テスト①

[12回] 膝関節の検査法（2）：各種の理学テスト②

[13回] 膝関節の検査法（3）：各種の理学テスト③

[14回] 足関節の検査法：主な疾患、病態把握、各種の理学テスト

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

臨床効果の評価法[1114080]

科目名	臨床効果の評価法[1114080]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	水出　靖[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 3.0～3.0
教室	①401教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：適宜資料を配布する。

参考書：「リハビリテーション評価データブック」道免和久編集,医学書院,2010

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目では、鍼灸臨床で遭遇することの多い疾患や症状、ADL（Activity of daily living；日常生活動作）・QOL（Quality of life；生活の質）に関する評価尺度や治療効果判定基準について、その目的、種類・内容・使用法・判定方法を学習し、これらを用いた評価を行うことのできる能力を習得する。適切な臨床判断をするためには、臨床効果の正確な評価が不可欠である。授業では、提示された事例を実際に評価する演習を行うことで、より実践的な能力を身につける。

テーマおよび内容

[1 回] 臨床評価の意義・方法

[2 回] 疼痛の評価法

[3 回] ADL・QOLの評価

[4 回] 整形外科領域の評価(1)

[5 回] 整形外科領域の評価(2)

[6 回] 整形外科領域の評価(3)

[7 回] 整形外科領域の評価(4)

[8 回] 整形外科領域の評価(5)

[9 回] 神経内科領域の評価

[10回] 内科領域の評価

[11回] 泌尿器科領域の評価

[12回] 産科・婦人科領域の評価

[13回] 心療内科領域の評価

[14回] その他の評価

[15回] まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.

眼科・耳鼻科・歯科臨床鍼灸学[1114090]

科目名	眼科・耳鼻科・歯科臨床鍼灸学[1114090]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	安野　富美子[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前期
教室	①別途連絡

授業の形態
実習(オムニバス)

授業の目的および到達目標
本科目では、眼科・耳鼻科・歯科で学習した内容を踏まえて、鍼灸臨床と関連の深い疾患を取り上げ、それらに対する東洋医学的な病証について学習するとともに、鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習により習得する。その際、現代医学の視点からみた病態と適応、限界、禁忌の判断ができるように理解を深める。また、診察の仕方と診察によって得られた所見に基づく治療法について学習する。更に、鍼灸治療の効果の評価についても学ぶ。本科目はオムニバス方式で行う。 (安野　富美子／3回)眼科領域の鍼灸治療。眼精疲労、仮性近視、緑内障など。 (粕谷　大智／6回)耳鼻科領域の鍼灸治療。耳鳴、難聴、アレルギー性鼻炎など。 (岡村　興一／6回)歯科領域の鍼灸治療。歯痛、顎関節症、歯肉炎など。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

泌尿器・皮膚科臨床鍼灸学[1114100]

科目名	泌尿器・皮膚科臨床鍼灸学[1114100]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	小俣　浩[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前期
教室	①別途連絡

授業の形態
実習

授業の目的および到達目標
本科目では、泌尿器科・皮膚科で学習した内容を踏まえて、鍼灸臨床と関連の深い疾患を取り上げ、それらに対する東洋医学的な病証について学習するとともに、鍼灸治療の方法についてシュミレーション実習により習得する。その際、現代医学の視点からみた病態と適応、限界、禁忌の判断ができるように学習する。更に、診察の仕方と診察によって得られた所見に基づいた治療法について学習する。また、鍼灸治療の効果の評価についても学ぶ。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

レディース臨床鍼灸学[1114110]

科目名	レディース臨床鍼灸学[1114110]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	安野　富美子[保健医療学部 鍼灸学科]
	辻内　敬子[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 4.0～4.0
教室	①401教室

受講条件・その注意

白衣着用のこと。

授業の形態

実習

教科書・参考文献

教科書：レディース鍼灸学、矢野忠監修、医歯薬出版

参考書：疾患別治療大百科　シリーズ7　産婦人科疾患、早乙女智子他、医道の日本社，冷え外来、川嶋朗、医歯薬出版

評価方法・評価割合

定期試験（実技試験）、出席状況、その他（小テスト）

授業の目的および到達目標

本科目では、東西医学からみた女性の身体の捉え方と診方、女性のライフサイクルに応じたヘルスプロモーションと鍼灸治療、およびマイナートラブルケアと鍼灸治療について学習する。特に、鍼灸臨床と関連の深い特定の女性科疾患や愁訴を取り上げ、それらに関係する現代医学的な病態および東洋医学的な病証について学習するとともに鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習により習得する。その際、適応と禁忌の判断ができるように学習する。

テーマおよび内容

[1 回]　レディス鍼灸とは：女性のライルサイクルに応じた「レディス鍼灸」の概要

[2 回]　東洋医学の診察学：レディス鍼灸を行う際の東洋医学的診察法について学ぶ。

[3 回][4 回]　思春期と鍼灸：思春期のマイナートラブル（肥満、疲労感、頭痛、便通障害）に対する現代医学的な病態、東洋医学的な病証について学習し、鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習を行う

[5 回][6 回][7 回][8 回]　性成熟期と鍼灸：性成熟期のマイナートラブル（月経痛、月経周期の異常、肩こり、冷え症、不妊症、腰痛）に対する現代医学的な病態、東洋医学的な病証について学習し、鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習を行う。

[9 回][10回][11回]　妊娠期と鍼灸：妊娠期のマイナートラブル（つわり、骨盤位、和痛分娩、乳汁分泌不全、妊娠期の腰痛、妊娠期の便秘）に対する現代医学的な病態、東洋医学的な病証について学習し、鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習を行う。

[12回][13回]　更年期・老年期と鍼灸：更年期・老年期のマイナートラブル（更年期障害、尿漏れ、耳鳴り、膝痛、高血圧症）に対する現代医学的な病態、東洋医学的な病証について学習し、鍼灸治療の方法についてシミュレーション実習を行う。

[14回]　健康美と鍼灸：美容鍼灸の概要とシミュレーション実習を行う。

[15回]　まとめ：まとめと総合実習

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

疼痛管理臨床鍼灸学[1114120]

科目名	疼痛管理臨床鍼灸学[1114120]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	菅原　正秋[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	後期
教室	①別途連絡

授業の形態
実習

授業の目的および到達目標
本科目では、疼痛管理に必要な知識として痛みの概念および評価と麻酔科・ペインクリニック領域で取り扱う疾患（Complex regional pain syndrome、帯状疱疹および帯状疱疹後神経痛、癌性疼痛など）の概念、原因、症状、現代医学的治療法（神経ブロック療法など）について学習する。実習では、鍼灸で取り扱うことの多い難治性の慢性疼痛疾患や病態に対する評価法と鍼灸治療法についてシミュレーション実習により習得する。その際、適応と禁忌の判断ができるように学習する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

スポーツ鍼灸学I[1114130]

科目名	スポーツ鍼灸学I[1114130]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	藤本　英樹[保健医療学部 鍼灸学科]
	宮本　俊和[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 2.0～2.0
教室	①401教室

受講条件・その注意

各授業毎に、次回のテーマに触れるので、予習・復習をしておくこと。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書:福林徹・宮本俊和編『スポーツ鍼灸の実際』 医道の日本社

参考書:授業毎に資料を配付する。

評価方法・評価割合

定期試験(筆記試験)、出席状況、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

本科目では、スポーツ領域における鍼灸治療の実際について、スポーツ傷害の概念、各種疾患や症状についての原因、症状、診察方法および鍼灸治療の実際を中心に学習する。スポーツ鍼灸学Ⅰでは、代表的なスポーツ傷害として、特に日常的によく見られるスポーツ傷害を部位別に取りあげ、それらの鍼灸治療についてシミュレーション実習により診察・治療のポイントを習得する。

テーマおよび内容

[1 回] スポーツ分野の鍼灸師の役割:現代の健康観、スポーツ鍼灸の目的、鍼灸師の役割

[2 回] スポーツ外傷・障害とは:スポーツ外傷・障害とは、発生機序、検査法

[3 回] スポーツ外傷・障害の鍼灸法:スポーツ外傷・障害の鍼灸治療法

[4 回] 腰部のスポーツ外傷・障害①:スポーツ選手の腰部障害と鍼灸治療(総論)

[5 回] 腰部のスポーツ外傷・障害②:検査法

[6 回] 腰部のスポーツ外傷・障害③:鍼灸治療法

[7 回] 腰部のスポーツ外傷・障害④:鍼灸治療と運動療法

[8 回] 膝関節のスポーツ外傷・障害①:スポーツ選手の膝関節障害と鍼灸治療(総論)

[9 回] 膝関節のスポーツ外傷・障害②:検査法

[10回] 膝関節のスポーツ外傷・障害③:鍼灸治療法

[11回] 膝関節のスポーツ外傷・障害④:鍼灸治療と運動療法

[12回] 肩関節のスポーツ外傷・障害①:スポーツ選手の肩関節障害と鍼灸治療(総論)

[13回] 肩関節のスポーツ外傷・障害②:検査法

[14回] 肩関節のスポーツ外傷・障害③:鍼灸治療法

[15回] 肩関節のスポーツ外傷・障害④:鍼灸治療と運動療法

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

スポーツ鍼灸学II[1114140]

科目名	スポーツ鍼灸学II[1114140]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	藤本　英樹[保健医療学部 鍼灸学科]
	宮本　俊和[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前期
教室	①別途連絡

授業の形態
実習(共同)

授業の目的および到達目標
本科目では、スポーツ領域における鍼灸治療の実際について、スポーツ鍼灸学Ⅰの内容に続いて、下肢の代表的なスポーツ傷害(シンスプリント、ジャンパー膝等)について取り上げ、それらの鍼灸治療についてシミュレーション実習により診察・治療のポイントを習得する。鍼灸の目的は、発生した症状や病態の治療以外に、傷害を予防するためのコンディショニング、競技能力の向上など様々である。これらに加え、基本的なスポーツ傷害におけるテーピング法についても学習する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

老年臨床鍼灸学[1114150]

科目名	老年臨床鍼灸学[1114150]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	安野　富美子[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	後期
教室	①別途連絡

授業の形態
実習

授業の目的および到達目標
本科目では、加齢に伴い、身体機能がさまざまな面で低下している老年者の鍼灸治療のあり方について学習する。特に、老年者の鍼灸臨床と関連の深い疾患や症状を取り上げ、それらに対する東洋医学的な病証について学習するとともに、鍼灸治療の方法についてシュミレーション実習により習得する。その際、現代医学の視点からみた病態と適応、限界、禁忌の判断ができるように学習する。また、高齢者を取り巻く社会的環境や高齢社会における鍼灸医療の役割について理解する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

日本伝統鍼灸治療学[1114160]

科目名	日本伝統鍼灸治療学[1114160]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	岡田　明三[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	後期
教室	①別途連絡

授業の形態
演習

授業の目的および到達目標
本科目では、日本における伝統的な鍼灸治療、特に戦前の日本で興った「経絡治療」について総合的に学習する。経絡治療の歴史から日本の鍼灸治療の特徴を学ぶ。また、経絡治療における蔵象および病理や、基礎となる四診（望診・聞診・問診・切診）、特に脈診や腹診、切経などについて実習を交えて学習する。これによって、臓腑経絡・虚実寒熱の理論に基づく病態把握、およびそれに基づく鍼灸治療体系について述べられることを目標とする。更に経絡治療に特徴的な運鍼法についても、より臨床に近い形での実技実習を通して学びを深めていく。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

中医鍼灸治療学[1114170]

科目名	中医鍼灸治療学[1114170]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	郭　珍[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前期
教室	①別途連絡

授業の形態
実習

授業の目的および到達目標
本科目では、中国の鍼灸治療について学習する。中医鍼灸学の特徴としての弁証選穴、弁経選穴を取り上げ、その基礎から臨床までの診療体系について演習を通じて学習する。特に中国鍼亳鍼の刺法、得気の意義、候気法、催気法、行気法などの基本技術、補瀉基本手技などについて実習を交えて習得する。さらに三稜鍼、皮膚鍼、皮内鍼、頭皮鍼などの応用について、適応範囲、基本操作、注意事項などをシミュレーション実習により学習させる。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

医療面接[1114180]

科目名	医療面接[1114180]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	木村　友昭[保健医療学部 鍼灸学科]
	坂井　友実[保健医療学部 鍼灸学科]
	水出　靖[保健医療学部 鍼灸学科]
	古賀　義久[保健医療学部 鍼灸学科]
	菅原　正秋[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後期
曜日・時限	後期 水曜 4.0～4.0
	後期 水曜 5.0～5.0
教室	①410実技実習室

受講条件・その注意

1. 本実習では、出席および受講態度（身だしなみ等も含む）を重視します。
2. これまでに学んできた疾患に関する知識が必要とされる実習です。各疾患の臨床症状や所見等を復習しておいてください。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書：必要に応じ、適宜配布する。

参考書：鍼灸臨床における医療面接・丹澤章八著（移動の日本社），臨床の知とは何か・中村雄二郎著(岩波新書)

評価方法・評価割合

出席状況、その他（受講態度、総合実技の結果）

授業の目的および到達目標

本科目では、基本的臨床技能としてOSCE（客観的臨床能力試験）の中で重要な位置にある医療面接の目的、意義、技法を学習する。その主な内容は、医療面接と問診の違い、医療面接に必要な態度と技法、医療面接とコミュニケーション、質問法、患者の解釈モデルの呈示、患者への説明と教育、患者の特性に応じた医療面接等について学ぶ。さらに、これらの医療面接の基本的な理論を学んだ後、学生同士が患者役と面接者役となってロールプレーを行うシミュレーション実習を行う。

テーマおよび内容

[1 回] オリエンテーション：本実習の概要、学習の進め方と留意事項等

[2 回] 医療面接における基本技術(1)：医療面接の基本技能、態度、解釈モデル等について

[3 回] 医療面接における基本技術(2)：患者の特性に応じた医療面接の基本について

[4 回] 医療面接結果のカルテ記載：医療面接結果の整理と鍼灸カルテへの記載の実際

[5 回] ロールプレイ実習（1）

[6 回] ロールプレイ実習（2）

[7 回] ロールプレイ実習（3）

[8 回] ロールプレイ実習（4）

[9 回] ロールプレイ実習（5）

担当教員1名につき5～6名の小グループに分かれ、一連の医療面接をシミュレートしたロールプレイ形式の実習を行う。ロールプレイ実習の後は、グループディスカッションを実施する。

[10回] ロールプレイ実習(6)

[11回] ロールプレイ実習(7)

[12回] ロールプレイ実習(8)

[13回] ロールプレイ実習(9)

[14回] まとめ・総合実技(1)

[15回] まとめ・総合実技(2)

担当教員を模擬患者としたOSCE型式の医療面接実技実習を行う。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

附属鍼灸センター実習I[1114190]

科目名	附属鍼灸センター実習I[1114190]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	水出　靖[保健医療学部 鍼灸学科]
	坂井　友実[保健医療学部 鍼灸学科]
	安野　富美子[保健医療学部 鍼灸学科]
	木村　友昭[保健医療学部 鍼灸学科]
	東郷　俊宏[保健医療学部 鍼灸学科]
	古賀　義久[保健医療学部 鍼灸学科]
	菅原　正秋[保健医療学部 鍼灸学科]
	藤本　英樹[保健医療学部 鍼灸学科]
	矢嶌　裕義[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前期
教室	①別途連絡

授業の形態
実習(共同)

授業の目的および到達目標
本科目では、これまで学習した現代医学や鍼灸医学に関する知識や医療面接で身につけた技法をベースとして附属鍼灸治療センターにおいて患者の診療を通して実習する。問診、診察による病態把握や病態に基づく治療プラン、患者へのインフォームドコンセント、鍼灸治療の評価等の実際を見修する。さらに、医療スタッフの一員として施術者の補助をするなど、診療行為の一部分を担うことによって鍼灸師および医療人としての使命を自覚させ、医療人としての資質を養う。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

附属鍼灸センター実習II[1114200]

科目名	附属鍼灸センター実習II[1114200]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	水出　靖[保健医療学部 鍼灸学科]
	坂井　友実[保健医療学部 鍼灸学科]
	安野　富美子[保健医療学部 鍼灸学科]
	木村　友昭[保健医療学部 鍼灸学科]
	東郷　俊宏[保健医療学部 鍼灸学科]
	古賀　義久[保健医療学部 鍼灸学科]
	菅原　正秋[保健医療学部 鍼灸学科]
	藤本　英樹[保健医療学部 鍼灸学科]
	矢嶌　裕義[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	後期
教室	①別途連絡

授業の形態
実習(共同)

授業の目的および到達目標
本科目では、これまで学習した現代医学や鍼灸医学に関する知識や医療面接で身につけた技法をベースとして附属鍼灸治療センターにおいて患者の診療を通して実習する。鍼灸治療センターに来所する患者に対して問診、診察の実際を行い、病態の把握、鍼灸治療の適否の判断、病態に基づく治療プラン、患者へのインフォームドコンセント、鍼灸治療の実際、評価等を教員の指導の下に行う。これら一連の診療行為を行うことによって鍼灸師および医療人としての自覚を更に高めるとともに、自立して鍼灸臨床が行える資質を養う。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

カンファレンス(症例検討)[1114210]

科目名	カンファレンス(症例検討)[1114210]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	木村　友昭[保健医療学部 鍼灸学科]
	坂井　友実[保健医療学部 鍼灸学科]
	安野　富美子[保健医療学部 鍼灸学科]
	水出　靖[保健医療学部 鍼灸学科]
	古賀　義久[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	後期
教室	①別途連絡

授業の形態
実習(共同)

授業の目的および到達目標
本科目では、附属鍼灸治療センターで実際に治療した患者について症例を報告し、討論する。実際に治療した患者の問診や身体診察によって得られた所見を基にプレゼンテーションを行い、考察した病態を中心に討論する。また、治療プランの立て方、評価方法、得られた結果の考察についても討論する。このことを通して、症例報告の重要性とその意義について学ぶ。加えて、鍼灸臨床における問題点の把握の仕方と問題解決の方法についても学習する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

症例報告の書き方・発表の仕方[1114220]

科目名	症例報告の書き方・発表の仕方[1114220]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	木村　友昭[保健医療学部 鍼灸学科]
	坂井　友実[保健医療学部 鍼灸学科]
	安野　富美子[保健医療学部 鍼灸学科]
	水出　靖[保健医療学部 鍼灸学科]
	古賀　義久[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前期
教室	①別途連絡

授業の形態
演習(共同)

授業の目的および到達目標
本科目では、症例報告の書き方、スライドの作成の仕方、発表の仕方などについて学習する。症例報告の書き方については、独自に作成した書式に従い、附属鍼灸治療センターで担当した症例をまとめ、発表し、学生同士で討論を行う。スライドの作成の仕方、発表の仕方については、情報リテラシーⅠ、Ⅱで学んだ技法を活かし、症例報告のひな形の例示を通して学ぶところから始め、学生自らがPCを活用して発表を行う。このことを通して症例報告の仕方を学ぶと共に、学会発表できる能力を養う。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

鍼灸医学総合演習I[1114230]

科目名	鍼灸医学総合演習I[1114230]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	高倉　伸有[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	通年
曜日・時限	前期 火曜 3.0～3.0
	後期 木曜 3.0～3.0
教室	①401教室

受講条件・その注意

それぞれのまとめの授業内に試験を行い、成績評価の対象とする。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書:解剖学(医歯薬出版), 生理学(医歯薬出版), 新版 経絡経穴概論(医道の日本社), 衛生学・公衆衛生学(医歯薬出版), 病理学概論(医歯薬出版)

参考書:国家試験出題基準　改定版

評価方法・評価割合

定期試験(期末筆記試験、まとめの試験)、出席状況(評価の対象は必要出席回数2/3以上を満たした者とする)

授業の目的および到達目標

本科目では、現代医学および鍼灸医学の各科目で学習した主要事項を総合的、統合的に関連づけられるように学習する。特に、現代医学系、鍼灸医学系の基礎科目の主要事項について関連づけられるよう演習を行う。現代医学系では、人体の構造と機能、公衆衛生学、病理学、鍼灸医学系では経絡経穴学、鍼灸手技総論などを中心に、主要事項を取り上げ各科にまたがり総合的に演習を行う。

テーマおよび内容

[1 回] 人体の機能(細胞・代謝)

[2 回] 人体の機能(血液・免疫)

[3 回] 人体の機能(循環)

[4 回] 人体の機能(呼吸)

[5 回] 細胞・代謝・血液・免疫・循環・呼吸のまとめ

[6 回] 人体の機能(消化と吸収)

[7 回] 人体の機能(栄養と代謝・体温)

[8 回] 人体の機能(排泄)

[9 回] 人体の機能(内分泌・生殖)

[10回] 消化と吸収・栄養と代謝・体温・排泄・内分泌・生殖のまとめ

[11回] 人体の機能(神経)

[12回] 人体の機能(筋)

[13回] 人体の機能(運動)

[14回] 人体の機能(感覚)

[15回] 神経・筋・運動・感覚のまとめ

[16回] 人体の構造（人体の構成）

[17回] 人体の構造（循環器系）

[18回] 人体の構造（呼吸器系）

[19回] 人体の構造（消化器系）

[20回] 人体の構成・循環器系・呼吸器系・消化器系のまとめ

[21回] 人体の構造（泌尿器系・生殖器系）

[22回] 人体の構造（内分泌系）

[23回] 人体の構造（神経系）

[24回] 人体の構造（感覚器系）

[25回] 泌尿器系・生殖器系・内分泌系・神経系・感覚器系のまとめ

[26回] 人体の構造（運動器系：全身の骨格・体幹）

[27回] 人体の構造（運動器系：上肢）

[28回] 人体の構造（運動器系：下肢）

[29回] 人体の構造（運動器系：頭頸部）

[30回] 運動器系のまとめ

＊各授業内で適宜、人体の構造・機能にかかわる病因や病態、鍼灸手技・経絡経穴との関連性について学ぶ。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

鍼灸医学総合演習II[1114240]

科目名	鍼灸医学総合演習II[1114240]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	高倉　伸有[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	通年
教室	①別途連絡

授業の形態
演習

授業の目的および到達目標
本科目では、現代医学および鍼灸医学の各科目で学習した主要事項を総合的、統合的に関連づけられるように学習する。特に、現代医学系、鍼灸医学系の臨床科目の主要事項について関連づけられるよう演習を行う。現代医学系では、内科学、整形外科学、スポーツ医学、産婦人科学、泌尿器科、耳鼻科、眼科、皮膚科、鍼灸医学系では現代医学系の科目に準じた内容について、主要事項を取り上げ、総合的に学習する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

学外関連施設実習(見学実習)[1114250]

科目名	学外関連施設実習(見学実習)[1114250]
科目区分・科目種	鍼灸医学の臨床
クラス	鍼灸学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	古賀　義久[保健医療学部 鍼灸学科]
	坂井　友実[保健医療学部 鍼灸学科]
	安野　富美子[保健医療学部 鍼灸学科]
	木村　友昭[保健医療学部 鍼灸学科]
	水出　靖[保健医療学部 鍼灸学科]
	菅原　正秋[保健医療学部 鍼灸学科]
	藤本　英樹[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	通年
教室	①別途連絡

授業の形態
実習(共同)

授業の目的および到達目標
本科目では、学外の大学附属病院などの現代医学の医療施設で行われている鍼灸の見学実習、および介護鍼灸、レディース鍼灸、中医鍼灸などの特色ある鍼灸治療院での見学実習を行う。医療現場の見学を通じて、医療人としての鍼灸師の役割について理解する。また、開業鍼灸の現場を見学し、開業鍼灸師の役割を理解する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

スポーツ社会学[1115010]

科目名	スポーツ社会学[1115010]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー共通科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	田簑　健太郎[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー,スポーツプログラマー

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会）

参考書:特になし

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目では、今やスポーツは人々の生活に分かちがたく深く切り結んでいるが、スポーツは単独で存在しているのではなく、社会事象の一部として存在する。したがって、スポーツを社会学的に理解しようとするとき、社会事象を踏まえることが必要不可欠である。とりわけ、現代の我が国に焦点を当てると、価値観の多様化、少子高齢化は、スポーツの側面からも看過することのできないものである。

そこで、本講義では、スポーツを歴史・文化・社会の側面から捉えることによって、現代社会におけるスポーツの機能と果たすべき役割について学習することによって、スポーツについて理解を深めるものである。

テーマおよび内容

[1回] スポーツとは

[2回] スポーツの概念と歴史について

[3回] 文化としてのスポーツとその特性

[4回] 社会におけるスポーツの機能と果たすべき役割

[5回] 我が国のスポーツプロモーション

[6回] スポーツプロモーションの課題と展望

[7回] 高齢者及び障害者のためのスポーツ

[8回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

スポーツ経営学[1115020]

科目名	スポーツ経営学[1115020]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー共通科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	田中　宏和[非常勤講師]
	時本　識資[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前集中
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー,スポーツプログラマー

受講条件・その注意

本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする。

授業の形態

講義(オムニバス)

教科書・参考文献

教科書:『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会）

参考書:特になし

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目では、わが国における行政とスポーツのかかわりの現状と課題について認識を深める。またスポーツ組織の経営や運営に必要な基礎的知識について学習するとともに、スポーツに関わる現代的課題について解説する。

（時本　識次／2回）
我が国のスポーツ振興政策と行政とスポーツのかかわりについて教授する。

（田中　宏和／5.5回）
地域スポーツクラブや広域スポーツセンターの機能と役割、スポーツ組織の運営、スポーツ事業の計画・運営・評価について教授する。

テーマおよび内容

（時本　識次）

[1回] 我が国におけるスポーツ行政組織及び関係組織（国、地方自治体）

[2回] 我が国におけるスポーツ振興施策及び地域におけるスポーツ振興の現状と課題

（田中　宏和）

[3回] 地域スポーツクラブとしての「スポーツ少年団」

[4回] スポーツ経営学の対象（スポーツとは）、近接関係領域について

[5回] スポーツ組織の運営及びスポーツ事業の計画・運営・評価①

[6回] スポーツ組織の運営及びスポーツ事業の計画・運営・評価②

[7回] 総合型地域スポーツクラブ及び広域スポーツセンターの機能と役割

[8回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

競技者育成システム論[1115030]

科目名	競技者育成システム論[1115030]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー共通科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	堀野　博幸[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後集中
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会）

参考書:特になし

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目では、競技者育成システムという観点から、将来性豊かな競技者をいち早く「見つけ・育てて・世界で活躍させる」ための長期的展望に立脚した指導計画の重要性を認識させる。講義のポイントとして1週間、1年間などの一定期間内に行う指導を、どのように実施するかを示す指導計画立案に含まれるべき内容、項目の理解、さらに一定期間内だけではなく、将来、競技者として最高のパフォーマンスを発揮できるようにするために、指導計画に考慮すべき内容、項目を理解させる。

テーマおよび内容

[1回] 競技者育成と評価

[2回] スポーツ指導と指導者のあり方についての評価

[3回] 競技者育成システムにおける指導計画

[4回] 指導計画の時期区分

[5回] 競技力向上のためのチームマネジメント

[6回] 競技スポーツとIT

[7回] 映像を利用した技術指導

[8回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

発育発達論[1115040]

科目名	発育発達論[1115040]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー共通科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	広瀬　統一[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前集中
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー,健康運動実践指導者,スポーツプログラマー

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会),『健康運動実践指導者養成用テキスト』（健康・体力づくり事業財団）

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目では、子どもの発育発達特性、スポーツ活動・運動が子どもの心身の成長に与える影響、発育発達期に過重負荷をかけることによる弊害などについて学習し、子どもたちのスポーツ活動・運動のあり方についての理解を深める。講義のポイントとして、発育発達過程の一般的ステージ分け（スキャモンの発育発達曲線）の理解や各ステージにおける身体的特徴や心理的特徴を理解させる。また、老化と体力運動能力、作業能力についてや、体力に及ぼす先天性や後天性の要因についても理解させる。

テーマおよび内容

[1回] 発育発達期の身体的特徴

[2回] 発育発達期の心理的特徴

[3回] 発育発達期に多いケガや病気

[4回] 発育発達期のプログラム

[5回] 中高年者とスポーツプログラム

[6回] 老化の過程と生体の構造と機能変化

[7回] 女性とスポーツ/身体的特徴について

[8回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

スポーツ心理学総論[1115050]

科目名	スポーツ心理学総論[1115050]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー共通科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	堀野　博幸[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後集中
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー,健康運動実践指導者,スポーツプログラマー

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会),『健康運動実践指導者養成用テキスト』（健康・体力づくり事業財団）

参考書:『新版　運動心理学入門』 松田岩男、杉原隆(大修館書店),『最新スポーツ心理学－その奇跡と展望』 日本スポーツ心理学会(大修館書店)
『スポーツメンタルトレーニング教本』 日本スポーツ心理学会(大修館書店)

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

本科目では、スポーツ行動を構成する心理学的諸要因と、それら諸要因の相互関係あるいは構造の理解を図る。具体的には、スポーツ活動や運動を行うことによって、気分や自己概念、パーソナリティーなどに関する長期的、短期的効果がもたらされることについての理解やスポーツ活動や運動に対する考え方や活動(行動)は、その人のもつ性格や、おかれている環境によって大きく異なること、また、それらの相違はスポーツ・運動の選択、さらにはスポーツ・運動のパフォーマンスにも影響することなどについて学習する。

テーマおよび内容

[1回] スポーツと心

[2回] スポーツにおける動機づけ(生活習慣病の人に対する行動変容)

[3回] 行動心理学(個人・集団)

[4回] コーチングの心理

[5回] メンタルマネジメント

[6回] 指導者のメンタルマネジメント

[7回] スポーツ心理学の現状と今後の課題

[8回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

コーチング論[1115060]

科目名	コーチング論[1115060]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー共通科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	前山　定[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー,スポーツプログラマー

受講条件・その注意

身体を動かした指導実践することがあるため、必ず着替えを準備して授業に望むこと

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会）

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目は、国民の一人一人が、豊かで活力のある生活･暮らしを目指し、生涯を通じたライフステージにおいて、自己の能力・適正・興味・関心など、主体的にスポーツ文化を豊かに享受することのできるスポーツを構築していくという社会、いわゆる生涯スポーツ社会を実現していくための助言者と成りえるための知識を理解、習得させる。

テーマおよび内容

[1回] スポーツ指導者とは

[2回] 指導者の心構え・視点

[3回] 競技者育成プログラムの理念

[4回] 指導計画のたて方①

[5回] 指導計画のたて方②

[6回] スポーツ活動と安全管理①

[7回] スポーツ活動と安全管理②

[8回] スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任①

[9回] スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任②

[10回] スポーツと人権

[11回] プレーヤーと指導者の望ましい関係①

[12回] プレーヤーと指導者の望ましい関係②

[13回] ミーティングの方法

[14回] 競技者育成プログラムの理念に基づく展開

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

トレーニング科学総論[1115070]

科目名	トレーニング科学総論[1115070]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー共通科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	髙橋　康輝[保健医療学部 柔道整復学科]
	伊藤　良彦[非常勤講師]
	若山　章信[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー,健康運動実践指導者,スポーツプログラマー

受講条件・その注意

本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする

授業の形態

講義(オムニバス)

教科書・参考文献

教科書:『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会),『健康運動実践指導者養成用テキスト』（健康・体力づくり事業財団）

参考書:『トレーニングの科学的基礎－現場に通じるトレーニング科学の基礎』 宮下充正(ブックハウスHD)
『競技力向上のトレーニング戦略』 ポンパ・テューダー(大修館書店),『トレーニングによる体の適応』 平野裕一、加賀谷淳子(杏林書店)

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

本科目では、体力と体力の諸要素を高めるためのトレーニングについて学習する。体力とは大きく身体的要素と精神的要素があり、それぞれに「防衛力」としての体力と、「行動力」としての体力に分けられる。この概念を把握するとともに、さまざまな体力の特性や分類について理解を深める。またトレーニングを実行する際の効果的なトレーニング処方や、ウォーミングアップとクーリングダウンの目的、方法を理解する。さまざまなバリエーションがあるトレーニングを形態別、体力要素別に分類し、それによって得られる効果の違いを理解させるとともに指導者が専門種目に必要な体力要素を強化できるよう、さまざまなトレーニングの目的、方法を正しく理解させる。

(髙橋　康輝／3回)体力についてとトレーニングの種類や進め方について教授する。
(伊藤　良彦／6回)トレーニング理論とその方法、トレーニング計画とその実際、体力テストについて教授する。
(若山　章信／6回)スポーツバイオメカニクスの基礎、スキルの獲得やその習得過程においても教授し理解させる。

テーマおよび内容

(髙橋　康輝)

[1回] 体力とは

[2回] トレーニングの進め方

(伊藤　良彦)

[3回] トレーニングの種類

[4回] トレーニング理論とその方法

[5回] トレーニング計画とその実際

[6回] トレーニングの評価方法

[7回] コーチング理論

[8回] 体力テストとその活用

（若山　章信）

[9回] 形態および身体組成の測定と評価について

[10回] 筋力・筋パワーの測定と評価について

[11回] 無酸素・有酸素性能力の測定と評価について

[12回] スキルの獲得とその獲得過程

[13回] スポーツバイオメカニクスの基礎

[14回] スポーツバイオメカニクスの実際

（高橋　康輝）

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

スポーツ医学総論[1115080]

科目名	スポーツ医学総論[1115080]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー共通科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	柚木　脩[保健医療学部 柔道整復学科]
	星川　吉光[非常勤講師]
	今井　一博[非常勤講師]
	中村　格子[非常勤講師]
	村松　秀樹[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー,健康運動実践指導者,スポーツプログラマー

受講条件・その注意

講義の時間割に十分注意して受講すること
本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする

授業の形態

講義(オムニバス)

教科書・参考文献

教科書:『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会),『健康運動実践指導者養成用テキスト』（健康・体力づくり事業財団）

参考書:『スポーツ指導者のためのスポーツ医学－改訂第2版』 小出清一、福林徹(南江堂)2009
『スポーツ指導者のためのスポーツ外傷・傷害－改訂第2版』 市川宣恭(南江堂)2000

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

本科目では、スポーツと健康を中心に外科系ではスポーツ活動中の外傷・障害について、内科系では内科的障害や健康管理、アンチドーピングについて学ばせる。またアスレティックリハビリテーションからコンディショニングの基本を学ばせる。

(柚木　脩／3回)
アスリートの健康管理としてメディカルチェックの意義、必要性、その内容、実施方法などについて理解させる。

(村松　秀樹／4回)
アスリートの内科的障害と対策として、スポーツ活動中に起きやすい内科的障害とそれに対する具体的な予防法、対処法を理解させる。

(星川　吉光、今井　一博、中村　格子／4回)
アスリートの外傷・障害と対策として、スポーツ活動中に起きやすい外傷・障害を各部位ごとに理解するとともに、その予防法や対処法、テーピング、ストレッチング、アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画として、スポーツ活動によって生じた傷害からスポーツ復帰へ向けてのリハビリテーションに関する基礎的な知識を理解させる。

(村松　秀樹／4回)
アスリートの精神障害と対策として、アスリートは過剰なストレスによる精神的な障害も起り得るということを理解し、適切な対応ができるよう学習する。特殊環境下での対応として、特殊環境(高所、高圧、低圧、暑熱)での疾患の病態、症状、原因などを理解させるとともに、それらに対する処置、予防措置について理解させる。

テーマおよび内容

(柚木　　脩)

[1回] スポーツと健康(健康の概念について)

[2回] 我が国における健康づくり施策(特定健診・特定保健指導事業・運動基準・エクササイズガイド等)

(村松　秀樹)

[3回] スポーツ活動中に多いケガや病気（内科・外科）

[4回] 健康運動およびスポーツ実施者の健康管理

[5回] 健康運動およびスポーツ実施者の内科的障害と対策

[6回] 運動器のしくみと働き（筋系）

[7回] 呼吸循環器系の働きとエネルギー供給機構

[8回] スポーツによる精神障害と対策

[9回] 特殊環境下での対応

[10回] アンチドーピング

（星川　吉光／今井　一博／中村　格子 ）

[11回] 健康運動およびスポーツ実施者の外傷・障害と対策

[12回] 救急処置（救急蘇生法・外科的応急処置・RICE処置）

[13回] アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画

[14回] コンディショニングの手法（ストレッチング・テーピング・アイシング・スポーツマッサージ）

（柚木　　脩）

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

アスレティックトレーナーの役割[1116010]

科目名	アスレティックトレーナーの役割[1116010]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー専門科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	泉　秀幸[保健医療学部 鍼灸学科]
	村木　良博[非常勤講師]
	溝口　秀雪[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

受講条件・その注意

特になし
本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする

授業の形態

講義(オムニバス)

教科書・参考文献

教科書:『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』（日本体育協会),『公認スポーツ指導者養成テキストⅠ～Ⅲ』（日本体育協会）

参考書:『アスレティックトレーニング:現場におけるケガの判断と対応、指導者の責務』ロナルド・P.ファイファー:ブレント・C.マングス（ブックハウス・エイチディ）2000
『トレーナーズ・バイブル』 ウィリアム・E.プレンティス:ダニエル・D.アーンハイム（医道の日本社）2007

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目では、アスレティックトレーナーの変遷と日本体育協会が掲げるアスレティックトレーナーの役割を学ばせる。

（泉　秀幸／4回）
スポーツ環境におけるアスレティックトレーナーの役割とその業務を具体的に示し、日体協公認アスレティックトレーナー養成の歴史的背景や趣旨、設立に至った背景および諸外国の状況を教授し理解させる。

（村木　良博／7回）
アスレティックトレーナーの組織的な活動に触れ、その位置づけや運営管理について学び、コーチ、スポーツドクターなどさまざまな分野の専門家といかに連携を取ってサポートしていく方法について教授し理解させる。

（溝口　秀雪／4回）
アスレティックトレーナーが現場で活動する上で必要な知識を養うとともに、社会的秩序やアスレティックトレーナーと倫理について教授し、倫理観を身につけさせるよう学ばせる。

テーマおよび内容

（泉　　秀幸）

[1回] アスレティックトレーナーとは

[2回] アスレティックトレーナー制度の歴史

[3回] 諸外国におけるアスレティックトレーナーに相当する制度

（村木　良博）

[4回] アスレティックトレーナーの任務と役割

[5回] アスレティックトレーナーの業務

[6回] アスレティックトレーナーの活動（合宿・遠征・試合）

[7回] 競技別アスレティックトレーナー活動①

[8回] 競技別アスレティックトレーナー活動②

[9回] 医科学スタッフの構成と役割

[10回] スポーツドクターとの連携協力、コーチとの連携協力

（溝口　秀雪）

[11回] アスレティックトレーナーの組織・運営・管理

[12回] アスレティックトレーナーの目的と社会的立場

[13回] アスレティックトレーナーの倫理

[14回] アスレティックトレーナーと法的諸問題

（泉　　秀幸）

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

トレーニング科学[1116020]

科目名	トレーニング科学[1116020]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー専門科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	伊藤　良彦[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

授業の形態
講義

授業の目的および到達目標
本科目では、競技者のパフォーマンス向上に必要なトレーニングとは何か。各トレーニングの目的・効果・方法を理解し、正確に指導できる知識を身につける。また、トレーニング計画を立てる際に、トレーニング環境や負荷の増減、疲労などの問題があることを理解し、それらに対する対処・解決策を身につける。また講義の中で実技指導を実施し、スポーツ選手をサポートする現場で役立つ知識を習得させる。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

スポーツ・バイオメカニクス[1116030]

科目名	スポーツ・バイオメカニクス[1116030]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー専門科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	角南　俊介[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

授業の形態
講義

授業の目的および到達目標
本科目では、スポーツにおける身体運動を力学的立場から検証し、スポーツ技能の理解や、スポーツ技術の分析力、批判力、創造力を高めることを目的とする。講義のポイントとして、バイオメカニクスの基礎や走る、跳ぶ、投げる、泳ぐ、蹴る、滑る、押す、回る、打つバイオメカニクスを中心に、運動の力学的な捉え方を学習することで、動きの記述、動きの原因の説明、動きの改善や最適化、良い動きの創造などスポーツの分析的な考察ができるようにする。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

運動生理学[1116040]

科目名	運動生理学[1116040]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー専門科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	髙橋　康輝[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

受講条件・その注意

講義は視聴覚教材を使用したり、実験等を行いながら運営するので欠席しないこと。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:「運動生理学の基礎と発展」フリースペース

参考書:プリント等を配布する

評価方法・評価割合

定期試験（筆記試験 50%）、その他（参加態度 50%）

授業の目的および到達目標

本科目では、運動器の構造、機能と機能解剖に関する基礎的知識を理解し、身体を動かす運動器の働きを系統的に学び、スポーツに関するよりよい動作の獲得の手がかりを得る。講義のポイントとして、筋肉、骨、関節、神経に関する基本的知識とそれぞれがどのようにつながり、動きをおこさせているかを理解させる。

テーマおよび内容

[1 回] 運動生理学とは

[2 回] 骨格筋の構造と筋収縮のメカニズム

[3 回] 無酸素および有酸素運動のエネルギー供給機構

[4 回] 筋力・筋持久力・筋肥大のためのトレーニング

[5 回] 神経の構造と機能

[6 回] 自律神経活動

[7 回] 運動と栄養・エネルギー代謝

[8 回] 呼吸機能の構造とガス代謝

[9 回] 循環器の構造と機能

[10回] 運動と体温調節（内部環境・外部環境）

[11回] 運動時のホルモン調節

[12回] 運動と身体組成

[13回] 運動と発育・発達（老化・加齢を含む）

[14回] 運動と遺伝子

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

スポーツ心理学[1116050]

科目名	スポーツ心理学[1116050]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー専門科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	堀野　博幸[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

授業の形態
講義

授業の目的および到達目標
本科目では、スポーツ行動を構成する心理学的諸要因と、それら諸要因の相互関係あるいは構造の理解を図る。具体的には、スポーツ活動や運動を行うことによって、気分や自己概念、パーソナリティーなどに関する長期的、短期的効果がもたらされることについての理解やスポーツ活動や運動に対する考え方や活動（行動）は、その人のもつ性格や、おかれている環境によって大きく異なること、また、それらの相違はスポーツ・運動の選択、さらにはスポーツ・運動のパフォーマンスにも影響することなどについて学習する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

運動器の解剖と機能[1116060]

科目名	運動器の解剖と機能[1116060]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー専門科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	八木　茂典[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

受講条件・その注意

特になし

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』（日本体育協会）

参考書:特になし

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目では、基礎解剖学を踏まえ、運動器の解剖と機能を中心に、運動器の構造と機能、関節・骨格筋の構造と機能を理解させる。体幹の基礎解剖と運動では脊柱、頚椎、胸郭、腰椎、骨盤の運動について学ぶ。上肢の基礎解剖と運動では、上肢帯、肩関節、肘関節、手関節・手部の運動について学ぶ。下肢の基礎解剖と運動では股関節、膝関節、足関節・足部について学ぶことにより、アスレティックトレーナーが行う、競技者の動作の運動学的観察、スポーツ障害の評価、原因の同定、アスレティックリハビリテーションなどのトレーナー活動に最低限必要な人体の構造と機能について理解させる。そのために、運動器の骨、筋、靭帯、関節、神経支配と身体運動とを関連づけて学習することをねらいとする。

テーマおよび内容

[1回] 運動器の解剖と機能概論

[2回] 骨・関節・靭帯の構造と機能

[3回] 筋・腱の構造と機能、骨格筋の神経支配

[4回] 体幹の基礎解剖と運動

[5回] 脊柱，頸椎，胸部・胸郭の運動

[6回] 腰椎，仙骨、骨盤の運動

[7回] 上肢の基礎解剖と運動

[8回] 上肢帯，肩関節の運動

[9回] 肘関節・手部の運動

[10回] 下肢の基礎解剖と運動

[11回] 股関節，膝関節の運動

[12回] 足関節・足部の運動

[13回] 運動器の骨，筋，靭帯，関節，神経支配と身体運動

[14回] アスレティックリハビリテーションに必要な人体の構造と機能

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

スポーツ外傷障害の基礎知識[1116070]

科目名	スポーツ外傷障害の基礎知識[1116070]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー専門科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	柚木　脩[保健医療学部 柔道整復学科]
	田渕　健一[非常勤講師]
	福林　徹[非常勤講師]
	星川　吉光[非常勤講師]
	今井　一博[非常勤講師]
	中村　格子[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

受講条件・その注意

講義の時間割に十分注意して受講すること
本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする

授業の形態

講義(オムニバス)

教科書・参考文献

教科書:『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』（日本体育協会）

参考書:特になし

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

本科目では、アスレティックトレーナーがトレーナー活動を行う上で必要なスポーツ外傷・障害の基礎的知識について理解する。そのために上肢・下肢・体幹の主なるスポーツ外傷の病態、評価方法及び重篤な外傷(頭部、脊髄損傷、大出血など)、年齢、性差によるスポーツ外傷の特徴を習得させる。

(柚木　脩／4回)総論と体幹のスポーツ外傷・障害について教授し理解させる。

(星川　吉光、中村　格子／4回)上肢のスポーツ外傷・障害について教授し理解させる。

(田渕　健一／4回)下肢のスポーツ外傷・障害について教授し理解させる。

(福林　徹、今井　一博／3回)重篤な外傷や年齢・性別による特徴、スポーツ整形外科的メディカルチェックについて教授する。

テーマおよび内容

(星川　吉光／中村　格子)

[1回] スポーツ外傷・障害総論

[2回] 頸部のスポーツ外傷・障害

[3回] 腰・背部・骨盤のスポーツ外傷・障害

[4回] 鼠径周辺部痛症候群、骨盤・股関節のその他の外傷・障害

(柚木　脩)

[5回] 肩部(脱臼・腱板損傷)のスポーツ外傷・障害

[6回] 肩部（投球障害肩・その他）のスポーツ外傷・障害

[7回] 肘関節のスポーツ外傷・障害

[8回] 手・手指のスポーツ外傷・障害

（田渕　健一）

[9回] 大腿部のスポーツ外傷・障害

[10回] 膝関節のスポーツ外傷・障害

[11回] 下腿部のスポーツ外傷・障害

[12回] 足・足関節のスポーツ外傷・障害

（福林　徹／今井　一博）

[13回] 重篤な外傷（頭部、脊髄損傷、大出血 等）、その他の外傷（顔面、目、鼻、耳、歯）

[14回] 年齢・性別による外傷・障害の特徴

[15回] スポーツ整形外科的メディカルチェック

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

健康管理とスポーツ医学[1116080]

科目名	健康管理とスポーツ医学[1116080]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー専門科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	赤間　高雄[非常勤講師]
	小松　裕[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前集中
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー,健康運動実践指導者

受講条件・その注意

本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする

授業の形態

講義(オムニバス)

教科書・参考文献

教科書:『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』（日本体育協会）

参考書:特になし

評価方法・評価割合

出席状況、レポート、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

本科目では、アスリートにみられる内臓器官の疾患(病気)、感染症(呼吸器、血液、皮膚)、病的現象(オーバートレーニング症候群、突然死、過換気症候群など)、特殊環境下(高所、高圧、低圧、暑熱)での疾患の病態、症状、原因などを理解させるとともに、それらに対する処置、予防措置について理解させる。またドーピングコントロールとして、アンチドーピングの目的、ドーピングの定義、禁止される物質の種類、注意すべき市販薬、事前申告を必要とする薬物、ドーピング・コントロール・ステーション同伴時の留意事項などを学び、スポーツ選手に指導することができるようにする。

(赤間　高雄／6回)
アスリートにみられる内臓器官の疾患や病的現象、感染症に対する対策について理解させる。

(小松　裕／9回)
特殊環境のスポーツ医学や年齢・性別による特徴について教授する。内科的メディカルチェックとドーピングコントロールについて教授し理解させる。

テーマおよび内容

(赤間　高雄)

[1回] 内臓器官などの疾患①(循環器系疾患、呼吸器系疾患、消化器系疾患)

[2回] 内臓器官などの疾患②(血液疾患、腎・泌尿器疾患、代謝性疾患、皮膚疾患)

[3回] 感染症に対する対応策①(呼吸器感染症、血液感染症、皮膚感染症)

[4回] 感染症に対する対応策②(ウイルス性結膜炎、海外遠征での感染症、各競技別の感染症)

[5回] ドーピングコントロール①

[6回] ドーピングコントロール②

(小松　裕)

[7回] アスリートにみられる病的現象①(オーバートレーニング症候群、突然死、過換気症候群)

[8回] アスリートにみられる病的現象②(摂食障害、減量・喫煙・飲酒による障害と疾病)

[9回] 特殊環境のスポーツ医学①(高所、高圧環境、暑熱環境、低温環境)

[10回] 特殊環境のスポーツ医学②（時差、海外遠征時の諸問題）

[11回] 年齢・性差による特徴①（女性の特徴）

[12回] 年齢・性差による特徴②（子ども、高齢者の特徴）

[13回] 内科的メディカルチェック

[14回] 健康運動と生活習慣病予防

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

身体の検査・測定と評価（体力測定を含む）[1116090]

科目名	身体の検査・測定と評価（体力測定を含む）[1116090]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー専門科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	髙橋　康輝[保健医療学部 柔道整復学科]
	笹木　正悟[保健医療学部 柔道整復学科]
	広瀬　統一[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後集中
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー,健康運動実践指導者

受講条件・その注意

実習に適した服装に着替えて受講すること
本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする

授業の形態

実習(オムニバス)

教科書・参考文献

教科書:『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』（日本体育協会),『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会）
『健康運動実践指導者養成用テキスト』（健康・体力づくり事業財団）

参考書:『測定と評価－現場に活かすコンディショニングの科学』 山本利春（ブックハウスHD）
『スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法』 西薗秀嗣（大修館書店）
『スポーツバイオメカニクス』 深代千之、桜井伸二、平野裕一、阿江通良（朝倉書店）
『バイオメカニクス－身体運動の科学的基礎』 金子公宥、福永哲夫（杏林書店）

評価方法・評価割合

出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目では、アスレティックトレーナーが評価を進める上で必要となる検査・測定手技について、その目的と意義を理解し、実技ができるまでの能力を習得することをねらいとする。具体的には、姿勢、身体アライメントの観察と計測、関節可動域、関節弛緩性の計測、徒手筋力検査、身体組成の測定、機器を用いた筋力および筋持久力の検査測定手法を習得させる。

（広瀬　統一／8回）アスレティックトレーナーに必要な評価と全身持久力、敏捷性身体組成や体力測定について教授し理解させる。

（髙橋　康輝・笹木　正悟／7回）スポーツ動作の観察と分析について理解させる。

テーマおよび内容

広瀬　統一

[1回] 体力測定の理論

[2回] 体力測定の方法

[3回] 全身持久力・筋力の測定

[4回] 身体活動量

[5回] 身体組成の測定方法

[6回] 測定結果の処理と評価

[7回] 体力評価とスポーツプログラム①

[8回] 体力評価とスポーツプログラム②

髙橋　康輝／笹木　正悟

[9回]「運動基準」と「運動指針」

[10回] 歩行・走動作のバイオメカニクス

[11回] ストップ・方向転換動作のバイオメカニクス

[12回] 跳動作のバイオメカニクス

[13回] 投動作のバイオメカニクス

[14回] 外傷の発生機転となるような動作の特徴とメカニズム

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

予防とコンディショニングI[1116100]

科目名	予防とコンディショニングI[1116100]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー専門科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	泉　秀幸[保健医療学部 鍼灸学科]
	村木　良博[非常勤講師]
	石山　修盟[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

受講条件・その注意

本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする

授業の形態

講義(オムニバス)

教科書・参考文献

教科書:『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』（日本体育協会）

参考書:特になし

評価方法・評価割合

定期試験、レポート、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

本科目ではコンディショニングの概念を理解し、スポーツ実践者(競技者)が目標とする競技活動において最高のパフォーマンスを発揮するための要因、具体的な方法の実際を理解させる。また、傷害予防のためのアプローチ、そのための環境づくりの方法やコンディショニングの方法と実際についても理解させる。

(村木　良博／5回)コンディションの把握と管理について教授する。

(石山　信男／5回)競技力向上を目的としたコンディショニングの方法について教授する。

(泉　秀幸／5回)フィットネス(基礎体力)テストやフィールドテストについて教授し理解させる。

テーマおよび内容

(村木　良博)

[1回] コンディションの把握と管理

[2回] コンディショニングの概念と目的

[3回] コンディショニングの要素(把握と管理)

[4回] コンディション指標および評価法

[5回] トレーニング計画とコンディショニング

(石山　信男)

[6回] 競技力(パフォーマンス)向上を目的としたコンディショニングの方法と実際

[7回] コンディショニングトレーニング①(代謝系、筋力、コーディネーション)

[8回] コンディショニングトレーニング②(スタビリティ、アジリティ)

[9回] スプリントとエンデュランストレーニング

[10回] サーキットトレーニング

（泉　秀幸）

[11回] フィットネス（基礎体力）チェック

[12回] フィールド（専門体力）テスト①

[13回] フィールド（専門体力）テスト②

[14回] 身体（組成）測定、柔軟性テスト

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

予防とコンディショニングII(テーピング・ストレッチングを含む)[1116110]

科目名	予防とコンディショニングII(テーピング・ストレッチングを含む)[1116110]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー専門科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	溝口　秀雪[非常勤講師]
	津田　清美[非常勤講師]
	増田　雄一[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー,健康運動実践指導者

受講条件・その注意

本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする

授業の形態

実習(オムニバス)

教科書・参考文献

教科書:『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』（日本体育協会）

参考書:特になし

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

本科目では、コンディショニングの方法と実際として、ストレッチングの理論とその方法について学び、それを通して柔軟性の獲得、指導及び教育ができるようにする。テーピングの理論とその方法を学ぶ。テーピングの際の注意点や基本のテーピングを理解するとともに身体各部位が巻けるようになる。またコンディショントレーニング(機能調整、回復、向上)である1)代謝系トレーニング(有酸素(減脂肪、持久力向上)、無酸素)、2)筋力トレーニング、コーディネイショントレーニング、スタビリティトレーニング、アジリティトレーニングの指導ができるようにする。

(津田　清美／5回)障害予防を目的としたコンディショニングの方法としてストレッチングについて教授し実践できるようにする。

(増田　雄一／5回)障害予防を目的としたコンディショニングの方法としてテーピングについて教授し実践できるようにする。

(溝口　秀雪／5回)疲労回復を目的としたコンディショニングの方法と実際について教授し理解させる。

テーマおよび内容

(津田　清美)

[1回] 傷害予防を目的としたコンディショニングの方法と実際

[2回] ストレッチングの目的、種類、特徴の把握

[3回] スポーツ傷害とストレッチング

[4回] ストレッチングの実際①

[5回] ストレッチングの実際②

(増田　雄一)

[6回] テーピングの目的,効果、有用性、基本的注意事項

[7回] 身体各部のテーピング(足部、足関節)

[8回] 身体各部位のテーピング(下腿部、膝関節)

[9回] 身体各部位のテーピング（股関節、腰部、手関節、指関節）

[10回] 身体各部位のテーピング（肩鎖関節、肩関節）

（溝口　秀雪）

[11回] 疲労回復を目的とした方法と実際

[12回] スポーツマッサージ

[13回] アイシング（クーリング）

[14回] ウォーミングアップとクーリングダウンの方法と実際

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

予防とコンディショニングIII[1116120]

科目名	予防とコンディショニングIII[1116120]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー専門科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	小山　浩司[保健医療学部 柔道整復学科]
	門馬　崇文[非常勤講師]
	増田　雄一[非常勤講師]
	竹田　康成[非常勤講師]
	石山　修盟[非常勤講師]
	古舘　昌宏[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

授業の形態
演習(オムニバス)

授業の目的および到達目標
本科目では、アスレティックリハビリテーションの施行にあたって不可欠な「競技種目特性とコンディショニング」についての習得を目的とし、競技種目特性に応じたアスレティックリハビリテーション指導の理解や、有効な指導ができるようにする。講義のポイントはスポーツ復帰の目標達成に要するアスレティックリハビリテーションの概要や具体的なプログラミングの過程と方法について各競技別に学ぶ。 (門馬　崇文／2回)冬季系競技であるスキー競技やスケート競技のコンディショニング方法について教授する。 (増田　雄一／3回)記録系競技で陸上競技や水泳競技のコンディショニング方法について教授する。 (古舘　昌宏・竹田　康成・石山　信男／7回)球技系競技でサッカー競技、ラグビー競技やバレーボール、バスケットボール、テニス、野球競技のコンディショニング方法について教授する。 (小山　浩司／3回)採点競技系の体操競技や格技系の柔道やレスリングのコンディショニング方法について教授する。"

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

アスレティックリハビリテーションI[1116130]

科目名	アスレティックリハビリテーションI[1116130]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー専門科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	加藤　知生[非常勤講師]
	関　寛之[保健医療学部 柔道整復学科]
	板倉　尚子[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

受講条件・その注意
本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする

授業の形態
講義(オムニバス)

教科書・参考文献
教科書:『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』（日本体育協会）
参考書:特になし

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、レポート、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標
本科目では、アスレティックリハビリテーションの意味を知り、その実践にあたって必要となる基礎的知識の習得をねらいとする。講義ポイントとして、アスレティックリハビリテーションの定義、歴史、現場におけるATの活動内容などの総論に加え、アスレティックリハビリテーションで用いる基本的手法(運動療法、物理療法)を理解させる。 (加藤　知生／10回)アスレティックリハビリテーション総論と運動療法(アスレティックリハビリテーションにおけるエクササイズ)基礎知識を教授する。 (関　寛之／3回)物理療法総論と温熱療法や寒冷療法、電気療法について教授する。 (板倉　尚子／2回)補装具についてと、アスレティックリハビリテーションで使用される装具について教授する。

テーマおよび内容
(加藤　知生) [1回] アスレティックリハビリテーション総論 [2回] アスレティックリハビリテーションで用いる手法 [3回] 機能評価とリスク管理 [4回] アスレティックリハビリテーションにおけるエクササイズの目的 [5回] 筋力回復，筋力増強エクササイズの基礎知識 [6回] 関節可動域回復，拡大エクササイズの基礎知識 [7回] 神経筋協調性回復，向上エクササイズ [8回] 全身持久力回復，向上エクササイズ [9回] 再発予防，外傷予防のためのスポーツ動作エクササイズ (関　寛之)

[10回] 物理療法

[11回] 温熱・寒冷療法

[12回] 電気療法

（板倉　尚子）

[13回] 補装具について

[14回] アスレティックリハビリテーションで使用される補装具

（加藤　知生）

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

アスレティックリハビリテーションII[1116140]

科目名	アスレティックリハビリテーションII[1116140]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー専門科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	泉　秀幸[保健医療学部 鍼灸学科]
	加藤　知生[非常勤講師]
	板倉　尚子[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

受講条件・その注意
本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする

授業の形態
実習(オムニバス)

教科書・参考文献
教科書:『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』（日本体育協会）

参考書:特になし

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、レポート、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標
本科目では、スポーツ活動によって生じた傷害からスポーツ復帰へ向けてのアスレティックリハビリテーションに関する基礎的な知識を理解することにより、スポーツドクター、アスレティックトレーナーとの緊密な連携を取った上でトレーニング計画を作成することの重要性について理解させる。講義ポイントとしてアスレティックリハビリテーションの基本的な進め方、受傷後から復帰までのアスリハプログラミングについて具体的な段階を理解させる。

(泉　秀幸／3回)体幹部の外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングについて教授し実践できるように理解させる。

(加藤　知生／6回)上肢部の外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングについて教授し実践できるように理解させる。

(板倉　尚子／6回)下肢部の外傷ごとのリスク管理に基づいたリハビリテーションプログラミングについて教授し実践できるように理解させる

テーマおよび内容
(泉　秀幸)

[1回] 外傷ごとのリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングと実践(体幹)

[2回] 頸椎捻挫へのアスレティックリハビリテーション

[3回] 腰部疾患へのアスレティックリハビリテーション

(加藤　知生)

[4回] 外傷ごとのリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングと実践(上肢)

[5回] 肩関節前方脱臼へのアスレティックリハビリテーション

[6回] 投球障害肩へのアスレティックリハビリテーション

[7回] 外傷性肘MCL損傷へのアスレティックリハビリテーション

[8回] 上腕骨内側・外側上霞顆炎・非外傷性肘内側側副靭帯損傷へのアスレティックリハビリテーション

[9回] 手関節捻挫へのアスレティックリハビリテーション

（板倉　尚子）

[10回] 外傷ごとのリスク管理に基づいたアスレティックリハビリテーションのプログラミングと実践（下肢）

[11回] 足関節捻挫へのアスレティックリハビリテーション

[12回] 膝前十字靭帯損傷・膝内側側副靭帯損傷へのアスレティックリハビリテーション

[13回] 大腿屈筋群肉ばなれへのアスレティックリハビリテーション

[14回] 脛骨過労性骨障害へのアスレティックリハビリテーション

[15回] 膝蓋大腿関節障害へのアスレティックリハビリテーション

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

アスレティックリハビリテーションIII[1116150]

科目名	アスレティックリハビリテーションIII[1116150]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー専門科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	小山　浩司[保健医療学部 柔道整復学科]
	笹木　正悟[保健医療学部 柔道整復学科]
	加藤　知生[非常勤講師]
	広瀬　統一[非常勤講師]
	増田　雄一[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

授業の形態
実習(オムニバス)

授業の目的および到達目標
本科目では、アスレティックリハビリテーションの施行にあたって不可欠な「競技種目特性」についての習得を目的とし、競技種目特性に応じたアスレティックリハビリテーション指導の理解や、有効な指導ができるようにする。講義のポイントはスポーツ復帰の目標達成に要するアスレティックリハビリテーションの概要や具体的なプログラミングの過程と方法について学ぶ。 (増田　雄一／2回)冬季系競技であるスキー競技やスケート競技の種目特性に基づいたリハビリテーションプログラミングについて教授し実践できるように理解させる。 (加藤　知生／3回)記録系競技で陸上競技や水泳競技の種目特性に基づいたリハビリテーションプログラミングについて教授し実践できるように理解させる。 (広瀬　統一／7回)球技系競技でサッカー競技、ラグビー競技やバレーボール、バスケットボール、テニス、野球競技の種目特性に基づいたリハビリテーションプログラミングについて教授し実践できるように理解させる。 (小山　浩司・笹木　正悟／3回)採点競技系の体操競技や格技系の柔道やレスリングの種目特性に基づいたリハビリテーションプログラミングについて教授し実践できるように理解させる。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

スポーツ栄養学[1116160]

科目名	スポーツ栄養学[1116160]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー専門科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	平成24年度以降就任予定[学校法人 花田学園]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前不定期
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

授業の形態
講義

授業の目的および到達目標
本科目では、競技者に対する栄養指導の大切さを理解させるとともに、スポーツにおける栄養の役割と関係する栄養素との関連についての知識を高めるとともに競技者の望ましい食事及びトレーニングの目的にあった食事の取り方について理解を深める。また、合宿、遠征などの特殊環境下における栄養ケア、サプリメントの正しい選び方と使用法について理解し、アスリートに対する管理ができるようにする。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

エアロビック運動の実際I[1117010]

科目名	エアロビック運動の実際I[1117010]
科目区分・科目種	健康運動実践指導者科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	戸松　哲男[非常勤講師]
	長井　雅子[非常勤講師]
	伊藤　句里子[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前不定期
教室	①別途連絡
資格関連	健康運動実践指導者,スポーツプログラマー

受講条件・その注意

実習に適した服装に着替えて受講すること。
本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする

授業の形態

実習(オムニバス)

教科書・参考文献

教科書:『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会),『健康運動実践指導者養成用テキスト』（健康・体力づくり事業財団）

参考書:特になし

評価方法・評価割合

レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目では、エアロビック運動とはどんな運動かを、エネルギー供給機構との関係で理解させるとともに、有酸素性作業能力を評価する指標としての最大酸素摂取量、無酸素性作業閾値の意義を理解させる。また実習として、エアロビックダンス一連の運動動作を実習し、それらの特徴と注意点を理解させる。

（伊藤　句里子/7回）エアロビックダンスの特性と効果について理解させ実践指導できるように教授する。

（戸松　哲男/4回）高齢者の運動指導について理解させ実践指導できるように教授する。

（長井　雅子/4回）障害者スポーツの運動指導について理解させ実践指導できるように教授する。

テーマおよび内容

（伊藤句里子）

[1回] エアロビックエクササイズ

[2回] エアロビックダンスとは

[3回] エアロビックダンスの実施効果

[4回] エアロビックダンスの基本的動作

[5回] エアロビックダンスのプログラムの構成と作成

[6回] エアロビックダンスにおける動作の構成（心拍数を利用した運動強度の調節）

[7回] エアロビックダンスの全体構成（対象に応じたプログラム作成）

（長井雅子）

[8回] 対象者に合わせた実施方法と指導中の心得

[9回] 障害者のフィットネスプログラム①

[10回] 障害者のフィットネスプログラム②

[11回] 障害者のフィットネスプログラム③

（戸松哲男）

[12回] 中高齢者のフィットネスプログラム①

[13回] 中高齢者のフィットネスプログラム②

[14回] 中高齢者のフィットネスプログラム③

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

エアロビック運動の実際II[1117020]

科目名	エアロビック運動の実際II[1117020]
科目区分・科目種	健康運動実践指導者科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	徳安　秀政[保健医療学部 柔道整復学科]
	笹木　正悟[保健医療学部 柔道整復学科]
	長井　雅子[非常勤講師]
	竹田　康成[非常勤講師]
	小柳　祐華[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前集中
教室	①別途連絡
資格関連	健康運動実践指導者,スポーツプログラマー

受講条件・その注意

水泳・水中運動の実習は、夏期期間中の集中講義にて実施する。
実習に適した服装に着替えて受講すること。
本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする

授業の形態

実習(オムニバス)

教科書・参考文献

教科書:『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会),『健康運動実践指導者養成用テキスト』（健康・体力づくり事業財団）

評価方法・評価割合

出席状況、レポート、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

本科目では、運動強度と心拍出量、心拍数の関係、運動強度と肺換気量、呼吸数の関係を理解させるとともに、実習として、運動プログラムを作成し、心拍数でそれぞれの強度を確かめ、性、年齢、体力との反応の違いを理解させる。また水泳・水中運動として、水の性質の理解や各種泳法を実習させ、指導上の留意点を理解させる。

（徳安　秀正・笹木　正悟／6回）
水中・水泳運動の特性と効果について理解させ実践指導できるように教授する。

（長井　雅子・小柳　佑華／5回）
球技系競技でサッカー競技、ラグビー競技やバレーボール、バスケットボール、テニスの運動や指導方法について理解させ実践指導できるようにする。

（笹木　正悟／2回）
採点競技系の体操競技や格技系の柔道の運動や指導方法について理解させ実践できるように教授する。

（竹田　康成／2回）
記録系競技の陸上の運動や指導方法について理解させ実践できるように教授する。

テーマおよび内容

（徳安 秀正／笹木 正悟）

[1回] 水泳・水中運動総論

[2回] 水の特性と水中運動の安全対策について

[3回] 水中運動の効果

[4回] アクアビクスの指導法と注意点

[5回] アクアビクスおよび各種泳法の習得①

[6回] アクアビクスおよび各種泳法の習得②

（長井 雅子／小柳 佑華）

[7回] 球技系種目の指導と実践（バレーボール①）

[8回] 球技系種目の指導と実践（バレーボール②）

[9回] 球技系種目の指導と実践（バスケットボール①）

[10回] 球技系種目の指導と実践（バスケットボール②）

[11回] 球技系種目の指導と実践（バスケットボール③）

（竹田 康成）

[12回] 記録系競技の指導と実践（陸上競技①）

[13回] 記録系競技の指導と実践（陸上競技②）

（笹木 正悟）

[14回] 採点系競技・格技系競技の指導と実践（体操競技・柔道）

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

トレーニングの理論と実際[1117030]

科目名	トレーニングの理論と実際[1117030]
科目区分・科目種	健康運動実践指導者科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	伊藤　良彦[非常勤講師]
	鈴木　岳[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後不定期
教室	①別途連絡
資格関連	健康運動実践指導者,スポーツプログラマー

受講条件・その注意

実習に適した服装に着替えて受講すること。
本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする

授業の形態

実習(オムニバス)

教科書・参考文献

教科書:『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会),『健康運動実践指導者養成用テキスト』（健康・体力づくり事業財団）

参考書:特になし

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

本科目では、補強運動の必要性とプログラムへの取り入れ方や目的に応じた体操の重要性とその方法、実施上の注意点を実習を通して説明し、指導法を学ばせる。またウェイトトレーニング・サーキットトレーニングの原則・効果・安全性について説明し、実習を通して効果的かつ安全に行えるよう指導法を学ばせる。

(伊藤　良彦／2回)補強運動としてのトレーニング方法やプログラミングについて教授する。

(鈴木　岳／4回)アイソメトリック・アイソキネティックトレーニングについて理解させ実践させる。

(伊藤　良彦／6回)ウェイトトレーニングについて理解させ実践させる。

(鈴木　岳／3回)サーキットトレーニングや準備運動について理解させ実践させる。

テーマおよび内容

(伊藤　良彦)

[1回] 筋力トレーニングの原理原則と注意点

[2回] 筋力トレーニング

[3回] フリーウエイトとトレーニングマシンの特性

[4回] マシーントレーニングの実際①

[5回] マシーントレーニングの実際②

[6回] アネロビックな動作・運動

[7回] アネロビックな動作・運動の種類とプログラム立案

(鈴木　岳)

[8回] ウォーミングアップとクーリングダウン

[9回] スピードトレーニング

[10回] 筋持久力のトレーニング

[11回] 柔軟性系

[12回] 調整力系

[13回] サーキットトレーニングの理論と実際

[14回] 器具を利用しないレジスタンストレーニング

（伊藤　良彦）

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

健康づくりと運動プログラム[1117040]

科目名	健康づくりと運動プログラム[1117040]
科目区分・科目種	健康運動実践指導者科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	泉　秀幸[保健医療学部 鍼灸学科]
	溝口　秀雪[非常勤講師]
	伊藤　句里子[非常勤講師]
	戸松　哲男[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前不定期
教室	①別途連絡
資格関連	健康運動実践指導者,スポーツプログラマー

受講条件・その注意

実習に適した服装に着替えて受講すること
本講義はオムニバス形態のため、各教員による授業評価を合算して最終評価とする

授業の形態

実習(オムニバス)

教科書・参考文献

教科書:『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会),『健康運動実践指導者養成用テキスト』（健康・体力づくり事業財団）

参考書:特になし

評価方法・評価割合

出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目では、健康づくりのための運動プログラム作成上の原則を運動強度、時間、頻度の視点から理解させるとともに、スポーツを行わせる際の安全性と指導上の問題点を理解させる。トレーニングの原則と効果やウォーミングアップとクーリングダウンの方法やエアロビクス運動の理論についても学ぶ。また、スポーツ指導者の役割や障害者福祉や障害者スポーツ指導方法についても併せて学ばせる。

（戸松　哲男／2回）
運動不足が健康や生活習慣病に与える影響を理解させ、トレーニングの原則や運動方法、プログラミング方法、ウォーミングアップやクーリングダウンについて教授し理解させる。

（伊藤　句里子／4回）
エアロビック運動の理論について教授し理解させる。

（泉　秀幸／7回）
スポーツ指導者（健康運動実践指導者、スポーツプログラマー）の役割や障害者福祉論、障害者スポーツ指導員の役割について教授し理解させる。

（溝口　秀雪／2回）スポーツマッサージについて理解させその方法について教授する。

テーマおよび内容

（戸松　哲男）

[1回] 運動と健康

[2回] ウォーミングアップとクーリングダウン

（伊藤句里子）

[3回] 全身持久力とエアロビック運動の理論

[4回] 有酸素性作業能力の指標

[5回] 有酸素性作業能力を向上させるトレーニングの方法

[6回] 有酸素運動の強度設定と健康増進

（溝口　秀雪）

[7回] マッサージの効果

[8回] アイシングの効果

（泉　　秀幸）

[9回] 有資格者の役割

[10回] フィットネスプログラムの基本的方法

[11回] 各年代別・性別におけるフィットネスプログラム

[12回] 子供のフィットネスプログラム

[13回] スポーツ行動における性差

[14回] 女性のフィットネスプログラム

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

現場実習I(見学実習)[1118010]

科目名	現場実習I(見学実習)[1118010]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー現場実習科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	溝口　秀雪[非常勤講師]
	戸松　哲男[非常勤講師]
	長井　雅子[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後不定期
教室	①304教室 ②別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

受講条件・その注意

1)(財)日本体育協会公認アスレティックトレーナー実技検定試験の受験資格を得るためには、180時間以上の現場実習を終了していることが条件となる。
　そのため、授業には必ず参加すること。
2)現場実習に適した服装に着替えて受講すること。
3)現場実習状況に応じて、授業計画は柔軟に変更することがある。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書:『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』(日本体育協会),『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』(日本体育協会)

参考書:『アスレティックトレーニング:現場におけるケガの判断と対応、指導者の責務』ロナルド・P.ファイファー:ブレント・C.マングス(ブックハウス・エイチディ)2000
『トレーナーズ・バイブル』ウィリアム・E.プレンティス:ダニエル・D.アーンハイム(医道の日本社)2007
『スポーツ東洋療法ハンドブック』 東洋療法学校協会:福林徹(医道の日本社)2001

評価方法・評価割合

出席状況、レポート、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

本科目では、スポーツ現場や医療機関においてスポーツドクターや指導者との連携、トレーナーの施設、整備、運営方法やアスレティックトレーナーが担当する役割について学ばせる。また、スポーツの現場におけるアスレティックトレーナー業務、スポーツドクターの役割についてスポーツ関連施設を通して、スポーツと社会やその成り立ちについて学ばせる。

1. トレーニングルーム、スポーツ関連施設について見学させ理解させる。
2. アスレティックトレーナーのトレーナールームや医療の現場やスポーツの現場における業務内容を見学させ理解させる。
3. スポーツドクターの医療機関やスポーツの現場における業務内容を見学させ理解させる。
4. 各スポーツの練習や試合観戦を通し、競技ルールや現場におけるアスレティックトレーナーの業務について理解させる。

テーマおよび内容

[1回] 現場実習オリエンテーション

[2回] 大学付属臨床施設　施設見学

[3回] 体育施設　施設見学

[4回] 体育施設　施設見学および利用規定について

[5回] トレーナー見学実習①

[6回] トレーナー見学実習②

[7回] トレーナー見学実習③

[8回] トレーナー見学実習④

[9回] トレーナー見学実習⑤

[10回] トレーナー見学実習⑥

[11回] トレーナー見学実習⑦

[12回] トレーナー見学実習⑧

[13回] トレーナー見学実習⑨

[14回] トレーナー見学実習⑩

[15回] まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

現場実習II（測定と評価、プログラミング）[1118020]

科目名	現場実習II（測定と評価、プログラミング）[1118020]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー現場実習科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	笹木　正悟[保健医療学部 柔道整復学科]
	泉　秀幸[保健医療学部 鍼灸学科]
	津田　清美[非常勤講師]
	伊藤　句里子[非常勤講師]
	長井　雅子[非常勤講師]
	門馬　崇文[非常勤講師]
	山下　紫乃[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前不定期
教室	①303教室
資格関連	アスレティックトレーナー

受講条件・その注意

1)(財)日本体育協会公認アスレティックトレーナー実技検定試験の受験資格を得るためには、180時間以上の現場実習を終了していることが条件となる。
そのため、授業には必ず参加すること。
2)現場実習に適した服装に着替えて受講すること。
3)現場実習状況に応じて、授業計画は柔軟に変更することがある。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書:『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』（日本体育協会),『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会）

参考書:『図解　四肢と脊柱の診かた』S.Hoppenfeld（医歯薬出版社株式会社）1984
『アスレティックトレーニング：現場におけるケガの判断と対応、指導者の責務』ロナルド・P.ファイファー：ブレント・C.マングス（ブックハウス・エイチディ）2000
『トレーナーズ・バイブル』ウィリアム・E.プレンティス：ダニエル・D.アーンハイム（医道の日本社）2007

評価方法・評価割合

出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目では、スポーツ外傷、評価、リハビリテーション手法に関する知識を統合させ、例題疾患へのアスレティックリハビリテーションの考え方と実際を学び、アスレティックリハビリテーションのプログラミングができるようになるとともに、身体的リスクに考慮し、安全で効率の良い方法が指導できるようスポーツ現場や医療機関を通して学ばせる。
1. スポーツ現場、医療現場、トレーナールームにおいて競技者の身体検査・測定と評価について教授し実践させる。
2. スポーツ現場、医療現場、トレーナールームにおいて各外傷・障害のアスレティックリハビリテーションプログラムについて教授し実践させる。
（笹木　正悟・泉　秀幸・津田　清美・伊藤　句里子・長井　雅子・門馬　崇文・大室　紫乃）

テーマおよび内容

[1回] 現場実習オリエンテーション

[2回] スポーツ現場における競技者の身体検査・測定と評価①

[3回] スポーツ現場における競技者の身体検査・測定と評価②

[4回] 医療現場における競技者の身体検査・測定と評価①

[5回] 医療現場における競技者の身体検査・測定と評価②

[6回] トレーナールームにおける競技者の身体検査・測定と評価①

[7回] トレーナールームにおける競技者の身体検査・測定と評価②

[8回] 競技者および対象者に関する情報の収集

[9回] スポーツ現場・トレーナールームにおけるアスレティックリハビリテーションプログラム①

[10回] スポーツ現場・トレーナールームにおけるアスレティックリハビリテーションプログラム②

[11回] スポーツ現場・トレーナールームにおけるアスレティックリハビリテーションプログラム③

[12回] 健康の維持・向上を目的としたフィットネスプログラム①

[13回] 健康の維持・向上を目的としたフィットネスプログラム②

[14回] 健康の維持・向上を目的としたフィットネスプログラム③

[15回] まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

現場実習III(スポーツ現場実習)[1118030]

科目名	現場実習III(スポーツ現場実習)[1118030]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー現場実習科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	泉　秀幸[保健医療学部 鍼灸学科]
	笹木　正悟[保健医療学部 柔道整復学科]
	津田　清美[非常勤講師]
	伊藤　句里子[非常勤講師]
	長井　雅子[非常勤講師]
	門馬　崇文[非常勤講師]
	山下　紫乃[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後不定期
教室	①303教室 ②別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

受講条件・その注意

1)(財)日本体育協会公認アスレティックトレーナー実技検定試験の受験資格を得るためには、180時間以上の現場実習を終了していることが条件となる。
そのため、授業には必ず参加すること。
2)現場実習に適した服装に着替えて受講すること。
3)現場実習状況に応じて、授業計画は柔軟に変更することがある。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書:『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』(日本体育協会),『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』(日本体育協会)

参考書:『図解　四肢と脊柱の診かた』S.Hoppenfeld(医歯薬出版社株式会社)1984
『アスレティックトレーニング:現場におけるケガの判断と対応、指導者の責務』ロナルド・P.ファイファー:ブレント・C.マングス(ブックハウス・エイチディ)2000
『トレーナーズ・バイブル』ウィリアム・E.プレンティス:ダニエル・D.アーンハイム(医道の日本社)2007

評価方法・評価割合

出席状況、レポート、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

本科目では、日本体育協会が定めるトレーナーの役割(1. スポーツ外傷・障害の予防、2. スポーツ現場における救急処置、3. アスレティックリハビリテーション、4. コンディショニング、5. 測定と評価、6. 健康管理と組織運営、7. 教育的指導)を理解させ、トレーナーの役割を実践できるよう主にその基本を学ばせる。ストレッチング、テーピング、応急処置等について教本や実技実習で学んだことを、スポーツ現場や医療機関においてその実践法や応用的手法について学ばせる。
1. 医療の現場やトレーナールームにおいてストレッチング、テーピングや応急処置法について教授し実践させる。
2. 各競技スポーツの現場においてストレッチング、テーピングや応急処置法について教授し実践させる。
(泉秀幸・笹木正悟・津田清美・伊藤句里子・長井雅子・門馬崇文・大室紫乃)

テーマおよび内容

[1回] 現場実習オリエンテーション

[2回] トレーナールームやスポーツ現場で必要とされるアスレティックトレーナーの基礎①

[3回] トレーナールームやスポーツ現場で必要とされるアスレティックトレーナーの基礎②

[4回] トレーナールームやスポーツ現場で必要とされるアスレティックトレーナーの基礎③

[5回] トレーナールームやスポーツ現場で必要とされるアスレティックトレーナーの基礎④

[6回] トレーナールームやスポーツ現場で必要とされるアスレティックトレーナーの基礎⑤

[7回] スポーツ現場におけるストレッチング、テーピング、応急処置法の実践①

[8回] スポーツ現場におけるストレッチング、テーピング、応急処置法の実践②

[9回] スポーツ現場におけるストレッチング、テーピング、応急処置法の実践③

[10回] スポーツ現場におけるストレッチング、テーピング、応急処置法の実践④

[11回] スポーツ現場におけるストレッチング、テーピング、応急処置法の実践⑤

[12回] 健康の維持・向上を目的としたスポーツ現場実習①

[13回] 健康の維持・向上を目的としたスポーツ現場実習②

[14回] 健康の維持・向上を目的としたスポーツ現場実習③

[15回] まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

現場実習IV（アスレティックリハビリテーション）[1118040]

科目名	現場実習IV（アスレティックリハビリテーション）[1118040]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー現場実習科目
クラス	保健医療学部
単位数	1.0単位

担当教員・所属	泉　秀幸[保健医療学部 鍼灸学科]
	笹木　正悟[保健医療学部 柔道整復学科]
	津田　清美[非常勤講師]
	伊藤　句里子[非常勤講師]
	長井　雅子[非常勤講師]
	門馬　崇文[非常勤講師]
	山下　紫乃[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前不定期
教室	①303教室 ②別途連絡

受講条件・その注意

1)(財)日本体育協会公認アスレティックトレーナー実技検定試験の受験資格を得るためには、180時間以上の現場実習を終了していることが条件となる。
そのため、授業には必ず参加すること。
2)現場実習に適した服装に着替えて受講すること。
3)現場実習状況に応じて、授業計画は柔軟に変更することがある。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書:『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』（日本体育協会),『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会）

参考書:『アスレティックトレーニング:現場におけるケガの判断と対応、指導者の責務』ロナルド・P.ファイファー:ブレント・C.マングス(ブックハウス・エイチディ)2000
『トレーナーズ・バイブル』ウィリアム・E.プレンティス:ダニエル・D.アーンハイム(医道の日本社)2007
『スポーツ東洋療法ハンドブック』 東洋療法学校協会:福林徹(医道の日本社)2001

評価方法・評価割合

出席状況、レポート、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

本科目では、各疾患のアスレティックリハビリテーションの過程と内容を理解し、各疾患のアスレティックリハビリテーションに必要な情報収集、機能評価をできるようにし、実際にプログラミングができるようになるとともに、アスリートの身体的リスクを考慮し、安全で効率の良い方法が指導できるようにする。

1.医療の現場やトレーナールームにおいてアスレティックリハビリテーションについて教授し実践させる。
2.スポーツの現場においてアスレティックリハビリテーションについて教授し実践させる。

（泉　秀幸・笹木　正悟・津田　清美・伊藤　句里子・長井　雅子・門馬　崇文・大室　紫乃）

テーマおよび内容

[1回] 現場実習オリエンテーション

[2回] トレーナールームにおけるアスレティックリハビリテーションの実践

[3回] スポーツ現場におけるアスレティックリハビリテーションの実践

[4回] 下肢におけるアスレティックリハビリテーションのプログラミング

[5回] 下肢におけるアスレティックリハビリテーションの実施①

[6回] 下肢におけるアスレティックリハビリテーションの実施②

[7回] 体幹におけるアスレティックリハビリテーションのプログラミング

[8回] 体幹におけるアスレティックリハビリテーションの実施①

[9回] 体幹におけるアスレティックリハビリテーションの実施②

[10回] 上肢におけるアスレティックリハビリテーションのプログラミング

[11回] 上肢におけるアスレティックリハビリテーションの実施①

[12回] 上肢におけるアスレティックリハビリテーションの実施②

[13回] 集団（グループ）を対象としたエクササイズのプログラミングと指導①

[14回] 集団（グループ）を対象としたエクササイズのプログラミングと指導②

[15回] 集団（グループ）を対象としたエクササイズのプログラミングと指導③

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

現場実習V(総合実習)[1118050]

科目名	現場実習V(総合実習)[1118050]
科目区分・科目種	アスレティックトレーナー現場実習科目
クラス	保健医療学部
単位数	2.0単位

担当教員・所属	笹木　正悟[保健医療学部 柔道整復学科]
	泉　秀幸[保健医療学部 鍼灸学科]
	津田　清美[非常勤講師]
	伊藤　句里子[非常勤講師]
	長井　雅子[非常勤講師]
	門馬　崇文[非常勤講師]
	山下　紫乃[非常勤講師]
主担当学科	鍼灸学科・柔道整復学科共通 アスレティックトレーナー・健康運動実践指導者コース
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後集中
教室	①別途連絡
資格関連	アスレティックトレーナー

受講条件・その注意

1)(財)日本体育協会公認アスレティックトレーナー実技検定試験の受験資格を得るためには、180時間以上の現場実習を終了していることが条件となる。
　そのため、授業には必ず参加すること。
2)現場実習に適した服装に着替えて受講すること。
3)現場実習状況に応じて、授業計画は柔軟に変更することがある。
4)現場実習Ｖのうち30時間は、夏期・冬季・春期休業期間中の集中講義にて実施する。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書:『公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト①～⑨』（日本体育協会),『公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目Ⅰ～Ⅲ』（日本体育協会）

参考書:『アスレティックトレーニング:現場におけるケガの判断と対応、指導者の責務』ロナルド・P.ファイファー:ブレント・C.マングス(ブックハウス・エイチディ)2000
『トレーナーズ・バイブル』ウィリアム・E.プレンティス:ダニエル・D.アーンハイム(医道の日本社)2007
『スポーツ東洋療法ハンドブック』 東洋療法学校協会:福林徹(医道の日本社)2001

評価方法・評価割合

出席状況、レポート、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

本科目では、日本体育協会が定めるトレーナーの役割(1. スポーツ外傷・障害の役割、2. スポーツ現場における救急処置、3. アスレティックリハビリテーション、4. コンディショニング、5. 測定と評価、6. 健康管理と組織運営、7. 教育的指導)を理解させ、トレーナーの役割を実践できるよう総合的に学ばせる。
現場実習1)2)3)4)を段階的に学ばせ、総合実習としてスポーツ現場や医療機関において、これまでに学習してきた内容を含む包括的な実習を行う。またスポーツドクターやコーチ、選手を取り巻く関係者との連携、トレーナー室の施設、整備や運営方法についてもその基本を学ばせる。長期、中短期の練習スケジュールにあわせた競技者のコンディショニング、合宿や遠征、試合を通してスポーツ現場や医療機関において日本体育協会が定めるトレーナーの役割スポーツドクターやコーチと緊密な連携を1. 医療の現場やトレーナールームにおいてアスレティックトレーナー業務全般について総合的に教授し実践させる。
各競技スポーツの現場においてトレーナールームにおいてアスレティックトレーナー業務全般について総合的に教授し実践させる。

(笹木　正悟・泉　秀幸・津田　清美・伊藤　句里子・長井　雅子・門馬　崇文・大室　紫乃)

テーマおよび内容

[1回] 現場実習オリエンテーション

[2回] スポーツ現場における総合実習①

[3回] スポーツ現場における総合実習②

[4回] スポーツ現場における総合実習③

[5回] 医療機関における総合実習①

[6回] 医療機関における総合実習②

[7回] 医療機関における総合実習③

[8回] トレーナールームにおける総合実習①

[9回] トレーナールームにおける総合実習②

[10回] トレーナールームにおける総合実習③

[11回] 集団(グループ)を対象としたエクササイズのプログラミングと指導①

[12回] 集団(グループ)を対象としたエクササイズのプログラミングと指導②

[13回] 個人を対象としたエクササイズのプログラミングと指導①

[14回] 個人を対象としたエクササイズのプログラミングと指導②

[15回] 個人を対象としたエクササイズのプログラミングと指導③

[16回] 合宿・遠征時におけるアスレティックトレーナー業務の実践①

[17回] 合宿・遠征時におけるアスレティックトレーナー業務の実践②

[18回] 合宿・遠征時におけるアスレティックトレーナー業務の実践③

[19回] 合宿・遠征時におけるアスレティックトレーナー業務の実践④

[20回] 合宿・遠征時におけるアスレティックトレーナー業務の実践⑤

[21回] 合宿・遠征時におけるアスレティックトレーナー業務の実践⑥

[22回] 合宿・遠征時におけるアスレティックトレーナー業務の実践⑦

[23回] 試合・スポーツ現場におけるアスレティックトレーナー業務の実践①

[24回] 試合・スポーツ現場におけるアスレティックトレーナー業務の実践②

[25回] 試合・スポーツ現場におけるアスレティックトレーナー業務の実践③

[26回] 試合・スポーツ現場におけるアスレティックトレーナー業務の実践④

[27回] 試合・スポーツ現場におけるアスレティックトレーナー業務の実践⑤

[28回] 試合・スポーツ現場におけるアスレティックトレーナー業務の実践⑥

[29回] 試合・スポーツ現場におけるアスレティックトレーナー業務の実践⑦

[30回] 現場実習のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

卒業研究[1119010]

科目名	卒業研究[1119010]
科目区分・科目種	卒業研究
クラス	鍼灸学科
単位数	4.0単位

担当教員・所属	坂井　友実[保健医療学部 鍼灸学科]
	小泉　政啓[保健医療学部 鍼灸学科]
	高倉　伸有[保健医療学部 鍼灸学科]
	高野　一夫[保健医療学部 鍼灸学科]
	田中　滋城[保健医療学部 鍼灸学科]
	西村　桂一[保健医療学部 鍼灸学科]
	安野　富美子[保健医療学部 鍼灸学科]
	木村　友昭[保健医療学部 鍼灸学科]
	戴　昭宇[保健医療学部 鍼灸学科]
	東郷　俊宏[保健医療学部 鍼灸学科]
	水出　靖[保健医療学部 鍼灸学科]
	古賀　義久[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	鍼灸学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	通年
教室	①別途連絡

授業の形態
演習

授業の目的および到達目標
本科目では、学生自身による研究活動によって研究テーマについてのレポート(卒業論文)を作成する。この過程を通して、研究テーマに関する文献検索や資料の収集の仕方、実験や調査研究の方法、結果のまとめ、考察について学習するとともにそれらを文章化する能力を養う。研究テーマは、調査研究、文献研究、実験研究、症例研究など鍼灸に関連したものとし、担当教員の指導のもとに実施する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

栄養学(スポーツ栄養学を含む)[1120010]

科目名	栄養学(スポーツ栄養学を含む)[1120010]
科目区分・科目種	健康科学
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	鈴木　志保子[非常勤講師]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 2.0～2.0
教室	①403教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:≪系統看護学講座 専門基礎分野≫人体の構造と機能[3]栄養学(第11版)、医学書院, 新版コンディショニングのスポーツ栄養学、市村出版

参考書:基礎から学ぶスポーツ栄養学、ベースボール・マガジン社, スポーツ栄養マネジメント、日本医療企画

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

栄養学は、食事療法および栄養指導を通して疾病の治療に重要な役割を演じている。食事の適正化によってかなりの疾病が治療可能であり、しかも食事療法は薬物と異なり副作用がない等の利点を有している。本科目では、栄養学の基本と健康維持・増進を図るために必要な合理的な食物摂取の原理などについて理解させる。とくに栄養と健康障害、健康維持と栄養学、年齢に応じた栄養指導、主な疾患に対する食事療法などについて学習する。さらにスポーツと栄養、アスリートの栄養摂取と食生活についても学ぶ。

テーマおよび内容

[1回] 栄養素の基礎知識1:糖質、脂質、たんぱく質について

[2回] 栄養素の基礎知識2:ビタミン、ミネラルについて

[3回] エネルギー代謝:エネルギー代謝を理解する

[4回] 食事の構成とバランスの良い食事とは:食事の構成についてとバランスの良い食事の知識の習得と実践方法

[5回] ライフステージと食事・栄養管理:ライフステージによる食事・栄養管理の特徴を理解する

[6回] スポーツ栄養学とは:スポーツ栄養学の定義等を理解する

[7回] スポーツ栄養マネジメントとは:スポーツ栄養マネジメントや栄養サポートについて理解する

[8回] トレーニングとエネルギー消費:トレーニングとエネルギー消費量について理解する

[9回] アスリートの身体組成:アスリートの身体組成の特徴を理解する

[10回] アスリートの栄養補給1:糖質、脂質について

[11回] アスリートの栄養補給2:たんぱく質について

[12回] アスリートの栄養補給3:ビタミンについて

[13回] アスリートの栄養補給4:ミネラルについて

[14回] 水分補給法:水分摂取の重要性と水分補給法について理解する

[15回] 試合前・当日・後の食事・栄養管理:試合前・当日・後の食事・栄養管理について理解する

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

薬物療法学[1120020]

科目名	薬物療法学[1120020]
科目区分・科目種	健康科学
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	荒井　裕一朗[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 3.0～3.0
教室	①406教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『シンプル薬理学』 野村隆英:石川直久(南江堂)

参考書:『グッドマン・ギルマン　薬理書』上、下　高折ら(廣川書店),『NEW 薬理学』 田中、加藤(南江堂),『新薬理学テキスト』 佐藤　進　編　(廣川書店)

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

柔道整復学の基本となる整形外科学などの医療分野における治療法を理解する上で、薬物療法学は重要な知識となる。まず、基礎薬理学として薬物の作用点、薬物の生体内運命、薬効に影響を与える因子、薬物中毒について学ぶ。次いで、薬物療法として、抗炎症薬、鎮痛薬、自律神経系に作用する薬物、運動神経・知覚神経系に作用する薬物などを主とする治療薬について学習する。さらには柔道整復治療で必要とする消毒薬について、また新薬の開発についても学ぶ。

テーマおよび内容

[1回] 薬理学とは

[2回] 総論:薬物の作用点

[3回] 総論:薬物の生体内運命

[4回] 総論:薬物の生体内運命

[5回] 総論:薬効に影響を与える因子

[6回] 総論:薬効に影響を与える因子

[7回] 総論:薬物の毒性、新薬の開発

[8回] 自律神経系に作用する薬物:神経系の基礎

[9回] 自律神経系に作用する薬物:副交感神経系に作用する薬物

[10回] 自律神経系に作用する薬物:交感神経系に作用する薬物

[11回] 体性神経系に作用する薬物:運動神経薬、知覚神経薬

[12回] 中枢神経系に作用する薬物:抗パーキンソン病薬など

[13回] 鎮痛薬・抗炎症薬

[14回] 鎮痛薬・抗炎症薬

[15回] 骨・関節に作用する薬物、皮膚に適用する薬物、消毒薬などについて

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

生化学[1120030]

科目名	生化学[1120030]
科目区分・科目種	健康科学
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	荒井　裕一朗[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 2.0～2.0
教室	①403教室

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書:『コンパクト生化学　改訂第2版』 大久保岩男:賀佐伸省(南江堂)

参考書:『レーニンジャーの生化学』 上、下　監修:山科郁夫(廣川書店)

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

医療の分野においては、生体の様々な生命現象を分子レベルで考察する生命科学を学ぶ必要がある。まず、生体を構成する生体分子ををを理解し、タンパク質、糖質、脂質、酵素、ビタミン、ホルモンなどの構造と役割について学ぶ。次いで、生体分子の動的代謝として糖質代謝、脂質代謝、タンパク質代謝、呼吸の代謝、ホルモンの代謝、核酸の代謝などを学習する。さらに、筋収縮の生化学や脳の生化学などについても学ぶ。

テーマおよび内容

[1回] 生体の構成物質

[2回] 細胞の基本構造と機能

[3回] 生体成分の構造と機能:糖質

[4回] 生体成分の構造と機能:脂質

[5回] 生体成分の構造と機能:タンパク質

[6回] 生体成分の構造と機能:核酸

[7回] 生体成分の構造と機能:ビタミン

[8回] 代謝:酵素

[9回] 代謝:エネルギー代謝

[10回] 代謝:糖質代謝

[11回] 代謝:脂質代謝

[12回] 代謝:アミノ酸・タンパク質代謝

[13回] 核酸とタンパク質の生合成

[14回] ホルモン

[15回] その他:生理活性物質

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

解剖学I(機能解剖学を含む)[1121010]

科目名	解剖学I(機能解剖学を含む)[1121010]
科目区分・科目種	人体の構造と機能
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	佐藤　達夫[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	通年
曜日・時限	通年 火曜 2.0～2.0
教室	①406教室

受講条件・その注意

柔道整復学の基礎となる科目であり、十分に学習・理解した上で、臨床柔道整復学や柔道整復実技を学ぶ必要がある。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『解剖学』 岸清、石塚寛編全国柔道整復学校協会(医歯薬出版)

参考書:『リハビリテーション解剖アトラス』 佐藤達夫:坂本裕和(医歯薬出版)

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、授業中の課題(小テスト)

授業の目的および到達目標

人体の正常な形態および構造について系統的に理解することを目的とする。柔道整復学をはじめ、あらゆる臨床医学を理解する上で解剖学の知識が必要となる。解剖学Ⅰでは解剖学概説および系統解剖学のうち神経系と感覚器を学ぶ。神経系では中枢神経系と末梢神経系に分け、中枢神経系は脳と脊髄について、末梢神経系は脳神経、脊髄神経および自律神経系について学ぶ。また感覚器では外皮(皮膚など)、視覚器、聴覚器、平衡覚器、味覚器および嗅覚器について学ぶ。さらに運動器の解剖と機能についても学習する。

テーマおよび内容

[1 回] 総論:神経とはなにか，神経の種類と働きを理解する

[2 回] 脊髄神経:脊髄神経について理解する

[3 回] 脊髄神経:背部と胸腹部の神経について理解する

[4 回] 頸部の神経 :頸神経叢を理解する

[5 回] 四肢の神経 :上肢と下肢の筋の配置と支配神経について理解する

[6 回] 上肢の神経 :腕神経叢について理解する

[7 回] 上肢の神経 :上腕・前腕の神経を理解する

[8 回] 上肢の神経 :手と指の筋と神経を理解する

[9 回] 下肢の神経 :腰仙骨神経叢について理解する

[10回] 下肢の神経 :大腿の伸筋・内転筋と支配神経を理解する

[11回] 下肢の神経: 殿筋・大腿屈筋と支配神経を理解する

[12回] 下肢の神経 :下腿伸筋群，腓骨筋群と支配神経を理解する

[13回] 下肢の神経 :下腿屈筋群，足底筋群と支配神経を理解する

[14回] 脳神経:脳神経について理解する

[15回] 脳神経:感覚器と眼筋に分布する脳神経について理解する

[16回] 脳神経:顔面の知覚神経と運動神経について理解する

[17回] 脳神経：咽頭，喉頭，胸腹部等に分布する脳神経について理解する

[18回] 自律神経：自律神経について理解する

[19回] 自律神経：頸胸部の自律神経系について説明できる

[20回] 自律神経：腹部・骨盤腔の自律神経系について説明できる

[21回] 中枢神経：脊髄の基本構成，髄膜の層構成について理解する

[22回] 中枢神経（脳）：脳幹の区分と構造，小脳について理解する

[23回] 中枢神経（脳）：大脳辺縁系，大脳髄質について理解する

[24回] 中枢神経（脳）：大脳皮質について理解する

[25回] 中枢神経（脳）：伝導路について理解する

[26回] 感覚器：感覚器の構造について理解する

[27回] 感覚器：感覚器の構造について理解する

[28回] 上肢の神経と筋：上肢の筋の機能と支配神経について理解する

[29回] 下肢の神経と筋：下肢の筋の機能と支配神経について理解する

[30回] 予備

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

解剖学II[1121020]

科目名	解剖学II[1121020]
科目区分・科目種	人体の構造と機能
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	木村　明彦[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	通年
曜日・時限	前期 月曜 2.0～2.0
	後期 火曜 1.0～1.0
教室	①405教室 ②405教室

受講条件・その注意

予習課題（1週前に提示）を講義前に提出すること（評価対象）。
プレテスト・ポストテストを非通知で行うことがあります（評価対象）。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『解剖学』全国柔道整復学校協会（医歯薬出版）

参考書：コメディカルのための専門分野テキスト　解剖学　五味・岸編集　中外医学社，解剖学問題集5073　五味敏昭ほか　犀書房
柔整・鍼灸・あマ指・看護・理作　国家試験問題（解剖学・生理学）10年間　成瀬・木村　監修　犀書房

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

人体の正常な形態および構造について系統的に理解することを目的とする。柔道整復学をはじめ、あらゆる臨床医学を理解する上で解剖学の知識が必要となる。解剖学Ⅱでは循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系および内分泌器について学ぶ。循環器系では心臓、脈管など、消化器系では消化管、肝臓など、呼吸器系では喉頭、気管・気管支、肺など、泌尿器系では腎臓、膀胱など、生殖器系では男性・女性生殖器、内分泌器では内分泌腺の位置、構造、分泌するホルモンなどについて学ぶ。

テーマおよび内容

[1 回] 4月04日 総論：組織・発生

[2 回] 4月11日 循環器：循環器総論・心臓の位置と外景

[3 回] 4月18日 循環器：心臓の内景・血管系総論

[4 回] 4月25日 循環器：上半身の動脈

[5 回] 5月09日 循環器：下半身の動脈

[6 回] 5月16日 循環器：静脈

[7 回] 5月23日 循環器：リンパ系・造血臓器・脾臓

[8 回] 5月30日 循環器系のまとめ

[9 回] 6月06日 消化器：消化器総論

[10回] 6月13日 消化器：口腔・咽頭・食道

[11回] 6月20日 消化器：胃

[12回] 6月27日 消化器：小腸・大腸

[13回] 7月04日 消化器：肝臓

[14回] 7月11日 消化器：膵臓・腹膜

[15回] 8月01日 消化器系のまとめ

[16回] 9月27日 呼吸器：呼吸器系総論・鼻腔・喉頭

[17回] 10月04日 呼吸器：気管・気管支

[18回] 10月11日 呼吸器：肺・縦隔

[19回] 10月18日 内分泌器：内分泌系総論

[20回] 11月01日 内分泌器：下垂体・松果体

[21回] 11月08日 内分泌器：甲状腺・副腎

[22回] 11月15日 呼吸器・内分泌系のまとめ

[23回] 11月22日 泌尿器：泌尿器系総論・腎臓

[24回] 11月29日 泌尿器：尿管・膀胱・腎臓

[25回] 12月06日 泌尿器：男女の尿道

[26回] 12月13日 生殖器：生殖器系総論（性の分化など）・男性生殖器

[27回] 12月20日 生殖器：男性生殖器

[28回] 1月10日 生殖器：女性生殖器

[29回] 1月17日 生殖器：女性生殖器

[30回] 2月22日 泌尿器・生殖器系のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

解剖学実習[1121030]

科目名	解剖学実習[1121030]
科目区分・科目種	人体の構造と機能
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	成瀬　秀夫[保健医療学部 柔道整復学科]
	木村　明彦[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 3.0～3.0
教室	①711実技実習室

受講条件・その注意

真摯な態度で受講すること。
模型、顕微鏡、超音波画像診断装置などを使用するので、飲食物の教室内持ち込みは厳禁。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書:『解剖学』 全国柔道整復学校協会監修(医歯薬出版)

参考書:『解剖学 コメディカルのための専門基礎分野テキスト』 五味敏昭:岸清(中外医学社),『解剖学問題集5073』 (犀書房)
『解剖学用語』 日本解剖学会編(丸善)

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

人体の解剖学はきわめて多岐にわたる具体的な事実を記述した学問であり、解剖学Ⅰ・Ⅱで学んだ事項を、さらに医学教材(各種模型など)を用いて総合的・立体的に理解する必要がある。解剖学実習では運動器解剖学(上肢・下肢・体幹の骨、関節、靭帯、筋、神経、血管)、神経解剖学(脳と脊髄、末梢神経系)、内臓解剖学(心臓、肺、肝臓、腎臓など)について各種模型を使用して理解を深める。さらに、人体を構成する最小単位である細胞およびその集団である組織について顕微鏡解剖実習(組織学実習)を行う。

テーマおよび内容

[1回] 体幹系:①体幹の骨・筋・内臓・中枢神経(模型による観察)

[2回] 体幹系:②体表よりの各部観察

[3回] 上肢系:①上肢の骨・靱帯・筋・神経・血管(模型による観察)

[4回] 上肢系:②体表よりの各部観察

[5回] 上肢系:③エコー装置を用いた上肢各所の観察1(肩部～上腕)

[6回] 上肢系:④エコー装置を用いた上肢各所の観察2(肘部～手・指)

[7回] 下肢系:①下肢の骨・靱帯・筋・神経・血管(模型による観察)

[8回] 下肢系:②体表よりの各部観察

[9回] 下肢系:③エコー装置を用いた下肢各所の観察1(殿部～大腿)

[10回] 下肢系:④エコー装置を用いた下肢各所の観察2(膝部～足・趾)

[11回] 顕微鏡解剖学:①骨・筋・結合組織

[12回] 顕微鏡解剖学:②同上

[13回] 解剖見学

[14回] 解剖見学

[15回] まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

生理学I[1121040]

科目名	生理学I[1121040]
科目区分・科目種	人体の構造と機能
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	高野　一夫[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	通年
曜日・時限	前期 火曜 4.0～4.0
	後期 木曜 2.0～2.0
教室	①406教室

受講条件・その注意

なるべく予習をして問題意識を持って講義に臨むと理解しやすい。また余裕のある学生は上記の参考書などを利用して理解に努めると良い。他の科目との有機的なつながりを考慮しながら学習すること。疑問点には時間の許す限り、講義担当者が回答する。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『人体の構造と機能』(医歯薬出版)佐藤昭夫・佐伯由香　編

参考書:『ガイトン生理学、原著第11版』A・Cガイトン:J・Eホール(エルゼビア・ジャパン)2010
『オクスフォード・生理学、原書3版』G・ポーコック:C・Dリチャーズ(丸善)2009
『標準生理学　Standard textbook 第7版』小澤瀞司:本郷利憲(医学書院)2009
『細胞の分子生物学、第4版』B・アルバーツ:中村桂子(ニュートンプレス)2004

評価方法・評価割合

定期試験(筆記試験)、その他(出席率が定められた基準以下の学生は定期試験を受験出来ない。成績評価が一定の基準以下の学生には再試験として筆記試験または口頭試験を行う。)

授業の目的および到達目標

生理学では人体の正常な機能を理解することを目的とする。人体の正常な形態および構造を学ぶ解剖学とは表裏一体の関係にあるので合わせて理解する。また生理学は疾病の原因、症状などを理解する上で不可欠な学問である。生理学Ⅰでは、生理学の基礎(細胞生理学)、血液、循環、呼吸、消化と吸収について学ぶ。血液では血液の役割・組成や血液の凝固機序を中心に学び、循環では心臓の機能と循環調節のメカニズムについて学ぶ。呼吸では呼吸器の構造とその調節メカニズムについて、消化と吸収では消化液の種類と分泌機序などについて学ぶ。

テーマおよび内容

[1回] 細胞生理学1 : 生理学とは、生体の恒常性の維持

[2回] 細胞生理学2 : 細胞成分とその機能1

[3回] 細胞生理学3 : 細胞成分とその機能2

[4回] 生体内情報伝達機構1 : 情報伝達機構とは

[5回] 生体内情報伝達機構2 : 受容体

[6回] 生体内情報伝達機構3 : イオンチャネル

[7回] 血液1 : 赤血球とその機能

[8回] 血液2 : 白血球とその機能

[9回] 血液3 : 血液凝固と血液型

[10回] 血液4 : 免疫1

[11回] 血液5 : 免疫2

[12回] 循環1 : 循環系の特徴

[13回] 循環2：刺激伝導系

[14回] 循環3：心電図とその異常

[15回] 循環4：血管の構造とその機能

[16回] 循環5：特殊部位での循環・リンパ循環

[17回] 循環6：循環調節1

[18回] 循環7：循環調節2

[19回] 呼吸1：呼吸器の構造とその機能

[20回] 呼吸2：呼吸運動

[21回] 呼吸3：肺胞表面活性化物質

[22回] 呼吸4：ガス交換

[23回] 呼吸5：呼吸調節

[24回] 呼吸6：呼吸異常

[25回] 消化と吸収1：消化管の構造とその機能

[26回] 消化と吸収2：口腔内および胃内における消化

[27回] 消化と吸収3：小腸および大腸における消化

[28回] 消化と吸収4：消化管ホルモン

[29回] 消化と吸収5：肝臓の機能

[30回] 消化と吸収6：排便反射

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

生理学II(運動生理学を含む)[1121050]

科目名	生理学II(運動生理学を含む)[1121050]
科目区分・科目種	人体の構造と機能
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	高野　一夫[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	通年
曜日・時限	前期 月曜 4.0～4.0
	後期 水曜 1.0～1.0
教室	①405教室

受講条件・その注意

なるべく予習をして問題意識を持って講義に臨むと理解しやすい。また余裕のある学生は上記の参考書などを利用して理解に努めると良い。他の科目との有機的なつながりを考慮しながら学習すること。疑問点には時間の許す限り、講義担当者が回答する。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『シンプル生理学』 貴邑　富久子、根来　英雄(南江堂)

参考書:『ガイトン生理学、原著第11版』A・Cガイトン:J・Eホール(エルゼビア・ジャパン)2010
『オクスフォード・生理学、原書3版』G・ポーコック:C・Dリチャーズ(丸善)2009
『標準生理学　Standard textbook 第7版』小澤瀞司:本郷利憲(医学書院)2009
『細胞の分子生物学、第4版』B・アルバーツ:中村桂子(ニュートンプレス)2004
『ニューロンの生理学』御子柴克彦・加藤総夫(京都大学出版会)2009

評価方法・評価割合

定期試験(筆記試験、)、その他(出席率が定められた基準以下の学生は定期試験を受験出来ない。成績評価が一定の基準以下の学生には再試験として筆記試験または口頭試験を行う。)

授業の目的および到達目標

生理学では人体の正常な機能を理解することを目的とする。人体の正常な形態および構造を学ぶ解剖学とは表裏一体の関係にあるので合わせて理解する。また生理学は疾病の原因、症状などを理解する上で不可欠な学問である。生理学Ⅱでは栄養と代謝、体温とその調節、尿の生成と排泄、内分泌系、生殖、骨の生理について学ぶ。栄養と代謝では栄養素の種類とその働きやエネルギー代謝について学び、内分泌系ではホルモンの種類や作用などについて学ぶ。生殖では男性生殖器と女性生殖器の構造とその働きを学び、骨の生理では骨の構造と再吸収・再形成に関与するカルシウム・リン代謝について学ぶ。さらに運動生理学についても学習する。

テーマおよび内容

[1回] 栄養と代謝1 : 3大栄養素とは

[2回] 栄養と代謝2 : エネルギー代謝

[3回] 栄養と代謝3 : ビタミンとミネラル

[4回] 内分泌1 : ホルモンとは

[5回] 内分泌2 : 視床下部・下垂体ホルモン

[6回] 内分泌3 : 甲状腺、上皮小体ホルモン

[7回] 内分泌4 : 副腎皮質・髄質ホルモン

[8回] 内分泌5 : 膵臓ホルモン

[9回] 内分泌6 : 性ホルモン

[10回] 尿の生成と排泄1 : 腎機能とは

[11回] 尿の生成と排泄2 : 糸球体濾過

[12回] 尿の生成と排泄3：尿細管再吸収と排泄

[13回] 尿の生成と排泄4：尿濃縮の機構

[14回] 尿の生成と排泄5：腎における酸塩基平衡

[15回] 尿の生成と排泄6：排尿反射

[16回] 生殖1：性の分化

[17回] 生殖2：男性・女性の生殖機能

[18回] 骨格筋1：骨格筋の構造と機能

[19回] 骨格筋2：収縮タンパク

[20回] 骨格筋3：興奮収縮連関

[21回] 骨格筋4：収縮形態

[22回] 骨格筋5：収縮エネルギーと疲労

[23回] 筋の比較1：骨格筋と心筋

[24回] 筋の比較2：骨格筋と平滑筋

[25回] 骨の生理1：骨の構造

[26回] 骨の生理2：骨の形成と成長

[27回] 骨の生理3：カルシウム代謝

[28回] 体温1：熱の産生

[29回] 体温2：熱の放散

[30回] 体温3：体温調節

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

生理学III[1121060]

科目名	生理学III[1121060]
科目区分・科目種	人体の構造と機能
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	高野　一夫[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	通年
曜日・時限	前期 木曜 4.0～4.0
	後期 火曜 4.0～4.0
教室	①404教室 ②403教室

受講条件・その注意

なるべく予習をして問題意識を持って講義に臨むと理解しやすい。また余裕のある学生は上記の参考書などを利用して理解に努めると良い。他の科目との有機的なつながりを考慮しながら学習すること。疑問点には時間の許す限り、講義担当者が回答する。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『シンプル生理学』 貴邑　富久子、根来　英雄(南江堂)

参考書:『ガイトン生理学、原著第11版』A・Cガイトン:J・Eホール(エルゼビア・ジャパン)2010
『オクスフォード・生理学、原書3版』G・ポーコック:C・Dリチャーズ(丸善)2009
『標準生理学　Standard textbook 第7版』小澤瀞司:本郷利憲(医学書院)2009
『ニューロンの生理学』御子柴克彦・加藤総夫(京都大学出版会)2009
『Principles of Neural Science 4th ed.』ER Kandel(McGraw Hill)2000

評価方法・評価割合

定期試験(筆記試験)、その他(出席率が定められた基準以下の学生は定期試験を受験出来ない。成績評価が一定の基準以下の学生には再試験として筆記試験または口頭試験を行う。)

授業の目的および到達目標

生理学では人体の正常な機能を理解することを目的とする。人体の正常な形態および構造を学ぶ解剖学とは表裏一体の関係にあるので合わせて理解する。また生理学は疾病の原因、症状などを理解する上で不可欠な学問である。生理学Ⅲでは、神経系、筋肉、感覚器系などの生理について学ぶ。神経系では中枢神経系および末梢神経系の機能、筋肉では筋収縮のメカニズムなど、感覚器系では体性感覚、化学感覚(味覚、嗅覚)、聴覚、視覚、平衡感覚などについて学ぶ。

テーマおよび内容

[1回] 神経生理の基礎1：神経系の特徴

[2回] 神経生理の基礎2：興奮の発生

[3回] 神経生理の基礎3：興奮の伝導

[4回] 神経生理の基礎4：興奮の伝達と神経伝達物質

[5回] 自律神経系1：自律神経系の構造と機能

[6回] 自律神経系2：交感神経系の機能1

[7回] 自律神経系3：交感神経系の機能2

[8回] 自律神経系4：副交感神経系の機能1

[9回] 自律神経系5：副交感神経系の機能2

[10回] 中枢神経系1：中枢神経系の構造と機能

[11回] 中枢神経系2：脊髄

[12回] 中枢神経系3：脳幹と間脳

[13回] 中枢神経系4：大脳皮質

[14回] 中枢神経系5：脳脊髄液と血液脳関門

[15回] 中枢神経系6：覚醒・睡眠・学習・記憶

[16回] 感覚総論：感覚とは

[17回] 体性感覚1：皮膚感覚

[18回] 体性感覚2：深部感覚

[19回] 特殊感覚1：嗅覚

[20回] 特殊感覚2：味覚

[21回] 特殊感覚3：聴覚1

[22回] 特殊感覚4：聴覚2

[23回] 特殊感覚5：平衡感覚

[24回] 特殊感覚6：視覚1

[25回] 特殊感覚7：視覚2

[26回] 運動機能1：α運動ニューロンと運動単位

[27回] 運動機能2：運動ニューロンの制御

[28回] 運動機能3：錘体路

[29回] 運動機能4：運動調節1

[30回] 運動機能5：運動調節2

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

生理学実習[1121070]

科目名	生理学実習[1121070]
科目区分・科目種	人体の構造と機能
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	高野　一夫[保健医療学部 鍼灸学科]
	西村　桂一[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前期
教室	①別途連絡

授業の形態
実習(共同)

授業の目的および到達目標
3年間で学んだ生理学の知識をもとに、自分達自身あるいは動物から摘出した組織を対象として生理学の基礎をなす種々のテーマについて実習する。自身が測定装置を直接操作することによって生理機能を計測・把握する能力を習得するとともに医用電子機器の基礎を理解する。血液成分の測定から血液の組成、尿成分の測定から腎機能を学習する。さらに、心電図や肺気量測定から呼吸・循環機能、脳波測定では脳の高次機能、筋電図では筋活動を学習する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

運動学[1121080]

科目名	運動学[1121080]
科目区分・科目種	人体の構造と機能
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	髙橋　康輝[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	通年
曜日・時限	前期 火曜 1.0～1.0
	後期 水曜 1.0～1.0
教室	①403教室

受講条件・その注意

理解を深めるためには自己学習が必須となってきます。少なくとも教科書は事前に読んでおいてください。疑問点等があった場合は講義内外に関わらず積極的に質問してください。講義中は双方向のやりとりがなされますので積極的な発言を期待します。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：社団法人　全国柔道整復学校協会監修 「運動学」第2版　医歯薬出版株式会社

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、授業中の課題、その他（受講態度）

授業の目的および到達目標

人間の正常な身体運動を科学的に分析し運動障害や運動異常を理解する基礎知識を学ぶ。人間が運動する際、骨格系・筋系・神経系・呼吸器系・循環器系・栄養とエネルギー代謝・酸塩基平衡などが関与する。そのため、解剖学および生理学と関連づけて人間が運動するときの骨格系・筋系・神経系・呼吸器系・循環器系・栄養とエネルギー代謝・酸塩基平衡などの機能を理解する。まず運動の基礎力学や神経機能を学習した後、四肢・体幹の運動、姿勢、歩行などについて学ぶ。

テーマおよび内容

[1回] 運動学（運動学とは、運動学の領域と目的、運動行動の概念）

[2回] 運動の表し方Ⅰ（運動の表示方法）

[3回] 運動の表し方Ⅱ（関節運動の種類）

[4回] 身体運動と力学Ⅰ（身体運動に関与する力、人体における単一機械構造）

[5回] 身体運動と力学Ⅱ（運動の法則、仕事と力学的エネルギー）

[6回] 運動器の構造と機能Ⅰ（骨の構造と機能）

[7回] 運動器の構造と機能Ⅱ（骨の構造と機能：超音波を用いた検証）

[8回] 運動器の構造と機能Ⅲ（関節の構造と機能）

[9回] 運動器の構造と機能Ⅳ（関節の構造と機能：超音波を用いた検証）

[10回] 運動器の構造と機能Ⅰ（骨格筋の構造と機能）

[11回] 運動器の構造と機能Ⅱ（骨格筋の構造と機能：超音波を用いた検証）

[12回] 神経の構造と機能（神経細胞、末梢神経、中枢神経）

[13回] 運動感覚Ⅰ（感覚と知覚）

[14回] 運動感覚Ⅱ（運動感覚と運動の制御機構）

[15回] 反射と随意運動Ⅰ（反射）

[16回] 反射と随意運動Ⅱ（随意反射）

[17回] 四肢と体幹の運動Ⅰ（上肢帯・肩関節・肘関節・手関節と手の運動・運動時の血流動態観察）

[18回] 四肢と体幹の運動Ⅱ（股関節・膝関節・足関節と足部の運動・運動時の血流動態観察）

[19回] 四肢と体幹の運動Ⅲ（体幹と脊柱・頸椎・胸椎・腰椎と骨盤・顔面および頭部の運動）

[20回] 姿勢Ⅰ（姿勢の分類と重心）

[21回] 姿勢Ⅱ（立位姿勢・姿勢の制御・姿勢保持の神経機構）

[22回] 歩行Ⅰ（歩行周期）

[23回] 歩行Ⅱ（歩行の運動学的・運動力学的分析）

[24回] 歩行Ⅲ（歩行時の筋活動：超音波を用いた筋活動の動態観察）

[25回] 歩行Ⅳ（歩行のエネルギー代謝）

[26回] 歩行Ⅴ（異常歩行）

[27回] 運動発達Ⅰ（神経組織の成熟）

[28回] 運動発達Ⅱ（乳幼児の運動発達）

[29回] 運動学習

[30回] まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

運動学実習[1121090]

科目名	運動学実習[1121090]
科目区分・科目種	人体の構造と機能
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	柚木　脩[保健医療学部 柔道整復学科]
	髙橋　康輝[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前期
教室	①別途連絡

授業の形態
実習(共同)

授業の目的および到達目標
運動学講義で学習した人間の正常な人体の運動について、実習を通じてより深く理解することを目標とする。その目標を達成するため、人間の正常な運動や歩行などを肉眼的に観察するとともに、様々な分析装置を利用して測定・分析する。姿勢の分析、関節運動の分析、重心と重心動揺の測定、姿勢保持と姿勢反射の分析、筋力の測定、呼吸の測定・分析、歩行の分析などを学習する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

病理学I[1122010]

科目名	病理学I[1122010]
科目区分・科目種	疾病と障害
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	寺井　政憲[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	通年
曜日・時限	前期 水曜 5.0～5.0
	後期 火曜 3.0～3.0
教室	①611基礎医学実習室

受講条件・その注意

授業では病理学の総論を平易に且つ丁寧に解説していきます。授業に関連した事項で興味ある項目は各自で教科書の各論を参照してください。教科書中のノートやコラムは時間のあるときに各自で読んでおいてください。病気について関心を持てるように授業をしていきます。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:「新クイックマスター　病理学」監修　堤　寛(医学芸術社)

参考書:「病理学概論改訂第2版」監修　社団法人全国柔道整復学校協会　著者　関根一郎(医歯薬出版株式会社)

評価方法・評価割合

定期試験(筆記試験)

授業の目的および到達目標

病理学では、種々の疾患における臓器、組織、細胞の異常(形態学的変化)について学ぶ。病理学Ⅰでは病理学の意義、疾病の分類・経過・予後・転帰、内因(素因、遺伝など)と外因(栄養障害、物理的・化学的・微生物学的病因作用)、退行性病変(変性、萎縮、壊死)、循環障害(充血、うっ血、虚血、出血、血栓、塞栓、梗塞、リンパ液の循環障害)、進行性病変(肥大、再生、化生、移植、創傷治癒、異物の処理)について学習する。到達目標は病気の概念・定義を理論的にしっかり習得し、最終的に幅広い基礎医学の知識と理解力をつけることにおく。

テーマおよび内容

[1回] 病理学とはどのような学問か:病理学と医療との関わり、医療における病理診断の役割について学ぶ

[2回] 病気についての基本的な考え方:病気の概念、病気の分類(先天性と後天性)について学ぶ

[3回] 病気についての基本的な考え方:病気の分類(遺伝性と非遺伝性)について学ぶ

[4回] 病気についての基本的な考え方:病気の分類(全身性と限局性、器質的と機能的)について学ぶ

[5回] 病気についての基本的な考え方:病気の分類、病気の症候と経過について学ぶ

[6回] 病因について(内因):内因(素因と体質、遺伝)について学ぶ

[7回] 病因について(内因):内因(染色体異常)について学ぶ

[8回] 病因について(内因):内因(代謝異常、奇形)について学ぶ

[9回] 病因について(内因):内因(内分泌)について学ぶ

[10回] 病因について(内因):内因(免疫;抗原と抗体、細胞性免疫と液性免疫)について学ぶ

[11回] 病因について(外因):外因(栄養素)について学ぶ

[12回] 病因について(外因):外因(物理的病因)について学ぶ

[13回] 病因について(外因):外因(化学的病因)について学ぶ

[14回] 病因について(外因):外因(生物的病因)について学ぶ

[15回] 病因について(外因):外因(生物的病因)について学ぶ

[16回] 循環障害について:循環系(大循環、小循環、リンパ循環、門脈循環)について学ぶ

[17回] 循環障害について:循環障害(詰まる、漏れる、溜まる)の病態について学ぶ

[18回] 循環障害について:充血、うっ血、貧血、虚血、側副循環について学ぶ

[19回] 循環障害について:出血の機序、止血の機序について学ぶ

[20回] 循環障害について:血栓、塞栓、梗塞について学ぶ

[21回] 循環障害について:浮腫、ショックについて学ぶ

[22回] 生活習慣病について :胆石症、糖尿病、動脈硬化、痛風について学ぶ

[23回] 退行性病変について :萎縮、変性について学ぶ

[24回] 退行性病変について :壊死とアポトーシスについて学ぶ

[25回] 進行性病変について :肥大、増殖、再生について学ぶ

[26回] 進行性病変について :再生、化生、移植について学ぶ

[27回] 進行性病変について :肉芽組織について学ぶ

[28回] 進行性病変について :創傷治癒について学ぶ

[29回] 進行性病変について :骨折の治癒について学ぶ

[30回] 進行性病変について :異物の処理について学ぶ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

病理学II[1122020]

科目名	病理学II[1122020]
科目区分・科目種	疾病と障害
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	寺井　政憲[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	通年
曜日・時限	通年 月曜 3.0～3.0
教室	①611基礎医学実習室

受講条件・その注意

授業では病理学の総論を平易に且つ丁寧に解説していきます。授業に関連した事項で興味ある項目は各自で教科書の各論を参照してください。教科書中のノートやコラムは時間のあるときに各自で読んでおいてください。病気について関心を持てるように授業をしていきます。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:「新クイックマスター　病理学」監修　堤　寛(医学芸術社),「好きになる免疫学」著者　萩原清文　監修者　多田富雄　(講談社サイエンティフィック)

参考書:「病理学概論改訂第2版」監修　社団法人全国柔道整復学校協会　著者　関根一郎(医歯薬出版株式会社)

評価方法・評価割合

定期試験(筆記試験)

授業の目的および到達目標

病理学では、種々の疾患における臓器、組織、細胞の異常(形態学的変化)について学ぶ。病理学Ⅱでは炎症(原因、形態学的変化、特異性炎と非特異性炎)、免疫異常(抗原と抗体、液性免疫と細胞性免疫、免疫不全、自己免疫疾患)、アレルギー(定義、分類)、腫瘍(定義、肉眼的形態、発生段階、原因・診断・治療、良性腫瘍と悪性腫瘍、上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍)、先天性異常(遺伝子と染色体、遺伝疾患、奇形)について学習する。

テーマおよび内容

[1回] 炎症について: 炎症の五大徴候、原因、経過、症状について学ぶ

[2回] 炎症について: 炎症の分類について学ぶ

[3回] 炎症について: 炎症の分類の詳細について学ぶ

[4回] 炎症について: 特異性炎、非特異性炎について学ぶ

[5回] 幹細胞と再生医学について: 幹細胞の生物学、幹細胞を用いた再生医療、細胞治療について学ぶ

[6回] 免疫について: 自然免疫と獲得免疫について学ぶ

[7回] 免疫について: 抗原と抗体、免疫記憶について学ぶ

[8回] 免疫について: 主要組織適合抗原(MHC)、抗原提示細胞、免疫担当細胞について学ぶ

[9回] 免疫について: 貪食作用、細胞性免疫、液性免疫について学ぶ

[10回] 免疫について: 免疫細胞どうしの情報交換について学ぶ

[11回] 免疫について: リンパ節、脾臓の役割、遊走因子、接着分子について学ぶ

[12回] 免疫について: 抗原特異性、抗体の多様性を生む仕組み、抗体の働きについて学ぶ

[13回] 免疫について: 抗体産生細胞のクラススイッチについて学ぶ

[14回] 免疫について: 胸腺の役割、免疫寛容について学ぶ

[15回] 免疫異常について: ヘルパーT細胞、制御性T細胞の均衡について学ぶ

[16回] 免疫異常について: アレルギー(クームス分類)について学ぶ

[17回] 免疫異常について: アレルギー(クームス分類)について学ぶ

[18回] 免疫異常について: 関節リウマチはどのような病気かについて学ぶ

[19回] 免疫異常について: エイズと免疫のせめぎ合いについて学ぶ

[20回] 免疫異常について: 臓器移植と拒絶反応、骨髄移植とGVH反応について学ぶ

[21回] 腫瘍について: 腫瘍とは何かについて学ぶ

[22回] 腫瘍について: 腫瘍の特色、分類について学ぶ

[23回] 腫瘍について: 腫瘍の良性と悪性の違いについて学ぶ

[24回] 腫瘍について: 悪性腫瘍の特徴、分類について学ぶ

[25回] 腫瘍について: 腫瘍発生の内因について学ぶ

[26回] 腫瘍について: 腫瘍発生の外因について学ぶ

[27回] 癌の幹細胞、腫瘍免疫について: 癌の幹細胞について、がんと免疫のせめぎ合いについて学ぶ

[28回] 先天性異常について: 遺伝子と染色体について学ぶ

[29回] 先天性異常について: 染色体異常、遺伝疾患について学ぶ

[30回] 先天性異常について: 代謝異常、奇形について学ぶ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

病理学実習[1122030]

科目名	病理学実習[1122030]
科目区分・科目種	疾病と障害
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	寺井　政憲[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前期
教室	①別途連絡

授業の形態
実習

授業の目的および到達目標
病理学講義で学習した種々の疾患における臓器、組織、細胞の異常（形態学的変化）について実習を通じてより深く理解することを目的とする。まず、人体の正常な組織標本作製法（H－E染色、免疫組織学的染色法、蛍光染色など）および組織（上皮組織、骨組織、筋組織、ネフロン、内分泌腺など）の顕微鏡観察法について学ぶ。次いで種々の疾患の病理標本（肝細胞の脂肪変性、肝硬変の肝臓組織、腫瘍組織など）の顕微鏡的観察を行う。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

内科学総論[1122040]

科目名	内科学総論[1122040]
科目区分・科目種	疾病と障害
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	林　洋[看護学部 看護学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	通年
曜日・時限	前期 木曜 4.0～4.0
	後期 月曜 3.0～3.0
教室	①405教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『一般臨床医学　第2版』 奈良信雄・吉澤靖之・椎名晋一(医歯薬出版)1999

参考書:『内科診断学　改訂第16版』 武内重五郎(南江堂)2003

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート

授業の目的および到達目標

柔道整復師の業務上遭遇しうる内科疾患について、その診断と検査並びに治療の概要を理解する。代表的な臨床症状について、問診による病歴聴取法、視診、触診、打診、聴診による身体所見の取り方、知覚検査、反射検査(表在反射、深部反射、病的反射)を含む神経学的所見の取り方、体温、血圧、脈拍の測定法と呼吸状態の観察法、そして、臨床検査としての生理機能検査と検体検査について学習する。特に柔道整復師の日常診療に関連の強い内科疾患の病態と治療については詳しく解説し、実際の診療で応用可能となることを目標とする。

テーマおよび内容

[1回] 診察概論

[2回] 問診

[3回] 視診(1)　体格と体型、体位と姿勢

[4回] 視診(2)　栄養状態、精神状態

[5回] 視診(3)　異常運動

[6回] 視診(4)　歩行

[7回] 視診(5)　皮膚

[8回] 視診(6)　頭部、顔面

[9回] 視診(7)　頸部、胸部、腹部

[10回] 視診(8)　腰背部、四肢

[11回] 打診

[12回] 聴診(1)　胸部

[13回] 聴診(2)　腹部

[14回] 触診(1)　皮膚、筋、骨

[15回] 触診(2)　胸部、腹部、リンパ節

[16回] 生命徴候(1)　体温、血圧

[17回] 生命徴候(2)　脈拍、呼吸

[18回] 神経学総論

[19回] 知覚検査（1） 表在、深部

[20回] 知覚検査（2） 複合、その他

[21回] 反射検査（1） 表在、深部

[22回] 反射検査（2） 病的、クローヌス、自律神経

[23回] 代表的な臨床症状（1） 発熱

[24回] 代表的な臨床症状（2） 出血傾向、リンパ節腫脹

[25回] 代表的な臨床症状（3） 意識障害、チアノーゼ、

[26回] 代表的な臨床症状（4） 関節痛、浮腫

[27回] 代表的な臨床症状（5） 肥満、やせ

[28回] 生理機能検査

[29回] 検体検査（1）

[30回] 検体検査（2）

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

内科学各論I[1122050]

科目名	内科学各論I[1122050]
科目区分・科目種	疾病と障害
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	田中　滋城[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	通年
曜日・時限	前期 月曜 5.0～5.0
	後期 月曜 4.0～4.0
教室	①403教室

受講条件・その注意

多くの疾患を学び理解が必要であり、予習および特に復習が必要である。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『一般臨床医学』(社)全国柔道整復学校協会編　奈良信雄・吉澤靖之・椎名晋一編(医歯薬出版)2009

参考書:『内科学書』 小川　聡　総編集(中山書店)2009 ,『病気がみえる(消化器、循環器、糖尿病・代謝・内分泌、呼吸器、血液)』(メデックメディア)2009

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート

授業の目的および到達目標

柔道整復師の業務上遭遇しうる内科疾患について、その診断と検査並びに治療の概要を理解する。内科学各論Ⅰでは、内科疾患のうち呼吸器疾患(気管支喘息など)、循環器疾患(心筋梗塞など)、消化器疾患(胃癌など)、代謝疾患(糖尿病など)、内分泌疾患(バセドウ病など)、血液疾患(白血病など)について、その原因、症状、診断・検査・治療法などについて学ぶ。一般的な臨床症状から出発する症候学に基づき重要疾患を学習し、臨床現場で応用できるようにする。

テーマおよび内容

[1回] 呼吸器疾患:総論、かぜ症候群、急性気管支炎

[2回] 呼吸器疾患:慢性気管支炎、気管支喘息肺、肺気腫

[3回] 呼吸器疾患:肺炎、肺結核

[4回] 呼吸器疾患:肺癌、自然気胸

[5回] 循環器疾患:総論、狭心症、心筋梗塞

[6回] 循環器疾患:心弁膜症(僧帽弁狭窄・閉鎖不全症、大動脈弁狭窄・閉鎖不全症)

[7回] 循環器疾患:先天性心疾患(ファロー四徴症、心房・心室中隔欠損症)

[8回] 循環器疾患:うっ血性心不全、本態性高血圧大

[9回] 循環器疾患:動脈瘤、解離性大動脈瘤、バージャー病

[10回] 消化器疾患:総論、食道癌、急性・慢性胃炎

[11回] 消化器疾患:消化性潰瘍、胃癌

[12回] 消化器疾患:急性虫垂炎、腸閉塞、腹膜炎

[13回] 消化器疾患:大腸癌、潰瘍性大腸炎

[14回] 肝・胆・膵疾患:総論、肝炎

[15回] 肝・胆・膵疾患:肝硬変、肝癌

[16回] 肝・胆・膵疾患:胆石症、胆嚢炎

[17回] 肝・胆・膵疾患:膵炎、膵癌

[18回] 代謝・栄養疾患:総論

[19回] 代謝・栄養疾患:糖尿病

[20回] 代謝・栄養疾患:脂質異常症

[21回] 代謝・栄養疾患:痛風、その他の代謝異常

[22回] 内分泌疾患:総論、下垂体疾患(巨人症)

[23回] 内分泌疾患:下垂体疾患(低身長症、尿崩症)

[24回] 内分泌疾患:甲状腺疾患(甲状腺機能亢進・低下症、慢性甲状腺炎)

[25回] 内分泌疾患:副腎疾患(アジソン病、原発性アルドステロン症)

[26回] 内分泌疾患:副腎疾患(クッシング、褐色細胞腫)

[27回] 血液疾患:総論

[28回] 血液疾患:赤血球疾患(鉄欠乏性貧血、悪性貧血、再生不良性貧血)

[29回] 血液疾患:白血球疾患(急性・慢性白血病)

[30回] 血液疾患:出血性素因(特発性血小板減少性紫斑病、血友病)

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

内科学各論II(スポーツ医学を含む)[1122060]

科目名	内科学各論II(スポーツ医学を含む)[1122060]
科目区分・科目種	疾病と障害
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	田中　滋城[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前期
教室	①別途連絡

授業の形態
講義

授業の目的および到達目標
柔道整復師の業務上遭遇しうる内科疾患について、その診断と検査並びに治療の概要を理解する。内科学各論IIでは、内科疾患のうち腎疾患(糸球体腎炎など)、神経筋疾患(進行性筋ジストロフィー症など)、感染症(エイズなど)、リウマチ疾患(膠原病など)について、その原因、症状、診断・検査・治療法などについて学ぶ。一般的な臨床症状から出発する症候学に基づき重要疾患を学習し、臨床現場で応用できるようにする。また、アスリートの健康管理とスポーツ医学についても学習する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

外科学概論[1122070]

科目名	外科学概論[1122070]
科目区分・科目種	疾病と障害
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	鈴木　秀一[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	通年
曜日・時限	前期 水曜 4.0～4.0
	後期 水曜 2.0～2.0
教室	①405教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『外科学概論　改訂第3版』 社団法人全国柔道征服学校協会監修、炭山嘉伸編(南光堂)

参考書:特になし

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他(成績不良者には課題を与え、レポートの提出を求めることがある。)

授業の目的および到達目標

外科学の基礎を身につけることを主目的とする。ここでは、その基盤となる外科学概論を学ぶ。損傷(創傷、熱傷)、外傷(交通外傷、頭部外傷など)、炎症(局所的変化と全身的変化、外科的感染症)、腫瘍(成因、分類、前癌病変、症状、診断・検査、治療)、ショック(分類、症状、診断、治療)、輸血と輸液、滅菌と消毒、各種手術法、麻酔(麻酔前投与、全身麻酔と局所麻酔)、移植と免疫、出血と止血、蘇生術などについて学習する。

テーマおよび内容

[1回] 外科学の歴史と専門分化 : 紀元前にまで遡る外科学の歴史、19世紀からの外科学の発展、外科的治療技術の進歩と領域別専門分化の過程

[2回] 外科学の歴史と専門分化 : 損傷の分類、外傷

[3回] 損傷と創傷 : 創傷治癒、創傷処置

[4回] 損傷と創傷 :

[5回] 損傷と創傷 : 原因と分類、範囲の診断、重症度判定、治療

[6回] 熱傷 :

[7回] 熱傷 : 炎症の定義と分類、代表的な外科感染症

[8回] 炎症と外科感染症 :

[9回] 炎症と外科感染症 : 腫瘍の概念と分類、腫瘍の発育形式、診断と治療

[10回] 腫瘍 :

[11回] 腫瘍 :

[12回] 腫瘍 : ショックの分類、ショックに対する緊急処置

[13回] ショック :

[14回] ショック : 輸血に関する基礎知識、輸血の実際、輸液療法

[15回] 輸液と輸血 :

[16回] 輸液と輸血 : 主な消毒薬とその特徴、各種滅菌法

[17回] 消毒と滅菌 :

[18回] 消毒と滅菌 : 手術に関する基礎知識

[19回] 手術療法：麻酔の概要、麻酔の進歩、各種麻酔法

[20回] 麻酔学：

[21回] 麻酔学：

[22回] 麻酔学：

[23回] 麻酔学：移植に関する用語、代表的な臓器移植

[24回] 免疫と臓器移植：

[25回] 免疫と臓器移植：出血の分類、止血法、出血をきたす代表的疾患

[26回] 出血と止血法：

[27回] 出血と止血法：意識状態の評価、蘇生法の手順

[28回] 心肺蘇生法

[29回] 心肺蘇生法

[30回] まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

外科学各論[1122080]

科目名	外科学各論[1122080]
科目区分・科目種	疾病と障害
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	鈴木　秀一[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	通年
曜日・時限	前期 水曜 3.0～3.0
	後期 月曜 2.0～2.0
教室	①403教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『外科学概論　改訂第3版』 社団法人全国柔道整復学校協会監修、炭山嘉伸編(南光堂)

参考書:特になし

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他(成績不良者には課題を与え、レポートの提出を求めることがある。)

授業の目的および到達目標

外科学の基礎を身につけることを主目的とする。2年次で学んだ外科学概論を基礎として、ここでは日常臨床の場において遭遇することの比較的多い、外科学で扱う代表的疾患の病態、治療を理解する。脳神経外科疾患(脳腫瘍、脳血管疾患、頭部外傷)、胸壁・肺・縦隔疾患(肺癌、肺結核、自然気胸、胸部損傷)、乳腺疾患(乳癌など)、心臓疾患(虚血性心疾患など)、脈管疾患(大動脈瘤など)、腹部外科疾患(胃十二指腸潰瘍、胃癌、大腸癌など)について学習する。

テーマおよび内容

[1回][2回][3回][4回][5回]　脳神経外科
頭部の構造、脳神経疾患の主要兆候、中枢性疾患に特有な病態
脳神経外科領域の検査
脳神経外科領域の主な疾患:脳腫瘍、脳血管障害、頭部外傷
脳神経外科手術

[6回][7回]　頸部の外科
甲状腺疾患、甲状腺腫瘍、副甲状腺疾患、そのほかの頸部疾患

[8回][9回][10回][11回][12回][13回]　胸部外科
胸部の構造と機能、胸部外科領域の検査、開胸術
主な肺疾患:肺癌、転移性肺腫瘍、肺の良性腫瘍、肺分画症
胸郭の異常:漏斗胸、鳩胸、
胸膜疾患:自然気胸、胸膜腫瘍
縦隔腫瘍:胸腺腫、胸腺癌、胚細胞性腫瘍、縦隔嚢腫
胸部外傷

[14回][15回][16回][17回][18回][19回]　心臓外科・血管外科
心血管系疾患に対する検査法、開心術と非開心術
主な心疾患:先天性心疾患、心臓弁膜症、感染性心内膜炎、心筋症、心臓腫瘍、虚血性心疾患
主な動脈疾患:動脈硬化、大動脈瘤、大動脈炎症候群、レイノー病、閉塞性動脈硬化症、閉塞性血栓血管炎
主な静脈疾患:深部静脈血栓症、血栓性静脈炎、静脈瘤

[20回][21回][22回]　乳腺外科
乳腺の解剖・生理、乳腺疾患に対する検査
主な乳腺疾患:乳腺炎、乳腺症、女性化乳房、線維腺腫、乳癌

[23回][24回][25回][26回][27回][28回] [29回]　消化器外科
消化器の解剖と生理、消化器外科疾患の主な症状、消化器疾患に対する検査
主な消化器疾患:食道癌、マロリー・ワイス症候群、消化性潰瘍、胃癌、悪性リンパ腫、大腸癌、大腸ポリープ、大腸憩室、炎症性腸疾患、肝癌、肝膿瘍、膵癌、膵炎、胆石症、急性虫垂炎、そけいヘルニア、腸閉塞、痔核、裂肛、痔瘻、肛門管癌、急性腹症、腹部外傷

[30回] まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

救急法[1122090]

科目名	救急法[1122090]
科目区分・科目種	疾病と障害
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	鈴木　秀一[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 4.0～4.0
教室	①404教室

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書：特に指定しない

参考書：救急医学（30巻、10号、2006年9月、臨時増刊号）

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他（成績不良者には課題を与え、レポートの提出を求めることがある。）

授業の目的および到達目標

救急を必要とする病態に対し、適切な対処ができるようになることを目的とする。まず、意識障害レベルの判定、出血・呼吸・心拍・脈拍・血圧・瞳孔などの状態確認について学ぶ。次いで、止血法、創傷部位の感染予防処置、気道の確保（異物の除去、下顎挙上法）、人工呼吸法（マウス・トゥー・マウス）、心臓マッサージ、AEDなどについて、各自が実技・実習を十分に行い、手技を確実なものとしていく。

テーマおよび内容

[1回] 総論 : 正しい救急処置に求められる根拠と合理性は何か？救急法の基本

[2回] バイタルサインの見方 : 呼吸、血圧、脈拍、体温、意識の評価

[3回] 気道の確保 : バイタルサインに異常を来す代表的な救急疾患用手的気道確保と人工呼吸、気道の異物除去

[4回] 循環の確保 : 胸骨圧迫心マッサージと電気的除細動

[5回] 体温のコントロール : 低体温に対する対応（加温）、高体温に対する対応（冷却）

[6回] 頸椎・脊柱の保護 : 脊柱保護の適応、脊髄損傷を疑う身体所見

[7回] 外出血の止血法 : 直接圧迫による止血、支配動脈の圧迫による止血、鼻出血の止血

[8回] 創の洗浄とデブリードマン : 創感染の病態生理、開放創の治療方針、破傷風の予防処置

[9回] 捻挫・脱臼・骨折の処置 : 目的と適応、手技

[10回] 実習

[11回] 実習

[12回] 実習

[13回] 実習

[14回] 実習

[15回] まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

整形外科学I(スポーツ医学を含む)[1122100]

科目名	整形外科学I(スポーツ医学を含む)[1122100]
科目区分・科目種	疾病と障害
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	柚木　脩[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	通年
曜日・時限	前期 木曜 2.0～2.0
	後期 金曜 1.0～1.0
教室	①406教室

受講条件・その注意

講義では、ビジュアルプレゼンテーションを中心に展開していくので、出席は重要である。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『整形外科学』 松下隆:福林徹(南光堂)

参考書:『整形外科学用語集』 日本整形外科学会編(南光堂)

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート

授業の目的および到達目標

整形外科学では、柔道整復学と関係の深い運動器の疾患および外傷について学ぶ。整形外科学Ⅰでは、整形外科学の基礎となる運動器の解剖学を学びながら、整形外科学のうち肩関節の疾患(肩関節周囲炎など)、肘関節の疾患(テニス肘など)、手関節の疾患(ド・ケルバン病など)、体幹の疾患(椎間板ヘルニアなど)、股関節の疾患(先天性股関節脱臼など)、膝関節の疾患(半月板損傷など)、足関節の疾患(足関節捻挫など)および骨端症(オスグッド・シュラッテル病など)について学習する。さらに、スポーツ外傷・障害の基礎知識についても学ぶ。

テーマおよび内容

[1回] 整形外科とは

[2回] 運動器の基礎知識(骨の基礎知識)

[3回] 運動器の基礎知識(関節の基礎知識)

[4回] 運動器の基礎知識(筋・靭帯・腱の基礎知識)

[5回] 運動器の基礎知識(運動器の科学)

[6回] 整形外科診察法(姿勢、体幹と四肢のバランス・跛行)

[7回] 整形外科診察法(関節拘縮と強直・徒手筋力テスト)

[8回] 整形外科診察法(知覚の診断・反射)

[9回] 整形外科的治療法(保存療法)

[10回] 整形外科的治療法(観血的治療Ⅰ)

[11回] 整形外科的治療法(観血的治療Ⅱ)

[12回] 骨・関節損傷総論(骨折総論)

[13回] 骨・関節損傷総論(関節の損傷)

[14回] 整形外科総論のまとめ

[15回] 前学期のまとめ

[16回] スポーツ整形外科とは

[17回] スポーツ外傷・障害総論

[18回] 代表的なスポーツ種目と特徴的な怪我

[19回] 整形外科的メディカルチェック

[20回] 上肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ

[21回] 上肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ

[22回] 体幹のスポーツ外傷・障害Ⅰ

[23回] 体幹のスポーツ外傷・障害Ⅱ

[24回] 下肢のスポーツ外傷・障害Ⅰ

[25回] 下肢のスポーツ外傷・障害Ⅱ

[26回] スポーツ活動中の重篤な外傷（頭部、脊髄損傷、大出血、等）

[27回] 年齢性別による特徴（女性、高齢者、発育期、等）

[28回] スポーツ整形外科学のまとめⅠ

[29回] スポーツ整形外科学のまとめⅡ

[30回] 後学期のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

整形外科学II[1122110]

科目名	整形外科学II[1122110]
科目区分・科目種	疾病と障害
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	柚木　脩[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	通年
曜日・時限	前期 水曜 3.0～3.0
	後期 水曜 5.0～5.0
教室	①405教室 ②404教室

受講条件・その注意

講義では、PP及び標本などで視覚的に展開し、実技も実施するので出席が重要である。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『整形外科学』 松下隆:福林徹(南光堂)

参考書:『整形外科学用語集』 日本整形外科学会編(南光堂)

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況

授業の目的および到達目標

整形外科学では、柔道整復学と関係の深い運動器の疾患および外傷について学ぶ。整形外科学Ⅱでは、臨床的に遭遇する整形外科的疾患や鑑別診断などを理解し、柔道整復師として必要な整形外科的な知識を学習し、臨床に対処できるようになることを目標とする。整形外科診断学、整形外科治療法、全身性の骨・軟部疾患、感染性疾患、非感染性軟部・関節疾患、神経・筋の系統疾患、骨・軟部腫瘍などについて学習する。

テーマおよび内容

[1回] 疾患別総論Ⅰ(炎症・腫瘍・変性疾患)

[2回] 疾患別総論Ⅰ(全身性疾患・骨端症)

[3回] 疾患別総論Ⅱ(循環障害・神経疾患・筋疾患)

[4回] 感染性疾患

[5回] 腫瘍

[6回] 非感染性軟部・骨関節疾患

[7回] 全身性の骨疾患

[8回] 全身性の軟部疾患

[9回] 四肢の循環障害

[10回] 四肢の神経疾患

[11回] 四肢の筋疾患

[12回] 頚椎の疾患

[13回] 胸椎の疾患

[14回] 腰椎の疾患

[15回] 前学期授業のまとめ

[16回] 肩甲帯の疾患1
[17回] 肩甲帯の疾患2
[18回] 上腕から肘関節の疾患1
[19回] 上腕から肘関節の疾患2
[20回] 前腕から手指の疾患1
[21回] 前腕から手指の疾患2
[22回] 骨盤から股関節の疾患1
[23回] 骨盤から股関節の疾患2
[24回] 大腿から膝関節の疾患1
[25回] 大腿から膝関節の疾患2
[26回] 下腿から足関節の疾患1
[27回] 下腿から足関節の疾患2
[28回] スポーツ外傷各論
[29回] スポーツ障害各論
[30回] 後学期授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

リハビリテーション医学(検査・測定を含む)[1122120]

科目名	リハビリテーション医学(検査・測定を含む)[1122120]
科目区分・科目種	疾病と障害
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	関　寛之[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	通年
曜日・時限	通年 木曜 2.0～2.0
教室	①405教室 ②404教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:リハビリテーション医学(改定第3版):全国柔道整復学校協会監修、三上真弘編、南江堂
必要により資料配布、スライド、DVD、ビデオなどの視聴覚教材も使用する。

評価方法・評価割合

定期試験

授業の目的および到達目標

リハビリテーションとは、「障害を受けた者を、彼のなし得る最大の身体的、精神的、社会的、職業的、経済的な能力を有するまでに回復させることである。」と定義される。まず、障害の種類、評価法・診断法(徒手筋力テスト、関節可動域測定、日常生活動作評価、運動年齢テストなど)を学習し、その後、リハビリテーションの治療学概論(理学療法、作業療法、言語療法、補装具など)、さらに代表疾患(脊髄損傷、脳性麻痺、脳卒中、関節リウマチなど)のリハビリテーションを学ぶ。

テーマおよび内容

[1回] ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ(以下ﾘﾊと略)の理念 ： リハの概念と歴史、障害とは何かを学ぶ

[2回] リハの基礎医学(Ⅰ) ： 関節運動、筋の活動、姿勢・歩行・運動のｺﾝﾄﾛｰﾙ

[3回] リハの基礎医学(Ⅱ) ： 上肢、下肢、脊柱の運動と機能解剖

[4回] 障害学 ： 関節拘縮・変形、筋萎縮、末梢神経および中枢神経麻痺

[5回] 治療学 ： 関節拘縮・筋萎縮の治療、麻痺筋の再教育、痛の治療

[6回] リハ医学での評価(Ⅰ) ： 患者のとらえ方、身体計測法、関節可動域測定法

[7回] リハ医学での評価(Ⅱ) ： 徒手筋力テスト、中枢性運動障害評価法、痙縮の評価

[8回] リハ医学での評価(Ⅲ) ： 小児運動発達の評価法、協調性の評価法

[9回] リハ医学での評価(Ⅳ) ： 失認・失行の評価法、心理評価、障害の受容

[10回] リハ医学での評価(Ⅴ) ： 日常生活動作の評価、電気生理学的診断、画像診断

[11回] リハ治療学の各論(Ⅰ) ： 理学療法(運動療法、物理療法、牽引・徒手矯正)

[12回] リハ治療学の各論(Ⅱ) ： 作業療法(身体障害作業療法、精神領域作業療法)

[13回] リハ治療学の各論(Ⅲ) ： 補装具(義肢・装具の目的と種類、上肢の装具)

[14回] リハ治療学の各論(Ⅳ) ： 補装具(下肢の装具, 体幹の装具)

[15回] リハ治療学の各論(Ⅴ) ： 補装具(義肢、義手と義足、移動用補助具)

[16回] リハ治療学の各論(Ⅵ) ： 言語治療、構音障害と失語症

[17回] リハ医学と関連職種 ： チーム医療について

[18回] リハの実際(疾患別のリハ) ： 脳卒中(脳卒中の分類・障害、病期別のリハ)

[19回] リハの実際（疾患別のリハ） ： 脊髄損傷（病態、合併症と対策、損傷高位別のリハ）

[20回] リハの実際（疾患別のリハ） ： 小児疾患（脳性まひ、二分脊椎）

[21回] リハの実際（疾患別のリハ） ： 小児疾患（筋ジストロフィ、血友病、心疾患）

[22回] リハの実際（疾患別のリハ） ： 切断（切断の原因疾患、切断の原則、義肢装着訓練）

[23回] リハの実際（疾患別のリハ） ： 末梢神経損傷（神経の構造、損傷タイプと重症度）

[24回] リハの実際（疾患別のリハ） ： 関節リウマチ（RAの診断・治療とリハの位置づけ）

[25回] リハの実際（疾患別のリハ） ： 整形外科疾患（腰痛、頸肩腕痛、五十肩）

[26回] リハの実際（疾患別のリハ） ： 整形外科疾患（変形性関節症、骨折）

[27回] リハの実際（疾患別のリハ） ： 心疾患（虚血性心疾患の評価法とリハ・プログラム）

[28回] リハの実際（疾患別のリハ） ： 呼吸器疾患（拘束性換気障害と閉塞性換気障害）

[29回] リハの実際（疾患別のリハ） ： 高齢者疾患の特徴とリハの取り組み

[30回] リハビリテーションと福祉 ： リハと福祉、日本の実情と北欧の福祉に学ぶ点

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

リハビリテーション医学実習（検査・測定を含む）[1122130]

科目名	リハビリテーション医学実習（検査・測定を含む）[1122130]
科目区分・科目種	疾病と障害
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	関　寛之[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 1.0～1.0
教室	①711実技実習室

授業の形態

実習

教科書・参考文献

教科書：『リハビリテーション医学』（第3版）（社）全国柔道整復学校協会　監修（南江堂）

参考書：資料配布、スライド、DVD等使用

評価方法・評価割合

定期試験（実技試験）

授業の目的および到達目標

リハビリテーション医学の講義で学習した障害学について、実習を通じてより深く理解することを目標とする。まず評価法として触診、四肢長と四肢周径測定、関節可動域測定（ROM）、筋力検査（MMT）、神経学的検査（知覚検査、表在反射、深部反射、病的反射）などの手技を理解し、次いで運動療法、物理療法、補装具、自助具、杖歩行、各種作業療法を実習学習し、さらに各種ファシリテーションテクニック（PNFなど）について学ぶ。

テーマおよび内容

[1回] 身体計測：四肢長（上肢長と下肢長）及び四肢周径（上肢周径と下肢周径）の計測と注意点

[2回] 上肢の関節可動域（ROM）の測定法（基本軸、移動軸、運動方向、参考可動域角度）と注意点

[3回] 下肢の関節可動域（ROM）の測定法（基本軸、移動軸、運動方向、参考可動域角度）と注意点

[4回] 上肢（肩関節、肘関節、手関節）の徒手筋力検査法（MMT）と注意点

[5回] 下肢（股関節、膝関節、足関節）の徒手筋力検査法（MMT）と注意点

[6回] 知覚検査法：表在感覚（触覚、痛覚、温度覚）、深部感覚（位置覚、振動覚）、複合感覚（立体覚、二点識別域、筆跡覚）の検査法と注意点

[7回] 反射（表在反射、深部反射、病的反射）や運動失調の検査法と注意点

[8回] 関節の障害の検査法と注意点

[9回] 腰痛と関連疾患の検査法と注意点

[10回] 頸肩腕障害の検査法と注意点

[11回] リハビリテーションの治療：1. 装具（上肢の装具、下肢の装具、体幹の装具）の種類と適応

[12回] リハビリテーションの治療：2. 義手・義足と自助具の種類と適応

[13回] リハビリテーションの治療：3. 杖の種類、杖歩行の方法と注意点

[14回] リハビリテーションの治療：4. 作業療法の適応と注意点

[15回] 総復習

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

柔道整復の歴史[1123010]

科目名	柔道整復の歴史[1123010]
科目区分・科目種	保健医療福祉と柔道整復の理念
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	中川　敏郎[非常勤講師]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 5.0～5.0
教室	①406教室

受講条件・その注意

講義中の私語や携帯電話による通話および操作は禁止する。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：担当教員の著書による「柔道整復史」（非製本）

参考書：『整骨・整形外科辞典籍大系　全13巻』（オリエント出版）『日本整骨術全集　上』（梓書房）『日本整骨術全集　下』（梓書房）

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他（受講態度）

授業の目的および到達目標

人類が人間としての営みを始めたときから「医学と医療」は始まり、人間の歴史と共に医学の歴史は歩んでいる。日本の医学の歴史も飛鳥時代以降のものが記録に残されているが、当然記録にはないそれ以前の「医学と医療」もあったわけである。接骨医学についても、一般的な医学・医療と共に発展してきたが、わかっている限りでは、古武術の中の「活法」、中国で発展した「漢方医学」の中の接骨術、室町時代以降に移入されたヨーロッパの外科医学などが今日の「接骨医学」の基礎となっている。医学の歩みを学ぶことによって、歴史の中で正しく医療を捉え、先師たちが努力の末に残してくれた知識や技能を学習し、将来の指針とする。さらに、柔道整復「JudoTherapy」がWHO（世界保健機構）で伝統医学として認知されるまでの経過、韓国・モンゴル国・ボルトガル・ミクロネシア連邦などでの活動状況、これからの柔道整復師の国際交流についての展望などについても学習する。

テーマおよび内容

[1回] 古代アジアの医学：古代インドの医学。古代中国の医学。

[2回] 古代日本の医学：古墳時代から飛鳥時代へ。仏教伝来と聖徳太子の医療福祉。

[3回] 奈良時代の医学：大宝律令の「医疾令」。行基の社会福祉事業。鑑真の来日。

[4回] 平安時代の医学：我国最初の「薬書」（薬経太素）と「医書」（医心方）。漢和辞典。

[5回] 鎌倉時代の医学：仏教僧侶の医療活動。栄西・叡尊・忍性・性全の福祉活動と医書。

[6回] 室町時代の医学：僧医有隣・月湖の医書。最初の総合大学「足利学校」。

[7回] 安土桃山時代の医学：李朱医学の展開京都曲直瀬診療所。最初の西洋式病院。

[8回] 江戸時代の医学1：中国医学の展開。最初の「医学史」。ヨーロッパ医学の移入。

[9回] 江戸時代の医学2：解剖学の発展・進歩。「三大木骨」の出現。

[10回] 江戸時代の医学3：接骨医学の名著。「三大接骨書」の刊行。

[11回] 江戸時代の医学4：医学教育の進歩。医科大学の創設と発展。

[12回] 明治初期の医学：オランダ医学からフランス医学ドイツ医学へ

[13回] 明治から昭和へ：ヨーロッパ医学からアメリカ医学へ

[14回] 国際交流：韓国・モンゴル。他

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

関係法規[1123020]

科目名	関係法規[1123020]
科目区分・科目種	保健医療福祉と柔道整復の理念
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	早野 俊明[非常勤講師]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	通年
曜日・時限	前期 月曜 4.0～4.0
	後期 月曜 1.0～1.0
教室	①403教室

受講条件・その注意
必ず予習をすること。代退、代書が明らかになった場合には、代退・代書した者も欠席とみなす。

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：前田和彦編著『関係法規[改訂第2版]』(医歯薬出版株式会社, 2009年)

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、授業中の課題(小テスト)、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標
法の意義、体系(法律、政令、省令、条例、規則)を理解した後、柔道整復師として遵守すべき基本的法律である柔道整復師法を中心に、柔道整復師法施行令、柔道整復師施行規則について学ぶ。また、医師法、歯科医師法、薬事法、薬剤師法、保健師助産師看護法、診療放射線技師法など他の医療関係法律についても、医療人として最低知らなければならない事項について学習し、その習得を到達目標とする。

テーマおよび内容
[1回] ガイダンス
[2回] 序論(1)—法の意義、法の体系
[3回] 序論2—柔道整復師および柔道整復に関する法規、柔道整復師と患者の権利
[4回] 柔道整復師法とその関連内容(1)—第1章 総則　柔道整復師法の目的、定義
[5回] 柔道整復師法とその関連内容(2)—第2章 免許① 柔道整復師免許、免許を受けるための要件、免許の申請、柔道整復師名簿、免許の取消等、柔道整復師免許証および柔道整復師免許証明書、免許証の書換え交付、免許証の再交付、免許証又は免許証明書の返納および提出、行政手続法による行政処分
[6回] 柔道整復師法とその関連内容(3)—第2章 免許② 同上
[7回] 柔道整復師法とその関連内容(4)—第2章 免許③ 同上
[8回] 柔道整復師法とその関連内容(5)—第3章 柔道整復師国家試験① 試験の実施、合格証と合格証明書
[9回] 柔道整復師法とその関連内容(6)—第3章 柔道整復師国家試験② 同上
[10回] 柔道整復師法とその関連内容(7)—第4章 業務① 業務の禁止、業務範囲、秘密を守る義務、都道府県知事の指示、緊急時における厚生労働大臣の事務執行
[11回] 柔道整復師法とその関連内容(8)—第4章 業務② 同上
[12回] 柔道整復師法とその関連内容(9)—第5章 施術所① 施術所の届出、施術所の構造設備等、施術所に対する監督
[13回] 柔道整復師法とその関連内容(10)—第5章 施術所② 同上
[14回] 柔道整復師法とその関連内容(11)—第6章 雑則　広告、経過措置の制定
[15回] 柔道整復師法とその関連内容(12)—第7章 罰則① 罰則法定主義、柔道整復師法に定められる罰則、両罰規定
[16回] 柔道整復師法とその関連内容(13)—第7章 罰則② 同上
[17回] 柔道整復師法とその関連内容(14)—第8章 指定登録機関および指定試験機関　指定登録機関、指定試験機関
[18回] 柔道整復師法とその関連内容(15)—第9章 附則　免許の特例、受験資格の特例
[19回] 関係法規(1)—医療従事者の資格法、医療法、社会福祉関係法規、社会保険関係法規、その他の関係法規
[20回] 関係法規(2)—同上
[21回] 関係法規(3)—同上
[22回] 関係法規(4)—同上
[23回] 関係法規(5)—同上
[24回] 関係法規(6)—同上
[25回] 関係法規(7)—同上
[26回] 関係法規(8)—同上
[27回] 関係法規(9)—同上
[28回] 関係法規(10)—同上
[29回] 関係法規(11)—同上
[30回] 関係法規(12)—同上

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2012年8月15日

生命医療倫理学[1123030]

科目名	生命医療倫理学[1123030]
科目区分・科目種	保健医療福祉と柔道整復の理念
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	林　洋[看護学部 看護学科]
	東郷　俊宏[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 金曜 2.0～2.0
教室	①大講義室

授業の形態

講義(共同)

教科書・参考文献

教科書:特に指定しない。

参考書:講義で随時指定する。

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート(2回ほど)

授業の目的および到達目標

本科目では、バイオエシックスについての基本的な考え方について学習する。特に医療倫理の歴史的発展、代表的な倫理綱領、具体的な倫理的行為、インフォームドコンセント、QOLの考え方等について学習する。また、現代の医療においては、遺伝子技術を駆使した再生医療をはじめ、出生前診断、生殖医療、臓器移植、臨床試験における倫理問題など、医療者の倫理問題が大きくクローズアップされていることを受けて、各テーマごとに実際の事例を取り上げ、医療従事者、患者、マスコミがそれぞれの立場からどのような言説を展開しているかを比較検討し、将来の医療のなかで求められる倫理とは何かを考える。

テーマおよび内容

[1回] 総論(1)イントロダクション・様々な倫理綱領について

[2回] 総論(2)Informed consent・守秘義務について

[3回] 各論(1)医療過誤・薬害について

[4回] 各論(2)臨床研究実施上の倫理問題について(1)

[5回] 各論(3)臨床研究実施上の倫理問題について(2)

[6回] 各論(4)臨床研究実施上の倫理問題について(3)

[7回] 各論(5)ハンセン病患者隔離の歴史(1)

[8回] 各論(6)ハンセン病患者隔離の歴史(2)

[9回] 各論(7)タスキーギ研究

[10回] 各論(8)生殖医療の現在

[11回] 各論(9)臓器移植について

[12回] 各論(10)再生医療、遺伝子治療、出生前診断

[13回] 各論(11)終末期医療と倫理(尊厳死など)

[14回] 各論(12)鍼灸師・柔道整復師としての倫理

[15回] 講義のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

柔整医療安全学[1123040]

科目名	柔整医療安全学[1123040]
科目区分・科目種	保健医療福祉と柔道整復の理念
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	田渕　健一[非常勤講師]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 4.0～4.0
教室	①405教室

受講条件・その注意

柔道整復師として医療に携わる上で重要な安全管理について学ぶ。
将来、ヒヤリハットやアクシデントをおこさないように十分学習すること。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『柔整医療安全学』 田渕　健一　他(南江堂)

参考書:『医療安全対策ガイドライン』 嶋森　好子(じほう),『医療のための安全学入門』 篠原　一彦(丸善),『人は誰でも間違える』 L. コーン　他(日本評論社)

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

ここでは、医療現場における安全管理の概要と具体的方法について理解することを目的に、(1)患者の正確な病態把握と柔道整復師の業務範囲の認識の重要性、(2)外傷と感染防止対策、(3)各種物理療法の禁忌症、安全な物理療法の取り扱い、(4)施術後の指導管理の重要性、(5)医療全般において生じる有害事象の具体例とその予防・対応策、(6)リスクマネージメントの基本的な考え方とインシデントレポートの作成法などを中心に学習する。

テーマおよび内容

[1回] 柔道整復師と医療安全

[2回] インシデントレポートの作成と分析

[3回] 柔道整復業務におけるアクシデントの予防と対応、施術における安全管理

[4回] 物理療法の安全管理

[5回] 頭頸部、顔面の外傷に対するリスクマネージメント

[6回] 胸背部の外傷に対するリスクマネージメント

[7回] 腰部の外傷に対するリスクマネージメント

[8回] 肩・肩周囲の外傷に対するリスクマネージメント

[9回] 上腕、肘、前腕の外傷に対するリスクマネージメント

[10回] 手、指の外傷に対するリスクマネージメント

[11回] 股関節周囲の外傷に対するリスクマネージメント

[12回] 膝の外傷に対するリスクマネージメント

[13回] 下腿、足関節、足部の外傷に対するリスクマネージメント

[14回] 柔道整復業務における訴訟、裁判の実例

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

研究の展開[1123050]

科目名	研究の展開[1123050]
科目区分・科目種	保健医療福祉と柔道整復の理念
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	寺井　政憲[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後期
曜日・時限	後期 水曜 3.0～3.0
教室	①コンピューター教室

受講条件・その注意

研究についての講義、実際に研究を展開していく演習からなる。15回の講義と演習から構成され、一回ごとに完結している講義形式ではなく、毎回の連続した流れの中で理解が深まるように構成されている。大学の規定の出席回数は単位取得にあたっては最低限度のラインであるが、毎回出席して不明な点は次の授業の前までに解決する姿勢で受講してほしい。授業の回を重ねるにつれて研究的な思考回路が構築されてくることが各自で実感されることであろう。積極的に参加することが、将来決して無駄にならないことを保証する。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:「科研費獲得の方法とコツ 改定版」 著者　児島将康　2011年8月 （羊土社）

参考書:特になし

評価方法・評価割合

授業中の課題(演習における発表:プレゼンテーション:スライド3枚程度)、その他(提出書類:研究計画書A4レポート1枚程度)

授業の目的および到達目標

「情報リテラシーⅠ」及び「情報リテラシーⅡ」で学んだ基本的な情報処理方法や、「研究の基礎」で学んだ基本的な研究についての考え方を基盤として、さらに研究についての理解を深め、展開していく。研究活動の必要性を各人の倫理観に基づいて理解することから始め、研究はいかなる行為であるのか、研究は学問の発展にどのように貢献していくのか、社会へどのように還元されていくのか、等について自分自身で考察できる能力を身につけさせる。その上、研究を進めるために重要である文献検索法及び参考論文の読み方を学ぶ。疑問点や問題点を明らかにするために必要な研究課題、仮説をどのように設定し、さらにその問題点は現時点においてどこまで明らかにされているのか、そしてどのように解決していくことができるかを知るために必須な手段となる。その際に文献、論文の解釈に必要となる標本の抽出法、統計手法、検定の意味など注意すべき点等について学ぶ。一連の研究の流れを研究計画書の作成、研究の成果を効果的に伝えるための図・表の作成、研究発表の実際などを通じて実践的に学習する。

テーマおよび内容

[1回] 「研究」とは何か:「研究する」という行為はいかなる行為か

[2回] 研究の中身の評価 : 研究の内容について判断できるようになる

[3回] インフォームドコンセント:「インフォームドコンセント」について

[4回] 研究の着想、発案:「研究してみたい」ことを考えてみる

[5回] 研究の着想、発案:「研究してみたい」ことを考えてみる

[6回] 研究の世界的状況を知る:「研究してみたい」ことの世界的状況を知る

[7回] 研究の世界的状況を知る:「研究してみたい」ことの世界的状況を知る

[8回] 研究の手段、方法を知る:「研究してみたい」ことの研究の手段を知る

[9回] 研究の手段、方法を知る :「研究してみたい」ことの研究の手段を知る

[10回] 研究の結果の予測をする :「研究してみたい」ことの結果を予測する

[11回] 研究に必要な物は何か :「研究してみたい」ことに必要なものを具体的に示す

[12回] 研究の必要な物は何か :「研究してみたい」ことに必要なものを具体的に示す

[13回] 研究の社会貢献、利益を考える:「研究してみたい」ことの社会貢献、利益を考える

[14回] 研究の倫理を考える：「研究してみたい」ことが社会規範、倫理的に許されることなのかを考える

[15回] 研究を発表する：「研究してみたい」ことを各自発表してみる

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

柔道I[1123060]

科目名	柔道I[1123060]
科目区分・科目種	保健医療福祉と柔道整復の理念
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	橋本　昇[保健医療学部 柔道整復学科]
	徳安　秀政[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	通年
曜日・時限	前期 水曜 3.0～3.0
	後期 火曜 4.0～4.0
教室	①柔道場

受講条件・その注意

柔道衣は各自で準備する。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書:特になし

参考書:『イラスト柔道・イラスト柔道の形』 共に五月書房

評価方法・評価割合

その他(柔道技術の習熟度を優・良・可・不可と評価する。)

授業の目的および到達目標

柔術並びに柔道の歴史を学び、創始者である加納治五郎師範の柔道の精神を理解し、柔道と柔道整復師との関わり、また、柔道整復師としての柔道の必要性を理解し、医療人としての人格の形成を学ぶ。また、柔道における礼法を学び、社会に貢献できる態度を身につけるとともに、受身などの基本的動作の獲得および身体の健康維持、体力の向上を目標とする。

テーマおよび内容

[1回] オリエンテーション　:　授業概要の説明、武道としての柔道、スポーツとしての柔道

[2回] オリエンテーション　:　柔道の国際化、礼法、特性、柔道衣の扱い方、体ほぐし運動

[3回] 基本動作・体ほぐし運動　:　受け身(後ろ・横・前)、姿勢、組み方、

[4回] 基本動作・体ほぐし運動　:　受け身(後ろ・横・前・前廻り)体捌き(前・後ろ・前廻り・後ろ回り)、

[5回] 基本動作・体ほぐし運動　:　受け身(後ろ・横・前・前廻り)崩し(八方)、進退動作、

[6回] 基本動作・体ほぐし運動　:　受け身(後ろ・横・前・前廻り)進退動作(継ぎ足、歩み足)

[7回] 基本動作・体ほぐし運動　:　前廻り受け身、投げ技の基本動作・固め技の基本動作

[8回] 基本動作・対人的技能　:　前廻り受け身、膝車、大外刈り・袈裟固め、横四方固め

[9回] 基本動作・対人的技能　:　前廻り受け身、体落とし、出足払い・上四方固め、縦四方固め

[10回] 基本動作・対人的技能　:　前廻り受け身、背負い投げ、大腰・崩れ袈裟固め、

[11回] 基本動作・対人的技能　:　前廻り受け身、大内刈り、小内刈り・崩れ上四方固め

[12回] 基本動作・対人的技能　:　前廻り受け身、支えつり込み足、払い腰・後ろ袈裟固め

[13回] 基本動作・対人的技能　:　前廻り受け身、送り足払い、払いつり込み足、内股・肩固め

[14回] 基本動作・対人的技能　:　前廻り受け身、釣り込み腰、一本背負い投げ、跳ね腰、

[15回] 総括 ： 受け身・投げ技・抑え技の理解度

[16回] 対人的技能 ： かかり練習、約束練習、自由練習・腕がらみ、十字締め

[17回] 対人的技能 ： かかり練習、約束練習、自由練習・腕挫ぎ十字固め，送り襟締め

[18回] 対人的技能 ： かかり練習、約束練習、自由練習・腋固め、裸締め

[19回] 対人的技能 ： かかり練習、約束練習、自由練習、技の連絡

[20回] 対人的技能 ： かかり練習、約束練習、自由練習、技の連絡

[21回] 対人的技能 ： かかり練習、約束練習、自由練習、技の連絡

[22回] 対人的技能 ： かかり練習、約束練習、自由練習、技の変化

[23回] 対人的技能 ： かかり練習、約束練習、自由練習、技の変化

[24回] 対人的技能 ： かかり練習、約束練習、自由練習、技の変化

[25回] 対人的技能 ： かかり練習、約束練習、自由練習、固め技の試合

[26回] 対人的技能 ： かかり練習、約束練習、自由練習、固め技の試合

[27回] 対人的技能 ： かかり練習、約束練習、自由練習、得意技の習得

[28回] 対人的技能 ： かかり練習、約束練習、自由練習、得意技の習得

[29回] 総括 ： かかり練習、約束練習、自由練習、得意技の習得

[30回] 総括 ： 投げ技・固め技の習熟度

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

柔道II[1123070]

科目名	柔道II[1123070]
科目区分・科目種	保健医療福祉と柔道整復の理念
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	橋本　昇[保健医療学部 柔道整復学科]
	徳安　秀政[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	通年
曜日・時限	前期 金曜 2.0～2.0
	後期 月曜 2.0～2.0
教室	①柔道場

受講条件・その注意

柔道衣は各自で準備する。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書:特になし

参考書:『イラスト柔道・イラスト柔道の形』 共に五月書房

評価方法・評価割合

その他(柔道技術の習熟度を優・良・可・不可と評価する。)

授業の目的および到達目標

柔道における技の習熟を目標とし、立技(大外刈、送り足払、払腰など)においては崩し、作り、掛けを学び、寝技においては基本的な抑え技(袈裟固、横四方固、上四方固など)を習得する。それに伴い、体捌き、動きの応用動作を身につけ、乱取や試合練習ができるように学ぶ。

テーマおよび内容

[1回] 基本動作 : 礼法・受け身・かかり練習・約束練習・自由練習

[2回] 基本動作 : 礼法・受け身・かかり練習・約束練習・自由練習

[3回] 基本動作 : 礼法・受け身・かかり練習・約束練習・自由練習

[4回] 対人的技能 : 礼法・受け身・かかり練習・約束練習・自由練習

[5回] 対人的技能 : 投げ技の連絡変化・自由練習

[6回] 対人的技能 : 投げ技の連絡変化・自由練習

[7回] 対人的技能 : 投げ技の連絡変化・自由練習

[8回] 対人的技能 : 投げ技の連絡変化・自由練習

[9回] 対人的技能 : 投げ技の連絡変化・自由練習

[10回] 対人的技能 : 投げ技の連絡変化・自由練習

[11回] 対人的技能 : 投げ技の連絡変化・自由練習

[12回] 対人的技能 : 投げ技の連絡変化・自由練習

[13回] 対人的技能 : 投げ技の連絡変化・自由練習

[14回] 対人的技能 : 投げ技の連絡変化・自由練習

[15回] 総括 : 礼法・受け身・投げ技の習熟度

[16回] 対人的技能：固め技(抑え技)・自由練習

[17回] 対人的技能：固め技(抑え技)・自由練習

[18回] 対人的技能：固め技(抑え技)・自由練習

[19回] 対人的技能：固め技(関節技)・自由練習

[20回] 対人的技能：固め技(関節技)・自由練習

[21回] 対人的技能：固め技(関節技)・自由練習

[22回] 対人的技能：固め技(絞め技)・自由練習

[23回] 対人的技能：固め技(絞め技)・自由練習

[24回] 対人的技能：固め技(絞め技)・自由練習

[25回] 対人的技能：投げの技の連絡変化・得意技習得

[26回] 対人的技能：投げの技の連絡変化・得意技習得

[27回] 対人的技能：投げの技の連絡変化・得意技習得

[28回] 対人的技能：固め技・自由練習

[29回] 対人的技能：固め技・自由練習

[30回] 総括″：投げ技・固め技の習熟度

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

柔道III[1123080]

科目名	柔道III[1123080]
科目区分・科目種	保健医療福祉と柔道整復の理念
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	橋本　昇[保健医療学部 柔道整復学科]
	徳安　秀政[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	通年
曜日・時限	通年 水曜 2.0～2.0
教室	①柔道場

受講条件・その注意
柔道着は各自準備のこと。

授業の形態
実習(共同)

教科書・参考文献
教科書:特になし 参考書:「イラスト柔道の形」五月書房

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況(受講態度)

授業の目的および到達目標
2年間行ってきた柔道(礼法・受身・乱取)に対する総復習を行うとともに、技の理合を理解するために投の形(手技、腰技、足技、真捨身技、横捨身技)、柔の形(第1教、第2教、第3教)を教授する。また、審判規定を学びながら、高点試合を行い、有段者修得を目標とする。

テーマおよび内容
[1回] 対人的技能: 礼法・投げの形(手技)・自由練習
[2回] 対人的技能: 礼法・投げの形(腰技)・自由練習
[3回] 対人的技能: 礼法・投げの形(足技)・自由練習
[4回] 対人的技能: 礼法・投げの形(真捨身技)・自由練習
[5回] 対人的技能: 礼法・投げの形(真捨身技)・自由練習
[6回] 対人的技能: 礼法・投げの形(横捨身技)・自由練習
[7回] 対人的技能: 礼法・投げの形(横捨身技)・自由練習
[8回] 対人的技能: 礼法・投げの形・自由練習
[9回] 対人的技能: 礼法・投げの形・自由練習
[10回] 対人的技能: 礼法・投げの形・自由練習
[11回] 対人的技能: 礼法・投げの形・自由練習
[12回] 対人的技能: 礼法・投げの形・自由練習
[13回] 対人的技能: 礼法・審判法・高点試合
[14回] 対人的技能: 礼法・審判法・高点試合
[15回] 対人的技能: 総括
[16回] 対人的技能: 礼法・柔の形(一教)・自由練習

[17回] 対人的技能: 礼法・柔の形(一教)・自由練習

[18回] 対人的技能: 礼法・柔の形(二教)・自由練習

[19回] 対人的技能: 礼法・柔の形(二教)・自由練習

[20回] 対人的技能: 礼法・柔の形(三教)・自由練習

[21回] 対人的技能: 礼法・柔の形(三教)・自由練習

[22回] 対人的技能: 礼法・柔の形・自由練習

[23回] 対人的技能: 礼法・柔の形・自由練習

[24回] 対人的技能: 礼法・柔の形・自由練習

[25回] 対人的技能: 礼法・柔の形・自由練習

[26回] 対人的技能: 礼法・投げの形・柔の形・高点試合

[27回] 対人的技能: 礼法・投げの形・柔の形・高点試合

[28回] 対人的技能: 礼法・投げの形・柔の形・高点試合

[29回] 対人的技能: 礼法・投げの形・柔の形・高点試合

[30回] 対人的技能: 総括

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

衛生学・公衆衛生学I[1123090]

科目名	衛生学・公衆衛生学I[1123090]
科目区分・科目種	保健医療福祉と柔道整復の理念
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	今井　常彦[非常勤講師]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	通年
曜日・時限	通年 月曜 4.0～4.0
教室	①406教室 ②406教室

受講条件・その注意
必要に応じプリントを配布する。

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書:『衛生学・公衆衛生学』 鈴木庄亮:久道茂(南江堂)

参考書:『国民衛生の動向　2008年』 厚生統計協会(厚生統計協会)

評価方法・評価割合
定期試験(60点以上)、出席状況(必要出席数)

授業の目的および到達目標
衛生学・公衆衛生学の根幹は人々の健康にあり、その内容は社会情勢や科学技術の進歩と共に変化していく。衛生学・公衆衛生学の学習目標は、第一に人を取り巻く衣食住環境、家庭環境、地域環境、社会制度、地球環境などの知識を身につけることであり、第二に個人のみでなく集団の構造を把握し、健康水準を高めるための戦略・戦術を学び、日常生活に応用できるようにすることである。衛生学・公衆衛生学Ⅰでは健康の概念、感染症、環境保健、母子保健、学校保健などを学習する。

テーマおよび内容
[1回] 歴史　公衆衛生学の歴史を理解する:
欧米における公衆衛生の発展の契機となった疾病の流行、事件、発見について列挙できるわが国の公衆衛生の歴史の概観を説明できる

[2回] 公衆衛生活動　公衆衛生の概念と基本的内容を理解する:
公衆衛生活動の基本(保健計画、衛生教育、保健衛生サービス)について説明できる

[3回] 健康の概念1　健康の概念を理解する:
健康の概念を説明できるWHOの健康の定義を説明できる

[4回] 健康の概念2　健康の成立要因を理解する:
健康の成立要因を列挙できる

[5回] 健康の概念3　健康指標について理解する:
健康指標を列挙できる。
国勢調査について説明できる
年齢3区分別人口と年齢構造指数について説明できる
人口動態統計指標について説明できる
粗死亡率、年齢調整死亡率、PMIについて説明できる
平均寿命、平均余命、健康寿命について説明できる
国民生活基礎調査、有訴者率、通院者率について説明できる
患者調査、受療率について説明できる

[6回] 疾病予防と健康管理1 疾病予防と健康管理を理解する:
一次予防、二次予防、三次予防の概念について説明できる

[7回] 疾病予防と健康管理2:
プライマリ・ヘルス・ケア活動の原則が説明できる
アルマ・アタ宣言について説明できる オタワ憲章について説明できる
健康日本21について説明できる

[8回] 感染症の予防1 :
感染症病原体の分類について説明できる

[9回] 感染症の予防2 :
感染症成立の3原則について説明できる

[10回] 感染症の予防3 :
新興感染症、再興感染症について説明できる

[11回] 感染症の予防4 :
感染症法と感染症類型について説明できる

[12回] 感染症の予防5 :
検疫感染症について説明できる
院内感染症について説明できる
性感染症について説明できる
結核について説明できる
インフルエンザについて説明できる
HIV感染症について説明できる
腸管出血性大腸菌感染症について説明できる
薬剤耐性菌について説明できる 予防接種について説明できる

[13回] 消毒1 消毒について理解する :
物理的(理学的)消毒について説明できる

[14回] まとめ① :

[15回] まとめ② :

[16回] 消毒2 消毒について理解する :
化学的消毒について説明できる
ウイルス、結核、芽胞、真菌に有効な消毒法を列挙できる

[17回] 環境保健1 環境保健について理解する :
地球環境問題について説明できる

[18回] 環境保健2 :
温暖化、オゾン層破壊、熱帯林減少、酸性雨

[19回] 環境保健3 :
海洋汚染、有害廃棄物の越境移動、野生生物の減少について説明できる

[20回] 環境保健4 :
公害(大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、悪臭、地盤沈下)について説明できる

[21回] 環境保健5 :
水俣病、イタイイタイ病、四日市喘息について説明できる

[22回] 環境保健6 :
スモッグ、光化学スモッグについて説明できる
大気汚染物質について説明できる
水の富栄養素について説明できる
水質汚濁指標について説明できる
温熱要因(温度、湿度、気流、輻射熱)について説明できる
総合的温熱指標について説明できる
空気の正常成分、異常成分について説明できる
電離放射線、非電離放射線について説明できる

[23回] 母子保健1 母子保健について理解する :
母体保護法、母子保健法、新エンゼルプラン、健やか親子21について説明できる
周産期、早期新生児、乳児について説明できる
母子保健統計指標について説明できる
母乳栄養について説明できる
母子感染について説明できる
先天性代謝異常性、マススクリーニングテストについて説明できる

[24回] 母子保健2 :
母体保護法、母子保健法、新エンゼルプラン、健やか親子21について説明できる
周産期、早期新生児、乳児について説明できる
母子保健統計指標について説明できる
母乳栄養について説明できる
母子感染について説明できる
先天性代謝異常性、マススクリーニングテストについて説明できる

[25回] 母子保健3 :
母体保護法、母子保健法、新エンゼルプラン、健やか親子21について説明できる
周産期、早期新生児、乳児について説明できる
母子保健統計指標について説明できる
母乳栄養について説明できる
母子感染について説明できる
先天性代謝異常性、マススクリーニングテストについて説明できる

[26回] 学校保健1 学校保健について理解する :
学校教育法、学校保健安全法について説明できる
学校保健の担い手の職務について説明できる
学校健康診断について説明できる
学校感染症の種類を列挙できる
感染症対策における学校保健の役割について説明できる
出席停止、学級閉鎖、学校閉鎖について説明できる
学校環境衛生について説明できる
学校安全計画について説明できる
学校給食について説明できる

[27回] 学校保健2 :
学校教育法、学校保健安全法について説明できる
学校保健の担い手の職務について説明できる
学校健康診断について説明できる
学校感染症の種類を列挙できる
感染症対策における学校保健の役割について説明できる

出席停止、学級閉鎖、学校閉鎖について説明できる
学校環境衛生について説明できる
学校安全計画について説明できる
学校給食について説明できる

[28回] 学校保健3 :
学校教育法、学校保健安全法について説明できる
学校保健の担い手の職務について説明できる
学校健康診断について説明できる
学校感染症の種類を列挙できる
感染症対策における学校保健の役割について説明できる
出席停止、学級閉鎖、学校閉鎖について説明できる
学校環境衛生について説明できる
学校安全計画について説明できる
学校給食について説明できる

[29回] まとめ①

[30回] まとめ②

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

衛生学・公衆衛生学II[1123100]

科目名	衛生学・公衆衛生学II[1123100]
科目区分・科目種	保健医療福祉と柔道整復の理念
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	今井　常彦[非常勤講師]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	通年
曜日・時限	通年 月曜 5.0～5.0
教室	①405教室 ②406教室

受講条件・その注意
講義時に参考資料としてプリントを配布する。

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書:『衛生学・公衆衛生学』 全国柔道整復学校協会監修　鈴木庄亮・久道　茂・小川正行編(南江堂)

参考書:『国民衛生の動向　2009』 厚生統計協会

評価方法・評価割合
定期試験(60点以上)、出席状況(必要出席数)

授業の目的および到達目標
衛生学・公衆衛生学の根幹は人々の健康にあり、その内容は社会情勢や科学技術の進歩と共に変化していく。衛生学・公衆衛生学の学習目標は、第一に人を取り巻く衣食住環境、家庭環境、地域環境、社会制度、地球環境などの知識を身につけることであり、第二に個人のみでなく集団の構造を把握し、健康水準を高めるための戦略・戦術を学び、日常生活に応用できるようにすることである。衛生学・公衆衛生学Ⅱでは産業保健、成人・老人保健、精神保健、地域保健、衛生行政、疫学などを学習する。

テーマおよび内容
[1回] 産業保健　1　産業保健について理解する:
労働基準法、労働安全衛生法について説明できる
労働衛生管理を構成する3管理について説明できる
職業病疾病の原因・対策・予防について説明できる
職業に関連した健康問題について説明できる
女性労働者、年少労働者の保護について説明できる
労働災害・事故について説明できる
職場におけるヘルスプロモーションについて説明できる
産業疲労について説明できる
快適職場について説明できる

[2回] 産業保健　2　産業保健について理解する:
労働基準法、労働安全衛生法について説明できる
労働衛生管理を構成する3管理について説明できる
職業病疾病の原因・対策・予防について説明できる
職業に関連した健康問題について説明できる
女性労働者、年少労働者の保護について説明できる
労働災害・事故について説明できる
職場におけるヘルスプロモーションについて説明できる
産業疲労について説明できる
快適職場について説明できる

[3回] 産業保健　3　産業保健について理解する:
労働基準法、労働安全衛生法について説明できる
労働衛生管理を構成する3管理について説明できる
職業病疾病の原因・対策・予防について説明できる
職業に関連した健康問題について説明できる
女性労働者、年少労働者の保護について説明できる
労働災害・事故について説明できる

職場におけるヘルスプロモーションについて説明できる
産業疲労について説明できる
快適職場について説明できる

[4回] 産業保健 4 産業保健について理解する:
労働基準法、労働安全衛生法について説明できる
労働衛生管理を構成する3管理について説明できる
職業病疾病の原因・対策・予防について説明できる
職業に関連した健康問題について説明できる
女性労働者、年少労働者の保護について説明できる
労働災害・事故について説明できる
職場におけるヘルスプロモーションについて説明できる
産業疲労について説明できる
快適職場について説明できる

[5回] 産業保健 5 産業保健について理解する:
労働基準法、労働安全衛生法について説明できる
労働衛生管理を構成する3管理について説明できる
職業病疾病の原因・対策・予防について説明できる
職業に関連した健康問題について説明できる
女性労働者、年少労働者の保護について説明できる
労働災害・事故について説明できる
職場におけるヘルスプロモーションについて説明できる
産業疲労について説明できる
快適職場について説明できる

[6回] 成人・老人保健1 成人保健について理解する:
メタボリックシンドロームについて説明できる
循環器系疾患(高血圧、心疾患、脳血管疾患)について説明できる
糖尿病、脂質異常、高尿酸欠症について説明できる
がんについて説明できる
健康日本21の目標について説明できる

[7回] 成人・老人保健2 成人保健について理解する:
メタボリックシンドロームについて説明できる
循環器系疾患(高血圧、心疾患、脳血管疾患)について説明できる
糖尿病、脂質異常、高尿酸欠症について説明できる
がんについて説明できる
健康日本21の目標について説明できる

[8回] 成人・老人保健3 成人保健について理解する:
メタボリックシンドロームについて説明できる
循環器系疾患(高血圧、心疾患、脳血管疾患)について説明できる
糖尿病、脂質異常、高尿酸欠症について説明できる
がんについて説明できる
健康日本21の目標について説明できる

[9回] 成人・老人保健4 老人保健について理解する:
メタボリックシンドロームについて説明できる
循環器系疾患(高血圧、心疾患、脳血管疾患)について説明できる
糖尿病、脂質異常、高尿酸欠症について説明できる
がんについて説明できる
健康日本21の目標について説明できる

[10回] 精神保健1 精神保健について理解する:
精神保健福祉法について理解できる
精神疾患について理解できる
精神保健福祉法に規定する入院形式について説明できる
人間発達とこころの健康について説明できる
日本人の自殺について説明できる
薬物依存について説明できる
PTSDについて説明できる
精神障害者の社会復帰施策を列挙できる

[11回] 精神保健2 精神保健について理解する:
精神保健福祉法について理解できる
精神疾患について理解できる
精神保健福祉法に規定する入院形式について説明できる
人間発達とこころの健康について説明できる
日本人の自殺について説明できる
薬物依存について説明できる
PTSDについて説明できる
精神障害者の社会復帰施策を列挙できる

[12回] 精神保健 3 精神保健について理解する:
精神保健福祉法について理解できる
精神疾患について理解できる
精神保健福祉法に規定する入院形式について説明できる
人間発達とこころの健康について説明できる
日本人の自殺について説明できる
薬物依存について説明できる
PTSDについて説明できる
精神障害者の社会復帰施策を列挙できる

[13回] 生活環境・食品衛生活動1 生活環境について理解する:
上下道の施設・消毒法・水質基準について説明できる
上下道の処理について説明できる

[14回] まとめ①

[15回] まとめ②

[16回] 生活環境・食品衛生活動2 生活環境について理解する:
建築物の衛生管理について説明する
衣服の衛生条件について説明できる
廃棄物処理について説明できる
感染症廃棄物の範囲および処理について説明できる

[17回] 生活環境・食品衛生活動3　食品衛生活動について理解する:
国民の栄養摂取の実態について説明できる
食事バランスガイドについて説明できる
食中毒(細菌・化学物質)について説明できる
感染症食中毒、毒素型食中毒について説明できる
食品安全確保対策、食品衛生管理について説明できる

[18回] 生活環境・食品衛生活動4　食品衛生活動について理解する:
国民の栄養摂取の実態について説明できる
食事バランスガイドについて説明できる
食中毒(細菌・化学物質)について説明できる
感染症食中毒、毒素型食中毒について説明できる
食品安全確保対策、食品衛生管理について説明できる

[19回] 地域保健と国際保健1 地域保健について理解する:
地域保健活動について説明できる

[20回] 地域保健と国際保健2 国際保健について理解する:
世界保健機構の構成、役割について説明できる
WHOが行っている事業を列挙できる
WHOに関連する国際機関を列挙できる

[21回] 衛生行政と保健医療の制度1　衛生行政について理解する:
わが国の衛生行政機構について説明できる
保健所活動について説明できる
保健センター活動について説明できる

[22回] 衛生行政と保健医療の制度2　保健医療制度について理解する:
医療保険制度について説明できる
公費医療制度について説明できる
国民医療費について説明できる

[23回] 疫学1　疫学について理解する:
疫学の特徴と定義について説明できる
疫学の方法(記述疫学、分析疫学、介入疫学)について説明できる
疫学的因果関係について説明できる
無作為比較試験(RCT)について説明できる
エビデンスに基づく医学について説明できる

[24回] 疫学2　疫学について理解する:
疫学の方法(記述疫学、分析疫学、介入疫学)について説明できる
疫学的因果関係について説明できる
無作為比較試験(RCT)について説明できる
エビデンスに基づく医学について説明できる

[25回] 疫学3　疫学について理解する:
疫学の方法(記述疫学、分析疫学、介入疫学)について説明できる
疫学的因果関係について説明できる
無作為比較試験(RCT)について説明できる
エビデンスに基づく医学について説明できる

[26回] 問題演習1 問題演習を通し公衆衛生学を理解する:

[27回] 問題演習2 問題演習を通し公衆衛生学を理解する:

[28回] 問題演習3 問題演習を通し公衆衛生学を理解する:

[29回] まとめ①

[30回] まとめ②

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

運動器系の解剖[1124010]

科目名	運動器系の解剖[1124010]
科目区分・科目種	基礎柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	4.0単位

担当教員・所属	成瀬　秀夫[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	通年
曜日・時限	前期 月曜 1.0～1.0
	後期 金曜 2.0～2.0
教室	①406教室

受講条件・その注意

柔道整復学の基礎となる科目であり、十分に学習・理解した上で、臨床柔道整復学や柔道整復実技を学ぶ必要があります。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『解剖学』 全国柔道整復学校協会(医歯薬出版),『柔道整復学　理論編』 全国柔道整復学校協会(南江堂)

参考書:『解剖学　コメディカルのための専門基礎分野テキスト』 五味敏昭:岸清(中外医学社)
『解剖学問題集5073』 (犀書房),『解剖学用語』 日本解剖学会編(丸善)

評価方法・評価割合

定期試験(中間試験、期末試験)、出席状況、レポート、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

柔道整復学では骨・関節・筋などの運動器に加わる急性、亜急性の原因によって生ずる骨折、脱臼、捻挫、打撲、挫傷などを学ぶ。そのため、その基礎をなす運動器系の解剖学を十分に理解する必要がある。ここでは、骨学として、骨の役割・構造・発生を理解した上で、人体を構成する骨の名称・部位名を学ぶ。また、靱帯学として、関節の一般構造を理解した後に、各関節の構成、補強靱帯などを学んでいく。さらに、筋系として、各骨格筋の起始・停止・作用・神経支配を理解する。

テーマおよび内容

[1回]　講義の進め方、骨の種類

[2回]　骨学総論

[3回]　靱帯学(関節学)総論

[4回]　上肢の骨

[5回]　上肢の関節

[6回]　上肢の骨と上肢の関節(模型観察)

[7回]　下肢の骨

[8回]　下肢の関節

[9回]　下肢の骨と下肢の関節(模型観察)

[10回]　脊柱を構成する骨

[11回]　脊柱の連結

[12回]　胸郭を構成する骨とその連結

[13回]　頭蓋の骨(1)

[14回]　頭蓋の骨(2)

[15回]　中間試験

[16回] 筋系総論
[17回] 上肢帯筋、上腕の筋
[18回] 前腕の筋（1）
[19回] 前腕の筋（2）、手の筋
[20回] 上肢の筋（模型観察）
[21回] 下肢帯筋、大腿の筋
[22回] 下腿の筋
[23回] 足の筋
[24回] 下肢の筋（模型観察）
[25回] 頭部の筋
[26回] 頸部の筋
[27回] 胸部の筋
[28回] 腹部の筋
[29回] 背部の筋
[30回] 総復習

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

骨の損傷概論[1124020]

科目名	骨の損傷概論[1124020]
科目区分・科目種	基礎柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	4.0単位

担当教員・所属	橋本　昇[保健医療学部 柔道整復学科]
	櫻井　敬晋[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	通年
曜日・時限	前期 火曜 3.0～3.0
	後期 火曜 4.0～4.0
教室	①405教室 ②406教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『柔道整復学・理論編』 全国柔道整復学校協会編(南江堂)

参考書:特になし

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート

授業の目的および到達目標

骨の損傷(骨折)は柔道整復学において、主体をなす分野である。ここでは部位別の骨折学を学ぶ上で基礎となり、また原理・原則をなす骨折の概論を学ぶ。骨折の定義、分類(骨損傷の程度による分類、外力の働き方による分類など)、症状(一般外傷症状と骨折の固有症状)、合併症(併発症・続発症・後遺症)、骨折の治癒経過、骨折の治療原則などを学ぶとともに、小児骨損傷・高齢者骨損傷の特徴を理解する。

テーマおよび内容

[1回] 骨の形態と機能

[2回] 柔道整復学を学ぶ上で必要な基礎情報

[3回] 骨を損傷を引き起こす力の種類

[4回] 骨損傷の分類(1)

[5回] 骨損傷の分類(2)

[6回] 骨損傷の分類(3)

[7回] 不全骨折の種類

[8回] 骨折の経過による分類

[9回] 骨折の治癒に要する期間

[10回] 四肢長骨骨折の部位による分類

[11回] 骨折の治癒機転

[12回] 小児骨折の特徴

[13回] 骨端軟骨板損傷の分類

[14回] 高齢者骨折の特徴

[15回] 前学期のまとめ

[16回] 骨折の症状(1)

[17回] 骨折の症状(2)

[18回] 骨折の合併症(1)

[19回] 骨折の合併症(2)

[20回] 骨折の合併症(3)

[21回] 骨折の合併症(4)

[22回] 骨折の合併症(5)

[23回] 骨折の合併症(6)

[24回] 骨折の整復法(1)

[25回] 骨折の整復法(2)

[26回] 骨折の固定法(1)

[27回] 骨折の固定法(2)

[28回] 骨折の治癒に影響を与える因子

[29回] 後学期のまとめ

[30回] 総復習

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

関節の損傷概論[1124030]

科目名	関節の損傷概論[1124030]
科目区分・科目種	基礎柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	中澤　正孝[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 水曜 3.0～3.0
教室	①406教室

受講条件・その注意
柔道整復理論の他に解剖に関する内容も含まれているため、運動器系の解剖学書を参考にすること。

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書:『柔道整復学　理論編』 全国柔道整復学校協会(南江堂)

参考書:『神中整形外科学　上巻』(南山堂),『分担解剖学:総説・骨学・靭帯学・筋学　第1巻』(金原出版)

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、レポート

授業の目的および到達目標
関節の損傷(脱臼)は、骨折とともに柔道整復学において、主要な分野である。ここでは部位別の脱臼学を学ぶ上で基礎となり、また原理・原則をなす脱臼の概論を学ぶ。脱臼の定義、分類(関節の性状による分類、脱臼の時期による分類、頻度と機序による分類など)、症状(一般外傷症状と脱臼の固有症状)、合併症、脱臼の整復障害因子、経過と予後、脱臼に対する整復法の一般原則などを理解する。

テーマおよび内容
[1回] 関節の形態と機能

[2回] 関節損傷の概説と分類

[3回] 脱臼の症状と合併症

[4回] 脱臼の経過と予後

[5回] 脱臼の整復と固定法

[6回] 肩関節の機能解剖と脱臼概論

[7回] 肩鎖関節の機能解剖と脱臼概論

[8回] 肘関節の機能解剖と脱臼概論

[9回] 手関節の機能解剖と脱臼概論

[10回] 指関節の機能解剖と脱臼概論

[11回] 股関節の機能解剖と脱臼概論

[12回] 膝関節の機能解剖と脱臼概論

[13回] 膝蓋大腿関節の機能解剖と脱臼概論

[14回] 足関節の機能解剖と脱臼概論

[15回] 体幹の機能解剖と脱臼概論

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

軟部組織損傷概論[1124040]

科目名	軟部組織損傷概論[1124040]
科目区分・科目種	基礎柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	橋本　昇[保健医療学部 柔道整復学科]
	久米　信好[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 金曜 1.0～1.0
教室	①405教室

受講条件・その注意

総論だけで軟部組織の損傷を理解するのでなく、著明な疾患の病態と併せて講義を進めることで理解を得たい。また、頭の中だけで皮下にある組織を理解するのでなく、実際に触察することで、手というセンサーから覚えてみたい。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『柔道整復学・理論編(改訂第5版)』

参考書:特になし

評価方法・評価割合

定期試験(3回欠席で－20点、なお遅刻は2回で1回欠席としてカウント)、出席状況(遅延証明はその路線が公に公表した遅延以外は認めない)、その他(授業態度:講義中の私語、飲食等は毎回1点づつ減点する)

授業の目的および到達目標

柔道整復師は臨床の場において、骨折、脱臼のほか、筋・腱・靱帯・血管・神経などの損傷にも遭遇する。ここでは種々な筋・腱・靱帯の損傷を学ぶ上で基礎となる事項を理解する。筋・腱・靱帯の形態・構造・機能を学び、筋損傷、腱損傷、靱帯損傷の種類、症状、治癒経過を理解する。さらに、末梢神経の構造、神経損傷の分類・症状、神経損傷の治癒機序や血管損傷の分類・症状などを理解する。

テーマおよび内容

[1回] 筋の損傷 : 筋の形態と機能・筋損傷の概説

[2回] 筋の損傷 : 筋損傷の分類・筋損傷の症状

[3回] 筋の損傷 : 筋損傷の治癒機序・筋損傷の予後

[4回] 腱の損傷 : 腱の構造と機能

[5回] 腱の損傷 : 腱損傷の概説・腱損傷の分類

[6回] 腱の損傷 : 腱損傷の症状・腱損傷の治癒機序

[7回] 末梢神経の損傷 : 神経の構造と機能

[8回] 末梢神経の損傷 : 神経損傷の概説・神経損傷の分類

[9回] 末梢神経の損傷 : 神経損傷の症状・神経損傷の治癒機序

[10回] 血管系・リンパ系の損傷 : 血管系・リンパ系の構造と機能

[11回] 血管系・リンパ系の損傷 : 四肢血管損傷の概説

[12回] 血管系・リンパ系の損傷 : 血管損傷の分類・血管損傷の症状

[13回] 皮膚の損傷 : 皮膚の形態と機能

[14回] 皮膚の損傷 : 皮膚損傷の概説・創傷の治癒機序

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

後療法学[1124050]

科目名	後療法学[1124050]
科目区分・科目種	基礎柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	小山　浩司[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 2.0～2.0
教室	①405教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『柔道整復学　理論編』 全国柔道整復学校協会(南江堂)

参考書:『リハビリテーション医学』 全国柔道整復学校協会(南江堂),『アスレティックリハビリテーション　専門テキスト⑦』 財団法人日本体育協会

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

柔道整復学、特に骨折や脱臼においては整復・固定とともに、後療法は機能的な予後に大きな影響を与える。また、軟部組織損傷においても後療法は重要である。まず、手技療法の種類・応用・禁忌を学ぶとともに、運動療法として運動の基本型、全身運動療法、適応と禁忌を学ぶ。さらに、物理療法として、電気療法(低周波電気療法など)、寒冷療法、光線療法(赤外線療法など)、温熱療法(極超短波療法、超音波療法など)の種類とそれらの適応と禁忌について理解する。

テーマおよび内容

[1回] 後療法の意義・必要性・種類

[2回] 運動療法(1)

[3回] 運動療法(2)

[4回] 手技療法(1)

[5回] 手技療法(2)

[6回] 物理療法総論

[7回] 赤外線療法・低周波療法

[8回] 極超短波療法・超音波療法

[9回] ホットパック・パラフィン療法

[10回] 寒冷療法

[11回] 脊椎牽引療法

[12回] 後療法の実際(1)

[13回] 後療法の実際(2)

[14回] 後療法の実際(3)

[15回] 後学期復習

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

上肢の骨折理論[1125010]

科目名	上肢の骨折理論[1125010]
科目区分・科目種	臨床柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	福田　格[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	通年
曜日・時限	通年 木曜 1.0～1.0
教室	①405教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『柔道整復学・理論編』 全国柔道整復学校協会編(南江堂)

参考書:特になし

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、授業中の課題(小テスト)、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

１年次で学んだ骨損傷の概論を基礎として、ここでは上肢の骨折について部位別に理解していく。鎖骨骨折、肩甲骨骨折、上腕骨外科頚骨折、上腕骨骨幹部骨折、上腕骨顆上骨折、上腕骨外顆骨折、肘頭骨折、橈骨頭・頚骨折、モンテギア骨折、前腕骨骨幹部骨折、コーレス骨折、スミス骨折、舟状骨骨折、中手骨骨折、指骨骨折などの骨折の発生機序、骨片転位、臨床症状、合併症、整復法、固定法、後療法について、理論的に学んでいく。

テーマおよび内容

[1回] 鎖骨骨折 : 解剖、発生機序、骨折型の分類、骨片転位について理解する

[2回] 鎖骨骨折 : 症状、画像の見方、種々な整復法について理解する

[3回] 鎖骨骨折・肩甲骨骨折 : 固定法と考え方、経過、後療法、肩甲骨骨折について理解する

[4回] 上腕骨外科頚骨折 : 解剖、肩の運動、発生機序、症状、画像の見方、診断上の要点について理解する

[5回] 上腕骨外科頚骨折 : 骨折方分類、外転骨折の整復法、内転骨折の整復法について理解する

[6回] 上腕骨外科頚骨折 : それぞれの固定法、経過、3parts,4partsの骨折についての考え方について理解する

[7回] 上腕骨骨幹部骨折 :解剖、発生機序、骨折型の分類、骨片転位、筋作用について理解する

[8回] 上腕骨骨幹部骨折 : 整復法、固定法について理解する

[9回] 上腕骨顆上骨折 : 解剖、骨端核出現図と画像、発生機序、骨折線の走行と分類について理解する

[10回] 上腕骨顆上骨折 : 整復法、固定法、包帯法について力学的観点も含めて理解する

[11回] 上腕骨顆上骨折 : 後療法、経過上の対策、後遺症、異常経過について理解する

[12回] 上腕骨外顆骨折 : 解剖、発生機序、骨折型の分類、骨片転位、整復法、固定法について理解する

[13回] 上腕骨顆部及び関節内骨折 : 解剖、発生機序、骨折型の分類、骨片転位、整復法、固定法について理解する

[14回] 橈骨頭・頚骨折 : 解剖、発生機序、骨折型の分類、骨片転位、整復法、固定法について理解する

[15回] 肘頭骨折 : 解剖、発生機序、骨折型の分類、骨片転位、整復法、固定法について理解する

[16回] モンテギア・ガレアッジ骨折 : 解剖、発生機序、骨折型の分類、骨片転位、整復法、固定法について理解する

[17回] 前腕骨骨幹部骨折 : 解剖、発生機序、骨片転位、筋作用について理解する

[18回] 前腕骨骨幹部骨折 : 整復法、固定法、経過について理解する

[19回] 橈骨遠位端骨折(Colles) : 解剖、発生機序、骨折の分類と骨折線の走行、症状について理解する

[20回] 橈骨遠位端骨折(Colles) : 整復法と方法の選択について理解する

[21回] 橈骨遠位端骨折(Colles) : 固定法と固定角度、経過と合併症、機能的治癒に対する考え方について理解する

[22回] 橈骨遠位端骨折(Smith) : 発生機序、骨折型の分類、骨片転位、整復法、固定法について理解する

[23回] 手根骨骨折 : 舟状骨骨折、解剖、発生機序、骨折型の分類、骨片転位、整復法、固定法、その他の骨折について理解する

[24回] 手根骨骨折 : 月状骨骨折及びその他の手根骨骨折の解剖、発生機序、骨折型の分類、骨片転位、整復法、固定法ついて理解する

[25回] 中手骨骨折(ボクサー骨折) : 中手骨部周辺の解剖と特徴、発生機序、骨片転位、整復法、固定法経過について理解する

[26回] 中手骨骨折(骨幹部) : 発生機序、骨片転位、整復法、固定法経過について理解する

[27回] 中手骨骨折(ベネット) : 発生機序、骨片転位、整復法、固定法経過について理解する

[28回] 指骨骨折 : 指部の解剖と特異点、基節骨骨折の発生機序、骨片転位、整復法、固定法経過について理解する

[29回] 指骨骨折 : 中手骨骨折発生機序、骨片転位、整復法、固定法経過について理解する

[30回] 指骨骨折 : 末節骨骨折について、マレットフィンガー、脱臼骨折の発生機序、骨片転位、整復法、固定法経過について理解する

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

下肢・体幹の骨折理論[1125020]

科目名	下肢・体幹の骨折理論[1125020]
科目区分・科目種	臨床柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	久米　信好[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	通年
曜日・時限	通年 火曜 2.0～2.0
教室	①405教室 ②406教室

受講条件・その注意

顔面・頭蓋・脊椎・体幹・下肢の骨折は、柔道整復師が行う保存療法では後遺障害などを残存させる可能性が高いものが多い。よって、柔道整復師の適応であるか否かの判断がつけられる能力を身につけたい。また、臨床上経験することが少ない骨折であっても国家試験には出題されるため、そのポイントの理解を得る。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『柔道整復学　理論編』 全国柔道整復学校協会編(南江堂)

参考書:特になし

評価方法・評価割合

定期試験(3回欠席で－20点、なお遅刻は2回で1回欠席としてカウント)、出席状況(遅延証明はその路線が公に公表した遅延以外は認めない)、その他(授業態度:講義中の私語、飲食等は毎回1点づつ減点する)

授業の目的および到達目標

１年次で学んだ骨の損傷概論を基礎として、ここでは下肢・体幹の骨折について部位別に理解していく。骨盤骨骨折、大腿骨頸部骨折、大腿骨骨幹部骨折、大腿骨顆上骨折、膝蓋骨骨折、脛骨顆部骨折、下腿骨骨幹部骨折、足関節果部骨折、踵骨骨折、中足骨骨折、脊椎骨折などの骨折の発生機序、骨片転位、臨床症状、合併症、整復法、固定法、後療法について、理論的に学んでいく。

テーマおよび内容

[1回] 顔面・頭蓋部の骨折 頭蓋骨骨折・眼窩底破裂骨折

[2回] 顔面・頭蓋部の骨折 上顎骨骨折・頬骨および頬骨弓骨折

[3回] 顔面・頭蓋部の骨折 鼻骨骨折・鼻軟骨骨折・下顎骨骨折

[4回] 体幹部の骨折 肋骨骨折・肋軟骨骨折

[5回] 体幹部の骨折 胸骨骨折

[6回] 脊椎部の骨折 頚椎骨折Ⅰ

[7回] 脊椎部の骨折 頚椎骨折Ⅱ

[8回] 脊椎部の骨折 胸椎および腰椎骨折Ⅰ

[9回] 脊椎部の骨折 胸椎および腰椎骨折Ⅱ

[10回] 下肢部の骨折 骨盤骨単独骨折

[11回] 下肢部の骨折 骨盤骨輪骨折

[12回] 下肢部の骨折 大腿骨近位端部骨折Ⅰ

[13回] 下肢部の骨折 大腿骨近位端部骨折Ⅱ

[14回] 下肢部の骨折 大腿骨骨幹部骨折

[15回] 下肢部の骨折 大腿骨遠位端部骨折

[16回] 下肢部の骨折 膝蓋骨骨折

[17回] 下肢部の骨折 分裂膝蓋骨

[18回] 下肢部の骨折 下腿骨近位端部骨折

[19回] 下肢部の骨折 下腿骨骨幹部骨折

[20回] 下肢部の骨折 下腿骨遠位端部骨折および足関節の脱臼骨折Ⅰ

[21回] 下肢部の骨折 下腿骨遠位端部骨折および足関節の脱臼骨折Ⅱ

[22回] 下肢部の骨折 下腿骨遠位端部骨折および足関節の脱臼骨折Ⅱ

[23回] 下肢部の骨折 足根骨骨折Ⅰ

[24回] 下肢部の骨折 足根骨骨折Ⅱ

[25回] 下肢部の骨折 足根骨骨折Ⅲ

[26回] 下肢部の骨折 足根骨骨折Ⅳ

[27回] 下肢部の骨折 中足骨骨折Ⅰ

[28回] 下肢部の骨折 中足骨骨折Ⅱ

[29回] 下肢部の骨折 足指骨骨折

[30回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

上肢の脱臼理論[1125030]

科目名	上肢の脱臼理論[1125030]
科目区分・科目種	臨床柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	福田　格[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	通年
曜日・時限	前期 木曜 3.0～3.0
	後期 木曜 4.0～4.0
教室	①405教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『柔道整復学　理論編』 全国柔道整復学校協会編(南江堂)

参考書:特になし

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、授業中の課題(小テスト)

授業の目的および到達目標

１年次で学んだ関節の損傷概論を基礎として、ここでは上肢の脱臼について部位別に理解していく。肩鎖関節脱臼、胸鎖関節脱臼、肩関節脱臼、肘関節脱臼、橈骨手根関節脱臼、下橈尺関節脱臼、月状骨脱臼、中手指節関節脱臼、指節間関節脱臼などの脱臼の発生機序、臨床症状、合併症、整復法、固定法、後療法について、理論的に学んでいく。

テーマおよび内容

[1回] 鎖骨の脱臼 胸鎖関節脱臼:特徴、解剖、分類、画像、整復、固定法について理解する

[2回] 鎖骨の脱臼 肩鎖関節脱臼:特徴、解剖、分類、画像、整復について理解する

[3回] 鎖骨の脱臼 肩鎖関節脱臼:様々な固定法についてその根拠を理解する

[4回] 鎖骨の脱臼 肩鎖関節脱臼:経過、機能的治癒の考え方について理解する

[5回] 肩関節脱臼 前方脱臼:概論、特徴、解剖、分類、画像の見方について理解する

[6回] 肩関節脱臼 前方脱臼:発生機序、症状、合併症、鑑別診断について理解する

[7回] 肩関節脱臼 前方脱臼:脱臼経路と整復法について理解する

[8回] 肩関節脱臼 前方脱臼:脱臼時副損傷と整復阻害因子と対策について理解する

[9回] 肩関節脱臼 前方脱臼:固定法、後療法、新しい考え方

[10回] 肩関節脱臼 後方脱臼:発生機序、症状、合併症、鑑別診断、整復法、後療法について理解する

[11回] 肩関節脱臼 下方・上方脱臼:発生機序、症状、合併症、鑑別診断、整復法、後療法について理解する

[12回] 肩関節脱臼 反復性脱臼と因子　スポーツ障害に継く因子を最新の考え方と比較検討する

[13回] 肘関節脱臼 特徴、分類、解剖、発生機序、画像の見方について理解する

[14回] 肘関節脱臼 後方脱臼:症状、整復法を古典的方法も合わせて理解する

[15回] 肘関節脱臼 後方脱臼:固定法、後療法、経過について理解する

[16回] 肘関節脱臼 側方脱臼:症状、整復法、固定法、後療法、経過について理解する

[17回] 肘関節脱臼 前方脱臼:症状、整復法、固定法、後療法、経過　その他の脱臼について理解する

[18回] 肘関節脱臼 PIP、DIP関節脱臼:整復、固定、経過について理解する

[19回] 肘関節脱臼 橈骨頭単独脱臼　発生機序、本態、症状、鑑別診断について理解する

[20回] 肘関節脱臼 橈骨頭単独脱臼　整復法、固定法について理解する

[21回] 手関節部の脱臼 遠位橈尺関節脱臼　解剖、分類、症状について理解する

[22回] 手関節部の脱臼 遠位橈尺関節脱臼　整復、固定、経過について理解する

[23回] 手関節部の脱臼 橈骨手根関節脱臼　解剖、分類、症状、整復、固定、経過について理解する

[24回] 手根骨の脱臼 月状骨および月状骨周囲脱臼　解剖、分類、症状、整復、固定について理解する

[25回] 手根中手関節脱臼 症状、整復、固定について理解する

[26回] 指の脱臼 母指MP関節脱臼：分類、症状、整復、固定について理解する

[27回] 指の脱臼 他指MP関節脱臼：分類、症状、整復、固定について理解する

[28回] 指の脱臼 ロッキングフィンガーについて理解する

[29回] 指の脱臼 PIP、DIP関節脱臼：解剖、症状、脱臼の分類と考え方について理解する

[30回] 指の脱臼 PIP、DIP関節脱臼：整復、固定、経過、PIP、DIP関節脱臼に合併する骨折や支持組織の断裂について理解する

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

下肢・体幹（顎関節を含む）の脱臼理論[1125040]

科目名	下肢・体幹（顎関節を含む）の脱臼理論[1125040]
科目区分・科目種	臨床柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	櫻井　敬晋[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	通年
曜日・時限	前期 水曜 2.0～2.0
	後期 水曜 3.0～3.0
教室	①405教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『柔道整復学　理論編』 全国柔道整復学校協会編（南江堂）

参考書：特になし

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート

授業の目的および到達目標

１年次で学んだ関節の損傷概論を基礎として、ここでは下肢・体幹（顎関節を含む）の脱臼について部位別に理解していく。股関節脱臼、膝蓋骨脱臼、膝関節脱臼、足関節脱臼、リスフラン関節脱臼、中足趾節関節脱臼、趾節間関節脱臼、胸鎖関節脱臼、顎関節脱臼などの脱臼の発生機序、臨床症状、合併症、整復法、固定法、後療法について、理論的に学んでいく。

テーマおよび内容

[1回] 顎関節の機能解剖

[2回] 顎関節脱臼各論（1）

[3回] 顎関節脱臼各論（2）

[4回] 顎関節脱臼各論（3）

[5回] 脊柱の機能解剖

[6回] 頚椎の脱臼各論

[7回] 胸椎の脱臼各論

[8回] 股関節の機能解剖（1）

[9回] 股関節の機能解剖（2）

[10回] 股関節脱臼各論（1）

[11回] 股関節脱臼各論（2）

[12回] 股関節脱臼各論（3）

[13回] 股関節脱臼各論（4）

[14回] 前学期のまとめ

[15回] 前学期のまとめ

[16回] 膝関節の機能解剖

[17回] 膝蓋骨脱臼各論（1）

[18回] 膝蓋骨脱臼各論（2）

[19回] 膝関節脱臼各論（1）

[20回] 膝関節脱臼各論（2）

[21回] 膝関節脱臼各論（3）

[22回] 足関節の機能解剖（1）

[23回] 足関節の機能解剖（2）

[24回] 足関節脱臼各論

[25回] ショパール関節脱臼各論

[26回] リスフラン関節脱臼各論（1）

[27回] リスフラン関節脱臼各論（2）

[28回] 足指の脱臼

[29回] 後学期のまとめ

[30回] 総復習

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

軟部組織損傷各論[1125050]

科目名	軟部組織損傷各論[1125050]
科目区分・科目種	臨床柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	関　寛之[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	通年
曜日・時限	前期 金曜 3.0～3.0
	後期 木曜 3.0～3.0
教室	①405教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：レジメ、資料を配布する。スライド、DVD、ビデオなど視聴覚教材も用いる。

参考書：柔道整復学・理論編（改定第5版）：全国柔道整復学校協会監修,南江堂,2009

評価方法・評価割合

定期試験

授業の目的および到達目標

１年次で学んだ軟部組織損傷概論を基礎として、ここでは軟部組織損傷について部位別に理解していく。腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷、肩関節周囲炎、上腕部の軟部組織損傷、上腕骨外側上顆炎、上腕骨内側上顆炎、肘内側側副靱帯損傷、マレットフィンガー、ばね指、ド・ケルバン病などの発生機序、臨床症状、治療法などについて理論的に学んでいく。また全身性疾患で運動器の軟部組織障害を生じるものも学習する。

テーマおよび内容

[1回] 運動器の軟部組織 皮膚、筋、腱、靭帯、神経、血管の障害の診断の進め方

[2回] 皮膚損傷 皮膚損傷の分類、創傷の再生と修復、皮膚欠損の治療法

[3回] 筋の損傷 筋の形態と機能、筋損傷の分類、損傷治癒機序

[4回] 腱の損傷 腱の構造と機能、腱損傷の分類、損傷治癒機序

[5回] 靭帯の損傷 靭帯の構造と機能、損傷の分類、靭帯損傷治癒機序

[6回] 末梢神経の損傷 末梢神経の構造、神経損傷の分類、症状と治癒機序

[7回] 四肢の血流障害 四肢血管損傷、損傷以外の動脈および静脈血流障害

[8回] 軟部組織損傷の初期処置 初期処置の要点、固定法、後療法

[9回] 運動療法 運動療法の基本型、筋収縮特性と運動療法、物理療法

[10回] 軟部組織損傷各論（1）むちうち損傷の分類、病期別治療法、胸郭出口症候群

[11回] 軟部組織損傷各論（2）胸背部の捻挫・挫傷、腰痛症とその他の脊椎疾患

[12回] 軟部組織損傷各論（3）肩部の損傷と障害、ｲﾝﾋﾟﾝｼﾞﾒﾝﾄ症候群、肩関節周囲炎

[13回] 軟部組織損傷各論（4）肘と前腕の障害、肘のスポーツ障害、ｺﾝﾊﾟｰﾄﾒﾝﾄ症候群

[14回] 軟部組織損傷各論（5）上肢の末梢神経損傷および絞扼性神経障害

[15回] 軟部組織損傷各論（6）手関節と手の障害、三角線維軟骨複合体損傷、手の

[16回] 軟部組織損傷各論（7）外傷、手関節と手指の変形や疼痛を生じる疾患

[17回] 軟部組織損傷各論（8）股関節大腿の障害、梨状筋症候群、大腿四頭筋拘縮症

[18回] 軟部組織損傷各論（9）膝関節部の軟部組織損傷、半月板損傷、十字靭帯損傷

[19回] 軟部組織損傷各論（10） 膝関節の変形や機能障害、膝関節周囲の滑液包炎等

[20回] 軟部組織損傷各論（11） 下腿の軟部組織障害、ｺﾝﾊﾟｰﾄﾒﾝﾄ症候群、ｱｷﾚｽ腱障害

[21回] 軟部組織損傷各論（12） 足関節の外傷と障害、捻挫、腓骨筋腱脱臼

[22回] 軟部組織損傷各論（13） 足部の損傷、変形、下肢の絞扼性神経障害と疼痛障害

[23回] 軟部組織損傷各論（14） 代謝性疾患、痛風、偽痛風、アミロイドーシス

[24回] 軟部組織損傷各論（15） スポーツ障害とスポーツ外傷

[25回] 軟部組織損傷各論（16） 高齢者の軟部組織障害、廃用症候群

[26回] 軟部組織損傷各論（17） 神経筋障害よる小児疾患、脳性まひ、筋ジストロフィ

[27回] 軟部組織損傷各論（18） 感染症による軟部組織障害、糖尿病性壊疽

[28回] 軟部組織損傷各論（19） 腫瘍性疾患、軟部腫瘍と腫瘍類似疾患

[29回] 軟部組織損傷各論（20） メタボリック症候群

[30回] 軟部組織損傷各論（21） 臨床徒手検査法・症状誘発試験（上肢・下肢・脊柱）

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

画像診断学[1125060]

科目名	画像診断学[1125060]
科目区分・科目種	臨床柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	柚木　脩[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 1.0～1.0
教室	①403教室

受講条件・その注意

実習と同じ位置づけで講義を勧める。全出席が基本である。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

画像診断学は進化が急速であり、特に指定しない。しかし、図書室の本やITを活用して出来る限り沢山の画像を眺めること。講義では、PPやプリント配布により沢山の画像を視覚的呈示する。

評価方法・評価割合

その他（超音波の基礎や基本的技術を習得すること。臨床所見や他の画像診断との関係を的確に判断できるようになるための基礎的知識を問う。）

授業の目的および到達目標

柔道整復師が医師との連携により治療にあたる際、画像診断の基礎的事項を理解しておく必要がある。骨折、脱臼や軟部組織損傷を診断するにあたり、発生機序や臨床症状とともに、X線画像、MRI画像や超音波画像が重要な手がかりとなる。ここでは、主要な関節のX線画像の見方、主な骨折・脱臼・骨腫瘍のX線画像、正常なMRI画像の見方、腰椎椎間板ヘルニアや膝関節障害（半月損傷、靭帯損傷）のMRI像、骨格筋の超音波画像の見方などについて学ぶ。とりわけ、厚生労働省は、制限下ではあるが柔道整復師が超音波画像を活用することを認めている。よって、超音波および他の画像の比較検討や、医接連携のための重要な補助となる超音波画像の適切な活用を重点的に学ぶ。

テーマおよび内容

[1回] 柔道整復師における画像の位置づけ

[2回] 単純X線画像及びCT画像の基本

[3回] MRI画像の基本

[4回] 超音波画像の基本

[5回] 超音波画像の実際1. 骨

[6回] 超音波画像の実際2. 筋肉

[7回] 超音波画像の実際3. 腱

[8回] 超音波画像の実際4. 靭帯

[9回] 超音波画像の実際8. その他

[10回] 画像診断の活用：医接連携のツール

[11回] 骨折と画像

[12回] 軟部損傷と画像

[13回] 現代西洋医学における画像診断の位置づけ

[14回] 画像と患者への対応の倫理的配慮

[15回] 重要用語のまとめとその応用

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

運動器系の解剖総合演習[1125070]

科目名	運動器系の解剖総合演習[1125070]
科目区分・科目種	臨床柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	成瀬　秀夫[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	後期
教室	①別途連絡

授業の形態
実習

授業の目的および到達目標
3年間で学んだ柔道整復学のうち、特に骨学、靱帯学、筋学などの運動器について、総合的に演習しながら、理解を深めていく。骨組織の光学顕微鏡観察、骨の構造、各関節の関節包・靱帯、骨格筋の起始・停止・作用・神経支配の復習、骨格筋の3次元的な理解とともに、演習・ディスカッションにより確かな知識を確立していく。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

骨折理論総合演習[1125080]

科目名	骨折理論総合演習[1125080]
科目区分・科目種	臨床柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	柚木　脩[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	後期
教室	①別途連絡

授業の形態
演習

授業の目的および到達目標
3年間で学んだ柔道整復学のうち、特に骨折理論について、総合的に演習しながら、理解を深めていく。鎖骨骨折、上腕骨外科頚骨折、上腕骨骨幹部骨折、上腕骨顆上骨折、上腕骨外顆骨折、肘頭骨折、モンテギア骨折、コーレス骨折、スミス骨折、舟状骨骨折、中手骨骨折、大腿骨頚部骨折、大腿骨骨幹部骨折、足関節果部骨折などについて、演習・ディスカッションにより確かな知識を確立していく。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

脱臼理論総合演習[1125090]

科目名	脱臼理論総合演習[1125090]
科目区分・科目種	臨床柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	柚木　脩[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	後期
教室	①別途連絡

授業の形態
演習

授業の目的および到達目標
3年間で学んだ柔道整復学のうち、特に脱臼理論について、総合的に演習しながら、理解を深めていく。顎関節脱臼、肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼、肘関節脱臼、橈骨手根関節脱臼、下橈尺関節脱臼、月状骨脱臼、中手指節関節脱臼、指節間関節脱臼、股関節脱臼、膝蓋骨脱臼、膝関節脱臼、足関節脱臼、リスフラン関節脱臼、中足趾節関節脱臼、趾節間関節脱臼などについて、演習・ディスカッションにより確かな知識を確立していく。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

軟部組織損傷総合演習[1125100]

科目名	軟部組織損傷総合演習[1125100]
科目区分・科目種	臨床柔道整復学
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	関　寛之[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	後期
教室	①別途連絡

授業の形態
演習

授業の目的および到達目標
3年間で学んだ柔道整復学のうち、特に軟部組織損傷の理論について、総合的に演習しながら、理解を深めていく。筋・腱・靱帯の光学顕微鏡観察を行い、腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷、肩関節周囲炎、上腕部の軟部組織損傷、上腕骨外側上顆炎、上腕骨内側上顆炎、肘内側側副靱帯損傷、マレットフィンガー、ばね指、ド・ケルバン病などについて、演習・ディスカッションにより確かな知識を確立していく。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

包帯実技[1126010]

科目名	包帯実技[1126010]
科目区分・科目種	柔道整復実技(臨床実習を含む)
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	小山　浩司[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	通年
曜日・時限	前期 金曜 4.0～4.0
	後期 金曜 3.0～3.0
教室	①710実技実習室

授業の形態
実習

教科書・参考文献
教科書:『包帯固定学』 全国柔道整復学校協会(南江堂),『柔道整復学　実技編』 全国柔道整復学校協会(南江堂)

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標
骨折、脱臼、軟部組織損傷の保存的治療の固定においては、高度な包帯法の技術が要求される。基本包帯法(環行帯、亀甲帯、麦穂帯、折転帯など)、冠名包帯法(デゾー包帯など)、部位別包帯法、三角巾による提肘、さらしによる固定法、各種固定材料の作製法と固定の実際について学ぶ。1年間にわたる包帯実技により、治療目的に対して合理的で、見た目も美しく、均一な圧で心地よい包帯が巻けるようになることを目指す。

テーマおよび内容
[1回] 固定の目的、固定材料の種類
[2回] 巻軸帯の巻き方及び巻き戻し
[3回] 基本包帯 ①
[4回] 基本包帯 ②
[5回] 基本包帯 ③
[6回] 部位別包帯法:肩部 ①
[7回] 部位別包帯法:肩部 ②
[8回] 部位別包帯法:肘部・前腕部
[9回] 部位別包帯法:手関節部・手指部
[10回] 部位別包帯法:股関節部・大腿部
[11回] 部位別包帯法:膝関節部
[12回] 部位別包帯法:下腿部
[13回] 部位別包帯法:足関節部・足指部
[14回] 部位別包帯法:胸部・背部
[15回] 前学期復習
[16回] 部位別包帯法:頭部・顔面部 ①
[17回] 部位別包帯法:頭部・顔面部 ②
[18回] 部位別包帯法:頭部・顔面部 ③
[19回] 冠名包帯法:デゾー包帯 ①

[20回] 冠名包帯法:デゾー包帯 ②

[21回] 冠名包帯法:ヴェルポー包帯 ①

[22回] 冠名包帯法:ヴェルポー包帯 ②

[23回] 冠名包帯法:ジュール包帯 ①

[24回] 冠名包帯法:ジュール包帯 ②

[25回] 三角巾による固定 ①

[26回] 三角巾による固定 ②

[27回] 固定材料の作製と固定例:厚紙副子

[28回] 固定材料の作製と固定例:ギプス

[29回] テーピング

[30回] 後学期復習

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

上肢の骨折実技I[1126020]

科目名	上肢の骨折実技I[1126020]
科目区分・科目種	柔道整復実技(臨床実習を含む)
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	佐奈木　篤司[非常勤講師]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	通年
曜日・時限	通年 木曜 2.0～2.0
教室	①710実技実習室

受講条件・その注意

医療に携わる人としてのルール、マナー、モラルを守って授業に臨むこと(ピアス・指輪・爪・頭髪にも注意、飲食は禁止)

授業の形態

実習

教科書・参考文献

教科書:柔道整復学実技編　全国柔道整復学校協会(南江堂)

参考書:特になし

評価方法・評価割合

定期試験(実技試験)、出席状況、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

1年次で学んだ骨の損傷概論、2年次で学んだ部位別の上肢の骨折の理論を基礎として、ここでは鎖骨骨折、肩甲骨骨折、上腕骨骨頭骨折、上腕骨解剖頸骨折、上腕骨外科頸骨折、上腕骨骨幹部骨折、上腕骨顆上骨折、上腕骨外顆骨折、上腕骨内側上顆骨折などの骨折の整復法・固定法について、実技により学んでいく。

テーマおよび内容

[1 回] 評価の手順、整復法、固定法のポイント、実技における注意点

[2 回] 肋骨骨折:症状、合併症について、固定法、固定材料について

[3 回] 肋骨骨折:厚紙副子の作成、固定法実技

[4 回] 肋骨骨折:絆創膏固定の注意点、固定法実技

[5 回] 胸骨骨折:理論上の注意点、金属副子作成、固定法実技

[6 回] 肩甲骨骨折:理論上の注意、固定法の説明

[7 回] 肩甲骨骨折:厚紙副子の作成、固定法実技

[8 回] 鎖骨骨折:発生機序から臨床症状、実技における注意点

[9 回] 鎖骨骨折:整復法実技(臥位、座位)固定材料について

[10回] 鎖骨骨折:固定材料の準備、整復から固定まで実技

[11回] 鎖骨外端部骨折:理論上のポイント、鑑別、整復、固定法

[12回] 鎖骨外端部骨折:固定材料の準備、整復から固定まで実技

[13回] Sayre絆創膏固定:注意点、実技

[14回] 上腕骨外科頸骨折におけるHanging Cast法の説明

[15回] 前学期復習

[16回] 上腕骨外科頸骨折:理論上のポイント、整復、固定材料の説明

[17回] 上腕骨外科頚骨折：外転骨折、整復から固定まで実技
[18回] 上腕骨外科頚骨折：内転骨折、整復から固定まで実技
[19回] 骨幹部骨折：三角筋付着部より近位、遠位、整復法、材料の説明
[20回] 骨幹部骨折：三角筋付着部より近位、整復から固定まで実技
[21回] 骨幹部骨折：三角筋付着部より遠位、整復から固定まで実技
[22回] 上腕骨顆上骨折：伸展骨折、整復から固定まで実技
[23回] 上腕骨顆上骨折：伸展骨折、整復法、固定法の説明
[24回] 上腕骨顆上骨折：屈曲骨折、整復法、固定法の説明
[25回] 上腕骨顆上骨折：屈曲骨折、整復から固定まで実技
[26回] 上腕骨外顆骨折：整復法、固定法の説明
[27回] 上腕骨外顆骨折：整復から固定まで実技
[28回] 上腕骨内側上顆骨折：整復法、固定法の説明
[29回] 上腕骨内側上顆骨折：整復から固定まで実技
[30回] 後学期復習

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

上肢の骨折実技II[1126030]

科目名	上肢の骨折実技II[1126030]
科目区分・科目種	柔道整復実技(臨床実習を含む)
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	福田　格[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	通年
曜日・時限	通年 火曜 3.0～3.0
教室	①711実技実習室 ②710実技実習室

授業の形態

実習

教科書・参考文献

教科書:『柔道整復学　実技編』 全国柔道整復学校協会(南江堂)

参考書:特になし

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、授業中の課題(小テスト)、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

1年・2年次で学んだ骨損傷を基礎として、ここでは上肢の骨折について部位別に実技を主体に臨床に即した診断法、整復法、固定法、異常経過など経過上で注意すべき点を実技を通して理解していく。橈骨頭・頚骨折、肘頭骨折、モンテギア骨折、前腕骨骨幹部骨折、コーレス骨折、スミス骨折、舟状骨骨折、中手骨骨折、指骨骨折などの順に学んでいく。

テーマおよび内容

[1回] 金属副子について : 実技の固定法に用いる前腕の金属副子の作製と局所副子の作製について習得する

[2回] 橈骨頭骨折 : 診察法、整復法について理解する

[3回] 橈骨頭骨折 : 固定法、包帯法について理解する

[4回] 橈骨頭骨折 : 固定法、包帯法について理解する

[5回] 肘頭骨折 : 診察法、整復法について理解する

[6回] 肘頭骨折 : 固定法、包帯法について理解する

[7回] モンテギア骨折 : 診察法、伸展型、屈曲型の比較法、それぞれの整復法について理解する

[8回] モンテギア骨折 : 伸展型・屈曲型の固定法、包帯法について理解する

[9回] 尺骨単独骨折 : 診察法、整復法について理解する

[10回] 尺骨単独骨折 : 固定法、包帯法について理解する

[11回] 前腕骨骨幹部骨折(円回内筋付着部より近位) : 診察法、整復法について理解する

[12回] 前腕骨骨幹部骨折(円回内筋付着部より近位) : 固定法について理解する

[13回] 前腕骨骨幹部骨折(円回内筋付着部より遠位) : 診察法、整復法について理解する

[14回] 前腕骨骨幹部骨折(円回内筋付着部より遠位) : 固定法について理解する

[15回] 前腕骨骨幹部骨折 : 包帯法と異常経過について理解する

[16回] Colles骨折 : 診察法について理解する

[17回] Colles骨折 : 整復法について理解する

[18回] Colles骨折 : 固定法について理解する

[19回] Colles骨折：固定法と経過上の問題点について理解する

[20回] Smith骨折：診察法、整復法について理解する

[21回] Smith骨折：固定法と包帯法について理解する

[22回] 舟状骨骨折：診察法、整復法、注意点について理解する

[23回] 舟状骨骨折：固定法、経過上の問題点について理解する

[24回] 中手骨骨折：診察法、経過上の問題点、固定についての考え方について理解し、工夫をさせる

[25回] 中手骨骨折(ボクサー骨折)：診断法、整復法、固定法について理解する

[26回] 中手骨骨折(骨幹部)：診断法、整復法、固定法について理解する

[27回] 中手骨骨折(ベネット)：診断法、整復法、固定法について理解する

[28回] 基節骨骨折：診断法、整復法、固定法について理解する

[29回] 中節骨骨折：診断法、整復法、固定法について理解する

[30回] マレットフィンガー、末節骨骨折：診断法、整復法、固定法について理解する

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

下肢の骨折実技[1126040]

科目名	下肢の骨折実技[1126040]
科目区分・科目種	柔道整復実技(臨床実習を含む)
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	根本　恒夫[非常勤講師]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	通年
曜日・時限	通年 金曜 4.0～4.0
教室	①711実技実習室

受講条件・その注意

指輪・イヤーリング・飲食の禁止、爪・頭髪を清潔に、遅刻厳禁、授業開始と終了時の挨拶
白衣着用

授業の形態

実習

教科書・参考文献

教科書:『柔道整復学・実技編』 全国柔道整復学校協会(南江堂)

参考書:特になし

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

1年次で学んだ骨の損傷概論、2年次で学んだ部位別の下肢の骨折の理論を基礎として、ここでは大腿骨頸部骨折、大腿骨骨幹部骨折、大腿骨顆上骨折、膝蓋骨骨折、脛骨上端部骨折、下腿骨骨幹部骨折、足関節果部骨折、踵骨骨折、中足骨骨折、趾骨骨折などの骨折の整復法・固定法について、実技により学んでいく。

テーマおよび内容

[1回] 大腿骨頚部骨折 ① 実技の講義
[2回] 大腿骨頚部骨折 ② 整復法
[3回] 大腿骨頚部骨折 ③ 固定法
[4回] 大腿骨骨幹部骨折 ① 実技の講義
[5回] 大腿骨骨幹部骨折 ② 整復法
[6回] 大腿骨骨幹部骨折 ③ 固定法
[7回] 大腿骨顆上骨折 ① 実技の講義
[8回] 大腿骨顆上骨折 ② 整復法
[9回] 大腿骨顆上骨折 ③ 固定法
[10回] 膝蓋骨骨折 ① 実技の講義
[11回] 膝蓋骨骨折 ② 整復法
[12回] 膝蓋骨骨折 ③ 固定法
[13回] 下腿骨上端部骨折 ① 実技の講義
[14回] 下腿骨上端部骨折 ② 整復法
[15回] 下腿骨上端部骨折 ③ 固定法
[16回] 下腿骨骨幹部骨折 ① 実技の講義

[17回] 下腿骨骨幹部骨折 ② 実技の講義・整復法

[18回] 下腿骨骨幹部骨折 ③ 整復法・固定法

[19回] 下腿骨骨幹部骨折 ④ 固定法

[20回] 下腿骨下端果部骨折 ① 実技の講義

[21回] 下腿骨下端果部骨折 ② 実技の講義・整復法

[22回] 下腿骨下端果部骨折 ③ 整復法・固定法

[23回] 下腿骨下端果部骨折 ④ 固定法

[24回] 踵骨骨折 ① 実技の講義

[25回] 踵骨骨折 ② 整復法

[26回] 踵骨骨折 ③ 固定法

[27回] 中足骨骨折 ① 実技の講義

[28回] 中足骨骨折 ② 整復法・固定法

[29回] 足趾骨折 ① 実技の講義

[30回] 足趾骨折 ② 整復法・固定法

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

体幹の骨折実技[1126050]

科目名	体幹の骨折実技[1126050]
科目区分・科目種	柔道整復実技(臨床実習を含む)
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	根本　恒夫[非常勤講師]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前期
教室	①別途連絡

授業の形態
実習

授業の目的および到達目標
1年次で学んだ骨の損傷概論、2年次で学んだ部位別の体幹の骨折の理論を基礎として、ここでは肋骨骨折、胸骨骨折、脊椎骨折、骨盤骨骨折などの骨折の整復法・固定法について、実技により学んでいく。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

上肢の脱臼実技[1126060]

科目名	上肢の脱臼実技[1126060]
科目区分・科目種	柔道整復実技(臨床実習を含む)
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	本間　琢英[非常勤講師]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	通年
曜日・時限	前期 水曜 1.0～1.0
	後期 火曜 2.0～2.0
教室	①710実技実習室

受講条件・その注意

遅刻・早退、無断での教室への出入り、授業中の飲食・私語、指輪、ピアスは禁止する。
常に臨床家としてふさわしい服装・言動を心掛けること。授業の前後に号令をかけていただきたい。
授業の妨げ及び他の勉強の邪魔になると思われる学生は退室してもらう。

授業の形態

実習

教科書・参考文献

教科書:『柔道整復学　実技編』 全国柔道整復学校協会(南江堂)

参考書:特になし

評価方法・評価割合

定期試験(実技試験)、出席状況、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

１年次で学んだ関節の損傷概論、2年次で学んだ部位別の上肢の脱臼の理論を基礎として、ここでは肩鎖関節脱臼、肩関節脱臼、肘関節脱臼、橈骨手根関節脱臼、下橈尺関節脱臼、月状骨脱臼、中手指節関節脱臼、指節間関節脱臼などの脱臼の整復法・固定法について、実技により学んでいく。

テーマおよび内容

[1回] 肩鎖関節脱臼の整復法

[2回] 肩鎖関節脱臼の整復法・基本的固定法

[3回] 肩鎖関節脱臼の各種固定法

[4回] 胸鎖関節前方脱臼の整復法・固定法

[5回] 胸鎖関節前方脱臼の固定法

[6回] 肩関節前方脱臼の基本的整復法

[7回] 肩関節前方脱臼の各種整復法

[8回] 肩関節後方・下方脱臼の整復法

[9回] 肩関節前方脱臼の基本的固定法

[10回] 肩関節脱臼の各種固定法

[11回] 肩関節脱臼の各種固定法

[12回] 前腕両骨後方脱臼の整復法

[13回] 前腕両骨後方脱臼の整復法・固定法

[14回] 前腕両骨脱臼の固定法

[15回] 前腕両骨前方脱臼の整復法・固定法

[16回] 橈骨頭単独脱臼の整復法

[17回] 橈骨頭単独前方脱臼の固定法

[18回] 小児肘内障の整復法・固定法

[19回] 下橈尺関節脱臼の整復法

[20回] 下橈尺関節背側脱臼の固定法

[21回] 橈骨手根関節脱臼の整復法

[22回] 橈骨手根関節脱臼の固定法

[23回] 手根骨脱臼（月状骨脱臼を含む）の整復法・固定法

[24回] 手根中手関節脱臼の整復法・固定法

[25回] 中手指節関節脱臼の整復法

[26回] 中手指節関節脱臼の整復法・固定法

[27回] 中手指節関節脱臼の各種固定法

[28回] 指節関節脱臼の整復法

[29回] 指節関節脱臼の整復法・固定法

[30回] 指節関節脱臼の各種固定法

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

下肢(顎関節を含む)の脱臼実技[1126070]

科目名	下肢(顎関節を含む)の脱臼実技[1126070]
科目区分・科目種	柔道整復実技(臨床実習を含む)
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	本間　琢英[非常勤講師]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	通年
教室	①別途連絡

授業の形態
実習

教科書・参考文献
教科書: 『柔道整復学・理論編』 全国柔道整復学校協会編(南江堂)

授業の目的および到達目標
1年次で学んだ関節の損傷概論、2年次で学んだ部位別の下肢の脱臼の理論を基礎として、ここでは股関節脱臼、膝蓋骨脱臼、膝関節脱臼、足関節脱臼、リスフラン関節脱臼、中足趾節関節脱臼、趾節間関節脱臼、顎関節脱臼などの脱臼の整復法・固定法について、実技により学んでいく。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

軟部組織損傷の実技[1126080]

科目名	軟部組織損傷の実技[1126080]
科目区分・科目種	柔道整復実技(臨床実習を含む)
クラス	柔道整復学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	小山　浩司[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	通年
教室	①別途連絡

授業の形態
実習

授業の目的および到達目標
1年次で学んだ軟部組織損傷概論、2年次で学んだ部位別の軟部組織損傷各論を基礎として、ここでは腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷、肩関節周囲炎、上腕部の軟部組織損傷、上腕骨外側上顆炎、上腕骨内側上顆炎、肘内側側副靱帯損傷、マレットフィンガー、ばね指、ド・ケルバン病などの軟部組織損傷の徒手検査法・治療法について、実技により学んでいく。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

臨床実習I[1126090]

科目名	臨床実習I[1126090]
科目区分・科目種	柔道整復実技(臨床実習を含む)
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	成瀬　秀夫[保健医療学部 柔道整復学科]
	小山　浩司[保健医療学部 柔道整復学科]
	櫻井　敬晋[保健医療学部 柔道整復学科]
	中澤　正孝[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	通年
曜日・時限	通年 火曜 5.0～5.0
教室	①710実技実習室 ②711実技実習室

受講条件・その注意

3年次以降に実施される実際の臨床現場での実習が、有意義に行えるようにしっかりと学習すること。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書:『柔道整復学　理論編』 全国柔道整復学校協会(南江堂)
『柔道整復学　実技編』 全国柔道整復学校協会(南江堂)
『包帯固定学』 全国柔道整復学校協会(南江堂)

参考書:『リハビリテーション医学』 全国柔道整復学校協会(南江堂)

評価方法・評価割合

定期試験(口頭試問、実技試験)、その他(実習態度)

授業の目的および到達目標

実際の臨床実習の前段階として、医療人としての倫理観、医療人に相応しい服装・容姿・態度・マナー・話し方、柔道整復師の業務範囲と医療機関との連携などについて学ぶとともに、3年次・4年次に実施される実際の臨床実習がより有意義なものとなるよう臨床現場で必要な基本的知識を学習する。

テーマおよび内容

[1回]　医療人としての倫理観 : 成瀬　秀夫

[2回]　医療人に相応しい服装、容姿、態度、マナー、話し方 : 小山　浩司

[3回]　柔道整復師の業務範囲と医療機関との連携 : 櫻井　敬晋

[4回]　受付応対法 : 中澤　正孝

[5回]　問診法、施術録の記入法 : 成瀬　秀夫

[6回]　患者の診察手順 : 櫻井　敬晋

[7回]　徒手検査法の実際:上肢 : 成瀬　秀夫

[8回]　徒手検査法の実際:下肢 : 櫻井　敬晋

[9回]　徒手検査法の実際:体幹 : 小山　浩司

[10回]　徒手検査法の実際:体幹 : 中澤　正孝

[11回]　画像診断装置の見学、理解(1) : 成瀬　秀夫

[12回]　画像診断装置の見学、理解(2) : 櫻井　敬晋

[13回]　画像診断装置の見学、理解(3) : 小山　浩司

[14回]　画像診断装置の見学、理解（4）：中澤　正孝

[15回]　口頭試問、実技試験：成瀬、小山、櫻井、中澤

[16回]　物理療法機器の理解と体験（1）：小山　浩司

[17回]　物理療法機器の理解と体験（2）：中澤　正孝

[18回]　柔整手技療法（1）：成瀬　秀夫

[19回]　柔整手技療法（2）：櫻井　敬晋

[20回]　模擬患者によるトレーニング（1）：小山　浩司

[21回]　模擬患者によるトレーニング（2）：中澤　正孝

[22回]　模擬患者によるトレーニング（3）：成瀬　秀夫

[23回]　総復習、口頭試問・実技試験：成瀬、小山、櫻井、中澤

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

臨床実習II[1126100]

科目名	臨床実習II[1126100]
科目区分・科目種	柔道整復実技(臨床実習を含む)
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	中澤　正孝[保健医療学部 柔道整復学科]
	小山　浩司[保健医療学部 柔道整復学科]
	櫻井　敬晋[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	通不定期
教室	①附属接骨センター

受講条件・その注意

臨床実習に相応しい服装で臨むこと

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書:柔道整復学実技編　全国柔道整復学校協会監修
参考書:特になし

評価方法・評価割合

定期試験(口頭試問、実技試験)、レポート

授業の目的および到達目標

2年次に実施した臨床実習事前トレーニングを踏まえ、3年次では、大学付属接骨院(臨床実習施設)において、指導教員の指示の下、種々の疾患に対する問診法、触診法、検査法および治療法について見学実習する。少人数で実習し、毎回レポートの提出、自己評価と指導教員による評価を行うとともに、カンファレンスを経験させる。

テーマおよび内容

[1回] 臨床例に対する見学実習(1)　臨床例に対する診察法、治療法および後療法の確認と検討 ： 中澤正孝
[2回] 臨床例に対する見学実習(2)　同上 ： 小山浩司
[3回] 臨床例に対する見学実習(3)　同上 ： 櫻井敬晋
[4回] 臨床例に対する見学実習(4)　同上 ： 中澤正孝
[5回] 臨床例に対する見学実習(5)　同上 ： 小山浩司
[6回] 臨床例に対する見学実習(6)　同上 ： 櫻井敬晋
[7回] 臨床例に対する見学実習(7)　同上 ： 中澤正孝
[8回] 臨床例に対する見学実習(8)　同上 ： 小山浩司
[9回] 臨床例に対する見学実習(9)　同上 ： 櫻井敬晋
[10回] 臨床例に対する見学実習(10)　同上 ： 中澤正孝
[11回] 臨床例に対する見学実習(11)　同上 ： 小山浩司
[12回] 臨床例のまとめ ： 櫻井敬晋
[13回] 臨床例に対する見学実習(12)　臨床例に対する診察法、治療法および後療法の確認と検討 ： 中澤正孝
[14回] 臨床例に対する見学実習(13)　同上 ： 小山浩司
[15回] 臨床例に対する見学実習(14)　同上 ： 櫻井敬晋
[16回] 臨床例に対する見学実習(15)　同上 ： 中澤正孝

[17回] 臨床例に対する見学実習(16)　同上 : 小山浩司

[18回] 臨床例に対する見学実習(17)　同上 : 櫻井敬晋

[19回] 臨床例に対する見学実習(18)　同上 : 中澤正孝

[20回] 臨床例に対する見学実習(19)　同上 : 小山浩司

[21回] 臨床例に対する見学実習(20)　同上 : 櫻井敬晋

[22回] 臨床例に対する見学実習(21)　同上 : 中澤正孝

[23回] 臨床例のまとめ : 小山浩司

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

臨床実習III[1126110]

科目名	臨床実習III[1126110]
科目区分・科目種	柔道整復実技(臨床実習を含む)
クラス	柔道整復学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	中澤　正孝[保健医療学部 柔道整復学科]
	小山　浩司[保健医療学部 柔道整復学科]
	櫻井　敬晋[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	通年
教室	①別途連絡

授業の形態
実習(共同)

授業の目的および到達目標
2年次での臨床実習事前演習、3年次での学内付属接骨院での見学実習、さらに3年次までに学んだ講義および実技実習を踏まえ、4年次では学内の付属接骨院およびクリニックでの実習に加え、学外の整形外科医院および接骨院での見学実習を実施する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

卒業研究[1127010]

科目名	卒業研究[1127010]
科目区分・科目種	卒業研究
クラス	柔道整復学科
単位数	4.0単位

担当教員・所属	関　寛之[保健医療学部 柔道整復学科]
	柚木　脩[保健医療学部 柔道整復学科]
	寺井　政憲[保健医療学部 柔道整復学科]
	成瀬　秀夫[保健医療学部 柔道整復学科]
	木村　明彦[保健医療学部 柔道整復学科]
	久米　信好[保健医療学部 柔道整復学科]
	髙橋　康輝[保健医療学部 柔道整復学科]
	橋本　昇[保健医療学部 柔道整復学科]
	小山　浩司[保健医療学部 柔道整復学科]
	櫻井　敬晋[保健医療学部 柔道整復学科]
	徳安　秀政[保健医療学部 柔道整復学科]
	笹木　正悟[保健医療学部 柔道整復学科]
	荒井　裕一朗[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	柔道整復学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	通年
曜日・時限	通年 月曜 1.0～1.0
教室	①別途連絡

授業の形態
演習

授業の目的および到達目標
4年間学んできた中で、自身が最も関心をもった事項につき、主体的にテーマを設定し、担当教員の指導の下で、当該分野の過去の論文を検索して検討するとともに、自ら種々な研究技法を用いて論文としてまとめていく。また、研究成果を口述やポスターなどの形式で発表経験することで、プレゼンテーションの方法や技法を学ぶ。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

人体の構造I[1140010]

科目名	人体の構造I[1140010]
科目区分・科目種	人体の構造と機能
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	佐藤　達夫[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 3.0～3.0
教室	①306教室

受講条件・その注意

看護学の基礎となる科目であり、十分に学習し理解する必要がある。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『入門人体解剖学』 藤田恒夫(南江堂)1999

参考書:『からだの地図帳』 高橋長雄(講談社)1989,『胸部の地図帳』 佐藤達夫(講談社)2008

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他(小テスト)

授業の目的および到達目標

人体の正常な形態および構造について系統的に理解することを目的とする。看護学科で学ぶ多くの臨床医学を理解する上で解剖学の知識が必要となる。人体の構造Ⅰでは、概論、運動器系・循環器系・消化器系・呼吸器系・泌尿器系・生殖器系・内分泌系・神経系・感覚器系を系統的に解剖学を学ぶ。2次元的データだけではなく、さらに人体模型や立体映像等を用いて3次元的なイメージをつけさせ、個々の器官組織の構造機能だけでなく、各器官組織の関係性を学習させることによって、看護師・保健師にとって必要な、人体の構造の基本を理解させる。

テーマおよび内容

[1 回] 総論

[2 回] 運動器(骨)

[3 回] 運動器(骨・筋)

[4 回] 運動器(筋)

[5 回] 消化器

[6 回] 呼吸器

[7 回] 泌尿器

[8 回] 生殖器

[9 回] 内分泌器

[10回] 心臓・血管

[11回] 血管・リンパ系

[12回] 脊髄神経・自律神経

[13回] 脳神経

[14回] 脳・脊髄

[15回] 感覚器

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

人体の構造II[1140020]

科目名	人体の構造II[1140020]
科目区分・科目種	人体の構造と機能
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	木村　明彦[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 3.0～3.0
	前期 火曜 4.0～4.0
教室	①403教室
資格関連	保健師,養護教諭

受講条件・その注意

授業開始前に課題レポートの提出があります。詳細は5月後半（開講2週間前）に発表します。
授業中に色鉛筆（12色で十分です）を使用します。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『解剖学　コメディカルのための専門分野テキスト』 五味敏昭：岸清（中外医学社）
　　『カラースケッチ解剖学（第3版）』嶋井和世　監訳（廣川書店）

参考書：解剖トレーニングノート第4版　竹内修二（医学教育出版社）

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他（プレテスト、ポストテスト、授業態度）

授業の目的および到達目標

人体の解剖学はきわめて多岐にわたる具体的な事実を記述した学問であり、人体の構造Ⅰで学んだ事項を、さらに総合的・立体的に理解する必要がある。人体の構造Ⅱでは系統解剖学のみならず局所（臨床）解剖学・体表解剖学についても理解を深める。また、注射・導尿・聴診などの看護師・保健師が行う業務に関する解剖学的知識を理解する。

テーマおよび内容

前期後半より開講のため2時限連続で行う

[1回] 解剖学総論（組織・発生・体表の区分け）、上肢・下肢の解剖学
[2回] （骨学的体表ポイント、注射部位を中心として）

[3回] 頭部・頚部の解剖学
[4回] （鼻部・口部内臓を中心として）

[5回] 胸部の解剖学
[6回] （心臓・気管・肺を中心として）

[7回] 腹部の解剖学
[8回] （消化管・消化腺を中心として）

[9回] 腹部の解剖学
[10回] （泌尿器・動静脈・内分泌系を中心として）

[11回] 骨盤部の解剖
[12回] （生殖器を中心として）

[13回] 解剖見学
[14回] （東邦大学医学部解剖学実習室を予定）

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

人体の機能I[1140030]

科目名	人体の機能I[1140030]
科目区分・科目種	人体の構造と機能
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	高野　一夫[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 水曜 2.0～2.0
教室	①306教室

受講条件・その注意

講義時間が少ないため、重要なポイントのみが講義される。なるべく予習して講義に臨むと理解し易い。また余裕のある学生は上記の参考書などを読んで理解に努めると良い。他の科目との有機的なつながりを考慮しながら学習すること。疑問点には時間の許す限り講義担当者が回答する。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『系統看護学講座　解剖生理学』(医学書院)

参考書:『ガイトン生理学、原著第11版』A・Cガイトン:J・Eホール(エルゼビア・ジャパン)2010
『オクスフォード・生理学、原書3版』G・ポーコック:C・Dリチャーズ(丸善)2009
『標準生理学　Standard textbook 第7版』小澤瀞司:本郷利憲(医学書院)2009
『細胞の分子生物学、第4版』B・アルバーツ:中村桂子(ニュートンプレス)2004
『コスタンゾ　明解生理学』(エルゼビアジャパン)

評価方法・評価割合

定期試験(筆記試験)、その他(出席率が定められた基準以下の学生は定期試験を受験出来ない。成績評価が一定の基準以下の学生には再試験として筆記試験または口頭試験を行う。)

授業の目的および到達目標

人体の機能Ⅰ及び人体の機能Ⅱでは人体の正常な機能を理解することを目的とする。人体の正常な形態および構造を学ぶ人体の構造Ⅰ及び人体の構造Ⅱ(解剖学)とは表裏一体の関係にあるので合わせて理解する。いわゆる生理学の分野に相当する。生理学は疾病の原因、症状などを理解する上で不可欠な学問である。人体の機能Ⅰでは、生理学の基礎、体液、血液、循環、呼吸、消化と吸収、栄養と代謝、体温とその調節、尿の生成と排泄について学ぶ。

テーマおよび内容

[1回] 細胞の構造と構成成分の機能

[2回] 体液組成と物質の移動

[3回] 血液1(血液組成とその機能)

[4回] 血液2(血液凝固と血液型)

[5回] 循環器系1(心臓の機能)

[6回] 循環器系2(血管・リンパ管の機能)

[7回] 循環器系3(循環調節)

[8回] 呼吸器系1(呼吸運動)

[9回] 呼吸器系2(ガス交換)

[10回] 呼吸器系3(呼吸調節)

[11回] 消化器系1(食欲・咀嚼・嚥下)

[12回] 消化器系2(消化・吸収)

[13回] 消化器系3(消化管ホルモンと排便)

[14回] 泌尿器系1（尿の生成）

[15回] 泌尿器系2（尿の排泄）

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

人体の機能II[1140040]

科目名	人体の機能II[1140040]
科目区分・科目種	人体の構造と機能
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	高野　一夫[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 水曜 3.0～3.0
教室	①306教室

受講条件・その注意

講義時間が少ないため、重要なポイントのみが講義される。なるべく予習して講義に臨むと理解し易い。また余裕のある学生は上記の参考書等を読んで理解に努めると良い。他の科目との有機的なつながりを考慮しながら学習すること。疑問点には時間の許す限り講義担当者が回答する。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『系統看護学講座　解剖生理学』(医学書院)

参考書:『ガイトン生理学、原著第11版』A・Cガイトン:J・Eホール(エルゼビア・ジャパン)2010
『オクスフォード・生理学、原書3版』G・ポーコック:C・Dリチャーズ(丸善)2009
『標準生理学　Standard textbook 第7版』小澤瀞司:本郷利憲(医学書院)2009
『ニューロンの生理学』御子柴克彦・加藤総夫(京都大学出版会)2009
『Principles of Neural Science 4th ed.』ER Kandel(McGraw Hill)2000
『コスタンゾ　明解生理学』(エルゼビアジャパン)

評価方法・評価割合

定期試験(筆記試験)、その他(出席率が定められた基準以下の学生は定期試験を受験出来ない。成績評価が一定の基準以下の学生 には再試験として筆記試験または口頭試験を行う。)

授業の目的および到達目標

人体の機能Ⅰ及び人体の機能Ⅱでは人体の正常な機能を理解することを目的とする。人体の正常な形態および構造を学ぶ人体の構造Ⅰ及び人体の構造Ⅱ(解剖学)とは表裏一体の関係にあるので合わせて理解する。いわゆる生理学の分野に相当する。生理学は疾病の原因、症状などを理解する上で不可欠な学問である。人体の機能Ⅱでは内分泌系、神経系、筋肉、感覚器系などの生理について学ぶ。内分泌系ではホルモンの種類や作用など、神経系では中枢神経系および末梢神経系の機能、筋肉では筋収縮のメカニズムなど、感覚器系では体性感覚、味覚、嗅覚、聴覚、視覚、平衡感覚などについて学ぶ。

テーマおよび内容

[1回] 内分泌系1(内分泌とは、視床下部・下垂体ホルモン)

[2回] 内分泌系2(甲状腺・上皮小体・膵臓・副腎皮質・髄質ホルモン)

[3回] 生殖器系(生殖器の分化と機能)

[4回] 神経生理の基礎1(ニューロンと興奮の発生)

[5回] 神経生理の基礎2(興奮伝導とシナプス伝達)

[6回] 自律神経系1(交感神経系)

[7回] 自律神経系2(副交感神経系)

[8回] 骨格筋1(骨格筋の収縮機序と収縮の種類)

[9回] 骨格筋2(骨格筋の収縮エネルギー)

[10回] 中枢神経系1(脊髄・脳幹・間脳の機能)

[11回] 中枢神経系2(大脳皮質と高次機能)

[12回] 感覚系1(体性感覚)

[13回] 感覚系2（嗅覚と味覚）

[14回] 感覚系3（聴覚と平衡感覚）

[15回] 感覚系4（視覚）

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

病理学概論[1141010]

科目名	病理学概論[1141010]
科目区分・科目種	疾病の成り立ちと回復促進
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	寺井　政憲[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 月曜 2.0～2.0
教室	①304教室

受講条件・その注意

授業では病理学の総論を平易に且つ丁寧に解説していきます。授業に関連した事項で興味ある項目は各自で教科書の各論を参照してください。教科書中のノートやコラムは時間のあるときに各自で読んでおいてください。病気について関心を持てるように授業をしていきます。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:「新クイックマスター　病理学」監修　堤　寛(医学芸術社),「好きになる免疫学」著者　萩原清文　監修者　多田富雄　(講談社サイエンティフィック)

参考書:「標準病理学　第3版」監修　秦　順一(医学書院)

評価方法・評価割合

定期試験(筆記試験)

授業の目的および到達目標

病理学とはヒトはどのようにして病気になるのかを科学的に説明する医学で、病気の診断や治療の基本になる学問である。病理学は基礎から臨床への橋渡しの役割があり、構造と機能の異常、すなわち病気を中心とした講義とする。病気の概念を原因から出発して系統的に説明する。病気を個体(ヒト)から臓器、組織、細胞、遺伝子レベルという具合に理解することが必要である。到達目標は病気の概念・定義を理論的にしっかり習得し、最終的に幅広い基礎医学の知識と理解力をつけることにおく。病気の基本について、医学的に平易に解説するとともに、難解な病理学的用語についても分かり易く説明する。国家試験は最終目標ではないが、受講学生の合格につながることにも配慮した授業を行う。

テーマおよび内容

[1回]　病理学と病理診断:病理学と看護との関わり、医療における病理診断の役割について学ぶ

[2回]　細胞障害:細胞障害の内因、外因について学ぶ

[3回]　細胞障害:細胞障害の内因、外因について学ぶ

[4回]　先天異常:先天奇形、染色体異常による疾患について学ぶ

[5回]　循環障害:循環障害(詰まる、漏れる、溜まる)の病態について学ぶ

[6回]　炎症:炎症のプロセス、炎症細胞について学ぶ

[7回]　炎症:急性炎症、慢性炎症の詳細、創傷治癒について学ぶ

[8回]　幹細胞と再生医学:幹細胞の生物学、幹細胞を用いた再生医療、細胞治療について学ぶ

[9回]　免疫:抗原と抗体、主要組織適合抗原(MHC)、免疫担当細胞について学ぶ

[10回]　免疫:免疫細胞どうしの情報交換について学ぶ

[11回]　免疫異常とアレルギー:免疫異常(アレルギー、免疫不全、自己免疫疾患)について学ぶ

[12回]　感染症:病原体の種類、感染経路、日和見感染について学ぶ

[13回]　腫瘍:腫瘍(良性腫瘍、悪性腫瘍)の違い、腫瘍の特徴について学ぶ

[14回]　腫瘍:悪性腫瘍の特徴について学ぶ

[15回]　腫瘍:腫瘍発生の内因、外因について学ぶ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

薬理学概論[1141020]

科目名	薬理学概論[1141020]
科目区分・科目種	疾病の成り立ちと回復促進
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	荒井　裕一朗[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 3.0～3.0
教室	①303教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 疾病の成り立ちと回復の促進[2] 大鹿英世ら(医学書院)

参考書:『グッドマン・ギルマン　薬理書』上、下　高折ら(廣川書店),『今日の治療薬』（南江堂),『NEW 薬理学』 田中、加藤(南江堂)
『新薬理学テキスト』 佐藤　進　編 （廣川書店）

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

種々疾患の治療には必ずと言っていいほど薬物が用いられている。治療ばかりではなく予防、検査・診断、健康診断にも薬物は用いられる。医療現場には看護師の存在が欠かせず、その医療現場では看護師にも当然、薬物の知識が求められる。そのために、薬物の作用点、薬物の生体内運命、薬効に影響を与える因子などの基礎薬理学、および、医療用医薬品の薬理作用・副作用、使用上の注意点などの応用薬理学を学ぶ。さらに、新薬を開発する際には看護師が必要でかつ重要な役割を担う治験が行われるが、この新薬の開発についても学ぶ。

テーマおよび内容

[1回] 総論 : 薬理学とは、薬物の作用点

[2回] 総論 : 薬物の作用点、薬物の生体内運命

[3回] 総論 : 薬物の生体内運命、薬効に影響を与える因子

[4回] 総論 : 薬効に影響を与える因子

[5回] 総論 : 薬効に影響を与える因子、薬物の毒性

[6回] 総論 : 薬物の毒性、新薬の開発

[7回] 自律神経系に作用する薬物 : 副交感神経系に作用する薬物

[8回] 自律神経系に作用する薬物 : 交感神経系に作用する薬物

[9回] 体性神経系に作用する薬物 : 筋弛緩薬、局所麻酔薬

[10回] 中枢神経系に作用する薬物 : 全身麻酔薬、向精神薬、抗パーキンソン薬など

[11回] 中枢神経系に作用する薬物 : 抗てんかん薬、抗認知症薬など

[12回] 下熱・鎮痛・抗炎症薬 : オータコイド、下熱・鎮痛・抗炎症薬、抗アレルギー薬など

[13回] 循環器、泌尿器系、血液系に作用する薬物 : 心臓作用薬、降圧薬、利尿薬、抗凝血薬など

[14回] 呼吸器、消化器、生殖器系に作用する薬物 : 喘息薬、抗潰瘍薬、瀉下薬、子宮収縮薬、ホルモンなど

[15回] 化学療法薬、その他 : 抗菌薬、抗腫瘍薬、抗免疫薬、抗ウイルス薬など

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

生化学[1141030]

科目名	生化学[1141030]
科目区分・科目種	疾病の成り立ちと回復促進
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	荒井　裕一朗[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 2.0～2.0
教室	①306教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：系統看護学講座　専門分野　生化学　人体の構造と機能[2]　三輪、中　（医学書院）

参考書：『レーニンジャーの生化学』 上、下　監修：山科郁夫（廣川書店）

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

本科目では、生命活動の基本について化学物質の変化とその流れの観点から捉え、それらの基本について学習する。特に生体分子の化学構造と性質を学び、それを踏まえて看護学的な視点から重要となる疾患関連の代謝異常などについて学習する。

テーマおよび内容

[1 回] 生体を構成する物質：細胞の構造と機能

[2 回] 生体を構成する物質：糖質

[3 回] 生体を構成する物質：脂質

[4 回] 生体を構成する物質：タンパク質、核酸

[5 回] 生体を構成する物質：ホルモン、生理活性物質

[6 回] 生体内の物質代謝：酵素、ビタミン

[7 回] 生体内の物質代謝：糖質代謝、脂質代謝、タンパク質代謝など

[8 回] 遺伝情報とその発現

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

臨床疾患学I(内科系)[1141040]

科目名	臨床疾患学I(内科系)[1141040]
科目区分・科目種	疾病の成り立ちと回復促進
クラス	看護学科
単位数	4.0単位

担当教員・所属	林　洋[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 金曜 1.0～1.0
	前期 金曜 2.0～2.0
教室	①403教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『シンプル内科学』 寺野　彰(南江堂)2008

参考書:『内科学　第九版』 杉本恒明・矢崎義雄(朝倉書店)2007

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート

授業の目的および到達目標

内科系諸疾患(呼吸器系、循環器系、消化器系、内分泌系、神経系)および、小児科系疾患、泌尿器科系疾患、産婦人科系疾患の疾病の成り立ちと治療法について学習する。基礎医学科目で学習した内容をもとに、具体的な臨床疾患の種類と病因について概説するとともに、各疾患の治療法の基本的な事項についての知識を習得させる。特に、内科系疾患の診療に特徴的な、病態の包括的把握法を学習し、看護学の講義、実習を受けるための基礎を作る。

テーマおよび内容

[1回] オリエンテーション

[2回] 診断と治療

[3回] 身体所見

[4回] 主な症状

[5回] 循環器疾患

[6回] 循環器疾患

[7回] 循環器疾患

[8回] 呼吸器疾患

[9回] 呼吸器疾患

[10回] 呼吸器疾患

[11回] 消化管疾患

[12回] 消化管疾患

[13回] 肝・胆道・膵疾患

[14回] 肝・胆道・膵疾患

[15回] 腎・尿路系疾患

[16回] 腎・尿路系疾患

[17回] 内分泌疾患

[18回] 内分泌疾患

[19回] 代謝疾患

[20回] 代謝疾患

[21回] 自己免疫疾患

[22回] アレルギー疾患

[23回] 血液疾患

[24回] 血液疾患

[25回] 神経疾患

[26回] 神経疾患

[27回]　小児科系疾患

[28回] 小児科系疾患

[29回] 泌尿器科系疾患

[30回] 産婦人科系疾患

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

臨床疾患学II(一般外科系)[1141050]

科目名	臨床疾患学II(一般外科系)[1141050]
科目区分・科目種	疾病の成り立ちと回復促進
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	鈴木　秀一[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 水曜 3.0～3.0
教室	①304教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:特に指定しない

参考書:『成人看護学　周術期看護論』 雄西智恵美、秋元典子編(ヌーベルヒロカワ)
『系統看護学講座　別巻　臨床外科看護各論』 北島政樹、藤村龍子編(医学書院)

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他(成績不良者にはレポート提出)

授業の目的および到達目標

外科学総論に関する知識の習得を基盤として、外科的治療が人体に及ぼす影響、生命の危機状態にある患者に対する診断・治療・管理に関して、学習する。

テーマおよび内容

[1回] 外科学の歴史と専門分化:紀元前にまで遡る外科学の歴史、19世紀からの外科学の発展、外科的治療技術の進歩と領域別専門分化の過程
外科学総論－１：損傷、創傷、熱傷、外科感染症

[2回] 外科学総論－２：腫瘍、ショック、消毒と滅菌、目的別に見た手術の種類、手術の侵襲と生体反応

[3回] 麻酔学：局所麻酔、脊椎麻酔、硬膜外麻酔、神経ブロック

[4回] 麻酔学：全身麻酔

[5回] 消化器外科領域の手術：急性虫垂炎、そけいヘルニア、胆石症、胃潰瘍・十二指腸潰瘍、胃癌、大腸癌、膵癌、食道癌

[6回] 消化器外科領域の手術

[7回] 消化器外科領域の手術

[8回] 胸部外科領域の手術：自然気胸、肺良性腫瘍、肺癌、転移性肺腫瘍、弁膜症、虚血性心疾患、大動脈瘤

[9回] 胸部外科領域の手術

[10回] 胸部外科領域の手術

[11回] 乳腺外科領域の手術：乳腺炎、乳腺良性腫瘍、乳癌

[12回] 脳神経外科領域の手術：硬膜外血腫、硬膜下血腫、くも膜下出血、脳内出血、脳腫瘍、水頭症

[13回] 小児外科領域の手術：ボクダレックヘルニア、鎖肛、心房中隔欠損症、心室中隔欠損症、ファロー四徴症

[14回] 移植外科：肝臓移植、腎臓移植、小腸移植、心臓移植

[15回] まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

臨床疾患学III(整形・ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ)[1141060]

科目名	臨床疾患学III(整形・ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ)[1141060]
科目区分・科目種	疾病の成り立ちと回復促進
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	関　寛之[保健医療学部 柔道整復学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 金曜 2.0～2.0
教室	①304教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：新体系看護学全書25,運動器：黒澤尚,青木きよ子編,メジカルフレンド社,2007
成人看護学,ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ看護論：中西純子,石川ふみよ編,ヌーヴェルヒロカワ,2008

参考書：特になし

必要応じてレジメを配布し、視聴覚教材としてスライド、DVD、ビデオなども用いる。

評価方法・評価割合

定期試験

授業の目的および到達目標

運動器の構造と機能、症状・病態生理を基盤に、四肢・体幹を構成する骨・関節・筋肉・神経などの運動器官疾患に関する診断、治療、管理、リハビリテーション(リハ)に関して学習する。

テーマおよび内容

[1回] 整形外科における診断と治療：運動器疾患の診断法(理学的検査、画像診断などの補助診断法)、整形外科的治療法(保存療法と手術療法)

[2回] 運動器の構造と機能：骨、軟骨、中枢神経・末梢神経、筋、膠原線維の構造と機能

[3回] 外傷学：軟部組織(皮膚、筋腱等)損傷の修復と再生、骨折の治癒機序、骨・関節損傷の診断治療とリハ

[4回] 部位別の外傷と疾患(骨盤・下肢)：骨盤骨折、股関節脱臼、大腿骨頚部骨折、膝内障、下腿骨骨折、踵骨骨折などの診断治療とリハ

[5回] 部位別の外傷と疾患(脊椎・上肢)：脊椎骨折、むち打ち損傷、肩関節、上腕、肘関節、前腕、手関節、手の外傷と疾患の診断治療とリハ

[6回] 脊椎、脊髄疾患：頸肩腕障害、腰痛、変形性脊椎症と脊椎変性疾患、椎間板ヘルニア

[7回] 全身性疾患：関節リウマチと類縁疾患、変形性関節症

[8回] 代謝、内分泌疾患：骨粗鬆症、骨軟化症・くる病

[9回] 感染症、骨腫瘍：骨髄炎、化膿性関節炎、骨の良性腫瘍と悪性腫瘍、骨腫瘍類似疾患

[10回] 小児疾患、骨系統疾患：先天性股関節脱臼、先天性内反足、特発性側弯症、骨形成不全症、軟骨無形成症、マルファン症候群

[11回] 神経疾患、筋疾患：末梢神経の構造と機能および末梢神経損傷の診断・治療とリハ

[12回] 四肢循環障害、骨壊死：閉塞性動脈硬化症、深部静脈血栓症、特発性大腿骨頭壊死、骨端症

[13回] 切断と義肢：上肢、下肢の切断と義手、義足によるリハ、義肢・装具の目的と機能

[14回] 脳卒中と脊髄損傷のリハ：脳卒中の病態と分類、脊髄損傷の高位別リハ、中枢神経障害の合併症とその対策、中枢神経障害の合併症とその対策

[15回] 廃用症候群とそれを予防するリハ：寡動による廃用症候とその予防するためのリハ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

栄養学と食育[1141070]

科目名	栄養学と食育[1141070]
科目区分・科目種	疾病の成り立ちと回復促進
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	加藤　チイ[非常勤講師]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 水曜 1.0～1.0
教室	①306教室

受講条件・その注意

栄養・食事は生命につながるとても大切なものです。この科目で学んだことを実践して下さい。食事の記録などのレポートがあります。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書:『看護栄養学』 尾岸恵三子:正木治恵(医歯薬出版)2007,『糖尿病食事療法のための食品交換表』 日本糖尿病学会(文光堂)2002

参考書:『腎臓病食品交換表:治療食の基準』 中尾俊之:黒川清(医歯薬出版)2008

評価方法・評価割合

定期試験(80%)、その他(平常点20% :授業態度、課題、レポート)

授業の目的および到達目標

人が生きるためには栄養、すなわち食物から必要な物質を取り込んで代謝・同化する過程が必要であることから、どのような食物をどれだけ摂れば健康を維持・増進できるかについて理解する。また、一つの食品で理想的な栄養素を含むものは存在しないし、誤った食事の摂り方により疾患になることもある。栄養素がバランスよく摂れ、消化しやすいように調理され、食べる側の嗜好や楽しみにも応じた食事のありかたについて考える。「栄養学」を理解することにより食を正しく選択し、信頼できる情報に基づく適切な食行動が実践できること、「食育」が実践できることを学習のねらいとする。

テーマおよび内容

[1回] 看護と栄養 : 栄養学・食育を学ぶ意義を理解する。

[2回] 食品について知る : 食品群と補給できる栄養素、食品毎の栄養成分の特徴などを理解する。

[3回] 栄養の基礎(1) : どのような食品をどれくらい食べればよいか理解する。(エネルギー、タンパク質、脂質、糖質など)

[4回] 栄養の基礎(2) : どのような食品をどれくらい食べればよいか理解する。(ビタミン、ミネラルなど)

[5回] 疾病と食事(1) : 胃・腸、肝臓など消化管、消化器疾患の食事療法を理解する。

[6回] 疾病と食事(2) : 高血圧症、循環器疾患、糖尿病、肥満症、脂質異常症などの食事療法を理解する。

[7回] 疾病と食事(3) : 腎疾患の栄養・食事の食事療法を理解する。

[8回] 疾病と食事(4) : 手術後、外傷、褥瘡などの食事療法を理解する。

[9回] ライフステージと栄養(1) : 小児、妊産婦の栄養・食事のとり方を理解する。

[10回] ライフステージと栄養(2) : 高齢者の栄養・食事のとり方を理解する。

[11回] 食事機能と食形態 : 摂食機能に対応した食事について理解する。

[12回] 特殊な食品について : 治療用特殊食品、特定保健用食品などについて理解する。

[13回] 栄養教育、食の援助 : 食品の表示や栄養情報の利用のしかたについて理解する。(栄養指導や健康教育において留意すべき事項を学ぶ)

[14回] 食事評価の技術 : 食事記録の評価方法を学ぶ。食事摂取エネルギーの概算、栄養バランスの評価など演習する。

[15回] まとめ : 健常時および傷病時にはどのような食品をどのようにして食べたらよいか、学習した知識を確認する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

感染症学[1141080]

科目名	感染症学[1141080]
科目区分・科目種	疾病の成り立ちと回復促進
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	林　洋[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前集中
教室	①中講義室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『シンプル内科学』 寺野　彰(南江堂)2008

参考書:『シンプル微生物学』 東　匡伸・小熊惠二(南江堂)2006

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況

授業の目的および到達目標

感染症は、各臓器別疾患の共通した病因の1つであるとともに、臨床の場において日常的に認められる疾患でもあるところから、十分な知識を習得する必要がある。そのためには、病因となる微生物、すなわち、ウイルス、細菌、真菌、原虫にたいする微生物学的素養や小動物にたいする理解を深めるだけではなく、感染にたいする生体防御機構についても学習し、さらに感染症がおこった後の治療法に加えて、予防法についても習得することを目指す。

テーマおよび内容

[1回] 感染症と感染防御

[2回] 病原微生物

[3回] 細菌感染症

[4回] 細菌感染症

[5回] ウイルス感染症

[6回] ウイルス感染症

[7回] 真菌、原虫、寄生虫感染症

[8回] 治療法、予防法、院内感染、感染症法

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

認知心理学[1141090]

科目名	認知心理学[1141090]
科目区分・科目種	疾病の成り立ちと回復促進
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	山下　雅子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 2.0～2.0
教室	①403教室

受講条件・その注意

各章を、1人または数人で担当し順に発表する。討議は全員で行うので、発表担当箇所以外も予習が必要である。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書:『情報処理心理学』 中島義明著(サイエンス社)

参考書:適宜紹介するが、原則として、発表に必要な文献については各担当者において検索を行うこと。

評価方法・評価割合

出席状況、その他(発表内容)

授業の目的および到達目標

看護・介護の臨床活動に有用な、認知のメカニズムについての基本的知識を得るとともに応用的分野へとつながる研究について理解する。記憶、思考といった認知機能についての基本的な知識に加えて、エイジングによる記憶能力やその他の認知機能の変化の様相、感情と認知の関係、情動の認知、環境の認知、対人感情認知などについて、適宜、ワークを行いながら研究方法と合わせて理解を深め、臨床活動の基礎の一部となりうる知識を得ることを目的とする。

テーマおよび内容

受講生はグループまたは個人で担当する文献のアウトラインをまとめ、持ち回りで発表する。担当教員はそのテーマごとに解説を加える。受講生全員で議論しながら、理解を深める。

[1 回] ガイダンス

[2 回] 発表と討議

[3 回] 発表と討議

[4 回] 発表と討議

[5 回] 発表と討議

[6 回] 発表と討議

[7 回] 発表と討議

[8 回] 発表と討議

[9 回] 発表と討議

[10回] 発表と討議

[11回] 発表と討議

[12回] 発表と討議

[13回] 発表と討議

[14回] 発表と討議

[15回] 総括

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

公衆衛生学と疫学[1142010]

科目名	公衆衛生学と疫学[1142010]
科目区分・科目種	保健福祉制度と生活
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	林　洋[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 4.0～4.0
教室	①303教室

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書:『シンプル衛生公衆衛生学』 鈴木庄亮・久道　茂(南江堂)2011

参考書:『国民衛生の動向』 (厚生統計協会)2010/2011

評価方法・評価割合
定期試験、出席状況、レポート

授業の目的および到達目標
近代医学の発展に公衆衛生学が果たした役割を概説するとともに、現代の公衆衛生学が取り組んでいる諸分野、すなわち、環境問題、生活習慣病、感染症、地域保健、産業保健、国際協力等について学習し、医療全体を広い視野から捉えられる態度を養う。また、疫学の研究法を紹介するとともに、その成果を学習することによって、医療人としての素養を身に付け、さらに保健医療統計の実際に触れて、看護学学習の意欲を高めることを目指す。

テーマおよび内容
[1回] オリエンテーション

[2回] 保健統計

[3回] 保健統計

[4回] 疫学

[5回] 疫学

[6回] 疾病予防と健康管理

[7回] 生活習慣病予防

[8回] 生活習慣病予防

[9回] 感染症とその予防

[10回] 環境保健

[11回] 環境保健

[12回] 地域保健と保健行政、母子保健

[13回] 学校保健

[14回] 産業保健

[15回] 老人保健・福祉、精神保健、国際保健医療、保健医療の制度と法規

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

保健福祉行政論[1142020]

科目名	保健福祉行政論[1142020]
科目区分・科目種	保健福祉制度と生活
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	大井　照[非常勤講師]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前集中
教室	①403教室

受講条件・その注意

保健医療福祉等健康に関する新聞記事に目を通すこと。授業中は私語を慎むこと。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：特になし

参考書：『国民衛生の動向2010』厚生統計協会　，『衛生行政大要』改定第18版　日本公衆衛生協会
『福祉・衛生統計年報（平成20年度）』 東京都福祉保健局，『公衆衛生看護学体系第9巻保健福祉行政論』日本看護協会出版会

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況

授業の目的および到達目標

高齢者・障害者が疾病や障害を抱えた時、在宅を中心として地域で生活を続けていくために、どのような医療・保健・福祉の社会資源とシステムを活用すればよいか、現状を踏まえて、システムを概括する。さらに先進的なモデルを探り、将来のあるべき姿を描く。地域ケア連携をしていく中で、看護職と福祉職がどのように協働し、連携していけば、地域住民の健康と生活が守れるか、予防や健康増進の視点からも理解を深める。患者・利用者主体の在宅を中心とした地域ケアがどのように行なわれるか、講義・演習を通じて学習することを目指す。

テーマおよび内容

[1回] 公衆衛生の目的と発展

[2回] 諸外国と日本の衛生行政の歴史から学ぶ

[3回] 法の背景と保健所等の組織と活動を理解

[4回] 医療供給体制の現状を理解し、医療法、医療施設について学ぶ

[5回] 保健医療計画の法的基礎と背景を学ぶ

[6回] 健康日本21計画等健康づくり対策を理解

[7回] 保健医療活動と担当者の役割を理解

[8回] 医療福祉行政の連携等課題を学ぶ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

高齢者保健福祉論[1142030]

科目名	高齢者保健福祉論[1142030]
科目区分・科目種	保健福祉制度と生活
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	熊谷　徹子[非常勤講師]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前集中
曜日・時限	前期 水曜 4.0～4.0
	前期 水曜 5.0～5.0
教室	①304教室

受講条件・その注意

制度の変遷や仕組みが高齢者の健康や生活とどのように関連しているか考えながら学習に取り組むこと。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:「新版社会福祉士養成講座2　老人福祉論第5版」 中央法規

参考書:「国民衛生の動向」2010年版　厚生統計協会

評価方法・評価割合

出席状況（授業参加姿勢80%）、レポート（20%）

授業の目的および到達目標

生活上の困難を有する高齢者を支援する場合、身体的・精神的部分だけを取り上げるのではなく、社会的背景と現状のほか心理的・社会的特性などを含め、総合的に捉えなければ適切な解決はできない。当該科目では、高齢者の生活困難な状況や福祉・保健医療サービスのニーズの捉え方、支援の際の留意すべき理念と考え方を学ぶ。また、高齢者に対する支援の方法と人的資源、高齢者の福祉・保健制度と介護保険制度、高齢者の福祉・保健・医療サービスの体系と内容、高齢者の生活と年金・公的扶助・雇用施策について、適宜ワークを取り入れて理解を深め、看護職の実践的活動となる知識を得ることを目的とする。

テーマおよび内容

[1回] 科目オリエンテーション：
高齢者の身体・精神的特性と疾病：高齢者の身体・精神的特性と疾病、心理的特性、社会的特性

[2回] 高齢者を取り巻く社会環境：少子高齢社会と社会的問題、高齢者の居住世帯と家族の介護問題

[3回] 高齢者・家族の抱える諸問題：高齢者の社会生活における諸問題、老年期の生活困難の特性と構造

[4回] 高齢者保健福祉の発展と現行制度の体系：高齢者保健福祉制度の発展、高齢者保健福祉制度・施策の体系

[5回] 高齢者に関する法及び関連諸施策：老人福祉法、老人保健法、介護保険法、高齢者に対する関連諸施策

[6回] 高齢者に対する保健・医療・福祉サービス：要介護認定と介護支援サービス、介護保険制度による介護サービスの概要、介護保険制度以外の主なサービスの概要

[7回] 高齢者・家族に対する相談援助活動の実際：在宅事例、介護支援サービス事例

[8回] まとめ：高齢者保健福祉まとめのワーク

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

障害者福祉論[1142040]

科目名	障害者福祉論[1142040]
科目区分・科目種	保健福祉制度と生活
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	髙田　明子[非常勤講師]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前集中
曜日・時限	前期 月曜 4.0～4.0
	前期 月曜 5.0～5.0
教室	①中講義室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：『新・介護福祉士養成講座13障害の理解』第2版（中央法規出版社）2011

参考書：初回授業のオリエンテーションで提示

評価方法・評価割合

定期試験（持ち込み不可50%）、出席状況（受講態度　20%）、レポート（2回 30%）

授業の目的および到達目標

授業目標は、障がい者福祉と、障がい者への福祉サービスに関する知識を学び、看護師としてケア現場において活用できるようにすることである。
授業内容は、①障がいの概念と障がい者の実態②障がい者福祉の基本理念③障がい者福祉サービスの体系と内容④事例研究（看護を必要とする障がい児、身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、重複障がい者、高齢障がい者等）⑤障がい当事者から学ぶ（講演と質疑応答）の5点である。
授業形態は、講義を中心とするが、必要に応じてDVD学習・ゲストスピーカー・ミニレポート・グループ討論などを取り入れる。

テーマおよび内容

[1回] 障害者の実態とニーズ：1. オリエンテーション 2. 障害とは何か3. 障害者の実態と生活状況

[2回] 障害者福祉の概念と理念：1. 人権保障と権利擁護 2. 国際生活機能分類（ICF）3. ノーマライゼーション、リハビリテーションなど

[3回] 障害事例研究①：1. 障害当事者から学ぶ（ゲストスピーカー） 2. ミニレポート①

[4回] 障害者の法体系と障害種別の定義：1. 障害者の法体系 2. 障害者の法的定義と手帳制度

[5回] 障害事例研究②：1. 障害のある人の生活の理解（視覚障害、聴覚・言語障害、肢体不自由、内部障害）

[6回] 障害者自立支援法と福祉サービス：1. 障害者自立支援法 2. 障害者自立支援法による福祉サービス体系

[7回] 障害事例研究③：1. 障害のある人の生活の理解Ⅱ（知的障害精神障害、高次脳機能障害、発達障害）2. ミニレポート②

[8回] 障害者に関連する福祉サービス：1. 年金・手当等の経済支援 、就労・雇用支援、教育支援2. バリアフリー、情報保障、生きがい支援など3. 授業の振り返りとまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

精神保健福祉論[1142050]

科目名	精神保健福祉論[1142050]
科目区分・科目種	保健福祉制度と生活
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	大塚　ゆかり[非常勤講師]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前集中
曜日・時限	前期 木曜 4.0～4.0
教室	①403教室

受講条件・その注意

障害者のおかれている状況や権利擁護などについて、日ごろからニュースなどを通して情報を得、自分で考えてみましょう。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：特になし

参考書：特になし

適宜資料を配布する

評価方法・評価割合

定期試験（50%）、出席状況（30%）、レポート（ミニレポート　20%）、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

当該科目においては、精神に障害をもつ人々への医療と福祉両面からの支援を学ぶ。その基礎となる障害者福祉の理念と意義、人権等について学ぶ。現代社会における精神障害者の現状と自立支援法をはじめとする精神保健福祉施策や関連施策を学び、今後の在宅ケアに関するチームアプローチの重要性や住民との連携を基にした地域支援システムを考察する。また精神障害者に限らず、国民の精神保健福祉に関する予防や教育も視野に入れ、幅広い視点をもった看護、介護従事者を養成する。

テーマおよび内容

[1回] 障害者福祉の理念と意義：障害者の歴史 、障害者福祉の理念と意義

[2回] 障害および精神障害の概念：障害の概念、精神障害の概念

[3回] 精神保健福祉の歴史と理念：精神障害者福祉の歴史と理念の変化、精神保健福祉法と精神障害者

[4回] 障害者福祉の基本施策：障害者基本法、障害者プランの背景と動向、新障害者プランと障害者施策統合

[5回] 障害者サービス：障害者サービスと生活支援、精神障害者福祉の展望、精神障害者社会復帰施設のこれからと障福祉サービスの実際

[6回] 現代社会と精神障害：精神障害者の現状、家族の状況、精神障害者と地域社会、ノーマライゼーション、国際比較による我が国の精神障害者

[7回] 精神障害者の人権：精神障害者の権利擁護、精神科医療における権利擁護、地域社会における権利擁護

[8回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

子ども福祉論[1142060]

科目名	子ども福祉論[1142060]
科目区分・科目種	保健福祉制度と生活
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	千葉　喜久也[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前集中
曜日・時限	前期 月曜 5.0～5.0
教室	①中講義室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：最初の授業時に指示します。

参考書：必要に応じて授業の中で指示します。

評価方法・評価割合

定期試験（60%）、出席状況（20%）、レポート（20%）

授業の目的および到達目標

誰もが通ってきた子ども時代を振り返りながら、子どもの生活と福祉について学習する。豊かな社会といわれる中で、核家族化が進展し共働き家庭が一般化した。また離婚などの増加によって、一人親家庭が増加している。こうした状況は、直接的に子どもの生活に影響を及ぼすことになる。
本科目は、こうした子どもを取り巻く生活（社会現象）の背景に迫りながら、児童福祉の制度やしくみについて学習する。主な学習内容は、①子ども家庭福祉の発展　②子ども家庭福祉サービスの内容　④市町村と児童相談所の機能と役割　⑤児童虐待など。

テーマおよび内容

[1回] 現代社会と子ども福祉 ： 児童虐待の現状と虐待の定義

[2回] 子どもの権利と発達保障 ： 児童虐待と子どもの権利保障

[3回] 児童福祉の実施体制 ： 児童福祉行政の仕組みと役割

[4回] 児童相談所の機能と役割 ： 児童相談所の機能と役割。市町村との連携について

[5回] 児童福祉施設の機能と役割 ： 児童福祉施設の機能と役割

[6回] 少子化対策と子育て支援 ： 児童手当から子ども手当てへの転換

[7回] 子ども相談活動の実際 ： 相談援助活動の実際と援助の内容

[8回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

地域福祉論[1142070]

科目名	地域福祉論[1142070]
科目区分・科目種	保健福祉制度と生活
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	宮脇　文恵[非常勤講師]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後集中
曜日・時限	後期 月曜 3.0～3.0
教室	①304教室

受講条件・その注意
出席を重視します。

授業の形態
講義

教科書・参考文献
教科書：白澤政和編著『ストレングスモデルのケアマネジメント』(ミネルヴァ書房)

参考書：授業でその都度指示します。

評価方法・評価割合
レポート(学期末50%、授業内20%)、その他(授業への参加30%)

授業の目的および到達目標
福祉課題の解決や発生予防のための住民相互の連帯を促す地域福祉について、その現代的意義や、在宅福祉活動など地域福祉サービス提供の体系、推進方法を、ストレングスモデルを活用した事例検討を通して概観し、分析・考察する。特に、地域福祉計画や組織化をはじめとするシステム整備にとどまらず、施設における介護や看護との関連や、それらの地域生活への連続性の確保の可能性を前提にして、実際の地域福祉活動の具体的展開を検討し、生活を総合的にとらえ地域福祉活動を展開できる視点と技能をもつ人材の育成を図る。
患者や利用者の本来の生活が、病院や福祉施設の外にあることを認識でき、あるべき地域福祉活動の具体的な姿を描けることを目指す。

テーマおよび内容
[1 回] 地域福祉の概念：地域福祉の概念と考え方を学ぶ

[2 回] 地域福祉の歴史：地域福祉のこれまでの変遷を学び、今後のあり方を考察する

[3 回] 地域福祉の対象とサービス： 地域福祉サービスの対象者と様々な支援活動を学ぶ

[4 回] 地域福祉と社会資源：地域自立生活支援のための様々な社会資源について学ぶ

[5 回] 地域福祉の展開方法：地域福祉援助の1つのあり方として、コミュニティソーシャルワークを取り上げ、医療・保健・福祉のチームアプローチについて学ぶ

[6 回] 事例検討(1)～高齢者支援～：地域包括支援センターの機能と高齢者在宅福祉の実際を学ぶ

[7 回] 事例検討(2)～障害者支援～：重い障害があっても地域に暮らす支援の実際を学ぶ

[8 回] 事例検討(3)～児童家庭支援～：児童虐待の防止と子育て支援の実際を学ぶ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

居住環境支援論[1142080]

科目名	居住環境支援論[1142080]
科目区分・科目種	保健福祉制度と生活
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	児玉　桂子[非常勤講師]
	沼田　恭子[非常勤講師]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 2.0～2.0
教室	①304教室

受講条件・その注意

授業ではビデオなど視覚的な教材を使用してできるだけ分かりやすく行います。教科書に沿って進めますので、予習をして出席して下さい。

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書:『超高齢社会の福祉居住環境ー暮らしを支える住宅・施設・街の環境整備』 児玉桂子編(中央法規出版)2008

参考書:『施設から住まいへー高齢期の暮らしと環境』 井上由起子他(厚生科学研究所)
『PEAPにもとづく認知症ケアのための施設環境づくり実践マニュアル』 児玉他(中央法規)
『高齢者が自立できる住まいづくり』 児玉桂子他(彰国社),『認知症高齢者が安心できるケア環境づくり』 児玉桂子他(彰国社)

評価方法・評価割合

定期試験(60%)、レポート(リアクションペーパー40% :内容により3, 2, 1点)

授業の目的および到達目標

高齢者が自立してその人らしく暮らせるための居住環境の条件およびその環境整備方法や環境を生かした支援方法について学習する。具体的には、1)高齢者の在宅生活を支える住宅の条件と環境支援方法、2)少子高齢社会に対応した新たな住まいの種類と適正な選択、3)生活の継続性を大切にした施設の環境条件と環境支援方法、4)環境に関する体験学習を通じて、ケア環境のインテリアについて学ぶ。全体を通じて、どのように環境を整えることにより、高齢者の生活の幅が広がり、生活の質が向上するかに関する実践的な力をつけることを目的とする。

テーマおよび内容

[1 回] 超高齢社会における居住環境へのニーズ:高齢社会における居住環境の重要性と整備の方法性を理解する

[2 回] 高齢社会に対応した住まいづくり:高齢対応の住まいの仕様とその効果を事例を通して理解する

[3 回] 住宅内事故の防止と安全な住まいの工夫:住宅内事故の種類を学び、チェックリストを用いて安全な住まいづくりを行う

[4 回] 在宅生活における福祉用具の活用 :介護保険における福祉用具の種類と活用方法を理解する

[5 回] 住宅改修による住まいの整備:介護保険による住宅改修と対象者に対応した改修の内容と効果を理解する

[6 回] 認知症高齢者への住まいの工夫:身体的障害のみでなく、認知症高齢者にも住まいの工夫が有効であることを学ぶ

[7 回] 多様な高齢期の住まいについて:自宅以外にも多様な高齢期の住まいの選択が可能なことを学ぶ

[8 回] 新たな共生の住まい:仲間と住む住宅、コレクティブハウジングについて

[9 回] 特別養護老人ホームにおける環境の基本:個室化・ユニットケアを基本とする施設環境の基本を学ぶ

[10回] 認知症高齢者のグループホーム:家庭的なケアを行うグループホームのケアと環境について

[11回] 施設環境づくり支援プログラム:認知症高齢者が安心できる施設環境づくりと環境をケアに活かす方法について

[12回] 施設環境づくり実践とその効果:施設環境づくりの実践事例の紹介と環境づくりが高齢者や介護者におよぼす効果について

[13回] ケア環境のインテリアについて:ケア環境を構築する色彩・光・家具などのインテリアをいかに快適に整えるかを学び、さらに実際の環境の中で体験学習を行う

[14回] ケア環境の体験学習

[15回] 授業のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

看護学原論[1143010]

科目名	看護学原論[1143010]
科目区分・科目種	看護学の基盤
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	金井　一薫[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 2.0～2.0
教室	①306教室

受講条件・その注意

毎回課題を出すので、よく予習をすること.

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『看護覚え書』フローレンス・ナイチンゲール:湯槇ます　他(現代社)2011,『ナイチンゲール看護論・入門』金井一薫(現代社)1993.

参考書:『看護学概論-基礎看護学[1]系統看護学講座』(医学書院)2006,『新体系看護学.第10巻　看護学概論』(メヂカルフレンド社)2007

評価方法・評価割合

定期試験、レポート(内容の適切性)、その他(小テスト)

授業の目的および到達目標

　看護は実践の科学である。その実践を支える科学的思考を養い、どんな看護場面においても、看護であるものを思考し、かつ提供できるような頭作りをすることが、当該科目の目的である。看護学の構造は、目的論、対象論、方法論、疾病論から成りたっており、各々の領域についての学習を深め、実践の科学的礎えとする。特に看護の対象である"生活している人間"のとらえ方については、深い洞察ができるように導く。さらに他職種との連携のあり方、労働の場の問題を考え、近未来の看護職像を志向する。

テーマおよび内容

[1 回] 看護とは何か？:看護学原論の目的、看護学の体系・構造、三段重箱の発想、ライフサイクルの考え方

[2 回] 看護職が働く"場"と他職種の存在:看護職が働いている場を考え、連携している他の専門職の姿を知る

[3 回] 看護の創始者・ナイチンゲールについて:ナイチンゲールの生涯とその業績を知る

[4 回] 看護の歴史的展開:ナイチンゲール著『看護覚え書』の読み方と思想のポイント

[5 回] 看護原論(1):看護の目的論・看護とは何か

[6 回] 看護原論(2):看護の対象論・人間とは何か

[7 回] 看護原論(3):看護の対象論・患者とは何か

[8 回] 看護原論(4):看護の対象論の全体像

[9 回] 看護原論(5):生活過程とは何か

[10回] 看護原論(6):自然過程の要素について

[11回] 看護原論(7):看護の疾病論・病気とは何か

[12回] 看護原論(8):看護の健康論・健康とは何か

[13回] 看護原論(9):看護の観察論

[14回] 看護原論(10):看護の実践方法論(その1)

[15回] 看護原論(11):看護の実践方法論(その2)

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

ケアの原形論[1143020]

科目名	ケアの原形論[1143020]
科目区分・科目種	看護学の基盤
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	金井　一薫[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 4.0～4.0
教室	①306教室

受講条件・その注意

1. 教科書は必ず持参すること
2. 時間数が少ないので、欠席をしないように注意すること

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『ケアの原形論　新装版』 金井一薫(現代社)2004

参考書:その都度提示する

評価方法・評価割合

定期試験、レポート、その他(小テスト)

授業の目的および到達目標

当該科目においては、看護と福祉は歴史研究から同根の歴史を持つという視点に立ち、ケアの本質を明らかにする。特に、わが国で様々に現象している看護や福祉(介護)の姿から、今後のあり方やその展望を思考するに際しての本質論的なものの見方を教示し、両者が共有すべき思考の原点を探っていく。また看護職の歴史を紐解き、看護職が専門職として成立したその過程を、世界と日本とにおいて展望する。さらに看護の専門性や独自性について、特にわが国の法律制度史や教育制度史を通して考察する。

テーマおよび内容

[1回] ケアの原形論の骨子:「看護」と「介護」と「ケア」の関係とケア本来の意味について

[2回] 歴史の中で看護の発展を考える(その1):看護史の目標、一般史の見方と考え方、看護と医療の発展過程

[3回] 歴史の中で看護の発展を考える(その2):ナイチンゲールを生み出した歴史的背景、近代ケア論の出発点－対象論と援助論の方向軸

[4回] 日本における看護の発展を考える(その1):看護と宗教の関係を考える、日本における看護の発展史

[5回] 日本における看護の発展を考える(その2):近代教育の開始－ナイチンゲール方式の教育の概要、現代日本看護史

[6回] 日本における看護の発展を考える(その3):現代看護の現状と課題、最近の看護教育をめぐる動静から

[7回] 諸外国における現代の看護事情とわが国の特長

[8回] 歴史に残る人物を探そう！

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

看護の疾病論[1143030]

科目名	看護の疾病論[1143030]
科目区分・科目種	看護学の基盤
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	金井　一薫[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後集中
曜日・時限	後期 月曜 2.0～2.0
教室	①304教室

受講条件・その注意

「課題レポート」を仕上げるためには、看護の視点をはっきりと把握する必要があるので、とりわけ授業内容の理解には、充分にエネルギーを注いでほしい。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：特に定めない。

参考書：その都度、資料を提供すると共に、参考文献を提示する。

評価方法・評価割合

レポート

授業の目的および到達目標

当該科目は、病気や症状に苦しむ人々へのケアを、真に看護ケアで癒すための視点について学ぶことを目的とする。看護の独自の機能を実現するために、人体の構造や機能学などの専門基礎科目の知識を応用し、看護の視点で病気や症状をみつめるための思考のプロセスを提示し、専門的な思考力を養う。数例を使って具体的な展開法を紹介する。

テーマおよび内容

[1回] 看護の疾病論総論 ： 看護の視点で病気をみつめるための思考過程 1. 人体が用意している回復のシステムをみつめる　2. 特徴的な病理現象を知る
生命のしくみ ： 生命の最小単位・細胞とDNA　DNAからタンパク質を造る

[2回] 脳疾患を看護の視点でとらえる① ： 脳の回復のメカニズムと生活の処方箋

[3回] 脳疾患を看護の視点でとらえる② ： 認知症を看護の視点でとらえる、認知症の生活の処方箋を考える

[4回] 胃潰瘍を看護の視点でとらえる ： 胃潰瘍の回復のメカニズムと生活の処方箋

[5回] 心臓病を看護の視点でとらえる ： 心臓のしくみと、回復のメカニズムと生活の処方箋

[6回] 免疫疾患を看護の視点でとらえる ： 免疫のしくみと生活の処方箋

[7回] 大腸がんを看護の視点でとらえる ： 腸の特徴と、がん発生のメカニズムと生活の処方箋

[8回] 肝硬変を看護の視点でとらえる ： 肝臓の特徴と、回復のメカニズムと生活の処方箋

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

家族看護論[1143040]

科目名	家族看護論[1143040]
科目区分・科目種	看護学の基盤
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	小林　奈美[非常勤講師]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前集中
教室	①403教室

受講条件・その注意

グループワークで行う課題もあるので休まないように受講すること。課外レポートにもきちんと取り組むこと。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『グループワークで学ぶ家族看護論 第2版』 小林奈美著(医歯薬出版)2011

参考書:『実践力を高める家族アセスメント Part Ⅰ』 小林奈美著(医歯薬出版)2009

評価方法・評価割合

レポート(20%)、授業中の課題(課題発表70%)、その他(授業態度10%)

授業の目的および到達目標

健康と病が家族に及ぼす影響を理解し、それを考慮した看護ケアの応用力を身につけることを目的に講義を行う。国内外における主要な家族看護モデルを概観するとともに、家族アセスメント、家族支援のポイントを教授する。また、家族アセスメントの中でも、とくにジェノグラム・エコマップを利用した構造・発達・機能のアセスメント能力を高めるため、講義のみならずグループワーク等の学生主体の学習方法を取り入れ、病と家族の苦悩の関係を具体的に考える力を養う。

テーマおよび内容

[1回] 家族看護学概論 : 家族看護学を学習する目的を説明し、家族とは何か？病と家族との関係について教授する。

[2回] 家族看護モデルと諸理論 : 家族看護学における代表的なモデル、諸理論について教授する。

[3回] カルガリー式家族アセスメントモデル① : カルガリー式家族アセスメントモデルについて教授する。

[4回] カルガリー式家族アセスメントモデル① : グループワークを通してジェノグラム・エコマップの描き方を学習する。

[5回] カルガリー式家族介入モデル② : カルガリー式家族介入モデルについて教授する。

[6回] 家族の苦悩と家族アセスメント① : 家族劇の作成をとおして家族の苦悩と家族アセスメントについて学習する。

[7回] 家族の苦悩と家族アセスメント② : 家族劇の作成をとおして家族の苦悩と家族アセスメントについて学習する。

[8回] 発表 : 作成した家族劇の発表、意見交換をとおして家族の看護支援について学習する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.

生活援助論I(基本)[1143050]

科目名	生活援助論I(基本)[1143050]
科目区分・科目種	看護学の基盤
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	平田　美和[看護学部 看護学科]
	金井Pak　雅子[看護学部 看護学科]
	沼田　恭子[非常勤講師]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	前不定期
教室	①基礎・成人実習室

受講条件・その注意

出席を重視する(20分以上の遅刻早退は欠席扱いとする)。
詳細は初回オリエンテーション時に説明する。

授業の形態

演習(オムニバス)

教科書・参考文献

教科書:『基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学[2]　専門分野1系統看護学講座』茂野香おる(医学書院)2011
『基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学[3] 専門分野1系統看護学講座』藤崎郁(医学書院)2009
『看護技術ベーシックス改訂版』藤野彰子他監修(医学芸術社)2009

参考書:授業中に提示する。

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

当該科目は、生活援助論の基本となる科目である。人間にとって生活とは何かを考え、看護の対象となる人の生活過程を整えるための看護技術の概念を理解し、日本人の暮らし方の基本的考え方や居住環境のあり方を学習する。

(金井Pak　雅子・平田　美和／10回)看護は生活者への援助が基本となる。本科目では、生活者について、グローバルな視点で分析・理解することを養う。具体的には、生活の基本となる価値観や信条について、その基盤となるものを人々の暮らしの中から探索し意味づけをする。分析の対象は、日本人のみならずさまざまな人種や背景を有する人々について、既成概念を持つことなく幅広い視野に立つことの意味を、演習形式の授業を通して教授する。また、生活の基本的要素である環境について考え、病室のあり方の基本を学習させる。さらに「清潔・不潔」の概念と実際について学ぶ場とし、「感染予防」についての基礎知識を教授する。

(沼田　恭子／5回)障害をもつ人々や高齢者が生きる意欲を増し、安心感を得て満足して暮らすためには、優れた環境要因が必要である。人の特性(身体寸法、形状)、行動、五感(感性)や、生活空間・環境を知り、それを活用するインテリアデザインの手法をとおして、当たり前に暮らすための基本条件を教授する。

テーマおよび内容

(平田・金井Pak)

[1 回] オリエンテーション

[2 回] 生活援助とは

(沼田)

[3 回] 居住環境①空間のかたちと広がり

[4 回] 居住環境②光の環境(自然の光)

[5 回] 居住環境③光の環境(照明の光)

[6 回] 居住環境④色彩Ⅰ

[7 回] 居住環境⑤色彩Ⅱ

(平田・金井Pak)

[8 回] 感染予防①

[9 回] 感染予防②手洗い/手指消毒

[10回] 病床環境①

[11回] 病床環境②

[12回] 病床環境③ベッドメイキング

[13回] 病床環境④

[14回] システム論①

[15回] システム論②

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

生活援助論II(呼吸・移動・睡眠)[1143060]

科目名	生活援助論II(呼吸・移動・睡眠)[1143060]
科目区分・科目種	看護学の基盤
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	平田　美和[看護学部 看護学科]
	金井　一薫[看護学部 看護学科]
	相田　京子[看護学部 看護学科]
	中村　充浩[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 金曜 2.0～2.0
教室	①基礎・成人実習室

受講条件・その注意

出席を重視する(20分以上の遅刻早退は欠席扱いとする)。
詳細は初回オリエンテーション時に説明する。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:『基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学[2]　専門分野1系統看護学講座』茂野香おる(医学書院)2011
『基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学[3] 専門分野1系統看護学講座』藤崎郁(医学書院)2009
『看護技術ベーシックス改訂版』藤野彰子他監修(医学芸術社)2009

参考書:授業中に提示する。

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

当該科目は、生活過程の諸要素の中で「呼吸」「動く」「眠る」という項目に焦点を当て、これらの動作を自ら営めなくなった人々に対する基本的な援助方法を学習する。呼吸器系、循環系、骨・筋肉系、脳神経系、内分泌系のしくみと働きを理解し、バイオメカニクスの基本を基盤として、看護をしていくために必要な科学的根拠を明確にし、具体的な援助技術を修得する。

テーマおよび内容

[1 回] 呼吸①「呼吸するを看護で解く」 呼吸器系／循環器系のしくみと働き

[2 回] 呼吸②体温測定／呼吸測定／脈拍測定

[3 回] 呼吸③体温測定／呼吸測定／脈拍測定

[4 回] 呼吸④血圧測定

[5 回] 呼吸⑤血圧測定

[6 回] 呼吸⑥血圧測定

[7 回] 眠る「眠るを看護で解く」 脳神経系／内分泌系のしくみと働き

[8 回] 動く①「動くを看護で解く」 骨・筋肉系のしくみと働き

[9 回] 動く②体位保持

[10回] 動く③体位変換

[11回] 動く④体位変換

[12回] 動く⑤体位変換

[13回] 動く⑥移乗と移送　車椅子／ストレッチャー

[14回] 動く⑦移乗と移送　車椅子／ストレッチャー

[15回] 動く⑧移乗と移送　車椅子／ストレッチャー

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

生活援助論III(食事・排泄)[1143070]

科目名	生活援助論III(食事・排泄)[1143070]
科目区分・科目種	看護学の基盤
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	平田　美和[看護学部 看護学科]
	金井　一薫[看護学部 看護学科]
	相田　京子[看護学部 看護学科]
	中村　充浩[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 金曜 3.0～3.0
教室	①基礎・成人実習室

受講条件・その注意

出席を重視する(20分以上の遅刻早退は欠席扱いとする)。
詳細は初回オリエンテーション時に説明する。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:『基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学[2]　専門分野1系統看護学講座』茂野香おる(医学書院)2011
『基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学[3] 専門分野1系統看護学講座』藤崎郁(医学書院)2009
『看護技術ベーシックス改訂版』藤野彰子他監修(医学芸術社)2009

参考書:授業中に提示する。

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他(授業態度)

授業の目的および到達目標

当該科目は、生活過程の諸要素の中で「食事」「排泄」という項目に焦点を当て、これらの動作を自ら営めなくなった人々に対する基本的な援助方法を学習する。消化器系、泌尿器系のしくみと働きを十分に理解し、援助行為の科学的根拠を明らかにしたうえで、もてる力・健康な力を活用し高める援助方向を目指して、具体的な援助技術を修得する。

テーマおよび内容

[1 回] 食事①「食べるを看護で解く」 消化器系のしくみと働き

[2 回] 食事②食事介助

[3 回] 食事③食事介助

[4 回] 食事④口腔ケア／経管栄養

[5 回] 食事⑤口腔ケア／経管栄養

[6 回] 食事⑥口腔ケア／経管栄養

[7 回] 排泄①「排泄するを看護で解く」 泌尿器系のしくみと働き

[8 回] 排泄②浣腸／摘便

[9 回] 排泄③浣腸／摘便

[10回] 排泄④床上排泄／ポータブルトイレ介助

[11回] 排泄⑤床上排泄／ポータブルトイレ介助

[12回] 排泄⑥床上排泄／ポータブルトイレ介助

[13回] 排泄⑦オムツ交換／陰部洗浄

[14回] 排泄⑧オムツ交換／陰部洗浄

[15回] 排泄⑨オムツ交換／陰部洗浄

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

生活援助論IV（衣・清潔・性）[1143080]

科目名	生活援助論IV（衣・清潔・性）[1143080]
科目区分・科目種	看護学の基盤
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	平田　美和[看護学部 看護学科]
	相田　京子[看護学部 看護学科]
	中村　充浩[看護学部 看護学科]
	前田　樹海[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後期
曜日・時限	後期 金曜 4.0～4.0
教室	①基礎・成人実習室

受講条件・その注意

出席を重視する（20分以上の遅刻早退は欠席扱いとする）。
詳細は初回オリエンテーション時に説明する。

授業の形態

演習（共同）

教科書・参考文献

教科書：『基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学[2]　専門分野1系統看護学講座』茂野香おる（医学書院）2011
『基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学[3] 専門分野1系統看護学講座』藤崎郁（医学書院）2009
『看護技術ベーシックス改訂版』藤野彰子他監修（医学芸術社）2009

参考書：授業中に提示する。

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他（授業態度）

授業の目的および到達目標

当該科目は、生活過程の諸要素の中で「身体の清潔」「着脱」「身だしなみ」「性」という項目に焦点を当て、これらの動作を自ら営めなくなった人々に対する基本的な援助方法を学習する。これらの項目は、特に文化とのかかわりが大きいという特徴を踏まえたうえで、看護をしていくために必要な感覚器系、生殖系のしくみと働きを理解し、援助の科学的根拠について学び、講義・演習を通じて実践ができる基本を習得する。

テーマおよび内容

[1回] 着脱①寝衣交換

[2回] 着脱②寝衣交換

[3回] 着脱③寝衣交換

[4回] 身体の清潔①「身体の清潔を看護で解く」 感覚器系のしくみと働き

[5回] 身体の清潔②清拭

[6回] 身体の清潔③清拭

[7回] 身体の清潔④足浴／手浴／爪切り

[8回] 身体の清潔⑤足浴／手浴／爪切り

[9回] 身体の清潔⑥足浴／手浴／爪切り

[10回] 身体の清潔⑦洗髪

[11回] 身体の清潔⑧洗髪

[12回] 身体の清潔⑨洗髪

[13回] 身だしなみ①

[14回] 身だしなみ②

[15回] 性　生殖系のしくみと働き

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

コミュニケーション論[1143090]

科目名	コミュニケーション論[1143090]
科目区分・科目種	看護学の基盤
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	木村　登紀子[非常勤講師]
	綱　きみ子[非常勤講師]
	大塚　ゆかり[非常勤講師]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 3.0～3.0
教室	①403教室

授業の形態

演習(オムニバス)

教科書・参考文献

教科書:特になし。必要に応じて資料を用意。

参考書:『回想法とライフレヴュー』 野村豊子著(中央法規),『回想法ハンドブック』 回想法・ライフレヴュー研究会編(中央法規)

評価方法・評価割合

出席状況、その他(授業への参加態度等)

授業の目的および到達目標

看護は人と人をつなぐ実践である。自らの人となりが他者へ及ぼす影響は計り知れない。当該科目においては、自己覚知を促し、他者を思いやる心を育てる技法について学ぶ。

(木村登紀子／5回)グループホームケアにおける相互人間関係の特性である“響き合い”という概念を理解し、人とのつながりの技法のあり方を学ぶ。

(綱きみ子／5回)高齢者、とりわけ認知症高齢者のケア実践に効果的とされる「回想法」の成り立ちと実践上の応用過程について学ぶ。

(大塚ゆかり／5回)受容・共感という概念を“ピアカウンセリング”手法を通して具体的に学ぶ。

テーマおよび内容

(木村登紀子)

[1 回] ケアとコミュニケーション:ケアとは何かを事例をもとに確認し、ケアされる者とする者を介在するコミュニケーションについて理解する。

[2回] 身体のことばとコミュニケーション:ケアにおけるコミュニケーションのなかで、間身体的なコミュニケーションを取り上げ、体験を通して考察する。

[3 回] 病床ケアとコミュニケーションⅠ:病者の心理的な特徴とケアのあり方の基本について学び、そのような場合のコミュニケーションのあり方を、受講生同士による模擬体験を通して修得する。

[4 回] 病床ケアとコミュニケーションⅡ:病床の各時期における心理的な特徴を踏まえ、ベッドサイドでの心のケアの在り方について、基本となる実践の技を相互に体験的に学ぶ。

[5 回] 病床のケア・ケアカウンセリング:受講生相互にケア・カウンセリングの基本的な方法を実践し、シェアリングする。

(綱きみ子)

[6 回] 回想法の理論と方法Ⅰ

[7 回] 回想法の理論と方法Ⅱ

[8 回] 回想法の実際(各機関の実践)Ⅰ

[9 回] 回想法の実際(各機関の実践)Ⅱ

[10回] 回想法の実践(演習)

認知症高齢者への回想法の実施には、次第に減少する<対人相互作用における効果>をはじめ日々につのる不安感へ良性の影響を及ぼす<情動・行動にお

ける効果＞が期待されます。回想法に見るその効果の構成を認知症高齢者へのコミニュケーションとして応用することで、実際のケア場面でケア職の技法の一つとされています。その回想法の成り立ちとともに各機関での実践の事例を学び応用範囲の広がりを理解します。同時に、自身の技法とするためのリーダーの資質や道具など、準備するべき事柄についても学んでいきます

（大塚ゆかり）

［11回］ ピアカウンセリング ：ピアカウンセリングのオリエンテーション

［12回］ ピアカウンセリング演習：信頼関係づくりの基礎Ⅰ

［13回］ ピアカウンセリング演習：信頼関係づくりの基礎Ⅱ

［14回］ ピアカウンセリング演習：信頼関係づくりの基礎Ⅲ

［15回］ 相互支援活動：相互支援活動の実際、分かち合い

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

看護過程論[1143100]

科目名	看護過程論[1143100]
科目区分・科目種	看護学の基盤
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	金井　一薫[看護学部 看護学科]
	林　さとみ[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 3.0～3.0
教室	①304教室

受講条件・その注意

金井一薫の授業では、資料はその都度配布する。

授業の形態

演習(オムニバス)

教科書・参考文献

教科書:『基本から見直す看護診断』 第1版第2刷　上鶴重美著(医学芸術社)
『NANDAーI　看護診断　定義と分類』 T. ヘザーハードマン、T. Heather Herdman著、中木高夫訳、日本看護診断学会(医学書院)

参考書:『これなら使える看護介入　厳選47 NANDAー Ｉ　看護診断ラベルへの看護介入』江川隆子編集(医学書院)2009年
『アセスメント覚え書　ゴードン機能的健康パターンと看護診断』マージョリー・ゴードン著、上鶴重美訳(医学書院)2009年
『看護過程に沿った対症看護　病態生理と看護のポイント　第4版』 高木永子監修(学研)2010

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他(授業への参加態度、GWや事例作成の結果)

授業の目的および到達目標

「看護過程展開」の看護実践に占める位置づけを明らかにし、「看護過程展開」の道筋を提示する。特に「観察」と「アセスメント」の重要性を認識しつつ、実践・評価のプロセスまでを教授する。

(金井　一薫／3回)看護過程とは何か、看護過程の看護実践における意義について、特にケアの実践方法論や看護理論とつなげて教授する。

(林　さとみ／6回)看護過程展開にとって不可欠な「看護診断」について概説し、看護診断の活用法や実際について教授する。

(金井　一薫／6回)看護過程展開について、情報収集の仕方からアセスメント、さらに具体的なケアプランの導き方など、活用の具体的方法について、事例や視覚教材を用いて教授し、一連の看護過程展開が理解できるようにする。また看護記録の書き方、他職種との連携に活用するための方法や思考過程について教授する。

テーマおよび内容

(金井一薫)

[1 回] 看護過程とは:看護過程展開の道筋、実践理論とのつながり

[2 回] 情報収集とアセスメント①

[3 回] 情報収集とアセスメント②

[4 回] 全体像の把握(関連図)、看護問題の抽出

[5 回] 看護計画立案

[6 回] 看護の実施、評価

[7 回] 事例展開演習①

[8 回] 事例展開演習②

[9 回] 事例展開演習③

(林さとみ)

[10回] 看護診断とは(看護診断の基盤、視点、範囲、目的)

[11回] 看護診断とは(看護診断の構成)

[12回] 看護過程における看護診断の意義と診断プロセス

[13回] 各看護診断の詳細

[14回] 看護診断の活用法とその実際　事例を用いて(看護診断の選出と看護介入の計画)GW

[15回] 看護診断の活用法とその実際　まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

フィジカルアセスメント[1143110]

科目名	フィジカルアセスメント[1143110]
科目区分・科目種	看護学の基盤
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	髙橋　正子[看護学部 看護学科]
	林　さとみ[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 1.0～1.0
教室	①基礎・成人実習室

受講条件・その注意

30分以上の遅刻は欠席とみなす。事前・事後の自主的学習を期待する。
授業中提示する視聴覚教材を活用すること。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:『成人看護学　ヘルスアセスメント』 横山美樹、石川ふみよ著　6刷(ヌーヴェルヒロカワ)2010
『ナーシング・グラフィカ17　基礎看護学ーヘルスアセスメント』川村佐和子、志自岐康子、城生弘美著　第2版(メディカ出版)2010　付属CD

参考書:『フィジカルアセスメント完全ガイド』 藤崎郁著　第18刷(学習研究社)2008
『フィジカルアセスメントガイドブック　目と手と耳でここまでわかる』山内豊明著　第1版第8刷(医学書院)2009

評価方法・評価割合

出席状況、その他(参加態度、実技試験、小テスト結果、ケーススタディレポート)

授業の目的および到達目標

当該科目は、看護の対象者の生命の維持あるいは健康の回復過程、健康の維持過程において、看護の対象者の健康逸脱状態の科学的分析に基づいた専門的看護判断を明らかにする看護過程を理解し、看護の対象者の生命の維持あるいは健康の回復過程、健康の維持過程を促進し、顕在・潜在する生命力を促進する援助を明らかにし、実践するための基本的な分析的思考能力を習得することを目的とする。特に演習を通じて基本的な分析的思考能力が適用できることをめざす。

テーマおよび内容

[1 回] 導入、フィジカルアセスメントとは何か

[2 回] 一般状態、身体計測、記録方法の実際

[3 回] 頭部、毛髪、顔面(鼻、耳、眼、口腔)、頸部(甲状腺を含む)、皮膚、爪、循環状態のアセスメントの実際

[4 回] 頭部、毛髪、顔面(鼻、耳、眼、口腔)、頸部(甲状腺を含む)、皮膚、爪、循環状態のアセスメント演習

[5 回] 胸部(肺・呼吸器、心臓・血管系、ただし乳房は除く)、腹部のアセスメントの実際

[6 回] 胸部(肺・呼吸器、心臓・血管系、ただし乳房は除く)、腹部のアセスメント演習

[7 回] 四肢、筋、骨格、神経系のアセスメントの実際

[8 回] 四肢、筋、骨格、神経系のアセスメント演習

[9 回] 小児、母性、老人看護におけるフィジカルアセスメント

[10回] 小児、母性、老人看護におけるフィジカルアセスメント

[11回] フィジカルアセスメント演習(診察技術、記録のしかた)

[12回] フィジカルアセスメント演習(診察技術、記録のしかた)

[13回] フィジカルアセスメント演習(情報のアセスメント、統合)

[14回] フィジカルアセスメント演習(情報のアセスメント、統合)

[15回] フィジカルアセスメント演習（まとめ、実技試験オリエンテーション）

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

治療へのケア[1143120]

科目名	治療へのケア[1143120]
科目区分・科目種	看護学の基盤
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	林　さとみ[看護学部 看護学科]
	平田　美和[看護学部 看護学科]
	高畠　有理子[看護学部 看護学科]
	中村　充浩[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 2.0～2.0
教室	①基礎・成人実習室

受講条件・その注意

看護実践技術を習得する科目で、事前・事後の自主的学習を期待する。
30分以上の遅刻は欠席とみなす。
授業中提示する視聴覚教材を活用すること。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:『系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学[3]　基礎看護技術Ⅱ』藤崎郁著　第15版1刷(医学書院)2009

参考書:『ナーシンググラフィカ18　基礎看護学ー基礎看護技術』志自岐康子、松尾ミヨ子、習田明裕、金壽子編集　3刷(メディカ出版)2010
『看護技術ベーシックス　改訂版』 第2版第4刷(医学芸術新社)2009
『写真で分かる臨床看護技術』 改訂第2版(インターメディカ出版)
『写真で分かる基礎看護技術　1』 (インターメディカ出版)

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他(参加態度、技術到達チェックリスト)

授業の目的および到達目標

当該科目は、検査・診断などの治療過程にある患者を援助する基本的な方法を学習する。検査時の看護、薬物治療時の看護、酸素療法時の看護、包帯法、死後の処置等の看護を実践していくために必要な基本的知識と技術を理解し習得することを目的とする。また、治療過程にある患者の生活を理解し、検査や治療による生活の不自由さに視点を置いた看護を実践できる能力を養い、治療過程にある患者の日常生活援助を実践できる能力を習得する。

テーマおよび内容

[1 回] 導入、治療へのケアを受ける対象の理解

[2 回] モジュール1: 死の看取りの技術

[3 回] モジュール2: 滅菌操作、無菌操作、包帯交換、ドレナージの管理とその技術

[4 回] モジュール2: 演習

[5 回] モジュール3: 導尿、留置尿路カテーテルの管理とその技術

[6 回] モジュール3: 演習

[7 回] モジュール4: 採血の技術

[8 回] モジュール4: 演習

[9 回] モジュール5:薬物治療時の看護1:与薬の技術ー基本的技術、経口薬与薬法、外用薬与薬法

[10回] モジュール5薬物治療時の看護1:演習

[11回] モジュール6:薬物治療時の看護2:与薬の技術-筋肉注射法、皮下注射法

[12回] モジュール6：薬物治療時の看護2：演習

[13回] モジュール7：薬物治療時の看護3：与薬の技術-静脈注射法、持続点滴法、輸液ポンプの管理

[14回] モジュール7：薬物治療時の看護3：演習

[15回] モジュール8：酸素療法の管理とその技術、演習

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

生命医療倫理学[1143130]

科目名	生命医療倫理学[1143130]
科目区分・科目種	看護学の基盤
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	東郷　俊宏[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後集中
教室	①304教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：特に指定しない

参考書：講義の際に必要なプリントを配布する

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート

授業の目的および到達目標

本科目では、バイオエシックスについての基本的な考え方について学習する。特に医療倫理の歴史的発展、代表的な倫理綱領、具体的な倫理的行為、インフォームドコンセント、QOLの考え方等について学習する。また、現代の医療においては、遺伝子技術を駆使した再生医療をはじめ、出生前診断、生殖医療、臓器移植、臨床試験における倫理問題など、医療者の倫理問題が大きくクローズアップされていることを受けて、各テーマごとに実際の事例を取り上げ、医療従事者、患者、マスコミがそれぞれの立場からどのような言説を展開しているかを比較検討し、将来の医療のなかで求められる倫理とは何かを考える。

テーマおよび内容

[1回] Introduction：様々な倫理綱領・Informed Consent・守秘義務

[2回] 各論（1）：ナチスの健康政策と人体実験

[3回] 各論（2）：ニュールンベルク綱領

[4回] 各論（3）：ヘルシンキ宣言と人体を用いた研究について

[5回] 各論（4）：生殖医療について

[6回] 各論（5）：ハンセン病患者隔離の歴史（1）

[7回] 各論（6）：ハンセン病患者隔離の歴史（2）

[8回] 各論（7）：患者と医師の物語（Narrative）について

総括：講義のまとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

リスクマネジメント[1143140]

科目名	リスクマネジメント[1143140]
科目区分・科目種	看護学の基盤
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	金井Pak　雅子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前集中
曜日・時限	前期 月曜 2.0～2.0
教室	①305教室

受講条件・その注意

授業には、必ず指定された教科書の章及び文献を読んでから臨んでください。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：Nursing Graphicus EX　医療安全 メディカ出版　2009年

参考書：授業にて提示します

評価方法・評価割合

出席状況（30%）、レポート（50%）、授業中の課題（20%）

授業の目的および到達目標

当該科目は、リスクの基本的概念を概説し、リスクマネジメントの理論について理解を深め、医療職としての役割について探求する。さらに、リスクマネジメントの中でも医療従事者として対象者の安全に関する事項、リスクの回避に関する事項についても学習する。看護のみならずチームとしてリスクを回避する方法論について、事例を通して学習する。さまざまなインシデントレポートを分析することにより、看護実践におけるリスクについて理解する。

テーマおよび内容

[1回] オリエンテーション　：リスクの概念、医療安全と看護の責務

[2回] 医療安全 ： 医療安全に関する国家的取り組み、医療の質評価

[3回] 事故発生のメカニズム ：ヒューマンエラーとは、根本原因分析

[4回] 安全対策 ： 国の取り組み、組織の取り組み

[5回] 医療事故後の対応 ： 初期対応、看護職賠償責任保険制度

[6回] インシデントレポート ： インシデントレポートの書き方

[7回] 業務上の危険 ： 看護における業務上の危険と危険回避策

[8回] 災害看護 ： 災害看護とは、トリアージとは、災害時の看護の役割

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

導入基礎実習[1143150]

科目名	導入基礎実習[1143150]
科目区分・科目種	看護学の基盤
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	金井Pak　雅子[看護学部 看護学科]
	髙橋　正子[看護学部 看護学科]
	梶原　祥子[看護学部 看護学科]
	川上　嘉明[看護学部 看護学科]
	河内　しのぶ[看護学部 看護学科]
	山本　かほる[看護学部 看護学科]
	伊豆上　智子[看護学部 看護学科]
	高畠　有理子[看護学部 看護学科]
	高橋　雪子[看護学部 看護学科]
	北島　泰子[看護学部 看護学科]
	中村　充浩[看護学部 看護学科]
	家吉　望み[看護学部 看護学科]
	大沼　幸子[看護学部 看護学科]
	吉川　悦子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	1 年
学期	後不定期
教室	①別途連絡

受講条件・その注意

本科目は、実習のため出席日数が重視されます。やむを得ず欠席の場合には、すみやかに担当教員に連絡してください。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書:特になし

参考書:特になし

評価方法・評価割合

出席状況、レポート、その他(実習態度、実習記録)

授業の目的および到達目標

当該科目は、学生が実践の科学である看護学を学ぶ上で、健康問題を抱えた個人・集団が地域におけるどのような医療機関においてサービスを提供されるのか理解するとともに、医療機関においてはどのようなヘルスケアチームがどのように連携して医療サービスを提供しているのかを理解する。具体的には、医療機関におけるさまざまな部署において、それらの部署の役割と機能、看護との連携についてシステム論を基本に学習する。さらに生活問題や健康問題を抱えた個人・集団が、地域のなかでどのように福祉サービスを提供されているのかを実習により理解をする。そこでは、どのようなヘルスケアチームがどのように連携して介護・医療サービス等を提供しているのか、またさまざまな部署の役割と機能、介護・看護の連携の具体的なあり方についてシステム論の考え方を基本にして学習する。

テーマおよび内容

前学期終了時に事前オリエンテーションを実施する(日程は後日提示)。

実習方法

1)3～4名の学生を1グループとし、実習施設をローテーションにて実習を行う。

2)見学実習を中心とし、可能であれば職員とともにケアや活動に参加する。

3）保健・医療・福祉の対象者や専門職との関わりを大切にし、コミュニケーションの機会を多くもつ。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

基礎看護学実習[1143160]

科目名	基礎看護学実習[1143160]
科目区分・科目種	看護学の基盤
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	平田　美和[看護学部 看護学科]
	金井　一薫[看護学部 看護学科]
	金井Pak　雅子[看護学部 看護学科]
	髙橋　正子[看護学部 看護学科]
	高畠　有理子[看護学部 看護学科]
	高橋　雪子[看護学部 看護学科]
	相田　京子[看護学部 看護学科]
	中村　充浩[看護学部 看護学科]
	梶原　祥子[看護学部 看護学科]
	河内　しのぶ[看護学部 看護学科]
	伊豆上　智子[看護学部 看護学科]
	北島　泰子[看護学部 看護学科]
	家吉　望み[看護学部 看護学科]
	大沼　幸子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前不定期
教室	①別途連絡

受講条件・その注意

本科目は、出席日数が重要視されるので、体調管理には充分に注意すること。
詳細は、前学期定期試験終了後の実習オリエンテーション時に説明する。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書:特になし

参考書:実習オリエンテーション時に提示する。

評価方法・評価割合

出席状況、レポート、その他(授業態度、実習記録)

授業の目的および到達目標

これまで、学習してきた知識と技術を実践の場において統合し、看護の対象となる対象者との関わりを通して、健康障害をもつ対象を理解する。疾病や障害によって生じた生活の不自由さを理解し、特に基本的な日常生活援助である「食事」「排泄」「身体の清潔」について、対象者に必要な看護援助を考え、看護師とともに実践する。一人の対象者との関わりを深め、対象者の情報収集、アセスメントをすることで、看護過程実践の基礎を習得する。

テーマおよび内容

基礎看護学実習は、以下の要領で行なう。

1. 実習施設:東京大学医学部附属病院

2. 実習期間:平成23年9月5日(月)～9月29日(金)

1クール:平成23年9月5日(月)～9月15日(木)

2クール:平成23年9月16日(金)～9月29日(木)　※9月23日(祝)は実習日とする。

3. 実習方法

1）実習は、原則として1病棟に4～5名の学生が配置される。

2）1～2名の患者を受け持ち、基礎的な看護過程を展開する。

3）臨床指導者および教員とともに、看護過程展開に基づいた日常生活援助を実践する。

※詳細は実習要項を参照のこと

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

成人看護学概論I(急性期)[1144010]

科目名	成人看護学概論I(急性期)[1144010]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	林　さとみ[看護学部 看護学科]
	伊豆上　智子[看護学部 看護学科]
	北島　泰子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 1.0～1.0
教室	①305教室

受講条件・その注意

事前・事後の自主的学習
関連する既習科目、同時進行科目における学習内容と当該科目における学習内容を統合し、自己の課題を明確にして主体的に学習に臨む

授業の形態

講義(共同)

教科書・参考文献

教科書:浦部晶夫、島田和幸、川合眞一編集 「今日の治療薬　2010　解説と便覧」 南江堂　2010
高久史麿監修 「臨床検査データブック　2009-2010」 医学書院　2009

参考書:雄西智恵美、秋元典子編集 「周手術期看護論」第2版　NOUVELLE HIROKAWA　2009
池松裕子、山勢善江編集 「急性期看護論」 NOUVELLE HIROKAWA　初版3刷
山勢善江編集 「救急看護論」 NOUVELLE HIROKAWA　初版3刷
大久保明之・井上智子著 「わかる！検査値とケアのポイント」 医学書院　2009
河合忠・屋形稔・伊藤喜久著 「異常値の出るメカニズム」 医学書院　2010
鎌倉やよい・深田順子著 「周術期の臨床判断を磨く　手術侵襲と生体反応から導く看護」 医学書院　2010

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他(参加態度)

授業の目的および到達目標

当該科目は看護の対象に含まれる発達段階における成人期にある個人・家族に焦点を当て、人体の構造と機能、臨床疾患学、さらには人間を取り巻く社会のあり方の理解を適用し、急性期の健康逸脱状態にある人にとって必要な看護を、講義を通して修得することを目的とする。ハイリスク状態にある人にとって、どのような看護実践が望まれるのか、倫理的配慮や保健医療政策の動向を視野にいれ、個人・家族の健康認識を重視し、ニーズに対処する視点で見る対象論と看護援助論を教授する。

テーマおよび内容

[1回] 導入

[2回] 成人期にある対象者の急性期の健康逸脱状態・健康上の問題点の特徴と看護の役割

[3回] 成人急性期看護の基礎となる看護の理論的枠組み　その1

[4回] 成人急性期看護の基礎となる看護の理論的枠組み　その2

[5回] 周手術期における患者の特徴とその看護　その1

[6回] 周手術期における患者の特徴とその看護　その2

[7回] 急性期における疼痛緩和、創傷管理、ドレーン管理、ME機器の管理、呼吸管理　その1

[8回] 急性期における疼痛緩和、創傷管理、ドレーン管理、ME機器の管理、呼吸管理　その2

[9回] 成人期にある対象者の急性期の健康逸脱状態・健康上の問題点の特徴と看護の役割 - 消化器系

[10回] 成人期にある対象者の急性期の健康逸脱状態・健康上の問題点の特徴- 婦人科疾患の外科的治療

[11回] 成人期にある対象者の急性期の健康逸脱状態・健康上の問題点の特徴と看護の役割 – 女性生殖器/胸部外科系

[12回] 成人期にある対象者の急性期の健康逸脱状態・健康上の問題点の特徴と看護の役割 – 運動器系

[13回] 成人期にある対象者の急性期の健康逸脱状態・健康上の問題点の特徴と看護の役割 – 脳神経系、神経系、運動機能障害

[14回] 成人期にある対象者の急性期の健康逸脱状態・健康上の問題点の特徴と看護の役割 – 呼吸器系

[15回] 成人期にある対象者の急性期の健康逸脱状態・健康上の問題点の特徴と看護の役割 – 循環器系

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

成人看護援助論I(急性期)[1144020]

科目名	成人看護援助論I(急性期)[1144020]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	林　さとみ[看護学部 看護学科]
	伊豆上　智子[看護学部 看護学科]
	北島　泰子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 木曜 2.0～2.0
教室	①305教室

受講条件・その注意

事前・事後の自主的学習
関連する既習科目、同時進行科目における学習内容と当該科目における学習内容を統合し、自己の課題を明確にして主体的に学習に臨む

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:矢永勝彦、小路美喜子編集「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論」第10版 医学書院 2011
北島　政樹、江川幸二編集「系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論」第8版 医学書院 2011

参考書:マージョリー・ゴードン著　江川隆子監訳 「ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 よくわかる機能的健康パターン」 照林社　2006
NANDAインターナショナル著　日本看護診断学会監訳 「NANDA-I 看護診断　定義と分類 2009-2010」 医学書院　2009 (NS2:看護過程論で使用)
竹内登美子編 「周手術期看護－講義から実習へ　1～5」 医歯薬出版　2010

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他(参加態度)

授業の目的および到達目標

当該科目は看護の対象に含まれる発達段階における成人期にある個人・家族に焦点を当て、人体の構造と機能、臨床疾患学、さらには人間を取り巻く社会のあり方を理解し、急性期の健康逸脱状態にある人にとって必要な看護を、主に演習を通して修得することを目的とする。心筋梗塞、手術による心身の侵襲などハイリスク状態にある人にとって、どのような看護実践が望まれるのか、その具体的方法として、Emergency Care Simulator(ECS)を使用して個々の処置と全身状態との関係を意識した質の高いトレーニングを小グループ制のもと、学生の個人技術指導に当たるとともに、家族をも視野に入れた看護過程の展開を教授する。

テーマおよび内容

[1回] 急性期看護の実際-消化器系(上部消化器)

[2回] 急性期看護の実際-消化器系(下部消化器)

[3回] 急性期看護の実際-腎・泌尿器系

[4回] 急性期看護の実際-婦人科疾患

[5回] 急性期看護の実際-女性生殖器系(乳房)

[6回] 急性期看護の実際-運動器系

[7回] 急性期看護の実際-脳神経系、神経系

[8回] 急性期看護の実際-呼吸器系

[9回] 急性期看護の実際-循環器系

[10回] Nursing skill labアセスメントとケアの実際#1　IVH/CVライン/TPN管理、術後患者のアセスメント、吸引(口・鼻腔、気道吸引)

[11回] Nursing skill labアセスメントとケアの実際#1　IVH/CVライン/TPN管理、術後患者のアセスメント、吸引(口・鼻腔、気道吸引)

[12回] Nursing skill labアセスメントとケアの実際#2　胸腔ドレーン管理、消化管Opドレナージ管理、ストーマ・ウロストミーの管理

[13回] Nursing skill labアセスメントとケアの実際#2	胸腔ドレーン管理、消化管Opドレナージ管理、ストーマ・ウロストミーの管理
[14回] Nursing skill labアセスメントとケアの実際#3	2次CPR、気管内挿管介助
[15回] Nursing skill labアセスメントとケアの実際#3	2次CPR、気管内挿管介助

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

事例展開I(成人・急性期疾患)[1144030]

科目名	事例展開I(成人・急性期疾患)[1144030]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	林　さとみ[看護学部 看護学科]
	伊豆上　智子[看護学部 看護学科]
	北島　泰子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前不定期
教室	①304教室 ②別途連絡

受講条件・その注意

関連する既習科目、同時進行科目における学習内容と当該科目における学習内容を統合し、自己の課題を明確にして主体的に学習に臨む。
30分以上の遅刻・退席は欠席とみなす。
リーダーシップ、メンバーシップを発揮してグループワーク演習に参加する。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:なし

参考書:浦部晶夫、島田和幸、川合眞一編集 「今日の治療薬　2010　解説と便覧」 南江堂　2010 (NS3:成人看護学概論Iで使用)
高久史麿監修 「臨床検査データブック　2009-2010」 医学書院　2009 (NS3:成人看護学概論Iで使用)
雄西智恵美、秋元典子編集 「周手術期看護論」第2版　NOUVELLE HIROKAWA　2009 (NS3:成人看護学援助論Iで使用)
池松裕子、山勢善江編集 「急性期看護論」 NOUVELLE HIROKAWA　初版3刷
山勢善江編集 「救急看護論」 NOUVELLE HIROKAWA　初版3刷
マージョリー・ゴードン著　江川隆子監訳 「ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 よくわかる機能的健康パターン」 照林社　2006
NANDAインターナショナル著　日本看護診断学会監訳 「NANDA-I　看護診断　定義と分類 2009-2010」 医学書院　2009 (NS2:看護過程論で使用)
竹内登美子編 「周手術期看護ー講義から実習へ　1～5」 医歯薬出版　2010
大久保明之・井上智子著 「わかる！検査値とケアのポイント」 医学書院　2009
河合忠・屋形稔・伊藤喜久著 「異常値の出るメカニズム」 医学書院　2010
鎌倉やよい・深田順子著 「周術期の臨床判断を磨く　手術侵襲と生体反応から導く看護」 医学書院　2010

評価方法・評価割合

レポート、その他(参加態度)

授業の目的および到達目標

当該科目では、急性期疾患患者をEmergency Care Simulator(ECS)で再現させて、ECSを使用することで学生が事例の全体像を観念的追体験することにより、看護実践における統合的な思考力・判断力を養うことを目的とする。事例がもつ疾患の看護的理解を土台にして、事例に備わっている個別の条件・状況の看護的意味付けを行い、看護過程展開の手法を用いて、必要な看護援助を検討する。この際に、患者をとりまくあらゆる環境要素に目をむけ、喪失体験や不自由になっている生活過程の内容を見極め、的確な判断ができるように導く。

テーマおよび内容

[1回] 胃がん術後患者の支援(データの分類と解釈):　導入、事例展開の進め方、事例提示
:　データの分類と解釈　演習(グループワーク1)

[2回] 胃がん術後患者の支援(データの分類と解釈):　データの分類と解釈　演習(グループワーク2)

[3回] 胃がん術後患者の支援(データの分類と解釈):　データの分類と解釈　演習(グループワーク3)

[4回] 胃がん術後患者の支援(データの分類と解釈):　データの分類と解釈　演習(グループワーク4)

[5回] 胃がん術後患者の支援(関連図作成・看護診断):　関連図作成・看護診断　演習(グループワーク5)

[6回] 胃がん術後患者の支援(関連図作成・看護診断):　関連図作成・看護診断　演習(グループワーク6)

[7回] 胃がん術後患者の支援(関連図作成・看護診断)： 関連図作成・看護診断　演習(グループワーク7)

[8回] 胃がん術後患者の支援(関連図作成・看護診断)： 関連図作成・看護診断　演習(グループワーク8)

[9回] 胃がん術後患者の支援(ケアプラン立案)： ケアプラン立案　演習(グループワーク9)

[10 回] 胃がん術後患者の支援(ケアプラン立案)： ケアプラン立案　演習(グループワーク10)

[11回] 胃がん術後患者の支援(ケアプラン立案)： ケアプラン立案　演習(グループワーク11)

[12回] 胃がん術後患者の支援(ケアプラン立案)： ケアプラン立案　演習(グループワーク12)

[13回] 胃がん術後患者の支援(事例展開の見直し、まとめ)： 事例展開の見直し・修正　演習(グループワーク13)

[14回] 胃がん術後患者の支援(事例展開の見直し、まとめ)： 事例展開の見直し・修正　演習(グループワーク14)

[15回] 胃がん術後患者の支援(事例展開の見直し、まとめ)： 事例まとめ、全体討議

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

成人看護学実習I(急性期)[1144040]

科目名	成人看護学実習I(急性期)[1144040]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	3.0単位

担当教員・所属	林　さとみ[看護学部 看護学科]
	伊豆上　智子[看護学部 看護学科]
	北島　泰子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後不定期
教室	①別途連絡

受講条件・その注意

心身ともに健やかな状態で実習に臨めるよう、自己の健康管理に留意する。事前、事後の自主的学習を以って臨む。
実習施設の規則を遵守し、看護倫理に即して行動する。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書:なし

参考書:「成人看護学概論I」、「成人看護学援助論Ⅰ」、「事例展開I」、その他関連既習科目の授業資料およびテキスト

評価方法・評価割合

出席状況、レポート、その他(参加態度、看護実践、実践記録)

授業の目的および到達目標

当該科目では、これまで学習してきた知識および技術を実践の場において統合し、病院に入院している成人対象者で手術を受ける患者または生命の危機にある患者の看護について実践を通して学習する。具体的には、外科系病棟において術前・術後にある患者を受け持ち、看護過程を展開しながら学習する。

テーマおよび内容

(1)実習方法

1) 成人期の身体侵襲を伴う治療を受けている患者(おもに周手術期にある患者)を対象とする。

2) 原則として実習期間中に最低1～2名の患者を受け持つ。

3) 担当教員、臨床指導者の指導・監督のもと、看護過程に基づいて看護実践・評価する。

(2)実習内容

1) 看護過程に基づいた受け持ち患者の看護実践を通じ、周手術期における急激な身体的変化のメカニズムに対する理解を深める。

2) 看護過程に基づいた受け持ち患者の看護実践を通じ、周手術期において対象者が直面する心理・社会的変化に関連する問題点に対する理解を深める。

3) 周手術期にある対象の苦痛を緩和し、回復過程を促進する援助を系統的かつ論理的に思考・実践する知識と技術を習得する。

詳細は実習要項を参照のこと

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

成人看護学概論II(慢性・終末期)[1144050]

科目名	成人看護学概論II(慢性・終末期)[1144050]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	髙橋　正子[看護学部 看護学科]
	川上　嘉明[看護学部 看護学科]
	林　さとみ[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 3.0～3.0
教室	①中講義室

受講条件・その注意

30分以上の遅刻は欠席とみなす。1・2年次の基礎科目、看護専門科目で学んだ内容と統合させた自己学習を期待する。
授業中提示する視聴覚教材、参考文献を活用すること。

授業の形態

講義(オムニバス)

教科書・参考文献

教科書:『成人看護学　成人看護学概論』 大西和子・岡部聰子編集、第2版2刷(ヌーベルヒロカワ)2010
『成人看護学　緩和・ターミナルケア看護論』 鈴木志津枝、内布敦子編集　初版7刷(ヌーベルヒロカワ)2010

参考書:『成人看護学　慢性期看護論』 鈴木志津枝・藤田佐和編集、第2版2刷(ヌーベルヒロカワ)2010
その他は授業中に提示する。

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他(参加態度)

授業の目的および到達目標

当該科目は成人期にある個人・家族に焦点を当て、人体の構造と機能、人間を取り巻く社会のあり方の理解を適用し、慢性的・長期的な健康逸脱状態にある個人・家族が、病状をコントロールし、生活の制限を受けながら、その人らしく病気や障害と向き合い、生きることを支えるための看護のあり方、方法について学習する。

(髙橋正子・林　さとみ／10回)
特に成人期に起こりやすい疾病について理解し、その治療法、療養法について学ぶと共に、看護の役割と機能についての学びを、観察のポイントや生活アセスメントに焦点を当てながら深めていく。さらに「生活習慣」「職業」「生活ストレス」「セクシュアリティ」「余暇生活」「更年期」について個人・家族の健康に関する視点で見る対象論を解説し、大人の学習を援助する科学としての成人教育に基づく効果的な健康教育や患者教育を基盤とする看護援助論を教授する。

(川上　嘉明／5回)
生物として規定されている誕生から死の意味を理解した上で、終末期においてどのような看護をするべきかを学習する。まず、人の死の捉え方について、臨床的、法的、生物学的などの諸相からその変遷と現代的な課題を理解する。次に人の死について、特に生物学的な視点からそのメカニズムを捉えることにより、「人はなぜ死ぬのか」という問題を解く。それらの理解の上、生命過程としての死のみならず、生活や社会と大きく関わる終末期とその先の死について、看護における目標設定、対象の理解、方法を明らかにする。

テーマおよび内容

[1回] 導入 : 髙橋　正子

[2回] 成人期にある対象の特徴(発達課題、成人保健の動向、健康上の問題)と家族の特徴 : 髙橋　正子

[3回] 成人看護学における慢性期看護・がん看護、終末期看護の基礎となる看護の理論的枠組み: 髙橋　正子

[4回] 成人看護学における慢性期看護・がん看護、終末期看護の基礎となる看護の理論的枠組み:髙橋　正子

[5回] 成人期の慢性・長期的健康逸脱状態にある対象と家族の特徴、看護の役割　: 髙橋　正子

[6回] 慢性期にある対象と家族への支援～脳神経機能障害に焦点を当てて～ : 川上　嘉明

[7回] 慢性期にある対象と家族への支援～運動機能障害に焦点を当てて～ : 髙橋・川上

[8回] 慢性期看護・がん看護における症状コントロール : 髙橋　正子

[9回] 慢性期看護・がん看護における症状コントロール : 髙橋　正子

[10回] 終末期にある対象と家族の特徴 ～がん患者、自然死、植物状態の患者、悲嘆のプロセスに焦点を当てて～ : 髙橋　正子

[11回] 終末期にある対象と家族への支援 :　髙橋・川上

[12回] 終末期にある対象と家族への支援 : 髙橋・川上

[13回] 終末期にある対象と家族への支援 : 髙橋・川上

[14回] 演習 : 髙橋・林他

[15回] 演習 : 髙橋・林他

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

成人看護援助論II(慢性期)[1144060]

科目名	成人看護援助論II(慢性期)[1144060]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	髙橋　正子[看護学部 看護学科]
	伊豆上　智子[看護学部 看護学科]
	北島　泰子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 4.0～4.0
教室	①中講義室

受講条件・その注意

30分以上の遅刻は欠席とみなす。1・2年次の基礎科目、看護専門科目で学んだ内容と統合させた自己学習を期待する。
授業中提示する視聴覚教材、参考文献を活用すること。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:『成人看護学　慢性期看護論』 鈴木志津枝・藤田佐和編集、第2版2刷(ヌーベルヒロカワ)2010

参考書:『成人看護学　成人看護学概論』 大西和子・岡部聰子編集、第2版2刷(ヌーベルヒロカワ)2010
『看護スキルシリーズ　改訂版呼吸ケアの実際＃2呼吸理学療法(DVD)』(インターメディカ出版)
『看護スキルシリーズ　改訂版　注射の介助＃3輸血』 (インターメディカ出版)
『成人看護学　ヘルスアセスメント』 横山美樹、石川ふみよ著　初版6刷(ヌーベルヒロカワ)2010
『山内豊明教授のフィジカルアセスメント　全10巻(DVD)』 (ビデオ・パック・ニッポン)

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他(参加態度)

授業の目的および到達目標

当該科目は成人期にある個人・家族に焦点を当て、人体の構造と機能、臨床疾患学、さらには人間を取り巻く社会のあり方を理解し、慢性的・長期的な健康逸脱状態にある個人・家族が、病状をコントロールし、生活の制限を受けながら、その人らしく病気や障害と向き合い、生きることを支えるための看護のあり方、方法について学習する。特に成人期に起こりやすい疾病についてVisual Learning(VODビデオ・オン・デマンド)利用により理解を深め、その治療法、療養法について学ぶと共に、看護の役割と機能についての学びを、Simulator(フィジコ)・Simulator(ナーシング・アン)を使って、観察のポイントや生活アセスメントに焦点を当てながら深めるために、小グループ制のもと、学生の個人指導に当たる。また、大人の学習を援助する科学としての成人教育に基づく効果的な健康教育や患者教育を基盤とする看護援助論をも教授する。

テーマおよび内容

[1回] 導入
呼吸機能障害のある対象への看護の実際　1

[2回] 呼吸機能障害のある対象への看護の実際　2

[3回] 循環機能障害のある対象への看護の実際　1

[4回] 循環機能障害のある対象への看護の実際　2

[5回] 血液・造血機能障害のある対象への看護の実際　1

[6回] 血液・造血機能障害のある対象への看護の実際　2

[7回] 消化機能障害のある対象への看護の実際　1

[8回] 消化機能障害のある対象への看護の実際　2

[9回] 膠原病のある対象への看護の実際

[10回] 内分泌・代謝機能障害のある対象への看護の実際

[11回] 内分泌・代謝機能障害のある対象への看護の実際～糖尿病に焦点を当てて～　1

[12回] 内分泌・代謝機能障害のある対象への看護の実際～糖尿病に焦点を当てて～　2

[13回] 腎機能障害のある対象への看護の実際　1

[14回] 腎機能障害のある対象への看護の実際　2

[15回] 演習

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

事例展開II(成人・慢性期疾患)[1144070]

科目名	事例展開II(成人・慢性期疾患)[1144070]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	髙橋　正子[看護学部 看護学科]
	伊豆上　智子[看護学部 看護学科]
	北島　泰子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前不定期
教室	①304教室 ②別途連絡

受講条件・その注意

30分以上の遅刻・退席は欠席とみなす。1・2年次の基礎科目、専門基礎科目の知識と関連づけた自己学習を期待する。
各自で事前課題を達成してグループワークに臨む。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:『ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断』江川隆子編　第3版1刷　(ヌーベルヒロカワ)2010
『ゴードン博士の看護アセスメント指針　よくわかる機能的健康パターン』マージョリー・ゴードン著、江川隆子監訳　第2版6刷(照林社)2010

参考書:『成人看護学　慢性期看護論』 鈴木志津枝・藤田佐和編集, 第2版2刷(ヌーベルヒロカワ)2010
『系統看護学講座　成人看護学6　内分泌・代謝』吉岡成人他著(医学書院)第13版, 2011
『NANDA-I 看護診断　定義と分類　2009-2011』初版2刷(医学書院)2010
『看護に役立つ検査値の読み方・考え方』河野均也・西崎統監修　第2版3刷(総合医学社)2009

評価方法・評価割合

出席状況、レポート、その他(参加態度)

授業の目的および到達目標

当該科目では、慢性的・長期的な健康逸脱状態にある成人患者事例を用いて、看護実践における統合的な思考力・判断力を養うことを目的とする。これまでに学習した対象者の身体的・心理的・社会的・精神的特徴の理解と看護過程展開の技法を適用し、事例に備わっている個別の条件・状況の看護的意味付けを行い、必要な看護援助を導き出す。この際に、患者をとりまくあらゆる環境要素に目をむけ、不自由になっている生活過程の内容を見極め、的確な判断ができるように導く。特に慢性的・長期的な健康逸脱状態にある成人期にある対象者の苦痛の緩和、家族・仕事・遺産相続などの社会的・経済的問題、心理的・宗教的問題、QOL、介護、セラピーなどを考慮するという視点を養う。

テーマおよび内容

[1回] 慢性病とともに生きる患者への支援 : 導入(事例展開の進め方)、事例提示、演習①(情報の分類、アセスメント)

[2回] 演習②(情報のアセスメント)

[3回] 演習③(情報のアセスメント)

[4回] 演習④(情報のアセスメント)

[5回] 演習⑤(全体像の描写と関連図作成)

[6回] 演習⑥(全体像の描写と関連図作成)

[7回] 演習⑦(問題の明確化)

[8回] 演習⑧(問題の明確化)

[9回] 演習⑨(ケアプラン立案)

[10回] 演習⑩(ケアプラン立案)

[11回] 演習⑪(ケアプラン立案)

[12回] 演習⑫(ケアプラン立案)

[13回] 演習⑬(発表資料作成)

[14回] 演習⑭(発表・全体討議)

[15回] 演習⑮(発表・全体討議)、まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

成人看護学実習II(慢性期)[1144080]

科目名	成人看護学実習II(慢性期)[1144080]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	3.0単位

担当教員・所属	髙橋　正子[看護学部 看護学科]
	金井Pak　雅子[看護学部 看護学科]
	相田　京子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後不定期
教室	①別途連絡

受講条件・その注意

事前、事後の自主的学習をして臨むこと。
心身ともに健康な状態で実習に臨めるように、健康管理に十分留意すること。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書:なし

参考書:「成人看護学概論Ⅱ」、「成人看護援助論Ⅱ」「事例展開Ⅱ」その他関連既習科目の授業テキストおよび資料

評価方法・評価割合

出席状況、レポート、その他(実習態度、実習記録)

授業の目的および到達目標

当該科目では、これまで学習してきた知識および技術を実践の場において統合し、慢性疾患を持つ対象者に対しての援助を、実践を通して学習する。具体的には、慢性疾患を持つ患者を内科系病棟で受け持ち、看護過程を展開しながら学習する。

テーマおよび内容

(1)実習方法

・成人期の慢性期あるいは終末期にある患者を対象とし、担当教員、臨床指導者の指導・監督のもと看護過程に基づき看護を展開する。

・原則として、最低1～2名の患者を受け持つ。

(2)実習内容

慢性期にある成人期の患者との関わりを通して、慢性・長期的な健康障害をもつ対象を　身体的・心理的・社会的側面から理解するとともに、患者や家族が病気をコントロールしながらよりよい生活ができるためのセルフケアへの支援方法を学ぶ。また、近い将来、死を免れない患者の全人的苦痛や家族の予期的悲嘆についての理解を深め、苦痛を緩和し有意義な時間を過ごせるための支援方法を学ぶ。実習全体を通して医療チームの中での看護の役割について認識を深める。

※詳細は、実習要項を参照のこと

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

老年看護学概論[1144090]

科目名	老年看護学概論[1144090]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	川上　嘉明[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 4.0～4.0
教室	①304教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『ナーシンググラフィカ　高齢者の健康と障害』 堀内ふき他編(メディカ出版)2011年。
『自然死を創る終末期ケアー高齢者の最期を地域で看取る』 川上嘉明(現代社)2008年。
毎回、講義要約書を配布する。

参考書:毎回、講義要約書の中で提示する。

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他(学習態度)

授業の目的および到達目標

誕生から死までの、ヒトとしての生命過程を理解する。その中の老年期は、生命過程の中でどのように位置づけられるのか、最新の生命科学の知見を含め学習する。そして、ヒトが老いるという事象を特に生物学的な視点から明らかにした上で、老年期に特有な健康障害の特徴、心理・社会関係の変調、それらに対する看護のあり方を学ぶ。また、老年期の健康障害とその看護は社会やその仕組みの影響を受けやすいことから、日本における老人及び老年期の様子の時代的な推移から、現代における特徴、将来の日本における老年期の課題を学習する。

テーマおよび内容

[1回]「老い」の生命科学
【key words】生物の進化　真核生物　有性生殖　ヘイフリック限界　老化　死

[2回] 老年期の特徴と看護の目標
【key words】老年期の位置づけ　老年期の健康　看護の視点・目標

[3回] 高齢者の統計的輪郭と高齢者の暮らし
【key words】少子高齢化　人口　出生数　死亡数　健康寿命　高齢者世帯　平均年収

[4回] 老年期における健康の変化
【key words】生命の基本モデル　摂取　自己化　排泄　老年期の生命過程　ホメオスタシス　生命の終末期

[5回] 高齢者の疾患と治療における看護(1)
【key words】高齢者の疾患　老年症候群　廃用症候群　疾患の特徴

[6回] 高齢者の疾患と治療における看護(2)
【key words】高齢者の疾患　老年症候群　廃用症候群　疾患の特徴

[7回] 高齢者に関する制度の理解
【key words】社会保障　老人福祉法　介護保険法　高齢者の医療の確保に関する法律

[8回] 高齢者の人権と倫理問題
【key words】虐待　身体拘束　成年後見制度

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

老年看護援助論[1144100]

科目名	老年看護援助論[1144100]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	川上　嘉明[看護学部 看護学科]
	平田　美和[看護学部 看護学科]
	相田　京子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 月曜 5.0～5.0
教室	①304教室 ②別途連絡

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:『ナーシンググラフィカ　高齢者看護の実践』 堀内ふき他編(メディカ出版)2011年。
『穏やかに逝く－介護で看取る自然な死』 川上嘉明(環境新聞社)2009年。
毎回、講義要約書を配布する。

参考書:毎回、講義要約書の中で提示する。

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他(学習態度)

授業の目的および到達目標

老年期の生命の特徴から、生命過程を維持または死に到達するための基本的ニーズに対する援助を理解・実施できるようにする。それぞれのニーズに対する生理や機能を理解したうえで、生命過程を損なわない援助の方法、実践に有用な看護の方法を演習する。また、それらを提供する上での危険予知訓練、リスク及びコスト管理のポイントを理解する。老年に対する看護の多くは他の専門職チームとの連携が欠かせないが、そのマネジメントの方法の理解・演習を行う。また看護の方針や計画立案等における関係者や家族とのコミュニケーション、説明と同意形成の方法を演習を通して学ぶ。
高齢化に伴う知的機能、知覚・認知能力、感情と欲求、パーソナリティ等の変化、さらには人間関係や社会関係の変化を理解した上で、高齢者の個別性に合わせた看護援助技術について演習を通して実践力を身につける。また、高齢者への偏見、高齢化に伴う喪失体験、老いと障害の受容等、高齢者が直面する心理社会的問題について、看護援助技術の演習を通して理解を深める。

テーマおよび内容

[1回] 高齢者の理解と看護　呼吸・循環

[2回] 高齢者の理解と看護　水分と栄養の摂取

[3回] 高齢者の理解と看護　老廃物の排泄

[4回] 高齢者の理解と看護　運動

[5回] 高齢者の生活を支える技術　環境改善と用具の活用／シーティング

[6回] 高齢者の理解と看護　外界の認識:感覚

[7回] 高齢者の理解と看護　内部環境の維持・修復:睡眠／皮膚

[8回] 高齢者の理解と看護　生命体の統括:認識

[9回] 高齢者の理解と看護　生命体の統括:認知症

[10回] 高齢者における事故の特徴と安全のためのマネジメント

[11回] 高齢者や家族とのコミュニケーション

[12回] 地域ケアにおけるケアマネジメントと看護計画

[13回] 高齢者におけるケアチームの実際とその機能

[14回] 高齢者の終末期と看取りの視点

[15回] 終末期看護の実践

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

事例展開III(老年・慢性期疾患)[1144110]

科目名	事例展開III(老年・慢性期疾患)[1144110]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	川上　嘉明[看護学部 看護学科]
	平田　美和[看護学部 看護学科]
	相田　京子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前不定期
教室	①304教室 ②別途連絡

受講条件・その注意

30分以上の遅刻・退席は、欠席とみなす

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:老年看護概論 及び 老年看護援助論 において使用した講義要約書と教科書
毎回、講義要約書を配布する。

参考書:講義要約書の中で提示する。

評価方法・評価割合

出席状況、授業中の課題、その他(事例展開における看護計画等)

授業の目的および到達目標

老人の健康障害の特徴は、年をとることによる衰弱、病気やその後遺症および認知症などが複合し、日常生活を自ら行なえなくなることである。そのため、健康の維持、病気、心理、人権、家族や地域社会関係等の視点から、全人的なケアが必要となる。事例展開では、こうした老人の長期にわたり、かつ進行していく障害を持ちながら地域で過ごす老人(特に認知症を患う高齢者)に焦点をあてる。老人の状態を適切にアセスメントすることにより、他職種や家族を含めたチームケアの中で看護を計画・実施、実効性のある評価にむすびつけられるようにする。さらにこの事例展開のあり方を学ぶことによって、後期の老年看護学実習の礎とする。

テーマおよび内容

[1回] 事例1:脳梗塞の後遺症による歩行障害を主訴とする高齢者【key words】脳梗塞 心房細動 生活習慣病 リハビリテーション

[2回] ①事例紹介 ②アセスメントの視点 ③ニーズ分析と看護計画 ④モデル看護計画の提示

[3回] 事例2:多発性脳梗塞により経管栄養となった高齢者【key words】多発性脳梗塞 嚥下障害 経管栄養

[4回] ①事例紹介 ②アセスメントの視点 ③ニーズ分析と看護計画 ④モデル看護計画の提示

[5回] 事例3:猛暑の中、意識朦朧とした状態で発見された高齢者【key words】意識障害 脱水 緊急入院

[6回] ①事例紹介 ②アセスメントの視点 ③ニーズ分析と看護計画 ④モデル看護計画の提示

[7回] 事例4:認知症の周辺症状により落ち着かない高齢者【key words】徘徊 無欲 失行 失認 見当識障害

[8回] ①事例紹介 ②アセスメントの視点 ③ニーズ分析と看護計画 ④モデル看護計画の提示

[9回] 事例5:転倒を繰り返すパーキンソン症候群の高齢者【key words】パーキンソン病(症候群) 転倒 転倒予防 大腿骨頸部骨折

[10回] ①事例紹介 ②アセスメントの視点 ③ニーズ分析と看護計画 ④モデル看護計画の提示

[11回] 事例6:徐々に誤嚥が顕在しているアルツハイマー型認知症の高齢者【key words】誤嚥 発熱 窒息 ハイムリック法 救急搬送

[12回] ①事例紹介 ②アセスメントの視点 ③ニーズ分析と看護計画 ④モデル看護計画の提示

[13回] 事例7:摂食量・飲水量が低下し終末期にある高齢者【key words】体重低下 終末期のバイタルサイン 終末期に特有の一般状態

[14回] ①事例紹介 ②アセスメントの視点 ③ニーズ分析と看護計画 ④モデル看護計画の提示

[15回] 事例展開の評価・まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

老年看護学実習[1144120]

科目名	老年看護学実習[1144120]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	3.0単位

担当教員・所属	川上　嘉明[看護学部 看護学科]
	高畠　有理子[看護学部 看護学科]
	山本　かほる[看護学部 看護学科]
	相田　京子[看護学部 看護学科]
	中村　充浩[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後不定期
教室	①別途連絡

受講条件・その注意

各自健康管理をしっかり行い、欠席をしないこと。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書:老年看護概論 及び 老年看護援助論 において使用した講義要約書と教科書

参考書:実習場面に応じ、提示する。

評価方法・評価割合

出席状況、その他(実習態度、記録類:看護計画等)

授業の目的および到達目標

地域ケアシステムのひとつである施設とその看護の実際について実習することにより、地域で生活をする高齢者にとっての施設の目的とあり方、また看護の提供の方法を学習する。施設のある地域の特性、また高齢者の生活様式の特徴を知り、施設における高齢者の生活、健康や心身機能の障害、それに対する地域における施設看護の役割を理解する。それらを学習する過程をとおし、施設を利用する高齢者が、看護を受けながら地域で継続して生活するための総合的な援助実践の考察を行なう。

テーマおよび内容

(1)実習方法

①主に受け持つ利用者を担当し、チームケアにおける看護実習を行う。

②担当する利用者と同じユニット内における他の利用者、また施設内で看護が必要な利用者についても、実習を行う。

(2)実習内容

①事前学習:実習場の地域の特徴 「特別養護老人ホーム」の制度上の理解と役割等

②実習場でのオリエンテーション:施設の規模と内容　地域における機能(ケアチームの内容と役割等　看護の特徴等　ユニットケアの意味)

③主に受け持つ利用者の理解

④施設内における看護の機能と実際の理解

⑤主に受け持つ利用者の看護初期計画の立案:学内での学習内容を立案に反映させる。

⑥計画に沿った看護の提供。

⑦生活援助技術を中心に、できるだけ基礎看護技術が実習できる機会を持つ。

⑧施設内で看護が必要な利用者に対し、見学実習及び実習を行う。

⑨サービス担当者会議などの参加をとおし、ケアチームの機能と意見の合意形成のプロセスを理解する。また家族との関係づくりも理解する。

⑩看護計画のモニタリング、及び追加情報の収集と看護計画の修正を行う。

⑪実習期間終了時には、看護計画の評価ができるようにする。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

母性看護学概論[1144130]

科目名	母性看護学概論[1144130]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	梶原　祥子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 1.0～1.0
教室	①中講義室

受講条件・その注意

母性看護学は、女性の生涯を通じての健康支援に関与する学問です。この概論で習得する知識は、同時期に続けて開講する母性看護援助論、3年時より開講の事例展開、母性看護学実習の基盤となるものです。従って、主体的に自ら学ぶ姿勢を堅持することを望みます。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：系統看護学講座　専門分野Ⅱ『母性看護学概論』 森恵美　他 （医学書院） 2011年

参考書：①国民衛生の動向2010年度
②『女性生涯看護学』 吉沢豊予子編（真興交易出版）
③『助産学体系－人間の性・生殖』 青木康子他編（日本看護協会出版会）
④『女性の看護学』 吉沢豊予子他編（メヂカルフレンド出版）
⑤『ウーマンズヘルス』 久米美代子他編（医歯薬出版）
⑥『ナーシング・グラフィカ　母性看護学－母性看護実践の基本』 横尾京子・中込さと子編（メディカ出版）
⑦『ウィメンズヘルスナーシング概論』 村本淳子・高橋真理編集（ヌーヴェルヒロカワ）
⑧『女性のライフサイクルとナーシング』 高橋真理・村本淳子編集（ヌーヴェルヒロカワ）
⑨『病気がみえるvol.9　婦人科・乳腺外科』 医療情報科学研究所編集
その他適時講義内で提示します。

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他（態度）

授業の目的および到達目標

女性のライフサイクル各期の特徴や発達課題について学び、女性の健康問題とその看護を展開するために必要とされる基礎知識を習得する。Women's Healthという概念で、母性看護の歴史的変遷、母子保健統計、法律、母子保健施策、生命倫理を学び、今後の母性看護の役割と重要性について認識を深める。

テーマおよび内容

[1回] 女性の健康の概念 ： 女性の発達過程と理論、女性の健康と歴史 体験課題の提示

[2回] 女性の健康とセクシュアリティ ： 人間の性反応、セクシュアリティと健康

[3回] リプロダクティブ・ヘルス/ライツ ： リプロダクティブ・ヘルス/ライツ

[4回] 女性の生涯発達と健康 ： 女性のライフサイクル、ライフサイクルと女性の身体・心理・社会

[5回] ライフサイクルから見た女性の健康課題と看護① ： 思春期の健康問題とヘルスケア

[6回] ライフサイクルから見た女性の健康課題と看護② ： 成熟期の健康問題とヘルスケア

[7回] ライフサイクルから見た女性の健康課題と看護③ ： 更年期の健康問題とヘルスケア

[8回] ライフサイクルから見た女性の健康課題と看護④ ： 老年期女性の健康問題とヘルスケア

[9回] 女性の健康と環境 ： 女性を取り巻く環境問題とヘルスケア

[10回] 女性の健康障害 ： 女性特有の疾患、女性生殖器疾患

[11回] 女性の健康と倫理 ： 女性の健康に関する倫理的問題

[12回] 国際化と女性の健康 ： 国際化の現状と在日外国人のケア

[13回] 女性の健康とヘルスプロモーション ： ヘルスプロモーション、健康教育

[14回] 女性の健康と政策 ： 女性に関わる制度、統計

[15回] 体験課題発表 ： 課題について発表
まとめ : まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

母性看護援助論[1144140]

科目名	母性看護援助論[1144140]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	梶原　祥子[看護学部 看護学科]
	家吉　望み[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 木曜 2.0～2.0
教室	①基礎・成人実習室 ②母性・小児実習室

受講条件・その注意

母性看護学は、女性の生涯を通じての健康支援に関与する学問です。この母性看護援助論で習得する知識および技術は、次年度の3年時に開講の事例展開、母性看護学実習の基盤および必須科目となるものです。従って、主体的に自ら学ぶ姿勢を堅持することを望みます。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:①系統看護学講座　専門分野Ⅱ 『母性看護学各論』 森恵美　他 （医学書院） 2011年
②『ウェルネスからみた母性看護過程』 佐世正勝・石村由利子編集(医学書院)

参考書:①『ナーシング・グラフィカ　母性看護学－母性看護実践の基本』 横尾京子・中込さと子編(メディカ出版)
②『病気がみえるvol.10　産科』 医療情報科学研究所編集
③『母性看護学1．妊娠・分娩』東野妙子・村本淳子・石原昌編著(医歯薬出版)
④『母性看護学2．産褥・新生児』 今津ひとみ他　編著(医歯薬出版)
⑤『周産期エキスパートナーシング』 山本貴雄・宮中文子編集(南江堂)
⑥『周産期ナーシング』 村本淳子・高橋真理編集(ヌーヴェルヒロカワ)
その他適時授業内で提示します。

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他(演習への参加態度)

授業の目的および到達目標

マタニティサイクル(妊娠、出産、産褥期)における女性の身体的変化及び特徴について、解剖・生理学的見地から、その基礎を修得し、合わせて各期の特徴的な異常経過と疾患について学ぶ。さらにマタニティサイクルにおける各期の心理社会的変化とその適応過程、胎児の成長・発達、新生児の生理的特徴と変化・適応について学ぶ。合わせて家族単位の特性にも触れる。さらに、各時期に必要とされる看護援助技術について、学内演習を通して実践力を高める。

テーマおよび内容

[1回] 周産期看護の概論 ： 周産期における看護の役割、妊娠のメカニズム

[2回] 妊娠期の看護① ： 妊娠期における女性と胎児および家族の身体・心理・社会的変化と適応過程

[3回] 妊娠期の看護② ： 妊娠期におけるヘルスアセスメントと看護ケア

[4回] 妊娠期の看護技術① ： 妊婦に関する看護技術①

[5回] 妊娠期の看護技術② ： 妊婦に関する看護技術②

[6回] 分娩期の看護 ： 分娩期における女性と胎児および家族の変化と適応
分娩期におけるヘルスアセスメントと看護ケア

[7回] 分娩期の看護技術 ： 産婦に関する看護技術

[8回] 産褥期の看護① ： 産褥期における女性と新生児および家族の変化と適応過程

[9回] 産褥期の看護② ： 産褥期におけるヘルスアセスメントと看護ケア

[10回] 産褥期の看護技術① ： 褥婦に関する看護技術①

[11回] 産褥期の看護技術② : 褥婦に関する看護技術②

[12回] 産褥期の看護技術③ : 新生児に関する看護技術①

[13回] 産褥期の看護技術④ : 新生児に関する看護技術②

[14回] ハイリスク妊娠・分娩 : 妊娠合併症、妊娠・分娩の正常からの逸脱

[15回] ハイリスク産褥・新生児 : 産褥期の正常からの逸脱、新生児合併症

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

事例展開IV（母性）[1144150]

科目名	事例展開IV（母性）[1144150]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	梶原　祥子[看護学部 看護学科]
	家吉　望み[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前不定期
教室	①304教室 ②別途連絡

受講条件・その注意

この科目は、これまで学んで得た知識を統合することが必要であり、さらに次年度の母性看護実習の前提科目ですので積極的に学習に取り組むことが必要である。なお、30分以上の遅刻は欠席とみなします。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:『ウェルネスからみた母性看護過程』 佐瀬正勝・石村由利子編集 医学書院

参考書:①『ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程』 太田操編著　医歯薬出版
②『母性看護学1.妊娠・分娩』石原昌他編著
③『母性看護学　2. 産褥新生児』 今津ひとみ編著　医歯薬出版、
その他授業内で適時提示する。

評価方法・評価割合

その他（グループワークの取り組み、グループ発表、提出レポート、筆記試験、出席状況から、総合的に評価する。）

授業の目的および到達目標

看護を系統的かつ科学的に看護実践できる基礎的能力を養うために、方法論としての看護過程を講義・演習を通して学び、問題解決能力や批判的思考能力を育成する。母性領域では、マタニティサイクルに関連した健康問題を持つ女性の事例を用いて、グループワークを実施し、その中で自らの学習課題を明確にし、自然な状態からの逸脱状態を判断、看護上の問題を診断、予期的ケア及び異常時への対応を含めたケア計画を立案する。さらに事例展開のあり方を通して、後期に行われる母性看護学実習の礎とする。

テーマおよび内容

[1回] 母性、特に周産期における看護過程の特徴

[2回] オリエンテーション・事例①提示

[3回] グループワーク（知識の整理・情報の整理）

[4回] グループワーク（情報の整理、アセスメント）

[5回] 発表準備

[6回] 発表（情報の整理・アセスメント）

[7回] グループワーク（アセスメントから看護診断・看護計画立案）

[8回] グループワーク・発表準備

[9回] 発表（アセスメントから看護診断・看護計画）

[10回] 事例②提示　説明

[11回] グループワーク

[12回] グループワーク

[13回] グループワーク発表準備

[14回] 発表

[15回] まとめ

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

母性看護学実習[1144160]

科目名	母性看護学実習[1144160]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	梶原　祥子[看護学部 看護学科]
	家吉　望み[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後不定期
教室	①別途連絡

受講条件・その注意

実習では、一組の母子の看護過程を通して母性看護実践の学習をします。母子や家族にとって妊娠･出産より良い体験となるよう適切な看護が提供できるように、またこの科目の目的・目標が達成できるように努力してください。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書:なし

参考書:①『周産期ナーシング』 村本淳子・高橋真理編集(ヌーヴェルヒロカワ)
②母性看護学　1　妊娠・分娩　第2版　医歯薬出版株式会社　村本淳子　東野妙子
③母性看護学　2　産褥・新生児　第2版　医歯薬出版株式会社　今津ひとみ　加藤尚美
④ウエルネスからみた母性看護過程　医学書院　佐世正勝　石村由利子
⑤ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程　第2版　医歯薬出版株式会社　太田操
⑥今日の助産　南江堂　北川眞理子　内山和美
⑦母乳育児支援スタンダード　医学書院　NPO法人日本ラクテーション・コンサルタント協会
⑧カラー写真で学ぶ妊産褥婦のケア　医歯薬出版株式会社　櫛引美代子
⑨カラー写真で学ぶ新生児の観察と看護技術　医歯薬出版株式会社　櫛引美代子
⑩カラー写真で学ぶ周産期の看護技術　第2版　医歯薬出版株式会社　櫛引美代子
その他、適時提示

評価方法・評価割合

出席状況、レポート、その他(実習態度、実習に関する記録)

授業の目的および到達目標

これまでの既習の知識や技術を活用し、周産期(妊娠、出産、産褥)における健康な母子および家族を対象に、個々の心身の適応過程および健康ニーズを把握し、周産期にある女性と新生児および家族が新しい役割を獲得していくために、必要な個別的な看護の実際を学ぶ。その看護体験から、自己洞察を行い、看護者としての責任と倫理観を養うと共に生命の誕生の尊さについて考える。

テーマおよび内容

(1)実習方法

①実習場所:東京大学医学部付属病院 (産科病棟、分娩室、新生児室、産科外来、NICU/GCU)

②実習の動き:1Gを4名で構成 (1週目に産科病棟と新生児室、2週目に産科外来、分娩室、NICU/GCU)

(2)実習内容

①産科病棟と新生児室:一組の母子を受け持ち、看護過程の展開を行う。

②産科外来:妊婦のアセスメント、妊婦健診の見学・一部実施、保健指導見学を行う。

③分娩室:産婦ケアの見学・一部実施を行う。

④NICU/GCU:見学

⑤周産期に関する課題を見出し、その現状について調べて支援対策について考察を行う。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

小児看護学概論[1144170]

科目名	小児看護学概論[1144170]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	河内　しのぶ[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 3.0～3.0
教室	①中講義室

受講条件・その注意

身近にいる子どもとできるだけ関わりをもってみてください。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:『系統看護学講座　専門22　小児看護学[1]』 第11版(医学書院)2007

参考書:別途通知します。

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート

授業の目的および到達目標

目標:成長・発達の過程にある子どもの特徴を理解し、健全な成長・発達を促すための日常生活における援助および健康障害をもつ子どもとその家族に対する看護に必要な基礎的知識を習得する。
授業計画:子どもと家族をとりまく社会環境をふまえた小児看護の役割と課題、各発達段階の特徴、必要な日常生活援助について、映像の使用によるイメージ化を行いながら講義およびグループ単位での学習を行う。

テーマおよび内容

[1回] 小児看護学ガイダンス : 小児看護学の全体像を理解する。健康な子どもの姿を映像からイメージする。

[2回] 小児看護の特徴と理念 : 小児看護の対象、小児看護の目標・役割、倫理(人格の尊重・権利の保障)、児童憲章、児童福祉法について

[3回] 子どもを取り巻く環境 : 現代の子どもと家族をとりまく社会環境、母子保健統計(乳幼児死亡率、事故など)

[4回] 地域における母子保健活動の実際 : 地域における育児支援の実際

[5回] 子どもの成長・発達Ⅰ : 成長・発達の原則や成長・発達に関する理論について

[6回] 同上 : 各発達段階の特徴

[7回] 子どもの成長発達Ⅱ : 身体的成長、機能的発達(生理的、精神・情緒)、原始反射、成長・発達評価について

[8回] 同上

[9回] 子どもの生活(GW) : 各発達段階における子どもの特徴および日常生活について基礎的な知識をグループで学習し、全員で共有する

[10回] 同上 :〔テーマ:遊び、食事、清潔、排泄、事故etc.〕

[11回] 子どもの生活(GWの発表)

[12回] 同上

[13回] 病気と子ども : 疾病・障害に対する子どもや家族の反応、看護の方向性

[14回] 外来・入院における小児看護 : 外来の役割(救急外来)、入院環境、入院による影響、ストレス対処過程

[15回] 同上

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

小児看護援助論[1144180]

科目名	小児看護援助論[1144180]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	河内　しのぶ[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 4.0～4.0
教室	①中講義室

受講条件・その注意

小児科学で学習した疾患についての知識及び小児看護学概論で学習した健康な子どもの姿を想起しながら、健康を障害された子どもの看護について考えてみましょう。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:『系統看護学講座　専門22　小児看護学[1]』 第11版(医学書院)2007
『系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児臨床看護各論』 第12版(医学書院)2011

参考書:別途通知します。

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート

授業の目的および到達目標

目標:健康障害が子どもとその家族に与える影響を理解し、健康障害をもつ子どもとその家族に対する看護を実践するために必要な基礎的知識と技術を修得する。
授業計画:子どもにおける健康障害の病態生理をもとに、各々の疾患の経過と看護、症状別の子どもの看護、検査・処置を受ける子どもの看護について学習を行う。また、子どもの抱き方・授乳方法・沐浴等の日常生活援助技術およびバイタルサイン測定・輸液の管理・固定方法等の臨床看護技術に関して実習室における演習を行い、看護実践能力の基礎を身につける。

テーマおよび内容

[1回] 脱水・下痢の子どもと家族の看護 : 事例(乳児下痢症)を通して栄養・代謝(水分)のアセスメント、脱水の看護、下痢の看護

[2回] 同上

[3回] 技術演習Ⅰ(GW) : 事例(乳児下痢症)をふまえて〔乳児の抱き方、授乳方法、おむつ交換、調乳、衣服の着脱〕についてグループ学習を行い、全員に対して技術のデモンストレーションを行う

[4回] 同上

[5回] 技術演習Ⅰ(GWの発表)

[6回] 同上

[7回] 低出生体重児の看護 : NICUの看護、成長・発達への援助、家族へのケア

[8回] 地域における小児看護 : 退院へ向けての調整、在宅看護(継続看護)、母子保健施策

[9回] 検査や処置を受ける子どもの看護 : 子どもにとっての検査・処置体験、不安や痛みに対する看護、IC、プリパレーションについて〔具体例:固定、腰椎穿刺、骨髄穿刺〕

[10回] 同上

[11回] 手術を受ける子どもと家族の看護 : 子どもにおける手術適応疾患、手術が子どもに与える影響、術前・術後の看護

[12回] 同上

[13回] 終末期の子どもと家族の看護 : 障害の捉え方(ICF)、障害の種類、障害の受容、日常生活支援について

[14回] 同上

[15回] 子どもを亡くした家族の看護：子どもの死の概念、I. C. 、子どもの心身の状態と緩和ケア、家族への関わりとケア

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

事例展開V(小児)[1144190]

科目名	事例展開V(小児)[1144190]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	河内　しのぶ[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前不定期
教室	①304教室 ②別途連絡

受講条件・その注意

30分以上の遅刻・退席は、欠席とみなす。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:特に指定なし

参考書:特に指定なし

評価方法・評価割合

出席状況(GW参加状況10%)、レポート(90% 提出:5月30日10時30分まで)

授業の目的および到達目標

目標:疾病の特徴と事例の発達段階の特徴をふまえ、健康障害をもつ子どもとその家族に対する必要な看護を導き出すための思考過程を習得する。加えて本演習の成果を3年次の後期から開始される小児看護学実習において活用できることを目指す。
授業計画:小児期に起こりやすい健康障害の種類別に事例を想定し、その事例を通して"生活の処方箋"を描くための演習を行う。健康障害の種類として、慢性小児下痢症(乳児期)、ネフローゼ症候群(幼児期)、川崎病(幼児期)、急性白血病(学童期)、小児喘息(学童期)を予定しており、アセスメント・ケアプランの作成・実践(技術演習)の一連のつながりを、グループ単位で学習する。学習成果は、学生全員での共有を図るために発表形式をとる。

テーマおよび内容

[1 回]

(5月9日Ⅲ)事例展開に関するオリエンテーション

[2 回]

(5月9日Ⅳ)事例展開の疾患について講義

[3 回][4 回]

(5月10日Ⅲ・Ⅳ)GW

[5 回][6 回]

(5月11日Ⅳ・Ⅴ)GW

[7 回][8 回]

(5月16日Ⅲ・Ⅳ)GW

[9 回][10回]

(5月17日Ⅲ・Ⅳ)GWの発表

[11回]

（5月18日Ⅳ）GWの発表

[12回][13回]

（5月23日Ⅲ・Ⅳ）技術演習

[14回][15回]

（5月24日Ⅲ・Ⅳ）技術演習

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

事例展開VI(障害児・者)[1144200]

科目名	事例展開VI(障害児・者)[1144200]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	石井　美智子[非常勤講師]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前不定期
教室	①304教室 ②別途連絡

受講条件・その注意

30分以上の遅刻・退席は欠席とみなす。事例展開はグループで行います。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:新・介護福祉士養成講座　中央法規出版
KOMI理論、KOMI記録システム　現代社

参考書:重症心身障害療育マニュアル　医歯薬出版、重症心身障害児のトータルケア　へるす出版
KOMIチャート判断ポイント島田版・豊かな生活のハンドブック　島田療育センター
疾患の理解に必要な教科書等

評価方法・評価割合

出席状況、レポート

授業の目的および到達目標

障害を持つ児童の事例を「重症心身障害児」に限定し、重心児看護の歴史を概括すると同時に、歴史の中で明らかになった課題について学び、現在の看護の実際を、事例を通して検討する。その中で、生命重視、人権尊重の看護が目指す具体的姿を学びとることを、当該科目の目的とする。

テーマおよび内容

[1回] 重症心身障害児・者とは:講義＝概論(定義・社会背景・現状と課題・超・準超重症児等)

[2回] 重症心身障害児・者の看護:講義＝看護ケアの5つの視点から

[3回] 事例展開1　①:事例1紹介(DVD, PP)　事例の全体像をとらえる

[4回] 事例展開1　②:情報収集と情報整理(KOMI記録システムを使って)

[5回] 事例展開1　③:情報の共有化

[6回] 事例展開1　④:グランドアセスメント・ケアプランの作成

[7回] 事例展開1　⑤:ケアプラン作成(ケアの根拠・目的の明確化)

[8回] 事例1　発表:グループ毎に発表

[9回] 事例展開2　①:事例2紹介(PP)　事例の全体像をとらえる

[10回] 事例展開2　②:情報収集と情報整理(KOMI記録システムを使って)

[11回] 事例展開2　③:情報の共有化

[12回] 事例展開2　④:グランドアセスメント・ケアプランの作成

[13回] 事例展開2　⑤:ケアプラン作成(ケアの根拠・目的の明確化)

[14回] 事例2　発表:グループ毎に発表

[15回] まとめ:障害とともに生きる・生活することとは＝2事例からの学び・考察、看護師のはたす役割

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

小児看護学実習[1144210]

科目名	小児看護学実習[1144210]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	河内　しのぶ[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後不定期
教室	①別途連絡

受講条件・その注意

1. 体調不良時は、実習ができませんので健康管理には充分注意してください。
2. 記録の提出は、最終日（学内実習）の17：00までに行うこと。

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書：特になし

参考書：特になし

評価方法・評価割合

その他（1. 実習目標の達成状況 2. カンファレンスへの参加状況 3. 実習態度 4. 出席状況）

授業の目的および到達目標

身体的、心理的、社会的、成長・発達の側面から統合的に健康障害をもつ小児を理解する。そして医療機関においても、小児とその家族が可能な限り日常に近い生活を送ることができるように援助するための基礎的能力の習得を実習目的とする。具体的には、急性期または慢性期の経過をたどる患児を1人受け持ち、看護過程を展開する。その為に、患児とその家族とのコミュニケーションに必要な基礎的能力の習得、個人差をふまえた安全・安楽・自立を目指した日常生活の援助および指導に必要な能力の習得、さらに社会資源の活用を考えることができることを目指す。

テーマおよび内容

1. 実習施設：東京大学医学部付属病院　小児科病棟および小児外科病棟

2. 日程・時間の詳細は後日提示する

3. 実習方法：

①実習期間中1人の患児を中心に看護過程を展開する

②対象年齢は乳児から思春期とし、急性期または慢性期の経過をたどる患児を受けもつ

③記録用紙は規定のものを使用し、指示された方法で保管および提出をする

4. 具体的実習内容：詳細は実習要項を参照のこと

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

精神看護学概論[1144220]

科目名	精神看護学概論[1144220]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	大沼　幸子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 1.0～1.0
教室	①305教室

受講条件・その注意

30分以上の遅刻は欠席扱いとする

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書:精神看護の基礎　精神看護学[1]　医学書院

参考書:精神保健　医学出版社(石井厚・浅野弘毅編集)，精神看護学Ⅰ　精神保健学　NUVELLE HIROKAWA

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他(授業参加状況)

授業の目的および到達目標

精神保健および精神看護の基本となる人間理解を深めることを目的に、精神障害とは何かについて理解し、家族や集団などの人間関係に関する諸理論を学ぶ。また、精神保健と福祉の法制度と社会的背景、倫理的問題について学ぶ。人は様々な危機に遭遇し、乗り越えながら生きていく。危機に対して人は様々な反応を示すが、精神障害は1つの反応の仕方である。また、人は精神障害の有無にかかわらず、自己実現を目指してその人らしく生きていく権利があり、すべての人が変化と成長の可能性を持っている。その課程を援助するのが精神看護の役割である。

テーマおよび内容

[1回] 精神看護の本質、対人関係看護論

[2回] エゴグラムによる自己理解、分析

[3回] さまざな社会病理現象

[4回] 心の健康、精神の健康、精神力動論、自我同一性

[5回] 精神保健の歴史

[6回] 防衛機制、危機理論、ストレスと対処行動

[7回] 対人関係論、対人関係におけるストレスと対処

[8回] 精神の機能と障害1(知覚・思考・記憶・認知・感情・意識)

[9回] 精神の機能と障害2　精神障害の見方、考え方、統合失調症

[10回] 精神の機能と障害3　気分障害、神経症関連

[11回] 精神保健と福祉の法制度と社会的背景

[12回] 学校、職場における精神保健上の問題

[13回] 患者を支える家族の心の健康

[14回] 精神疾患と死をめぐる問題

[15回] 看護師のメンタルヘルス、リエゾン精神看護

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

精神看護援助論[1144230]

科目名	精神看護援助論[1144230]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	大沼　幸子[看護学部 看護学科]
	高橋　雪子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 火曜 2.0～2.0
教室	①305教室

受講条件・その注意

30分以上の遅刻は、欠席扱いとする

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:精神看護の基礎　精神看護学[1]医学書院, ケアに生かすダンス＆ファンタジーセラピー　癒しの臨床　エム・シー・ミューズ社(大沼小雪)

参考書:授業で紹介する

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他(授業参加状況)

授業の目的および到達目標

精神疾患の慢性的な経過を辿る対象とその家族に対して、医療・福祉制度や社会資源を活用した看護援助方法(ケアマネジメント、SST、訪問看護)について学習する。その中で主な精神疾患(統合失調症・気分障害・人格障害・アルコール依存症・など)について、その病理や生理学的見地からの学習を行う。また、精神看護における治療的対人関係の展開、援助活動への自己活用について学び、統合失調症、人格障害、アルコール依存症など、精神障害者と家族への理解を深める。さらに精神科リハビリテーションの意義についても触れ、現実的な課題について学習する。

テーマおよび内容

[1回] 患者理解とコミュニケーション技法、カウンセリング技法 ： 大沼

[2回] 精神療法1　認知行動療法①　、SST ： 大沼

[3回] 精神療法1　認知行動療法②　、短期療法 ： 大沼

[4回] 精神療法3　グループ療法、サイコドラマ ： 大沼

[5回] 精神療法4、芸術療法(絵画、コラージュ) ： 大沼

[6回] 精神療法5　芸術療法(ダンス、音楽) ： 大沼

[7回] 精神療法6　森田療法、実存療法、逆説志向アプローチ ： 大沼

[8回] 統合失調症の理解と看護 ： 大沼

[9回] 気分障害の理解と看護 ： 高橋

[10回] 精神科リハビリテーションの意義、社会資源を活用した援助方法 ： 高橋

[11回] パーソナリティ障害の理解と看護 ： 高橋

[12回] 睡眠障害、解離性障害の理解と看護 ： 高橋

[13回] 摂食障害の理解と看護 ： 高橋

[14回] 強迫性障害・パニック障害の理解と看護 ： 大沼

[15回] アルコール依存症、薬物依存症の理解と看護 ： 大沼

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

事例展開VII(精神疾患)[1144240]

科目名	事例展開VII(精神疾患)[1144240]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	大沼　幸子[看護学部 看護学科]
	高橋　雪子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前不定期
教室	①304教室 ②別途連絡

受講条件・その注意

30分以上の遅刻は欠席扱いとする

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:精神看護学Ⅱ　精神臨床看護学　NUVELLE HIROKAWA

参考書:精神看護学　学生－患者のストーリーで綴る実習展開　医師薬出版(田中恵美子編著)

評価方法・評価割合

出席状況、レポート、その他(グループワーク参加状況など)

授業の目的および到達目標

精神に障害をもつ人の事例を通して、精神科看護の基本を再確認し、これまで学んだ内容を踏まえて、一人の人間として社会の中で自立して生きていくための様々な社会的・心理的テーマを理解し、人的資源の活用の仕方について学ぶ。具体的には事例がもつセルフケアの力を見極め、看護過程展開の技法を活用し、障害をもつ人をとりまく病院や地域での多職種の人々との連携や調整をも視野に入れた、本人にとって望ましい生活の処方箋を描くことを目指す。合わせて、本事例展開のあり方を通して、後期から始まる精神看護学実習の礎とする。

テーマおよび内容

[1回] 看護過程と記録の方法:大沼・高橋

[2回] 統合失調症の理解:幻覚・妄想のある患者など:大沼・高橋

[3回] 統合失調症の看護過程の展開①事例紹介、グループワーク: 高橋・大沼

[4回] 統合失調症の看護過程の展開②　グループワーク :高橋・大沼

[5回] 統合失調症の看護過程の展開③　発表:高橋・大沼

[6回] 統合失調症の看護過程の展開④　発表、まとめ:高橋・大沼

[7回] 気分障害の理解:うつ病、躁うつ病など:高橋・大沼

[8回] 気分障害の看護過程の展開①事例紹介、グループワーク:高橋・大沼

[9回] 気分障害の看護過程の展開②グループワーク:高橋・大沼

[10回] 気分障害の看護過程の展開③発表、まとめ:高橋・大沼

[11回] パーソナリティ障害の看護過程の展開:高橋・大沼

[12回] 薬物療法と看護:高橋・大沼

[13回] レクリエーションの意義と展開:大沼・高橋

[14回] 看護場面の再構成1　プロセスレコードについて:大沼・高橋

[15回] 看護場面の再構成2　プロセスレコードについて:大沼・高橋

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

精神看護学実習[1144250]

科目名	精神看護学実習[1144250]
科目区分・科目種	領域別看護実践
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	大沼　幸子[看護学部 看護学科]
	高橋　雪子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	後不定期
教室	①別途連絡

受講条件・その注意

4/5以上の出席が評価対象となる

授業の形態

実習(共同)

教科書・参考文献

教科書:講義で使用した教科書

参考書:「向精神薬マニュアル」医学書院、「精神科の薬がわかる本」医学書院、「看護のための精神医学」中井久夫:医学書院など、他実習時に提示する

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート、その他(実習目標の達成状況、実習態度)

授業の目的および到達目標

精神に障害をもつ人と家族に対する、精神保健医療福祉における看護の役割を理解し、精神科看護に必要な基本的技術を修得することを目的とする。また他職種との連携による精神的健康の回復およびリハビリテーション、生活支援の具体的活動について触れ、その過程における対人関係能力を培う。

テーマおよび内容

(1)実習方法

①実習場所:東京大学医学部付属病院
精神神経科病棟、ディホスピタル、作業所等

②実習の動き:1Gを4名で構成
精神科病棟、ディホスピタル等のどちらかで2週間実習し、その中で作業所等を見学する
その他、要項参照

(2)実習内容

①精神神経科病棟又はディホスピタル等で一人の患者を受け持ち、看護過程の展開を行う

②作業所では、地域で生活する患者を理解する
その他、要項参照

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

地域看護学概論[1145010]

科目名	地域看護学概論[1145010]
科目区分・科目種	地域における看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	掛本　知里[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後集中
教室	①304教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：荒賀直子,後閑容子,編.(2011).第3版『公衆衛生看護学.Jp.』インターメディカル.
厚生統計協会.(2011).厚生の指標;国民衛生の動向,58(9).(8月頃に出版予定)

参考書：日本看護協会監修.(2008).新版保健師業務要覧 第2版.日本看護協会出版会.

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況

授業の目的および到達目標

地域看護学は行政看護（公衆衛生看護）、学校保健、産業保健、在宅看護の4領域から構成されていることを理解する。地域看護の変遷と社会情勢を踏まえ、地域で生活する人々の健康の保持増進及びQOLの向上を目指す地域看護の概念、関係法規、個人、家族・集団を対象に実施される看護活動について、ライフステージ別並びに健康レベル別に事例を提示しながら概説する。

テーマおよび内容

[1 回] 地域看護の目的と意義・役割と法的基盤／地域看護の歴史と変遷

地域看護とは／保健師の活動分野とその役割／社会および健康課題の変化と保健師活動／地域看護活動の法的基盤／保健師活動の歴史

[2 回] 地域看護をめぐる理念

健康／プライマリヘルスケア／エンパワメント／セルフケア／ノーマライゼーション／アドボカシー／地域における保健関連行動

[3 回] ヘルスプロモーションと保健師活動

ヘルスプロモーションの理念／ヘルスプロモーションのモデル／健康増進対策と健康日本21／メタボリックシンドロームと地域看護活動／喫煙対策と地域看護活動

[4 回] 健康危機と地域看護活動／生活環境と地域保健活動

地域における健康危機／健康危機の予防と保健師活動／健康危機発生時の保健師活動／生活環境に関する行政の動向と地域保健活動／環境保健と地域看護活動

[5 回] 国際保健活動と保健師活動

WHOと地域保健活動／国際協力・国際交流

[6 回] 労働衛生管理とOHN活動

産業保健関連法規／3管理と5管理／職場環境の労働への影響と有害業務対策／過重労働対策／メンタルヘルスサポート／産業看護活動の実際

[7 回] 養護教諭の役割と活動

学校保健の動向／学校保健関連法規と養護教諭とは／養護教諭の役割と期待／養護教諭の活動の実際

[8 回] グループ組織活動

グループとは／グループの発展過程／地区組織活動／地域におけるネットワークづくり

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

在宅看護論[1145020]

科目名	在宅看護論[1145020]
科目区分・科目種	地域における看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	掛本　知里[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後集中
教室	①304教室

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：木下由美子編著.(2009).在宅看護論（第5版）.医歯薬出版.

参考書：厚生統計協会.(2011).厚生の指標;国民衛生の動向,58(9).(8月頃に出版予定）

評価方法・評価割合

定期試験

授業の目的および到達目標

在宅看護は地域看護学における4領域の一つである。在宅看護の変遷と社会情勢を踏まえ、在宅で生活しながら療養する人々とその家族が抱えている健康問題を理解し、在宅看護の概念、関係法規、対象に実施される看護活動について理解する。在宅看護に必要な援助方法、関係法規、社会資源、ケアマネジメントのプロセス、保健医療福祉の連携等、在宅看護の展開方法について学ぶ。

テーマおよび内容

[1 回] 在宅看護の目的とその特性

在宅看護とは何か／在宅看護の対象／在宅看護の目的／在宅看護の特性／日本における医療・福祉・保健の現状／在宅看護における課題

[2 回] 在宅看護の変遷と諸外国の状況

日本における在宅看護の変遷／諸外国における在宅看護の現状

[3 回] 在宅看護をめぐる現状と課題

日本における医療・福祉・保健の現状／在宅看護における課題

[4 回] 在宅看護における社会資源の活用

在宅看護で活用する社会資源とは／それぞれの社会資源の特徴／社会資源の活用過程／在宅看護にかかわる専門職間の連携／ケアマネージメントと訪問看護

[5 回] 在宅看護における家族ケアー家族援助の実際

在宅看護における家族のかかわり／家族援助の過程／家族ケアにかかわる理論／家族援助における課題

[6 回] 訪問看護ステーションにおける在宅看護ケア

訪問看護ステーションの設置／訪問看護サービスの特徴／訪問看護サービスの利用者／訪問看護ステーションの管理／在宅ケアに向けた退院計画／在宅と施設の継続性

[7 回] 訪問看護ステーションにおける在宅看護ケアの実際①

訪問看護ステーションにおける在宅看護ケアの実際

[8 回] 訪問看護ステーションにおける在宅看護ケアの実際②

訪問看護ステーションにおける在宅看護ケアの実際

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

保健指導論[1145030]

科目名	保健指導論[1145030]
科目区分・科目種	地域における看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	掛本　知里[看護学部 看護学科]
	山本　かほる[看護学部 看護学科]
	高畠　有理子[看護学部 看護学科]
	吉川　悦子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 3.0～3.0
教室	①305教室

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書：日本看護協会保健師職能委員会(2008)，保健師業務要覧＜新版・第2版＞日本看護協会出版会.

参考書：特になし

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、その他（グループワーク成績：評価点・参加態度）

授業の目的および到達目標

あらゆるライフステージ、健康レベルにある地域住民に対して、個人・家族・集団を対象とした看護活動を展開するために必要な知識と方法について講義及び演習を行う。健康相談、健康診査や家庭訪問など個別への支援と健康教育など集団への支援とのつながりや地区組織化、地域ケアシステムについて理解する。

テーマおよび内容

[1 回] 保健指導の基本：掛本（4月6日）

保健指導とは／保健指導に関する理論／保健指導の展開／家庭訪問の実際／健康相談の実際

[2 回] 保健指導の実際－母子保健指導：掛本（4月13日）

母子保健の目的と動向／母子の健康への支援／育児支援／虐待防止／歯科保健

[3 回] 保健指導の実際－小児・思春期保健指導 ：掛本（4月13日）

小児・思春期保健の目的と動向／小児・思春期保健の健康への支援／発達障害

[4 回] 成人保健指導：吉川（4月27日）

成人保健の目的と動向／成人の健康への支援／特定健診・特定保健指導

[5 回] 保健指導の実際－感染症保健指導：掛本（5月11日）

感染症の動向／感染症対策／結核対策／HIV・AIDS対策

[6 回] 保健指導の実際－高齢者保健指導・介護予防：山本（5月18日）

高齢者保健の目的と動向／高齢者の健康への支援／介護予防

[7 回] 保健指導の実際－精神保健指導：掛本（5月25日）

地域精神保健福祉の目的と動向／地域における精神障害者への支援／自立支援法と地域保健活動

[8 回] 保健指導の実際－環境測定と保健指導：吉川（6月1日）

環境測定の実際

[9 回] 保健指導の実際－環境測定と保健指導： 掛本,山本,吉川,高畠（6月1日）

環境測定の実施及びその評価（グループワーク）

[10回] 健康教育の基本：掛本（6月8日）

健康教育の基本とその実際

[11回] 健康教育準備：掛本,山本,吉川,高畠（6月22日）

健康教育の実際（グループワーク）

[12回] 健康教育準備：掛本,山本,吉川,高畠（6月29日）

健康教育の実際（グループワーク）

[13回] 健康教育発表：掛本,山本,吉川,高畠（7月6日）

健康教育の実際（プレゼンテーション）

[14回] 健康教育発表：掛本,山本,吉川,高畠（7月6日）

健康教育の実際（プレゼンテーション）

[15回] まとめ：掛本,山本,吉川,高畠（7月20日）

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

事例展開VIII(在宅・慢性期疾患)[1145040]

科目名	事例展開VIII(在宅・慢性期疾患)[1145040]
科目区分・科目種	地域における看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	掛本　知里[看護学部 看護学科]
	山本　かほる[看護学部 看護学科]
	吉川　悦子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前不定期
教室	①304教室 ②別途連絡

受講条件・その注意

30分以上遅刻してきた学生は、出席を認めません。

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:特になし

参考書:厚生統計協会.(2011).厚生の指標;国民衛生の動向,57(9).

評価方法・評価割合

出席状況、レポート、その他(グループワーク成績:評価点・参加態度)

授業の目的および到達目標

当該科目では、健康逸脱状態にある老年期の患者で、自宅に暮らす人の事例を取り上げ、在宅において最後までその人らしく暮らすことの可能性について検討する。多くの病名をもち、多彩な症状に苦しむ患者事例に対して、身体的、心理的、社会的な援助過程のあり方について学び、在宅・地域コミュニティにおける物的・人的資源の活用などについても配慮した看護援助の方向性を見出せるように導く。さらに本事例展開のあり方を通して、地域在宅ケア実習の礎とする。

テーマおよび内容

[1 回] オリエンテーション : 授業全体の進め方、グループ分け(4月11日)

[2 回] 在宅看護論における看護過程の展開の方法 : 在宅看護論における看護過程の展開(情報収集－分析－計画立案－評価)(4月11日)

[3 回] 在宅看護における看護過程の展開の実際 : グループワーク(4月12日)

[4 回] 在宅看護における看護過程の展開の実際 : グループワーク(4月12日)

[5 回] 在宅看護における看護過程の展開の実際 : グループワーク(4月18日)

[6 回] 在宅看護における看護過程の展開の実際 : グループワーク(4月18日)

[7 回] 在宅看護における看護過程の展開の実際 : グループワーク(4月19日)

[8 回] 在宅看護における看護過程の展開の実際 : グループ発表(4月19日)

[9 回] 地域看護における看護過程の展開の方法 : コミュニティ・アセスメントの方法(4月20日)

[10回] 地域看護における看護過程の展開の実際 : グループワーク(4月20日)

[11回] 地域看護における看護過程の展開の実際 : グループワーク(4月25日)

[12回] 地域看護における看護過程の展開の実際 : グループワーク(4月25日)

[13回] 地域看護における看護過程の展開の実際 : グループワーク(4月25日)

[14回] 地域看護における看護過程の展開の実際 : グループワーク(4月26日)

[15回] 地域看護における看護過程の展開の実際 : グループ発表(4月26日)

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

地域看護管理論[1145050]

科目名	地域看護管理論[1145050]
科目区分・科目種	地域における看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	山本　かほる[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前期
教室	①別途連絡

授業の形態
講義

授業の目的および到達目標
地域において適切な看護実践が展開できるよう、さらには効果効率的な看護実践を目指すための地域看護管理のあり方について、その知識・スキルを教授する。他職種との連携の仕方、そこに横たわる諸問題の解決法についても学習し、リーダーシップのあり方、リーダー育成について考察する。さらには災害時における看護職としての役割についても言及する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

地域ケア連携とシステム[1145060]

科目名	地域ケア連携とシステム[1145060]
科目区分・科目種	地域における看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	吉川　悦子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前期
教室	①別途連絡

授業の形態
講義

授業の目的および到達目標
高齢者・障害者が疾病や障害を抱えた時、在宅を中心として地域で生活を続けていくために、どのような医療・保健・福祉の社会資源とシステムを活用すればよいか、現状を踏まえて、システムを概括する。さらに先進的なモデルを探り、将来のあるべき姿を描く。地域ケア連携をしていく中で、看護職と福祉職がどのように協働し、連携していけば、地域住民の健康と生活が守れるか、予防や健康増進の視点からも理解を深める。患者・利用者主体の在宅を中心とした地域ケアがどのように行なわれるか、講義を通じて学習することを目指す。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

ケアマネジメントの理念と実際[1145070]

科目名	ケアマネジメントの理念と実際[1145070]
科目区分・科目種	地域における看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	山本　かほる[看護学部 看護学科]
	川上　嘉明[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前期
教室	①別途連絡

授業の形態
演習(共同)

授業の目的および到達目標
ケアマネジメントとはどのような手法なのか、ケアマネジメント手法が出現した歴史的背景について考察し、ケアマネジメントの理念について概括する。そのケアマネジメントの理念がわが国に導入された歴史的展開について述べ、介護保険制度との関係の中で位置づける。さらに実際に行われているケアマネジメントの実態について触れ、事例を通して具体的課題や今後のあり方について考察する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

地域施設運営論[1145080]

科目名	地域施設運営論[1145080]
科目区分・科目種	地域における看護実践
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	平成24年度以降就任予定[学校法人 花田学園]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	後期
教室	①別途連絡

授業の形態
講義

授業の目的および到達目標
地域において、とりわけ地域における施設看護が社会化されるためには、地域の看護ニーズが明らかにされ、そのニーズに的確に応えられるよう、組織体制の構築、その維持管理が整えられる必要がある。さらに地域の施設における看護実践の具体は、地域の住民に活用され、日常生活の役に立つ状態になければならない。本科目では、こうした課題を解決するために必要な、医療・福祉制度における地域内組織の現状、組織的に看護を提供するための運営管理、財務・労務管理、資源の調達・管理、サービス提供のプロセス、情報公開等の地域連携について教授する。またサービス提供の国際規格についても、理解できるようにする。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

地域在宅ケア実習[1145090]

科目名	地域在宅ケア実習[1145090]
科目区分・科目種	地域における看護実践
クラス	看護学科
単位数	4.0単位

担当教員・所属	掛本　知里[看護学部 看護学科]
	川上　嘉明[看護学部 看護学科]
	山本　かほる[看護学部 看護学科]
	高畠　有理子[看護学部 看護学科]
	吉川　悦子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前期
教室	①別途連絡

授業の形態
実習(共同)

授業の目的および到達目標
当該科目は、地域実習と在宅実習を統合的に組み立てて行うものである。地域実習の枠組みにおいては、保健所、市町村における実習と組み合わせて、地域包括支援などでの実習を計2週間にわたって行うものとする。この実習における目的は、地域住民の健康アセスメントを中心に、疾病予防や介護予防などと併行して、健康保持のための健康相談の実態と課題を把握することである。また、在宅実習としては、高齢者対象の訪問看護ステーションでの実習と、障害者自立支援のための施設や事業所における実習を各1週間ずつ行う。在宅実習の目的は、在宅で安心して暮らすための仕組みを把握すると同時に、支援のための多彩な社会資源の活用の仕方を学ぶことである。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

ケア情報学[1146010]

科目名	ケア情報学[1146010]
科目区分・科目種	看護の発展
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	前田　樹海[看護学部 看護学科]
	伊豆上　智子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	後期
曜日・時限	後期 火曜 5.0～5.0
教室	①コンピューター教室

授業の形態

演習(共同)

教科書・参考文献

教科書:なし

参考書:適宜指示する。

評価方法・評価割合

定期試験、授業中の課題、その他(小テスト)

授業の目的および到達目標

ケアの実践が情報集約型の専門分野であるという立場から、ケアにおける情報学の歴史的経緯、データ・情報・知識の定義と関係、暗黙知と形式知、用語体系、情報倫理、情報セキュリティ、EBP(Evidence-Based Practice)、情報の電子化に伴う影響など、ケアと情報に関する主要な話題についての討議を交えながら、ケアのプロセスにおける各局面を情報という切り口で論述することを当該科目の目的とする。

テーマおよび内容

[1 回] オリエンテーション

[2 回] データ・情報・知識

[3 回] データ・情報・知識(2)

[4 回] 暗黙知と形式知

[5 回] 情報の視点からのアセスメント

[6 回] 情報の視点からの診断

[7 回] 用語の標準化

[8 回] ケアと記録

[9 回] 情報と倫理

[10回] 情報プライバシー

[11回] ケアにおける情報セキュリティ

[12回] 医療情報システム

[13回] Evidence-Based Practice

[14回] Critical Path Method / PERT

[15回] 概括

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

国際看護論[1146020]

科目名	国際看護論[1146020]
科目区分・科目種	看護の発展
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	金井Pak　雅子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	後期
教室	①別途連絡

授業の形態
講義

授業の目的および到達目標
当該科目では、世界の健康問題と、それに対する看護の現状と課題について学習し、異文化の中での看護実践におけるコミュニケーションの基本、価値観の相違、倫理などについて学習する。さらに国際協力における看護の役割について理解を深めるとともに、先進国および開発途上国における看護の現状と課題について概説する。将来、海外での看護実践を目指す学生のみならず、国内においてさまざまな背景を持つ対象を理解する上での基本的考え方について学習する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

看護管理論[1146030]

科目名	看護管理論[1146030]
科目区分・科目種	看護の発展
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	金井Pak　雅子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	3 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 2.0～2.0
教室	①305教室

受講条件・その注意

出席重視の科目です。遅刻2回で欠席1回とみなします。定期試験の変わりにレポートを提出していただきます。レポートは、ワープロを使用し、APAスタイルで書いてください。詳細は授業にて提示します。

授業の形態

講義

教科書・参考文献

教科書：中西睦子編集：看護サービス管理第二版　2002　医学書院

参考書：授業にて提示します

評価方法・評価割合

出席状況（20%）、レポート（50%）、授業中の課題（30%）

授業の目的および到達目標

看護専門職として必要なマネジメントの知識・スキルを教授するとともに、看護管理学の歴史的背景、概念枠組み、マネジメントに関する理論について概説する。さらに、ヘルスケアサービスの提供者として身に着けておくべき倫理について、現在の医療が抱える倫理的課題を具体的に取り上げて探求する。また、看護実践の質を向上の基本である医療政策について、政策決定のプロセスについて学習する。

テーマおよび内容

[1 回] オリエンテーション ： 看護サービス管理とは

[2 回] 看護サービスの概念 ： 看護サービスの概念枠組み

[3 回] 経営学 ： 経営とは、理念とは、ビジョンとは、経営資源とは、管理論の歴史的変遷

[4 回] 組織について ： 組織とは、組織図とは、指示命令系統とは、ラインとスタッフ

[5 回] マネジメント ： マネジメント理論、X理論・Y理論、セオリーZ、目標管理方式（MBO）、マネジメントサイクル

[6 回] リーダーシップ ： リーダーとは、リーダーシップとは、組織おけるリーダーの役割と機能

[7 回] モチベーション ： マズローの欲求体系理論、ハーツバーグの二要因理論、強化理論

[8 回] 看護の経済性 ： 看護経済学のモデル、看護の経済的評価、

[9 回] マーケティング ： マーケティングの概念、医療におけるマーケティング

[10回] 日本の医療制度 ： 国民皆保険制度、診療報酬制度

[11回] 諸外国の医療制度 ： 米国、英国、カナダ等の医療制度

[12回] 管理と情報 ： 看護管理学における情報管理とは(テキサス大学からの遠隔授業の予定)

[13回] 看護倫理 ： 看護の倫理とは、ニュルンベルグ綱領、WMAジュネーブ宣言、ICN看護師の倫理綱領、WMAヘルシンキ宣言

[14回] 看護政策 ： 政策とは、政策と看護、内閣法、議員立法

[15回] キャリア開発 ： キャリアとは、キャリア設計、キャリア形成、ジェネラリストとスペシャリスト

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学 All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

東洋医学概論[1146040]

科目名	東洋医学概論[1146040]
科目区分・科目種	看護の発展
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	東郷　俊宏[保健医療学部 鍼灸学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	2 年
学期	前期
曜日・時限	前期 水曜 2.0～2.0
教室	①304教室

授業の形態

演習

教科書・参考文献

教科書：特に指定しない

参考書：講義の際に紹介する

評価方法・評価割合

定期試験、出席状況、レポート

授業の目的および到達目標

東洋医学の特徴は、豊かな洞察力をもって病める患者をトータルな存在として捉え、その持てる自然治癒力を最大限に生かすことを手当てのなかで重視していることにある。
この基本的な考え方は、患者へのきめ細かい「観察」から、各患者にあったケアのあり方を追求したナイチンゲールの看護論に通底するものといえる。本科目では、こうした観点から、東洋医学的な生理観、病理観のなかから看護、介護に役立つ事項を中心に講義する。

テーマおよび内容

[1 回] Introduction ： 整体観にもとづく看護のために

[2 回] 総論（1）： 東洋医学的な身体観1（気血）

[3 回] 総論（2）： 東洋医学的な身体観2（津液）

[4 回] 総論（3）： 東洋医学的な身体観3（五臓のはたらき：1）

[5 回] 総論（4）： 東洋医学的な身体観4（五臓のはたらき：2）

[6 回] 総論（5）： 東洋医学的な身体観5（六腑の働き）

[7 回] 各論（1）： わが国における鍼灸の歴史と現状

[8 回] 各論（2）： わが国における漢方の歴史と現状

[9 回] 各論（3）： 経脈・経穴(ツボ)について1

[10回] 各論（4）： 経脈・経穴(ツボ)について2

[11回] 各論（5）： 東洋医学と整形外科疾患

[12回] 各論（6）： 東洋医学と耳鼻咽喉科疾患・皮膚科疾患

[13回] 各論（7）： 東洋医学と高齢者ケア

[14回] 各論（8）： 東洋医学と婦人科疾患

[15回] 総括 ： 講義のまとめと理解度チェック

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

看護理論特講[1146050]

科目名	看護理論特講[1146050]
科目区分・科目種	看護の発展
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	金井　一薫[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	後期
教室	①別途連絡

授業の形態
演習

授業の目的および到達目標
これまでの看護界において生成した諸看護理論を概括し、学生が3年間に渡る実習の中で得た知識や技術と統合できる思考的道筋を付け、学生一人ひとりの看護観形成の一助とすることを目的とする。諸看護理論の中でも、特にナイチンゲール思想に着目し、“人類の健康の実現”を目指す21世紀の科学思考と重なる点を強調しつつ、さらにナイチンゲール思想と東洋医学思想の共通点に着目し、現代医療への適用の道を探る。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

原著講読[1146060]

科目名	原著講読[1146060]
科目区分・科目種	看護の発展
クラス	看護学科
単位数	1.0単位

担当教員・所属	金井Pak　雅子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	後期
教室	①別途連絡

授業の形態
演習

授業の目的および到達目標
当該科目は、英語で書かれた看護学の研究論文を読み解くもので、自己の研究テーマに関連のある原著論文を選択し、その要約を英語にてまとめる。さらに、論文内容の理解のみならず、研究論文としてのまとめ方、概念枠組み、研究方法、統計処理、考察などについてクリティークを行う。選択した研究論文をまとめ、文献レビューとしてまとめる。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.
Last Update:2013年6月19日

統合実習[1147010]

科目名	統合実習[1147010]
科目区分・科目種	統合実習
クラス	看護学科
単位数	4.0単位

担当教員・所属	金井　一薫[看護学部 看護学科]
	金井Pak　雅子[看護学部 看護学科]
	髙橋　正子[看護学部 看護学科]
	前田　樹海[看護学部 看護学科]
	掛本　知里[看護学部 看護学科]
	梶原　祥子[看護学部 看護学科]
	川上　嘉明[看護学部 看護学科]
	河内　しのぶ[看護学部 看護学科]
	伊豆上　智子[看護学部 看護学科]
	高橋　雪子[看護学部 看護学科]
	林　さとみ[看護学部 看護学科]
	平田　美和[看護学部 看護学科]
	山本　かほる[看護学部 看護学科]
	相田　京子[看護学部 看護学科]
	北島　泰子[看護学部 看護学科]
	高畠　有理子[看護学部 看護学科]
	中村　充浩[看護学部 看護学科]
	家吉　望み[看護学部 看護学科]
	吉川　悦子[看護学部 看護学科]
	大沼　幸子[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	前期
教室	①別途連絡

授業の形態
実習(共同)

授業の目的および到達目標
当該科目は、これまでの学習を統合させつつ、チーム医療および他職種との協働のなかで看護師としての役割を理解するとともに看護マネジメントできる基礎的能力を養う。一勤務帯を通した実習、複数患者の受け持ち、継続看護(在宅看護の内容を含む)、夜間帯における実習、看護管理実習等、臨床実践の中で必要な基礎的な知識と技術を統合的に体験する。 また、基礎看護技術の到達度評価を行うとともに確かな実践力を修得することを目的とする。　さらに、学生個々人が卒業後に臨床現場にスムーズに適応し、自己の能力を十分に開発・発揮できることを見据え、自分の進路希望と合わせた実習分野を選択する。これまで学んできた看護実践から自己の看護実践課題を明らかにし、担当教員の指導を受けながら実習プログラムを立案し、看護実践の基礎を活かしながら、その応用までを学習する。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.

卒業研究[1148010]

科目名	卒業研究[1148010]
科目区分・科目種	卒業研究
クラス	看護学科
単位数	2.0単位

担当教員・所属	金井Pak　雅子[看護学部 看護学科]
	金井　一薫[看護学部 看護学科]
	髙橋　正子[看護学部 看護学科]
	前田　樹海[看護学部 看護学科]
	掛本　知里[看護学部 看護学科]
	梶原　祥子[看護学部 看護学科]
	川上　嘉明[看護学部 看護学科]
	河内　しのぶ[看護学部 看護学科]
	山下　雅子[看護学部 看護学科]
	伊豆上　智子[看護学部 看護学科]
	林　さとみ[看護学部 看護学科]
	平田　美和[看護学部 看護学科]
	山本　かほる[看護学部 看護学科]
	北島　泰子[看護学部 看護学科]
	高畠　有理子[看護学部 看護学科]
	吉川　悦子[看護学部 看護学科]
	大沼　幸子[看護学部 看護学科]
	千葉　喜久也[看護学部 看護学科]
主担当学科	看護学科
連絡場所	

履修年次	4 年
学期	通年
教室	①別途連絡

授業の形態
演習

授業の目的および到達目標
当該科目は、看護研究を通して、看護実践におけるさまざまな現象を科学的に探求する力を養う。臨地実習において深めるテーマを選択し、各自の研究テーマについて指導教員のもとで、文献検索、方法、データ収集・分析、結果、考察について、一連の研究プロセスを踏みながら、研究の基礎能力を養う。特に、文献に関しては、できるだけ広範囲にわたり検索を行うとともに、それぞれの文献に対して批判的にレビューできることを目指す。

Copyright (c) 2011 東京有明医療大学　All rights reserved.